

# ANNUAL REPORT

Independent Administrative Institution National Museum of Art  
The National Museum of Modern Art, Tokyo 2005

平成17年度

独立行政法人国立美術館

東京国立近代美術館年報

2005



# 目次 Contents

## 美術・工芸部門

### I 作品収集・修理等

#### 1 作品収集

- 6 — 1-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻(立体造形) 書 写真 美術資料]  
6 — 1-2 工芸作品[陶磁 染織 漆工 金工 木工 竹工 ガラス 人形 グラフィック・デザイン 工業デザイン その他の工芸 工芸資料]

#### 2 平成17年度新収蔵作品

- 7 — 2-1 美術作品[日本画 油彩 その他 版画 水彩・素描 彫刻(立体造形) 写真]

#### 3 作品修理

- 26 — 2-2 工芸作品[陶磁 染織 漆工 ガラス 人形 工業デザイン]

- 36 — 3-1 美術作品

- 38 — 3-2 工芸作品

### II 公衆への観覧

#### 1 展覧会

- 40 — 1-1 観覧者数 1-1-1 本館 1-1-2 工芸館

- 41 — 1-2 これまでの展覧会一覧

- 64 — 1-3 平成17年度企画展覧会一覧表

- 65 — 1-4 平成17年度企画展覧会記録

- 74 — 1-5 常設展・所蔵作品展示記録 1-5-1 本館 1-5-2 工芸館 1-5-3 東京国立近代美術館工芸館所蔵作品巡回展

#### 2 作品貸与・特別観覧等

- 83 — 2-1 本館

- 83 — 2-2 工芸館

### III 調査研究

- 84 — 1 本館

- 88 — 2 工芸館

### IV 教育普及

#### 1 普及活動

- 91 — 1-1 資料の収集及び図書室の公開

- 93 — 1-2 児童生徒を対象とした事業 1-2-1 本館 1-2-2 工芸館

- 95 — 1-3 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク 1-3-1 本館 1-3-2 工芸館

- 102 — 1-4 大学等との連携 1-4-1 本館 1-4-2 工芸館

- 104 — 1-5 ボランティア 1-5-1 本館 1-5-2 工芸館

#### 2 刊行物

- 106 — 2-1 企画展覧会カタログ 2-1-1 本館 2-1-2 工芸館

- 109 — 2-2 目録・ガイド等 2-2-1 本館 2-2-2 工芸館

- 111 — 2-3 研究紀要・年報等

- 111 — 2-4 美術館ニュース『現代の眼』索引

#### 3 広報

- 113 — 3-1 広報 3-1-1 本館 3-1-2 工芸館

- 114 — 3-2 美術館情報システムによる普及・広報

## 映画部門

### I 作品収集・復元等

#### 1 作品収集

- 118 — 1-1 映画フィルム

- 119 — 1-2 映画関連資料

#### 2 保存／復元

- 120

#### 3 カタロギング／ドキュメンテーション

- 121

### II 公衆への観覧

#### 1 企画上映等

- 122 — 1-1 観覧者数 1-1-1 上映会(大ホール・小ホール) 1-1-2 展覧会(展示室)

- 124 — 1-2 企画上映 1-2-1 上映企画一覧 1-2-2 平成17年度企画上映記録

- 173 — 1-3 展示 1-3-1 展示企画一覧 1-3-2 平成17年度展示記録

#### 2 優秀映画鑑賞推進事業

- 178

#### 3 作品貸与・特別映写観覧・複製利用

- 187

### III 調査研究

- 192

### IV 教育普及

#### 1 普及活動

- 194 — 1-1 資料の収集及び図書室の公開

- 194 — 1-2 児童生徒を対象とした事業

- 196 — 1-3 講演会・シンポジウム・ギャラリートーク等

- 198 — 1-4 大学等との連携

#### 2 刊行物

- 199 — 2-1 NFCカレンダー等 2-1-1 NFCカレンダー 2-1-2 展示チラシ 2-1-3 企画チラシ 2-1-4 こども映画館

- 201 — 2-2 NFCニュースレター

- 203 — 2-3 目録・ガイド等

#### 3 広報

- 204 — 3-1 広報

- 205 — 3-2 美術館情報システムによる普及・広報

## 記録

#### 1 国際交流

- 208 — 1-1 平成17年度招聘者

- 210 — 1-2 平成17年度来館者

#### 2 日誌

- 212

#### 3 予算

- 213 — 3-1 平成17年度歳出予算一覧

#### 4 名簿

- 214 — 4-1 東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)

- 214 — 4-2 東京国立近代美術館評議員(映画部会)

- 215 — 4-3 東京国立近代美術館職員





## 1 作品収集 List of Acquisitions

### 1-1 美術作品

種別	平成17年度収集点数	所蔵総点数
日本画	6	723
油彩 その他	16	1,144
版画	7	1,855
水彩・素描	16	573
彫刻(立体造形)	8	400
書	0	19
写真	102	1,504
美術資料	0	3,135
計	155	9,353

### 1-2 工芸作品

種別	平成17年度収集点数	所蔵総点数
陶磁	49	608
染織	13	367
漆工	3	218
金工	0	345
木工	0	52
竹工	0	34
ガラス	1	98
人形	6	65
グラフィック・デザイン	0	582
工業デザイン	1	144
その他の工芸	0	9
工芸資料	0	19
計	73	2,541

## 2-1 美術作品 Art Works

平成17年度における美術作品の購入、受贈による新収蔵作品は次のとおり。  
日本画6点(購入3点、受贈3点)、油彩 その他16点(購入6点、受贈10点)、版画7  
点(購入6点、受贈1点)、水彩・素描16点(受贈16点)、彫刻(立体造形)8点(購入  
6点、受贈2点)、写真102点(購入96点、受贈6点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of  
donation of works of art during fiscal 2005 were as follows: 6 works of  
Japanese-style painting (3 purchased, 3 donated); 16 works of oil painting, etc.  
(6 purchased, 10 donated); 7 works of print (6 purchased, 1 donated); 16 works  
of watercolor and drawing (16 donated); 8 works of sculpture (6 purchased, 2  
donated); and 102 photographic works (96 purchased, 6 donated).

日本画  
Japanese-style Paintings

上野泰郎(1926-2005)

いのちの讃歌

昭和56年  
絹本彩色・屏風 6曲1双  
各173.0×363.0cm  
右隻右下、左隻左下に落款、印章  
個展(東京、日本橋高島屋、1981年)  
上野淑子氏寄贈  
J-721

UENO, Yasuo (1926-2005)

Paeon to Life

1981  
color on silk, a pair of six-fold screens  
each 173.0×363.0cm

岡村桂三郎(1958- )

黄象 05-1 L, R

平成17年  
岩絵具・板 2点  
各294.0×350.0×8.5cm  
(L) META II EXHIBITION 「日本画」を、解き放て！  
(神奈川県民ホールギャラリー、2005年)  
(R) 個展(東京、コバヤシ画廊、2005年)  
購入  
J-719

OKAMURA, Keizaburo (1958- )

Yellow Elephants 05-1 L, R

2005  
color on board, 2 pieces  
each 294.0×350.0×8.5cm

鐙木清方(1878-1972)

弥生の節句

昭和9年  
絹本彩色・軸  
200.3×46.2cm  
右下に落款、印章  
堀越友規子氏寄贈  
J-720

KABURAKI, Kiyokata (1878-1972)

Doll Festival

1934  
color on silk, hanging scroll  
200.3×46.2cm

小林古径(1883-1957)

双鳩

昭和12年  
絹本彩色・軸  
65.5×101.2cm  
右下に落款、印章  
第8回七絃会展(東京、日本橋三越、1937年)  
小淵辰丙氏寄贈  
J-718

KOBAYASHI, Kokei (1883-1957)

A Pair of Doves

1937  
color on silk, hanging scroll  
65.5×101.2cm

速水御舟(1894-1935)

浅春

大正7年  
絹本彩色・軸  
112.5×23.8cm  
右下に落款、印章  
故速水御舟遺作展(東京府美術館、1935年)  
購入  
J-722

HAYAMI, Gyoshu (1894-1935)

Early Spring

1918  
color on silk, hanging scroll  
112.5×23.8cm

---

速水御舟(1894-1935)

夜梅

昭和5年  
絹本彩色・軸  
105.5×36.4cm  
左下に落款、印章  
個展(山種美術館、1976年)  
購入  
J-723

HAYAMI, Gyoshu (1894-1935)

Evening Plum Blossoms  
1930  
color on silk, hanging scroll  
105.5×36.4cm

油彩 その他  
Oil Paintings, etc.

オノサト・トシノブ  
(小野里利信)(1912-1986)

朱と黄の丸

昭和14-15年  
油彩・板  
32.0×41.0cm  
第4回自由美術家協会展(東京、日本美術協会、  
1940年)  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
O-1162

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)

Vermilion and Yellow Circles  
1939-40  
oil on board  
32.0×41.0cm

オノサト・トシノブ  
(小野里利信)(1912-1986)

丸と四角

昭和30年  
油彩・キャンバス  
32.0×40.8cm  
個展(練馬区立美術館、1989年)  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
O-1163

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)

Circles and Quadrangles  
1955  
oil on canvas  
32.0×40.8cm

オノサト・トシノブ  
(小野里利信)(1912-1986)

重なった丸

昭和30年  
油彩・キャンバス  
41.0×32.0cm  
個展(練馬区立美術館、1989年)  
購入  
O-1170

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)

Overlapping Circles  
1955  
oil on canvas  
41.0×32.0cm

オノサト・トシノブ  
(小野里利信)(1912-1986)

四つの丸

昭和34年  
油彩・キャンバス  
27.5×22.0cm  
個展(練馬区立美術館、1989年)  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
O-1164

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)

Four Circles  
1959  
oil on canvas  
27.5×22.0cm

オノサト・トシノブ  
(小野里利信)(1912-1986)

朱丸の分割

昭和36年  
油彩・キャンバス  
32.0×41.0cm  
個展(長野県信濃美術館、1992年)  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
O-1165

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)

Dividing Vermilion Circle  
1961  
oil on canvas  
32.0×41.0cm



---

オノサト・トシノブ  
(小野里利信) (1912-1986)  
作品(積木の丸)

昭和37年  
油彩・キャンバス  
45.5×53.0cm  
個展(長野県信濃美術館、1992年)  
購入  
O-1171

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)  
Work (Circle of Bricks)  
1962  
oil on canvas  
45.5×53.0cm

オノサト・トシノブ  
(小野里利信) (1912-1986)  
巴・黄

昭和44年  
油彩・キャンバス  
100.0×100.0cm  
個展(東京、南画廊、1969年)  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
O-1166

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)  
Yellow *Tomoe* [comma-shaped motifs]  
1969  
oil on canvas  
100.0×100.0cm

オノサト・トシノブ  
(小野里利信) (1912-1986)  
丸と菱形

昭和49-50年  
油彩・キャンバス  
45.5×53.0cm  
個展(群馬、大川美術館、1993年)  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
O-1167

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)  
Circles and Rhombuses  
1974-75  
oil on canvas  
45.5×53.0cm

---

オノサト・トシノブ  
(小野里利信) (1912-1986)  
赤と黄の円環

昭和50年  
油彩・キャンバス  
45.5×53.0cm  
個展(長野県信濃美術館、1992年)  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
O-1168

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)  
Red and Yellow Circles  
1975  
oil on canvas  
45.5×53.0cm

オノサト・トシノブ  
(小野里利信) (1912-1986)  
斜めの分割

昭和53年  
油彩・キャンバス  
100.0×100.0cm  
個展(練馬区立美術館、1989年)  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
O-1169

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)  
Oblique Division  
1978  
oil on canvas  
100.0×100.0cm

古沢岩美(1912-2000)  
プルトの息子  
昭和26年  
油彩・キャンバス  
99.0×64.0cm  
右下に署名、年記  
第11回美術文化協会展(東京都美術館、1951年)  
古沢敏子氏遺贈  
O-1174

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)  
Pluto's Son  
1951  
oil on canvas  
99.0×64.0cm

---

古沢岩美(1912-2000)  
峠  
昭和27年  
油彩・キャンバス  
99.0×64.5cm  
左下に署名、年記  
第13回美術文化協会展(東京都美術館、1953年)  
古沢敏子氏遺贈  
O-1175

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)  
Mountain Path  
1952  
oil on canvas  
99.0×64.5cm

村上友晴(1938- )  
monos  
平成元-4年  
油彩、アクリリック・紙 18点  
各61.5×45.5cm  
購入  
O-1172

MURAKAMI, Tomoharu (1938- )  
*monos*  
1989-92  
oil and acrylic on paper, 18 pieces  
each 61.5×45.5cm

ウィレム・デ・クーニング  
(1904-1997)  
風景の中の女  
昭和41年  
油彩・紙(キャンバスに貼付)  
80.5×50.0cm  
中央下に署名  
個展(ニューヨーク、ノードラー画廊、1967年)  
購入  
O-1176

DE KOONING, Willem (1904-1997)  
Woman in Landscape  
1966  
oil on paper mounted on canvas  
80.5×50.0cm

イヴ・タンギー (1900-1955)

聾者の耳

昭和13年  
油彩・キャンバス  
46.0×55.0cm  
右下に署名、年記  
シュルレアリスム 1922-1942 (ミュンヘン、ハ  
ウス・デア・クンスト、1972年)  
購入  
O-1173

TANGUY, Yves (1900-1955)

The Ears of a Deaf

1938  
oil on canvas  
46.0×55.0cm

テリー・ウィンターズ(1949- )

桑実胚 I

昭和58年  
油彩・リネン  
177.8×134.6cm  
個展(ミネアポリス、ウォーカー・アート・セン  
ター、1987年)  
購入  
O-1177

WINTERS, Terry (1949- )

Morula I

1983  
oil on linen  
177.8×134.6cm

版画  
Prints

古沢岩美(1912-2000)

版画集『修羅餓鬼』

昭和35-平成5年  
銅版(エッチング、アクアチント) 25/50  
30点組(扉絵付) 1993年悠思社刊  
各38.0×28.7cm  
古沢敏子氏遺贈  
P-1853

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)

*Shuragaki* [hungry demon]

1960-93  
etching and aquatint on paper 25/50  
30 prints with title page  
each 38.0×28.7cm

横尾忠則(1936- )

風景 No.1 女の子

昭和44年  
シルクスクリーン・紙、アクリルフィルム、ア  
クリル板 3/5  
90.0×90.0cm  
右下に署名(刷)  
個展(東京、東京画廊、1969年)  
購入  
P-1847

YOKOO, Tadanori (1936- )

Landscape No.1 Girl

1969  
silkscreen on paper, acrylic films and acrylic sheet 3/5  
90.0×90.0cm

横尾忠則(1936- )

風景 No.3 お葉さん

昭和44年  
シルクスクリーン・紙、アクリルフィルム、ア  
クリル板 4/5  
90.0×90.0cm  
左下に署名(刷)  
個展(東京、東京画廊、1969年)  
購入  
P-1848

YOKOO, Tadanori (1936- )

Landscape No.3 Oyo-san

1969  
silkscreen on paper, acrylic film and acrylic sheet 4/5  
90.0×90.0cm

横尾忠則(1936- )

風景 No.5 海の男

昭和44年  
シルクスクリーン・紙、アクリルフィルム、ア  
クリル板 4/5  
90.0×90.0cm  
右下に署名(刷)  
個展(東京、東京画廊、1969年)  
購入  
P-1849

YOKOO, Tadanori (1936- )

Landscape No.5 Man of the Sea

1969  
silkscreen on paper, acrylic film and acrylic sheet 4/5  
90.0×90.0cm

横尾忠則(1936- )

風景 No.10 ヴォーグの女

昭和44年  
シルクスクリーン・紙、アクリルフィルム、ア  
クリル板 A.P.  
90.0×90.0cm  
左下、右上に署名(刷)  
購入  
P-1850

YOKOO, Tadanori (1936- )

Landscape No.10 Woman in the *Vogue*

1969  
silkscreen on paper, acrylic films and acrylic sheets A.P.  
90.0×90.0cm

---

横尾忠則(1936- )

風景 No.16 自画像

昭和44年  
シルクスクリーン・紙、アクリルフィルム、ア  
クリル板 A.P.  
90.0×90.0cm  
左下に署名(刷)  
購入  
P-1851

YOKOO, Tadanori (1936- )

Landscape No.16 Self-Portrait

1969  
silkscreen on paper, acrylic films and acrylic sheet A.P.  
90.0×90.0cm

横尾忠則(1936- )

風景 No.17 入れ墨男

昭和44年  
シルクスクリーン・紙、アクリルフィルム、ア  
クリル板 4/5  
90.0×90.0cm  
中央下に署名(刷)  
個展(東京、東京画廊、1969年)  
購入  
P-1852

YOKOO, Tadanori (1936- )

Landscape No.17 Tattooed Man

1969  
silkscreen on paper, acrylic films and acrylic sheet 4/5  
90.0×90.0cm

---

水彩・素描

Watercolors & Drawings

伊東深水(1898-1972)

《清方先生寿像》のための下絵

昭和26年頃  
鉛筆・紙  
42.5×30.8cm  
伊東みどり氏寄贈  
D-433

ITO, Shinsui (1898-1972)

Study for *Portrait of Kiyokata Kaburaki*

c.1951  
pencil on paper  
42.5×30.8cm

伊東深水(1898-1972)

《清方先生寿像》のための下絵

昭和26年頃  
鉛筆・紙  
42.5×30.8cm  
伊東みどり氏寄贈  
D-434

ITO, Shinsui (1898-1972)

Study for *Portrait of Kiyokata Kaburaki*

c.1951  
pencil on paper  
42.5×30.8cm

---

伊東深水(1898-1972)

《清方先生寿像》のための下絵

昭和26年頃  
鉛筆・紙  
42.5×30.8cm  
書込みあり  
伊藤瑛氏寄贈  
D-435

ITO, Shinsui (1898-1972)

Study for *Portrait of Kiyokata Kaburaki*

c.1951  
pencil on paper  
42.5×30.8cm

伊東深水(1898-1972)

《清方先生寿像》のための下絵

昭和26年頃  
鉛筆・紙  
42.5×30.8cm  
伊藤瑛氏寄贈  
D-436

ITO, Shinsui (1898-1972)

Study for *Portrait of Kiyokata Kaburaki*

c.1951  
pencil on paper  
42.5×30.8cm

オノサト・トシノブ

(小野里利信)(1912-1986)

一つの丸

昭和38年  
水彩、鉛筆・紙  
28.6×38.0cm  
藤岡時彦氏寄贈—妻英子を偲んで  
個展(群馬、大川美術館、1993年)  
W-189

ONOSATO, Toshinobu (1912-1986)

A Circle

1963  
watercolor and pencil on paper  
28.6×38.0cm

---

小林古径(1883-1957)

りんご

昭和11年頃  
墨、色鉛筆・紙  
45.4×68.0cm  
右下に印章  
松井昌氏寄贈  
D-429

KOBAYASHI, Kokei (1883-1957)

Apples  
c.1936  
sumi and color pencil on paper  
45.4×68.0cm

小林古径(1883-1957)

手

昭和23年頃  
鉛筆、色鉛筆、彩色・紙  
30.4×34.9cm  
右下に印章  
松井昌氏寄贈  
D-430

KOBAYASHI, Kokei (1883-1957)

Hand  
c.1948  
pencil, color pencil and color on paper  
30.4×34.9cm

小林古径(1883-1957)

伎楽面

昭和23年頃  
鉛筆、色鉛筆・紙  
34.2×35.5cm  
中央下に書込み、印章  
松井昌氏寄贈  
D-431

KOBAYASHI, Kokei (1883-1957)

Mask for *Gigaku* [ancient masked dance drama]  
c.1948  
pencil and color pencil on paper  
34.2×35.5cm

---

小林古径(1883-1957)

鮎

昭和24年  
鉛筆、彩色・紙  
28.0×37.0cm  
右下に年記、書込み、印章  
松井昌氏寄贈  
D-432

KOBAYASHI, Kokei (1883-1957)

Ayu Fish  
1949  
pencil and color on paper  
28.0×37.0cm

古沢岩美(1912-2000)

《プルトの娘》のための習作

昭和26年  
木炭・紙  
64.7×47.9cm  
古沢敏子氏遺贈  
D-437

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)

Study for *Pluto's Daughter*  
1951  
charcoal on paper  
64.7×47.9cm

古沢岩美(1912-2000)

《餓鬼》のための習作(銅像)

昭和26年  
鉛筆、水彩・紙  
50.3×27.7cm  
古沢敏子氏遺贈  
D-438

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)

Study for *Starveling* (Bronze Statue)  
1951  
pencil and watercolor on paper  
50.3×27.7cm

---

古沢岩美(1912-2000)

《餓鬼》のための習作(女1)

昭和26年  
パステル、水彩・紙  
62.3×47.1cm  
古沢敏子氏遺贈  
D-439

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)

Study for *Starveling* (Woman 1)  
1951  
pastel and watercolor on paper  
62.3×47.1cm

古沢岩美(1912-2000)

《餓鬼》のための習作(女2)

昭和27年  
パステル・紙  
63.7×48.8cm  
古沢敏子氏遺贈  
D-440

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)

Study for *Starveling* (Woman 2)  
1952  
pastel on paper  
63.7×48.8cm

古沢岩美(1912-2000)

《餓鬼》のための習作(女3)

昭和27年  
木炭・紙  
63.9×48.8cm  
古沢敏子氏遺贈  
D-441

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)

Study for *Starveling* (Woman 3)  
1952  
charcoal on paper  
63.9×48.8cm

古沢岩美(1912-2000)  
《餓鬼》のための習作(女4)

昭和27年  
木炭・紙  
63.8×48.5cm  
古沢敏子氏遺贈  
D-442

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)

Study for *Starveling* (Woman 4)

1952  
charcoal on paper  
63.8×48.5cm

古沢岩美(1912-2000)  
荔浦(れいほ)

昭和30年  
水彩、パステル・紙  
68.5×51.2cm  
古沢敏子氏遺贈  
W-190

FURUSAWA, Iwami (1912-2000)

Lipu, China

1955  
watercolor and pastel on paper  
68.5×51.2cm

彫刻(立体造形)

Sculpture

草間彌生(1929- )

冥界への道標

昭和51年  
詰物入り縫製布、靴、木、彩色  
91.0×728.0×33.0cm  
裏面に署名、年記、書込み  
個展(大阪フォルム画廊東京店、1976年)  
購入  
S-406

KUSAMA, Yayoi (1929- )

A Signpost to Hades

1976  
sewn stuffed fabric, shoes, wood and paint  
91.0×728.0×33.0cm

工藤哲巳(1935-1990)

あなたの偶像

昭和37年  
木、鋼鉄、ガラス瓶、ビニール製人形、注射器、  
ワックス、毛、その他  
85.0×67.0×15.5cm  
裏面に署名、年記  
カタストロフ(パリ、レイモン・コルディエ画  
廊、1962年)  
購入  
S-403

KUDO, Tetsumi (1935-1990)

Your Idol

1962  
wood, steel, glass bottles, plastic dolls, injectors, wax,  
hair, etc.  
85.0×67.0×15.5cm

建畠覚造(1919-2006)

杜・漂風

平成11年  
木、化学粘土、ラッカー  
168.0×108.0×52.0cm  
個展(東京、ギャラリー山口、2000年)  
購入  
S-407

TATEHATA, Kakuzo (1919-2006)

Woods, Drifting Wind

1999  
wood, chemical clay and lacquer  
168.0×108.0×52.0cm

毛利武士郎(1923-2004)

無題(大6点シリーズ1)

昭和56年  
石膏、グラファイト  
85.0×63.0×6.0cm  
裏面に書込み(刻銘)  
個展(富山県立近代美術館、1999年)  
毛利保子氏寄贈  
S-400

MORI, Bushiro (1923-2004)

Untitled (Series of Six Large Pieces, I)

1981  
plaster and graphite  
85.0×63.0×6.0cm

毛利武士郎(1923-2004)

無題(大6点シリーズ10)

昭和56年  
石膏、グラファイト  
85.5×63.5×5.5cm  
個展(富山県立近代美術館、1999年)  
毛利保子氏寄贈  
S-401

MORI, Bushiro (1923-2004)

Untitled (Series of Six Large Pieces, X)

1981  
plaster and graphite  
85.5×63.5×5.5cm

毛利武士郎(1923-2004)

彼の／地球への／置手紙 その1

平成10年  
ステンレススチール 2点  
各5.0×48.1×14.9cm  
個展(富山県立近代美術館、1999年)  
購入  
S-402

MORI, Bushiro (1923-2004)

The Letter Left Behind/ of Him/ to the  
Earth I  
1998  
stainless steel, 2 pieces  
each 5.0×48.1×14.9cm

キムスージャ(1957- )

針の女

平成12-13年  
ビデオ・インスタレーション  
4面(各6分33秒)  
サイズ可変  
個展(P.S.1 コンテンポラリー・アート・センター／ニューヨーク近代美術館、2001年)  
購入  
S-405

KIMSOOJA (1957- )

A Needle Woman  
2000-01  
video installation, 4 screens (each 6 minutes 33  
seconds)  
dimensions variable

マルクス・リュペルツ(1941- )

ヘラの頭部

平成15年  
ブロンズ、彩色  
85.0×60.0×60.0cm  
背面に署名、書込み(刻銘)  
購入  
S-404

LÜPERTZ, Markus (1941- )

Head of Hera  
2003  
painted bronze  
85.0×60.0×60.0cm

写真

Photographic Works

勝又邦彦(1967- )

Panning of Days – One Week / from  
Monday to Sunday

平成14年(平成14年)  
タイプCプリント・アルボリック、7枚組み  
各90.0×72.9cm  
写真の現在2 サイト一場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)  
作者寄贈  
Ph-1419

KATSUMATA, Kunihiko (1967- )

Panning of Days – One Week / from  
Monday to Sunday  
2002 (2002)  
type C print mounted on alpolic, 7 prints  
each 90.0×72.9cm

勝又邦彦(1967- )

Skyline 100280

平成15年(平成18年)  
タイプCプリント  
28.0×80.3cm  
ed. 1/5、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
購入  
Ph-1425

KATSUMATA, Kunihiko (1967- )

Skyline 100280  
2003 (2006)  
type C print  
28.0×80.3cm

勝又邦彦(1967- )

Skyline 100531

平成16年(平成18年)  
タイプCプリント  
90.0×260.0cm  
ed. 1/3、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
購入  
Ph-1426

KATSUMATA, Kunihiko (1967- )

Skyline 100531  
2004 (2006)  
type C print  
90.0×260.0cm

勝又邦彦(1967- )

Skyline 100600

平成16年(平成18年)  
タイプCプリント  
28.0×80.3cm  
ed. 1/5、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
購入  
Ph-1427

KATSUMATA, Kunihiko (1967- )

Skyline 100600  
2004 (2006)  
type C print  
28.0×80.3cm

勝又邦彦(1967- )

Skyline 101030

平成16年(平成18年)  
タイプCプリント  
28.0×80.3cm  
ed. 1/5、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
購入  
Ph-1428

KATSUMATA, Kunihiko (1967- )

Skyline 101030  
2004 (2006)  
type C print  
28.0×80.3cm

<p>勝又邦彦(1967- )</p> <p>Skyline 101070</p> <p>平成16年(平成18年)</p> <p>タイプCプリント</p> <p>28.0×80.3cm</p> <p>ed. 1/5、裏面に題名、署名、年記、エディション番号</p> <p>購入</p> <p>Ph-1429</p>	<p>勝又邦彦(1967- )</p> <p>Skyline 101170</p> <p>平成16年(平成18年)</p> <p>タイプCプリント</p> <p>28.0×80.3cm</p> <p>ed. 1/5、裏面に題名、署名、年記、エディション番号</p> <p>購入</p> <p>Ph-1430</p>	<p>勝又邦彦(1967- )</p> <p>Skyline 101420</p> <p>平成17年(平成18年)</p> <p>タイプCプリント</p> <p>28.0×80.3cm</p> <p>ed. 1/5、裏面に題名、署名、年記、エディション番号</p> <p>購入</p> <p>Ph-1431</p>
<p>KATSUMATA, Kunihiko (1967- )</p> <p>Skyline 101070</p> <p>2004 (2006)</p> <p>type C print</p> <p>28.0×80.3cm</p>	<p>KATSUMATA, Kunihiko (1967- )</p> <p>Skyline 101170</p> <p>2004 (2006)</p> <p>type C print</p> <p>28.0×80.3cm</p>	<p>KATSUMATA, Kunihiko (1967- )</p> <p>Skyline 101420</p> <p>2005 (2006)</p> <p>type C print</p> <p>28.0×80.3cm</p>

<p>神谷俊美(1946- )</p> <p>「東京神話」より 本郷4丁目／菊坂</p> <p>昭和57年(平成17年)</p> <p>ゼラチン・シルバー・プリント</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p> <p>裏面に題名、署名、年記</p> <p>購入</p> <p>Ph-1432</p>	<p>神谷俊美(1946- )</p> <p>「東京神話」より 原町3丁目</p> <p>昭和59年(平成17年)</p> <p>ゼラチン・シルバー・プリント</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p> <p>裏面に題名、署名、年記</p> <p>購入</p> <p>Ph-1434</p>	<p>神谷俊美(1946- )</p> <p>「東京神話」より 築地7丁目／堺橋</p> <p>昭和57年(平成17年)</p> <p>ゼラチン・シルバー・プリント</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p> <p>裏面に題名、署名、年記</p> <p>購入</p> <p>Ph-1433</p>
<p>KAMIYA, Toshimi (1946- )</p> <p>Hongo 4-chome, Kikuzaka from “Mirabilitas Tokyo”</p> <p>1982 (2005)</p> <p>gelatin silver print</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p>	<p>KAMIYA, Toshimi (1946- )</p> <p>Haramachi 3-chome from “Mirabilitas Tokyo”</p> <p>1984 (2005)</p> <p>gelatin silver print</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p>	<p>KAMIYA, Toshimi (1946- )</p> <p>Tsukiji 7-chome, Sakai Bridge from “Mirabilitas Tokyo”</p> <p>1982 (2005)</p> <p>gelatin silver print</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p>

<p>神谷俊美(1946- )</p> <p>「東京神話」より 目黒川／東品川橋</p> <p>昭和60年(平成17年)</p> <p>ゼラチン・シルバー・プリント</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p> <p>裏面に題名、署名、年記</p> <p>購入</p> <p>Ph-1438</p>	<p>神谷俊美(1946- )</p> <p>「東京神話」より 一之江2丁目／新中川</p> <p>昭和60年(平成17年)</p> <p>ゼラチン・シルバー・プリント</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p> <p>裏面に題名、署名、年記</p> <p>購入</p> <p>Ph-1439</p>	<p>神谷俊美(1946- )</p> <p>「東京神話」より 江戸川3丁目／旧江戸川</p> <p>昭和63年(平成17年)</p> <p>ゼラチン・シルバー・プリント</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p> <p>裏面に題名、署名、年記</p> <p>購入</p> <p>Ph-1452</p>
<p>KAMIYA, Toshimi (1946- )</p> <p>Meguro River, Higashishinagawa Bridge from “Mirabilitas Tokyo”</p> <p>1985 (2005)</p> <p>gelatin silver print</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p>	<p>KAMIYA, Toshimi (1946- )</p> <p>Ichinoe 2-chome, Shin Naka River from “Mirabilitas Tokyo”</p> <p>1985 (2005)</p> <p>gelatin silver print</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p>	<p>KAMIYA, Toshimi (1946- )</p> <p>Edogawa 3-chome, Old Edo River from “Mirabilitas Tokyo”</p> <p>1988 (2005)</p> <p>gelatin silver print</p> <p>23.7×23.7 (35.6×27.9) cm</p>

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 江戸川3丁目／  
旧江戸川  
昭和63年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1453

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Edogawa 3-chome, Old Edo River from  
“Mirabilitas Tokyo”  
1988 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 南千住5丁目  
昭和59年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1435

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Minamisenju 5-chome from “Mirabilitas  
Tokyo”  
1984 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 佃1丁目  
昭和59年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1436

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Tsukuda 1-chome from “Mirabilitas Tokyo”  
1984 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 東四つ木3丁目  
／綾瀬川  
昭和61年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1443

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Higashiyotsugi 3-chome, Ayase River from  
“Mirabilitas Tokyo”  
1986 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 清新町1丁目  
昭和62年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1445

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Seishincho 1-chome from “Mirabilitas  
Tokyo”  
1987 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 清新町1丁目／  
荒川  
昭和60年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1440

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Seishincho 1-chome, Ara River from  
“Mirabilitas Tokyo”  
1985 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 豊洲運河／豊洲橋  
昭和62年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1446

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Toyosu Canal, Toyosu Bridge from  
“Mirabilitas Tokyo”  
1987 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 代々木3丁目  
昭和62年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1447

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Yoyogi 3-chome from “Mirabilitas Tokyo”  
1987 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 豊洲1丁目／新  
木場  
昭和62年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1448

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Toyosu 1-chome, Shinkiba from “Mirabilitas  
Tokyo”  
1987 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm



神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 白金台2丁目

昭和60年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1441

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Shirokanedai 2-chome from "Mirabilitas Tokyo"  
1985 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 谷中7丁目

昭和63年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1454

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Yanaka 7-chome from "Mirabilitas Tokyo"  
1988 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 大島川西支川／  
福島橋

昭和59年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1437

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Oshima River West Branch, Fukushima Bridge from "Mirabilitas Tokyo"  
1984 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 臨海町1丁目／  
荒川

昭和62年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1449

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Rinkaicho 1-chome, Ara River from "Mirabilitas Tokyo"  
1987 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 立会川／立会橋

昭和61年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1444

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Tachiai River, Tachiai Bridge from "Mirabilitas Tokyo"  
1986 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 東篠崎町／江戸  
川水門

平成4年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1457

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Higashishinozakicho, Edogawa Lock Gate from "Mirabilitas Tokyo"  
1992 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 荒川河口

昭和63年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1455

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
The Mouth of the Ara River from "Mirabilitas Tokyo"  
1988 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 隅田川／勝鬨橋

平成2年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1456

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Sumida River, Kachidoki Bridge from "Mirabilitas Tokyo"  
1990 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 第13号埋立地先

昭和62年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1450

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Ahead of the Landfill No.13 from "Mirabilitas Tokyo"  
1987 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 神田小川町  
昭和60年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1442

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Kanda-ogawamachi from “Mirabilitas Tokyo”  
1985 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 東品川1丁目  
平成5年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1461

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Higashishinagawa 1-chome from “Mirabilitas Tokyo”  
1993 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 臨海町1丁目  
昭和62年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1451

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Rinkaicho 1-chome from “Mirabilitas Tokyo”  
1987 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 亀島川／南高橋  
平成4年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1458

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Kamejima River, Minamitaka Bridge from “Mirabilitas Tokyo”  
1992 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 有明2丁目／有明運河  
平成4年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1459

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Ariake 2-chome, Ariake Canal from “Mirabilitas Tokyo”  
1992 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 青海2丁目  
平成7年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1462

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Aomi 2-chome from “Mirabilitas Tokyo”  
1995 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 西新宿2丁目  
平成4年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
購入  
Ph-1460

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Nishishinjuku 2-chome from “Mirabilitas Tokyo”  
1992 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 西新宿2丁目  
平成6年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
作者寄贈  
Ph-1422

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Nishishinjuku 2-chome from “Mirabilitas Tokyo”  
1994 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 築地6丁目／勝鬃橋  
平成6年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
作者寄贈  
Ph-1423

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Tsukiji 6-chome, Kachidoki Bridge from “Mirabilitas Tokyo”  
1994 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

---

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 白河3丁目／同  
潤会アパート  
平成6年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
作者寄贈  
Ph-1424

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Shirakawa 3-chome, The Dojunkai  
Apartment from "Mirabilitas Tokyo"  
1994 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 隅田川／勝鬨橋  
平成4年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
作者寄贈  
Ph-1420

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Sumida River, Kachidoki Bridge from  
"Mirabilitas Tokyo"  
1992 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

神谷俊美(1946- )  
「東京神話」より 隅田川／勝鬨橋  
平成4年(平成17年)  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm  
裏面に題名、署名、年記  
作者寄贈  
Ph-1421

KAMIYA, Toshimi (1946- )  
Sumida River, Kachidoki Bridge from  
"Mirabilitas Tokyo"  
1992 (2005)  
gelatin silver print  
23.7×23.7 (35.6×27.9) cm

---

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
31.2×39.8 (40.9×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1384

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
31.2×39.8 (40.9×50.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より スクラップ 東京  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
30.9×39.8 (40.9×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1385

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Scrap Iron, Tokyo from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
30.9×39.8 (40.9×50.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より コカ・コーラ 東京  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
30.4×39.8 (40.8×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1386

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Coca-Cola, Tokyo from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
30.4×39.8 (40.8×50.7) cm

---

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×29.9 (50.6×40.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1387

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×29.9 (50.6×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×31.9 (50.8×40.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1388

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×31.9 (50.8×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×30.1 (50.7×40.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1389

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×30.1 (50.7×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
29.8×39.8 (40.9×50.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1390

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
29.8×39.8 (40.9×50.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より ラッキー・ストライ  
ク 東京

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
29.8×39.8 (40.9×50.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1391

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Lucky Strike, Tokyo from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
29.8×39.8 (40.9×50.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×31.1 (50.7×40.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1392

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×31.1 (50.7×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より スクラップ 東京

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
29.2×39.8 (40.9×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1393

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Scrap Iron, Tokyo from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
29.2×39.8 (40.9×50.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
38.6×32.2 (50.7×40.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1394

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
38.6×32.2 (50.7×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×29.5 (50.6×40.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1395

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×29.5 (50.6×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より ケロイドの腕 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
25.8×38.6 (40.8×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1396

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Keloids on the Arm from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
25.8×38.6 (40.8×50.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 壁 し  
みと剥落 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×31.2 (50.6×41.0) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1397

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Wall, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×31.2 (50.6×41.0) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
30.9×39.8 (40.8×50.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1398

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
30.9×39.8 (40.8×50.8) cm

---

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
30.7×39.8 (40.8×50.6) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1399

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
30.7×39.8 (40.8×50.6) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 日の丸 東京  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
29.8×39.8 (40.8×50.6) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1400

KAWADA, Kikuji (1933- )  
The Japanese National Flag, Tokyo from  
"The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
29.8×39.8 (40.8×50.6) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
31.6×39.8 (40.8×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1401

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
31.6×39.8 (40.8×50.7) cm

---

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
30.0×39.7 (40.8×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1402

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
30.0×39.7 (40.8×50.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 90才 日本人 勲章  
栃木県  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
31.2×39.8 (40.8×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1403

KAWADA, Kikuji (1933- )  
90 Years Old Japanese, Memorial Decoration  
from the Emperor, Tochigi Pref. from "The  
Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
31.2×39.8 (40.8×50.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 壁 剥  
落 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
30.5×37.4 (40.8×50.5) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1404

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Wall, Flaking off,  
Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
30.5×37.4 (40.8×50.5) cm

---

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
30.7×39.8 (40.8×50.7) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1405

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
30.7×39.8 (40.8×50.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 特攻隊員の写真 江  
田島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×28.5 (50.7×40.8) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1406

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Portrait of an Officer of a Special Attack  
Unit, Etajima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×28.5 (50.7×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
28.5×39.8 (40.8×50.6) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1407

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from "The Map"  
1960-65 (2004)  
platinum print  
28.5×39.8 (40.8×50.6) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
31.2×39.8 (40.8×50.6) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1408

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
31.2×39.8 (40.8×50.6) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 太田川  
広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×30.6 (50.8×41.0) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1409

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ota River, Hiroshima  
from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×30.6 (50.8×41.0) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 壁 剥  
落 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×30.4 (50.6×40.8) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1410

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Flaking off,  
Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×30.4 (50.6×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×30.1 (50.7×40.8) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1411

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×30.1 (50.7×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 観光者  
落書き 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
30.1×39.8 (40.9×50.7) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1412

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Scribbling by Tourists,  
Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
30.1×39.8 (40.9×50.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみと剥落 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×28.5 (50.6×40.7) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1413

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain and  
Flaking off, Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×28.5 (50.6×40.7) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム 天井  
しみ 広島

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.8×31.7 (50.6×40.8) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1414

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, Ceiling, Stain,  
Hiroshima from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.8×31.7 (50.6×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 要塞 富津 千葉県

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
39.5×31.5 (50.7×40.8) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1415

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Stronghold, Futtsu, Chiba Pref. from “The  
Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
39.5×31.5 (50.7×40.8) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より スクラップ 東京

昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
26.7×41.0 (40.8×50.6) cm  
ed. 1/7, 右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ヨナル、2004年)  
購入  
Ph-1416

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Scrap Iron, Tokyo from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
26.7×41.0 (40.8×50.6) cm

---

川田喜久治(1933- )  
「地図」より スクラップ 東京  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
36.8×27.9 (50.6×40.9) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ョナル、2004年)  
購入  
Ph-1417

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Scrap Iron, Tokyo from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
36.8×27.9 (50.6×40.9) cm

川田喜久治(1933- )  
「地図」より 原爆ドーム屋上 セ  
ルフポートレイト 広島  
昭和35-40年(平成16年)  
プラチナ・プリント  
25.0×37.1 (37.6×47.4) cm  
ed. 1/7、右下に署名、左下にエディション番号  
個展(東京、フォト・ギャラリー・インターナシ  
ョナル、2004年)  
購入  
Ph-1418

KAWADA, Kikuji (1933- )  
Atomic Bomb Dome, rooftop, Self-portrait  
from “The Map”  
1960-65 (2004)  
platinum print  
25.0×37.1 (37.6×47.4) cm

榑橋朝子(1959- )  
half awake and half asleep in the water  
MIYAJIMA  
平成16年(平成17年)  
タイプCプリント・アルボリック  
60.1×90.3cm  
ed. 1/12、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
個展(東京、ツアイト・フォトサロン、2005年)  
購入  
Ph-1463

NARAHASHI, Asako (1959- )  
half awake and half asleep in the water  
MIYAJIMA  
2004 (2005)  
type C print mounted on alpolic  
60.1×90.3cm

---

榑橋朝子(1959- )  
half awake and half asleep in the water  
MURODOU  
平成16年(平成17年)  
タイプCプリント・アルボリック  
90.3×60.1cm  
ed. 1/12、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
個展(東京、ツアイト・フォトサロン、2005年)  
購入  
Ph-1464

NARAHASHI, Asako (1959- )  
half awake and half asleep in the water  
MURODOU  
2004 (2005)  
type C print mounted on alpolic  
90.3×60.1cm

榑橋朝子(1959- )  
half awake and half asleep in the water  
SHIKARIBETSUKO  
平成16年(平成17年)  
タイプCプリント・アルボリック  
60.1×90.3cm  
ed. 1/12、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
個展(東京、ツアイト・フォトサロン、2005年)  
購入  
Ph-1465

NARAHASHI, Asako (1959- )  
half awake and half asleep in the water  
SHIKARIBETSUKO  
2004 (2005)  
type C print mounted on alpolic  
60.1×90.3cm

榑橋朝子(1959- )  
half awake and half asleep in the water  
IWASEHAMA  
平成16年(平成18年)  
タイプCプリント・アルボリック  
60.1×90.3cm  
ed. 1/12、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
購入  
Ph-1466

NARAHASHI, Asako (1959- )  
half awake and half asleep in the water  
IWASEHAMA  
2004 (2006)  
type C print mounted on alpolic  
60.1×90.3cm

---

榑橋朝子(1959- )  
half awake and half asleep in the water  
YAMANAKAKO  
平成16年(平成18年)  
タイプCプリント・アルボリック  
60.1×90.3cm  
ed. 1/12、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
購入  
Ph-1467

NARAHASHI, Asako (1959- )  
half awake and half asleep in the water  
YAMANAKAKO  
2004 (2006)  
type C print mounted on alpolic  
60.1×90.3cm

榑橋朝子(1959- )  
half awake and half asleep in the water  
MEKARI  
平成16年(平成18年)  
タイプCプリント・アルボリック  
60.1×90.3cm  
ed. 1/12、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
購入  
Ph-1468

NARAHASHI, Asako (1959- )  
half awake and half asleep in the water  
MEKARI  
2004 (2006)  
type C print mounted on alpolic  
60.1×90.3cm

榑橋朝子(1959- )  
half awake and half asleep in the water  
ISO  
平成17年(平成17年)  
タイプCプリント・アルボリック  
60.1×90.3cm  
ed. 1/12、裏面に題名、署名、年記、エディション  
番号  
個展(東京、ツアイト・フォトサロン、2005年)  
購入  
Ph-1469

NARAHASHI, Asako (1959- )  
half awake and half asleep in the water  
ISO  
2005 (2005)  
type C print mounted on alpolic  
60.1×90.3cm

---

檜橋朝子(1959- )

half awake and half asleep in the water

NOTOJIMA

平成17年(平成17年)

タイプCプリント・アルボリック

60.1×90.3cm

ed. 1/12、裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2005年)

購入

Ph-1470

NARAHASHI, Asako (1959- )

half awake and half asleep in the water

NOTOJIMA

2005 (2005)

type C print mounted on alpolic

60.1×90.3cm

野口里佳(1971- )

新しい島 #1

平成11-12年

タイプCプリント

70.5×70.5cm

ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)

購入

Ph-1471

NOGUCHI, Rika (1971- )

New Land #1

1999-2000

type C print

70.5×70.5cm

野口里佳(1971- )

新しい島 #2

平成11-12年

タイプCプリント

70.5×70.5cm

ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)

購入

Ph-1472

NOGUCHI, Rika (1971- )

New Land #2

1999-2000

type C print

70.5×70.5cm

---

野口里佳(1971- )

新しい島 #3

平成11-12年

タイプCプリント

70.5×70.5cm

ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)

購入

Ph-1473

NOGUCHI, Rika (1971- )

New Land #3

1999-2000

type C print

70.5×70.5cm

野口里佳(1971- )

新しい島 #4

平成11-12年

タイプCプリント

70.5×70.5cm

ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)

購入

Ph-1474

NOGUCHI, Rika (1971- )

New Land #4

1999-2000

type C print

70.5×70.5cm

野口里佳(1971- )

新しい島 #5

平成11-12年

タイプCプリント

70.5×70.5cm

ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)

購入

Ph-1475

NOGUCHI, Rika (1971- )

New Land #5

1999-2000

type C print

70.5×70.5cm

---

野口里佳(1971- )

新しい島 #6

平成11-12年

タイプCプリント

56.0×56.0cm

ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)

購入

Ph-1476

NOGUCHI, Rika (1971- )

New Land #6

1999-2000

type C print

56.0×56.0cm

野口里佳(1971- )

新しい島 #7

平成11-12年

タイプCプリント

56.0×56.0cm

ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)

購入

Ph-1477

NOGUCHI, Rika (1971- )

New Land #7

1999-2000

type C print

56.0×56.0cm

野口里佳(1971- )

新しい島 #8

平成11-12年

タイプCプリント

70.5×70.5cm

ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号

写真の現在2 サイトー場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)

購入

Ph-1478

NOGUCHI, Rika (1971- )

New Land #8

1999-2000

type C print

70.5×70.5cm



---

野口里佳(1971- )  
新しい島 #9  
平成11-12年  
タイプCプリント  
70.5×70.5cm  
ed.5/7 裏面に題名、署名、年記、エディション番号  
写真の現在2 サイト一場所と光景(東京国立近代美術館、2002年)  
購入  
Ph-1479

NOGUCHI, Rika (1971- )  
New Land #9  
1999-2000  
type C print  
70.5×70.5cm

ウィリアム・クライン(1928- )  
銃 1、ニューヨーク  
昭和29年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
35.5×25.4 (40.5×30.4) cm  
右下に署名、左下に題名、年記  
購入  
Ph-1480

KLEIN, William (1928- )  
Gun 1, New York  
1954  
gelatin silver print  
35.5×25.4 (40.5×30.4) cm

ウィリアム・クライン(1928- )  
四つの顔、ニューヨーク  
昭和29年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
33.2×25.2 (40.5×30.4) cm  
右下に署名、左下に題名、年記  
購入  
Ph-1481

KLEIN, William (1928- )  
4 Heads, New York  
1954  
gelatin silver print  
33.2×25.2 (40.5×30.4) cm

---

ウィリアム・クライン(1928- )  
チェック模様の壁、ニューヨーク  
昭和29年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
27.0×34.7 (30.3×40.5) cm  
右下に署名、左下に題名、年記  
購入  
Ph-1482

KLEIN, William (1928- )  
Checkerd Wall, New York  
1954  
gelatin silver print  
27.0×34.7 (30.3×40.5) cm

ウィリアム・クライン(1928- )  
グレイス、ニューヨーク  
昭和30年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.4×35.6 (30.4×40.4) cm  
右下に署名、左下に題名、年記  
購入  
Ph-1483

KLEIN, William (1928- )  
Grace, New York  
1955  
gelatin silver print  
23.4×35.6 (30.4×40.4) cm

ウィリアム・クライン(1928- )  
ダンス、ブルックリン、ニューヨーク  
昭和30年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
26.0×35.1 (30.2×40.3) cm  
右下に署名、左下に題名、年記  
購入  
Ph-1484

KLEIN, William (1928- )  
Dance, Brooklyn, New York  
1955  
gelatin silver print  
26.0×35.1 (30.2×40.3) cm

---

ウィリアム・クライン(1928- )  
ホームズ療養所、ニューヨーク  
昭和30年  
ゼラチン・シルバー・プリント  
23.1×35.4 (30.2×40.2) cm  
右下に署名、左下に題名、年記  
購入  
Ph-1485

KLEIN, William (1928- )  
Holmes Sickroom, New York  
1955  
gelatin silver print  
23.1×35.4 (30.2×40.2) cm

平成17年度における工芸作品の購入・受贈による新収蔵作品は次のとおり。陶磁49点(購入26点、受贈23点)、染織13点(購入3点、受贈10点)、漆工3点(購入2点、受贈1点)、ガラス1点(受贈1点)、人形6点(購入6点)、工業デザイン1点(購入1点)である。

New additions to the museum collection as a result of the purchase or receipt of donation, or management transfer of crafts during fiscal 2005 were as follows: 49 ceramic works (26 purchased, 23 donated); 13 textile (3 purchased, 10 donated); 3 lacquerware (2 purchased, 1 donated); 1 item of glass work (1 donated); 6 items of doll (6 purchased); and 1 item of industrial design (1 purchased).

## 陶磁

### Ceramic Works

荒川豊蔵(1894-1985)

瀬戸黒茶碗

昭和39年  
陶器  
h9.6 D13.8cm  
寄贈  
Cr0638

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, setoguro type  
1964  
stoneware  
h9.6 D13.8cm

荒川豊蔵(1894-1985)

からつ風茶碗

昭和39年  
陶器  
h9.3 D13.0cm  
寄贈  
Cr0639

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, Karatsu type  
1964  
stoneware  
h9.3 D13.0cm

荒川豊蔵(1894-1985)

志野香合

昭和42年  
陶器  
寄贈  
h3.7 w6.7 d6.3cm  
Cr0640

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Incense case, shino type  
1967  
stoneware  
h3.7 w6.7 d6.3cm

荒川豊蔵(1894-1985)

黄瀬戸茶碗

昭和43-49年頃  
陶器  
h9.5 D13.4cm  
寄贈  
Cr0641

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, kizeto type  
c.1968-74  
stoneware  
h9.5 D13.4cm

荒川豊蔵(1894-1985)

志野茶碗

昭和48年  
陶器  
h9.3 D13.7cm  
寄贈  
Cr0642

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, shino type  
1973  
stoneware  
h9.3 D13.7cm

---

荒川豊蔵(1894-1985)

志野茶碗

昭和48-49年頃  
陶器  
h9.3 D13.8cm  
寄贈  
Cr0643

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, shino type  
c.1973-94  
stoneware  
h9.3 D13.8cm

荒川豊蔵(1894-1985)

信楽水指

昭和50年  
陶器  
h19.8 D19.6cm  
寄贈  
Cr0644

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Water container, shigaraki type  
1975  
stoneware  
h19.8 D19.6cm

荒川豊蔵(1894-1985)

唐津風茶碗

不詳  
陶器  
h9.5 D11.0cm  
寄贈  
Cr0645

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Tea bowl, Karatsu type  
unknown  
stoneware  
h9.5 D11.0cm

---

荒川豊蔵(1894-1985)

志野きく香合

不詳  
陶器  
h4.5 D8.3cm  
寄贈  
Cr0646

ARAKAWA, Toyozo (1894-1985)

Incense case, chrysanthemum design, *Shino*  
type  
unknown  
stoneware  
h4.5 D8.3cm

伊勢崎 淳(1936- )

備前黒角皿

平成17年  
陶器  
h9.5 w43.5 d43.5cm  
寄贈  
Cr0648

ISEZAKI, Jun (1936- )

Square dish, Bizen black ware  
2005  
stoneware  
h9.5 w43.5 d43.5cm

伊村俊見(1961- )

延03-3

平成15年  
陶器  
h52 w64 d62cm  
個展  
購入  
Cr0661

IMURA, Toshimi (1961- )

Growing 03-3  
2003  
stoneware  
h52 w64 d62cm

---

大塚茂吉(1956- )

猫

平成17年  
陶器  
猫：h30.1 w51.1 d18.3cm  
台座：h12.9 w53.0 d18.7cm  
個展  
購入  
Cr0662

OTSUKA, Mokichi (1956- )

Cat  
2005  
stoneware  
cat: h30.1 w51.1 d18.3cm  
base: h12.9 w53.0 d18.7cm

清水九兵衛(洋)(1922- )

層容

昭和32年  
陶器  
h32.8 w24.1 d23.2cm  
第13回日展  
寄贈  
Cr0649

KIYOMIZU, Kyubei (Hiroshi) (1922- )

Vase “Layers”  
1957  
stoneware  
h32.8 w24.1 d23.2cm

七代錦光山宗兵衛(1868-1927)

上絵金彩花鳥図蓋付飾壺

明治17-30年  
陶器  
h73.0 D39.6cm  
購入  
Cr0663

KINKOZAN, Sobei VII (1868-1927)

Jar with lid, flower and birds design,  
overglaze enamels and gold  
1884-1897  
stoneware  
h73.0 D39.6cm

---

ハンス・コパー (1920-1981)  
トライポット

昭和31年頃  
陶器  
h20.0 w13.2 d12.5cm  
購入  
Cr0681

COPER, Hans (1920-1981)

Tripots  
c.1956  
stoneware  
h20.0 w13.2 d12.5cm

ハンス・コパー (1920-1981)  
立鼓形花瓶

昭和33年頃  
陶器  
h20.0 w13.2 d12.5cm  
購入  
Cr0684

COPER, Hans (1920-1981)

Standing-drum shaped vase  
c.1958  
stoneware  
h20.0 w13.2 d12.5cm

ハンス・コパー (1920-1981)  
砂時計形花瓶

昭和39年  
陶器  
h28.0 D11.0cm  
購入  
Cr0682

COPER, Hans (1920-1981)

Hourglass shaped vase  
1964  
stoneware  
h28.0 D11.0cm

---

ハンス・コパー (1920-1981)  
洋梨形台付花瓶

昭和39年  
陶器  
h18.0 D9.0cm  
購入  
Cr0685

COPER, Hans (1920-1981)

Vase with pyriform base  
1964  
stoneware  
h18.0 D9.0cm

ハンス・コパー (1920-1981)  
長首扁壺

昭和41年  
陶器  
h28.5 D8.5cm  
購入  
Cr0683

COPER, Hans (1920-1981)

Longneck vase  
1966  
stoneware  
h28.5 D8.5cm

ハンス・コパー (1920-1981)  
卵形花瓶

昭和41年  
陶器  
h15.5 D11.0cm  
購入  
Cr0686

COPER, Hans (1920-1981)

Oval vase  
1966  
stoneware  
h15.5 D11.0cm

---

ルパート・スパイラ (1960- )  
白釉押型詩文大深皿

平成15年  
陶器  
h19 D50cm  
個展  
購入  
Cr0664

SPIRA, Rupert (1960- )

Open bowl, embossed poem under white glaze  
2003  
stoneware  
h19 D50cm

ルパート・スパイラ (1960- )  
白釉黒彩刻詩文深大皿

平成15年  
陶器  
h21 D54cm  
個展  
購入  
Cr0665

SPIRA, Rupert (1960- )

Open bowl, poem incised through black pigment over white glaze  
2003  
stoneware  
h21 D54cm

ルパート・スパイラ (1960- )  
白釉黒彩刻線文大鉢

平成15年  
陶器  
h26 D42cm  
個展  
購入  
Cr0666

SPIRA, Rupert (1960- )

Deep bowl, lines incised through black pigment over white glaze  
2003  
stoneware  
h26 D42cm

---

四代永澤永信(1938- )

悠

平成12年  
磁器  
h23.0 D50.0cm  
第32回改組日展  
購入  
Cr0667

NAGASAWA, Eishin, IV (1938- )

Perpetuity  
2000  
porcelain  
h23.0 D50.0cm

藤平 伸(1922- )

少年の日

昭和55年  
陶器  
h35.5 w38.5 d33.5cm  
第12回改組日展  
寄贈  
Cr0650

FUJIHIRA, Shin (1922- )

Boyhood  
1980  
stoneware  
h35.5 w38.5 d33.5cm

藤平 伸(1922- )

楼蘭吉祥

平成元年  
陶器  
h43 w42 d26cm  
第21回改組日展  
寄贈  
Cr0651

FUJIHIRA, Shin (1922- )

A good omen of Lou-lan  
1989  
stoneware  
h43 w42 d26cm

---

藤平 伸(1922- )

楼蘭

平成元年頃  
陶器  
h11.0 w30.0 d10.6cm  
寄贈  
Cr0652

FUJIHIRA, Shin (1922- )

Lou-lan  
c.1989  
stoneware  
h11.0 w30.0 d10.6cm

藤平 伸(1922- )

青の飾篭

平成2年頃  
陶器  
h40.5 w28.0 d33.5cm  
寄贈  
Cr0653

FUJIHIRA, Shin (1922- )

Ornamental covered box in blue  
c.1990  
stoneware  
h40.5 w28.0 d33.5cm

藤平 伸(1922- )

約翰(ヨハネ)黙示録

平成3年  
陶器  
h26.5 w28.0 d20.5cm  
第23回改組日展  
寄贈  
Cr0654

FUJIHIRA, Shin (1922- )

Ornamental covered box, "In Praise of the  
apocalypse of St. John"  
1991  
stoneware  
h26.5 w28.0 d20.5cm

---

藤平 伸(1922- )

鳥

平成4年頃  
陶器  
h25.0 w28.2 d20.7cm  
寄贈  
Cr0655

FUJIHIRA, Shin (1922- )

Bird  
c.1992  
stoneware  
h25.0 w28.2 d20.7cm

藤平 伸(1922- )

座

平成9年  
陶器  
h28.0 w38.2 d20.0cm  
第29回改組日展  
寄贈  
Cr0656

FUJIHIRA, Shin (1922- )

Za (presence)  
1997  
stoneware  
h28.0 w38.2 d20.0cm

藤平 伸(1922- )

花絵辰砂壺

平成9年  
陶器  
h28.5 w18.0 d18.0cm  
個展  
寄贈  
Cr0657

FUJIHIRA, Shin (1922- )

Flower vase with red copper glaze  
1997  
stoneware  
h28.5 w18.0 d18.0cm

星野 暁(1945- )  
表層・深層  
昭和57年  
陶器  
h14.1 w87.2 d42.5cm  
「現代の陶芸 I いま、土と火でなにが可能か」展  
購入  
Cr0668

HOSHINO, Satoru (1945- )  
Surface Strata & Depth  
1982  
stoneware  
h14.1 w87.2 d42.5cm

前田青邨(1885-1977)  
蝸手香合  
不詳  
陶器  
h2.7 D8.0cm  
焼成：荒川豊蔵  
寄贈  
Cr0647

MAEDA, Seison (1885-1977)  
Incense case in shaped of snail, shino type  
unknown  
stoneware  
h2.7 D8.0cm  
Kiln: ARAKAWA, Toyozo

初代宮川香山(1842-1916)  
色入菖蒲図花瓶  
明治30-大正元年  
磁器  
h55.2 D35.6cm  
購入  
Cr0680  
  
MIYAGAWA, Kozan I (1842-1916)  
Vase in irishes design, underglaze enamels  
1897-1912  
porcelain  
h55.2 D35.6cm

三輪壽雪(十一代休雪)(1910- )  
萩灰被四方水指  
平成15年  
陶器  
h15.9 w16.9 d16.7cm  
個展  
購入  
Cr0669

MIWA, Jusetsu (1910- )  
Square water container, ash glaze, Hagi ware  
2003  
stoneware  
h15.9 w16.9 d16.7cm

大和保男(1933- )  
萩六面水指  
平成4年  
陶器  
h14.7 w18.9 d16.7cm  
寄贈  
Cr0658

YAMATO, Yasuo (1933- )  
Hexagonal water container, Hagi ware  
1992  
stoneware  
h14.7 w18.9 d16.7cm

大和保男(1933- )  
萩茶碗  
平成8年  
陶器  
h9.6 D12.3cm  
寄贈  
Cr0659

YAMATO, Yasuo (1933- )  
Tea bowl, Hagi ware  
1996  
stoneware  
h9.6 D12.3cm

大和保男(1933- )  
波涛海流文長方陶笥  
平成16年  
陶器  
h15.3 w53.8 d18.3cm  
寄贈  
Cr0660

YAMATO, Yasuo (1933- )  
Rectangular box, ocean waves and current  
design  
2004  
stoneware  
h15.3 w53.8 d18.3cm

結城美栄子(1943- )  
猫に小判  
平成16年  
陶器  
猫：h14.0 w31.5 d21.5cm  
本：h5.0 w37.3 d24.7cm  
グループ展  
購入  
Cr0670

YUKI, Mieko (1943- )  
Neko ni Koban (caviar to the general)  
2004  
stoneware  
cat: h14.0 w31.5 d21.5cm  
book: h5.0 w37.3 d24.7cm

ルーシー・リー(1902-1995)  
コーヒー・セット  
昭和35年頃  
陶器  
カップ：h7.6 D8cm ソーサー：h2.3 D14.2cm  
ミルクピッチャー：h13.5 w14.5 d9.0cm  
サーバー：h23.8 w21.8 d12.8cm  
購入  
Cr0671

RIE, Lucie (1902-1995)  
Coffee-saveset with manganese  
c.1960  
stoneware  
cup: h7.6 D8cm saucer: h2.3 D14.2cm  
milkpitcher: h13.5 w14.5 d9.0cm  
server: h23.8 w21.8 d12.8cm

---

ルーシー・リー (1902-1995)

マンガン釉線文碗

昭和45年頃  
磁器  
h8.3 D17.4cm  
購入  
Cr0672

RIE, Lucie (1902-1995)

Footed bowl with radiating sgraffito with  
manganese  
c.1970  
porcelain  
h8.3 D17.4cm

ルーシー・リー (1902-1995)

白釉鎬文花瓶

昭和51年頃  
陶器  
h24.2 D12.4cm  
購入  
Cr0673

RIE, Lucie (1902-1995)

Fluted vase with flaring neck with white  
pitted glaze  
c.1976  
stoneware  
h24.2 D12.4cm

ルーシー・リー (1902-1995)

ピンク象嵌小鉢

昭和50-54年頃  
磁器  
h7.7 D9.4cm  
購入  
Cr0674

RIE, Lucie (1902-1995)

Footed bowl with inlaid pink horizontal  
circles with bronze running rim  
c.1975-79  
porcelain  
h7.7 D9.4cm

---

ルーシー・リー (1902-1995)

白釉ニット文鉢

昭和59年頃  
陶器  
h8.8 D20.3cm  
購入  
Cr0675

RIE, Lucie (1902-1995)

Footed knitted bowl with radiating inlay  
with white glaze  
c.1984  
stoneware  
h8.8 D20.3cm

バーナード・リーチ (1887-1979)

蛸図大皿

大正14年  
陶器  
h12.5 D51.5cm  
購入  
Cr0676

LEACH, Bernard (1887-1979)

Large dish, octopus design  
1925  
stoneware  
h12.5 D51.5cm

バーナード・リーチ (1887-1979)

ブリタニーの玉葱売り

昭和19年  
陶器  
h9.3 D47.7cm  
購入  
Cr0677

LEACH, Bernard (1887-1979)

Onion seller in Bretagne  
1934  
stoneware  
h9.3 D47.7cm

---

若尾利貞 (1933- )

深紫志野茶碗

平成16年  
陶器  
h9.7 D14.3cm  
個展  
購入  
Cr0678

WAKAO, Toshisada (1933- )

Tea bowl, deep purple shino type  
2004  
stoneware  
h9.7 D14.3cm

若尾利貞 (1933- )

深紫志野俎皿

平成16年  
陶器  
h8.5 W54.0 D29.5cm  
個展  
購入  
Cr0679

WAKAO, Toshisada (1933- )

Footed dish, deep purple shino type  
2004  
stoneware  
h8.5 W54.0 D29.5cm

染織  
Textiles

伊砂利彦(1924- )

流れ

昭和46年  
着物、絹、型染  
171.0×135.0cm  
第26回新匠会  
寄贈  
Tx0355

ISA, Toshihiko (1924- )

Flow  
1971  
kimono, silk, stencil dyeing  
171.0×135.0cm

伊砂利彦(1924- )

ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」  
のイメージより

昭和47年  
紙、型染  
各160.0×40.0cm (10点)  
第27回新匠会  
寄贈  
Tx0356

ISA, Toshihiko (1924- )

Images from Modest Moussourgsky's  
*Tableaux d'une exposition*  
1972  
paper, stencil dyeing  
each 160.0×40.0cm (10)

伊砂利彦(1924- )

ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」  
のイメージより 魔女の奇行

昭和44年  
着物、絹、型染  
194.0×132.0cm  
第34回新匠工芸会  
寄贈  
Tx0357

ISA, Toshihiko (1924- )

La Cabane Sur Des Pattes De Poule, Images  
from Modest Moussourgsky's *Tableaux d'une  
exposition*  
1979  
kimono, silk, stencil dyeing  
194.0×132.0cm

伊砂利彦(1924- )

ムソルグスキー作曲「展覧会の絵」  
のイメージより

昭和56年  
着物、絹、型染  
各170.0×132.0cm (10点)  
寄贈  
Tx0358

ISA, Toshihiko (1924- )

Images from Modest Moussourgsky's  
*Tableaux d'une exposition*  
1981  
kimono, silk, stencil dyeing  
each 170.0×132.0cm (10)

伊砂利彦(1924- )

ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅰ」のイ  
メージより

昭和59-61年  
紙、型染  
各146.0×90.0cm (12点)  
個展  
寄贈  
Tx0359

ISA, Toshihiko (1924- )

Images from Claude Debussy's *Preludes I*  
1984-86  
paper, stencil dyeing  
each 146.0×90.0cm (12)

伊砂利彦(1924- )

ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅱ」のイ  
メージより

昭和59-61年  
紙、型染  
各73.0×55.0cm (12点)  
個展  
寄贈  
Tx0360

ISA, Toshihiko (1924- )

Images from Claude Debussy's *Preludes II*  
1984-86  
paper, stencil dyeing  
each 73.0×55.0cm (12)

伊砂利彦(1924- )

ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅰ」のイ  
メージより デルフィの舞姫たち

昭和59年頃  
着物、絹、型染  
172.0×137.0cm  
寄贈  
Tx0361

ISA, Toshihiko (1924- )

Danseuses de Delphes, Images from Claude  
Debussy's *Preludes I*  
c.1984  
kimono, silk, stencil dyeing  
172.0×137.0cm

伊砂利彦(1924- )

ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅰ」のイ  
メージより パックの踊り

昭和59年頃  
着物、絹、型染  
172.0×137.0cm  
寄贈  
Tx0362

ISA, Toshihiko (1924- )

La danse de Puck, Images from Claude  
Debussy's *Preludes I*  
c.1984  
kimono, silk, stencil dyeing  
172.0×137.0cm



伊砂利彦(1924- )  
ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅱ」のイメージより ヒースの茂る荒地

昭和59年頃  
着物、絹、型染  
171.0×140.0cm  
寄贈  
Tx0363

ISA, Toshihiko (1924- )  
Bruyeres, Images from Claude Debussy's *Preludes II*  
c.1984  
kimono, silk, stencil dyeing  
171.0×140.0cm

伊砂利彦(1924- )  
ドビュッシー作曲「前奏曲Ⅱ」のイメージより 水の精

昭和59年頃  
着物、絹、型染  
171.0×140.0cm  
寄贈  
Tx0364

ISA, Toshihiko (1924- )  
Ondine, Images from Claude Debussy's *Preludes II*  
c.1984  
kimono, silk, stencil dyeing  
171.0×140.0cm

築城則子(1952- )  
小倉縞木綿帯 丹心

平成16年  
綿、織  
w34.7cm  
「非情のオブジェ」展  
購入  
Tx0365

TSUIKI, Noriko (1952- )  
Sash, "Scarlet Heart," *Kokura*-type fabric, Striped Pattern  
2004  
cotton, weaving  
w34.7cm

福本潮子(1945- )  
藍染折畳縫紋生紬着尺

平成16年  
絹、藍染  
w38.0cm  
個展  
購入  
Tx0366

FUKUMOTO, Shihoko (1945- )  
Cloth of kimono, indigo dyeing on tsumugi  
2004  
silk, dyeing  
w38.0cm

福本潮子(1945- )  
藍染折畳縫紋近江本麻着尺

平成16年  
麻、藍染  
w39.0cm  
個展  
購入  
Tx0367

FUKUMOTO, Shihoko (1945- )  
Cloth of kimono, indigo dyeing on Omi-linen  
2004  
linen, dyeing  
w39.0cm

漆工  
Lacquerware

古伏脇司(1961- )  
乾漆車箱 04-03

平成16年  
漆、乾漆  
h16.9 w17.5 d24.5cm  
個展  
購入  
Lc0221

KOFUSHIWAKI, Tsukasa (1961- )  
Car Box, *kanshiisu*  
2004  
lacquer, kanshitu  
h16.9 w17.5 d24.5cm

鈴木睦美(1942- )  
朱塗楕円大鉢

平成11年  
漆  
h16.5 w83.0 d73.0cm  
個展  
購入  
Lc0222

SUZUKI, Mutsumi (1942- )  
Large oval bowl, cinnabar lacquered  
1999  
lacquer  
h16.5 w83.0 d73.0cm

---

藤井観文(1888-1973)

片切沈金金華山棗

昭和42年

漆、沈金

h7.3 D6.7cm

寄贈

Lc0220

FUJII, Kanbun (1888-1973)

Tea caddy, Kinkazan design, chinkin

1967

lacquer, chinkin

h7.3 D6.7cm

ガラス

Glass Works

---

ルーシー・リー (1902-1995)

ボタン

昭和14-18年

ガラス

D1.9～3.0cm (5点)

寄贈

Gl0101

RIE, Lucie (1902-1995)

Buttons

1939-43

glass

D1.9～3.0cm (5)

人形

Dolls

---

浜 いさを(1944- )

箱の男

平成11-14年

桐塑、紙、布

各h15.5cm (106点)

購入

DI0060

HAMA, Isao (1944- )

Men in Boxes

1999-2002

toso (paulownia sawdust paste), paper, cloth

each h15.5cm (106)

浜 いさを(1944- )

変奏曲

平成14年

桐塑、紙、布

h65.0cm

購入

DI0061

HAMA, Isao (1944- )

Variation

2002

toso (paulownia sawdust paste), paper, cloth

h65.0cm

---

ウヴェ・ホイケンフレルス(1955- )  
& ユルゲン・ペペル(1951- )  
つかの間の王

平成12年  
木彫、紙粘土、彩色  
h44.0cm  
購入  
DI0062

HAUKENFRERS, Uwe (1955- )  
& PEPER, Jurgen (1951- )  
One Minut's King  
2000  
lindenwood, paperclay  
h44.0cm

ウヴェ・ホイケンフレルス(1955- )  
& ユルゲン・ペペル(1951- )  
バレリーナ2 (プリティ・イン・ピンク)

平成15年  
木彫、紙粘土、彩色  
h49.0cm  
購入  
DI0063

HAUKENFRERS, Uwe (1955- )  
& PEPER, Jurgen (1951- )  
Ballerina 2 (Pretty in Pink)  
2003  
lindenwood, paperclay  
h49.0cm

吉田 良(1952- )  
すぐり

昭和61年  
石塑粘土、胡粉、人毛、ガラス義眼  
h115.0cm  
購入  
DI0064

YOSHIDA, Ryo (1952- )  
Suguri  
1986  
clay, gofun, hair, glass eyes  
h115.0cm

---

アクセル・ルーカス(1962- )  
無題

平成13年  
磁器  
h39.0cm  
「今日の人形芸術」展  
購入  
DI0065

LUKAS, Axel (1962- )  
Untitled  
2001  
porcelain  
h39.0cm

---

工業デザイン  
Industrial Design

ユッタ・ジカ(1877-1964)  
ティー・コーヒー セット

明治33-34年頃  
磁器  
シュガーポット：h11.4 D11.0cm  
コーヒーカップ(6客) ソーサー：各h1.7 D11.5cm カップ：各h4.7 D6.0cm  
コーヒーサーバー：h16.0 w11.0 d7.0cm  
ティーカップ(6客) ソーサー：各h1.7 D11.5cm カップ：各h 5.7 D6.0cm  
ティーサーバー：h18.3 w12.5 d8.9cm  
購入  
Id0125

SIKA, Jutta (1877-1964)

Tea and coffee set  
c.1901-02  
porcelain  
sugar pot: h11.4 D11.0cm  
coffee cups (6) saucer: each h1.7 D11.5cm, cup: each h4.7 D6.0cm  
coffee server: h16.0 w11.0 d7.0cm  
tea cups (6) saucer: each h1.7 D11.5cm, cup: each h5.7 D6.0cm  
tea server: h18.3 w12.5 d8.9cm

平成17年度に修理した美術作品は、次のとおり。油彩 その他4点、版画44点、水彩・素描23点、彫刻(立体造形)1点、写真1点、戦争記録画2点である。

#### ◆油彩 その他

O-265 田中田鶴子《無Ⅱ》  
接着、額改装

O-480 吉原治良《火山》  
接着

O-547 難波田龍起《発生》  
接着、充填整形、補彩

O-1103 吉原治良《作品2》  
接着、充填整形、補彩

#### ◆版画

P-69 川上澄生《蚕船入津》  
テープ痕の除去、プレス

P-72 川上澄生《胸中の地図》  
テープ痕の除去、プレス

P-83 前田政雄《大漁網》  
テープ痕等付着物の除去

P-84 前田政雄《蔵王火口湖 A》  
テープ痕等付着物の除去

P-88 前田政雄《漁村》  
テープ痕等付着物の除去

P-94 上阪雅人《大杉》  
裏打ちの除去、裏打ち

P-310 上阪雅人《六甲山》  
裏打ち、テープ痕の除去、裏打ち

P-702 日和崎尊夫《窓と鏡 C》  
テープ痕等付着物の除去

P-751 日和崎尊夫《窓と鏡 D》  
テープ痕等付着物の除去

P-752 日和崎尊夫《作品ー67》  
テープ痕等付着物の除去

P-835 古川龍生《野路》  
洗浄、プレス

P-965 木村秀樹《Pencil 2-1》  
テープ痕等付着物の除去

P-966 木村秀樹《Pencil 2-2》  
テープ痕等付着物の除去

P-978 榎倉康二《予兆(布)》  
台紙の分離、プレス

P-979 榎倉康二《予兆(木)》  
洗浄、合板からの分離、プレス

P-1040 荻島安二《女の顔》  
洗浄、テープ痕の除去、繕い、プレス

P-1328-1 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より 表紙》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1328-2 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より 飛行絨氈》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1328-3 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より ヴェニウス生誕》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1328-4 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より 乳房》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1328-5 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より 或る数字》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1328-6 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より かの女の帯》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1328-7 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より ダンテルの渚》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1328-8 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より 溺死》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1328-9 棟方志功《「ヴェニウス生誕別冊画譜」より 裏表紙》  
サビの除去、洗浄、プレス

P-1433 クレー、パウル《空中楼阁》  
洗浄、付着物の除去、プレス

P-1434 クレー、パウル《破壊と希望》  
洗浄、付着物の除去、繕い、プレス

P-1435 クレー、パウル《内面から光を発する聖女》  
洗浄、付着物の除去、プレス

P-1436 クレー、パウル《ホフマン風物語》  
洗浄、付着物、接着剤の除去、繕い、プレス

P-1437 クレー、パウル《櫛をつけた魔女》  
洗浄、接着剤の除去、プレス

P-1438 クレー、パウル《bauhaus展のための絵はがき“崇高な面”(1923年)》  
洗浄

P-1439 クレー、パウル《刺のある道化師》  
洗浄、付着物の除去、繕い、プレス

P-1468 クレー、パウル《ペルセウス(機知は苦難に打ち勝った)》  
テープ痕等付着物の除去

P-1469 クレー、パウル《情熱の園》  
洗浄、付着物の除去、プレス

P-1671 ゴーギャン、ポール《ナヴェ・ナヴェ・フェヌア(かぐわしき大地)》  
テープ痕等付着物の除去、洗浄、繕い、プレス

P-1672 ゴーギャン、ポール《ノア・ノア(かぐわしい)》  
テープ痕等付着物の除去、洗浄、繕い、プレス

P-1675 ルオー、ジョルジュ 《ミセレーレ No.1 (神よ、われを憐れみたまえ、あなたのおおいなる慈によって)》  
洗浄、プレス

P-1676 ルオー、ジョルジュ 《ミセレーレ No.7 (自分が王だと信じているが)》  
洗浄、プレス

P-1677 ルオー、ジョルジュ 《ミセレーレ No.20 (忘れ去られた十字架のイエスの下で)》  
洗浄、プレス

P-1678 ルオー、ジョルジュ 《ミセレーレ No.52 (法は苛酷、されど法)》  
洗浄、テープ痕の除去、プレス

P-1679 ルオー、ジョルジュ 《ミセレーレ No.57 (死に至るまで、しかも十字架の死に至るまで従順なれば)》  
洗浄、プレス

P-1680 ピカソ、パブロ《女の肖像(サルタンバンク・シリーズのうち)》  
洗浄、プレス

P-1844 松本昶《100個の「くろまめ」-Ⅰ》  
洗浄、プレス

P-1845 松本昶《100個の「くろまめ」-Ⅲ》  
洗浄

#### ◆水彩・素描

D-29 小林古径《茄子》  
洗浄、付着物の除去、裏打ち

D-77 瑛九《デッサン》  
洗浄、プレス

D-87 本郷新《アラブの女》  
洗浄、付着物の除去、プレス

D-89 本郷新《スペインの女》  
洗浄、付着物の除去、プレス

D-100 佐藤忠良《裸婦》  
洗浄、接着剤の除去、プレス

D-214 宮脇晴《自画像》  
洗淨、繕い、プレス

D-217 宮脇晴《風景(不動坂上)》  
洗淨、補強、プレス

D-283 川口軌外《無題》  
洗淨、台紙から分離、プレス

D-405 杉本健吉《多度山》  
洗淨、脱酸処置、コンテの固着強化

D-406 杉本健吉《伊賀上野(開化寺)》  
洗淨、脱酸処置、コンテの固着強化

D-407 杉本健吉《回廊(大和の寺風景)》  
洗淨、脱酸処置、コンテの固着強化

D-408 杉本健吉《五百羅漢》  
洗淨、脱酸処置、コンテの固着強化

M-632-36 岸田劉生《麗子のおけいこ》  
繕い、プレス

O-820 マンズー、ジャコモ《天使》  
洗淨、亀裂接着、付着物の除去、プレス

O-879 足立源一郎《坐る裸婦》  
洗淨、付着物の除去、繕い、プレス

O-880 足立源一郎《立てる裸婦》  
洗淨、繕い、プレス

W-64 南薫造《赤い布をかぶった女》  
洗淨、付着物の除去、プレス

W-81 狗巻賢二《作品1》  
洗淨、脱酸処置、プレス

W-82 狗巻賢二《作品2》  
洗淨、脱酸処置、プレス

W-83 狗巻賢二《作品3》  
洗淨、脱酸処置、プレス

W-84 狗巻賢二《作品4》  
洗淨、脱酸処置、プレス

W-85 狗巻賢二《作品5》  
洗淨、脱酸処置、プレス

W-149 菅井汲《赤い鬼》  
洗淨、付着物の除去、繕い、プレス

#### ◆彫刻(立体造形)

S-17 白井雨山《たよりなき身》  
洗淨

#### ◆写真

Ph-323 野村仁《道路上の日時》  
各シート(全34点)の裏面四隅の補強

#### ◆戦争記録画

X-129 藤本東一良《潜水艦の米空母雷撃》  
接着、充填整形、補彩

X-134 三国久《バリ島沖海戦》  
接着、充填整形、補彩

### 3-2 工芸作品

平成17年度における工芸作品の修理は、染織6点である。

#### ◆染織

Tx0013 鎌倉芳太郎《紅型松雲霞文衣》  
黴・汚れ修復、洗い張り、裏地交換

Tx0014 鎌倉芳太郎《印金紅型秋草文長着》  
黴・汚れ修復、洗い張り、裏地交換

Tx0016 鎌倉芳太郎《印金臙型着物 瑠》  
黴・汚れ修復、洗い張り、裏地交換

Tx0001 鎌倉芳太郎《紅型線条文夏長着》  
黴・汚れ修復、洗い張り、裏地交換

Tx0149 鎌倉芳太郎《麻地紅型流水紅葉文帷子》  
黴・汚れ修復、洗い張り、裏地交換

Tx0152 鎌倉芳太郎《紅型竹文麻地夏着》  
黴・汚れ修復、洗い張り、裏地交換

## Ⅱ 公衆への観覧

### 1 展覧会 Exhibitions

#### 1-1 観覧者数

##### 1-1-1 本館

美術展

観覧者総数(人) 931,852

回数	展覧会名	観覧者数(人)
	所蔵作品展 近代日本の美術	288,564
420	ゴッホ展 孤高の画家の原風景	474,263 (平成17年度中)
422	近代日本画の名匠 小林古径展	66,885
423	アジアのキュビズム 境界なき対話	11,356
425	ドイツ写真の現在 かわりゆく『現実』と向かいあうために	25,887
426	アウグスト・ザンダー展	26,200
427	須田国太郎展	22,673
429	藤田嗣治展 パリを魅了した異邦人	16,024 (平成17年度中)

##### 1-1-2 工芸館

工芸展

観覧者総数(人) 126,155

回数	展覧会名	観覧者数(人)
	所蔵作品展	66,263
421 (工75)	伊砂利彦一型染の美	23,248
424 (工76)	日本のアール・ヌーヴォー1900-1923: 工芸とデザインの新時代	17,887
428 (工77)	渡辺力ーリビング・デザインの革新	18,757



## 回数 展覧会名

昭和27年度[1952]

- 1 日本近代美術展—近代絵画の回顧と展望  
Modern Japanese Art: Retrospective and Perspective of Modern Painting
- 2 近代洋画の歩み—西洋と日本  
Development of Modern Western-Style (Oil) Painting: Europe and Japan

昭和28年度[1953]

- 3 世界のポスター展  
World Posters
- 4 日本画の流れ—系譜と展開  
Mainstream of Japanese-Style Painting: Its Schools and Development
- 5 近代彫塑展—西洋と日本  
Modern Sculpture: Europe and Japan
- 6 現代写真展—日本とアメリカ  
The Exhibition of Contemporary Photography—Japan and America
- 7 四人の画家(小茂田青樹・土田麦僊・中村彝・萬鐵五郎)  
Exhibition of Four Artists: Seiju Omoda, Bakusen Tsuchida, Tsune Nakamura, Tetsugoro Yorozu
- 8 抽象と幻想—非写実絵画をどう理解するか  
Abstraction and Fantasy: How to Understand Non-figurative(Non-realistic) Painting
- 9 近代の肖像画  
Exhibition of Modern Japanese Portraiture
- 10 第27回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 27th Venice Biennial Exhibits from Japan
- 11 国吉康雄遺作展  
Posthumous Exhibition of Yasuo Kuniyoshi

昭和29年度[1954]

- 12 大正期の画家  
The Exhibition of the Painting of the Taisho Era
- 13 グロピウスとバウハウス—近代建築工芸運動の出発  
Gropius and Bauhaus: Start of Modern Architecture and Craft Movements
- 14 黒田清輝展  
Exhibition of Seiki Kuroda
- 15 水彩と素描  
Exhibition of Water Colors and Drawings
- 16 世界の児童画  
Exhibition of World Children's Art
- 17 四人の画家(佐伯祐三・前田寛治・村上華岳・広島晃甫)  
Exhibition of Four Painters—Yuzo Saeki, Kanji Maeta, Kagaku Murakami, Koho Hiroshima
- 18 現代の眼—日本の美術史から  
Today's Focus: On the History of Japanese Art

- 19 19人の作家—戦後の絵画・彫刻  
同時開催 第3回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Living Nineteen Japanese Artists: Painting and Sculpture in the Past Ten Years  
Preview Exhibition of the 3rd São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 20 松方コレクション国立美術館建設協賛展  
Exhibition in Liaison with the Establishment of The National Museum of Western Art
- 21 明治初期洋画展—近代リアリズムの展開  
Western-Style Painting of the Early Meiji Era

昭和30年度[1955]

- 22 日米抽象美術展  
Abstract Art Exhibition: Japan and U. S. A.
- 23 巨匠の20代  
Great Masters in their Twenties
- 24 日米水彩画展  
Joint Exhibition of American and Japanese Water Colours
- 25 現代日本の書・墨の芸術—ヨーロッパ巡回展の国内展示  
Contemporary Japanese Calligraphy: Art in Sumi
- 26 晩期の鉄斎  
Tessai in His Last Period
- 27 四人の作家(下村観山・荻原守衛・霽光・橋本平八)  
Exhibition of Four Artists: Kanzan Shimomura, Morie Ogiwara, Aimitsu, Heihachi Hashimoto
- 28 現代の眼—アジアの美術史から  
Today's Focus: Eastern Art Seen Through Eyes of the Present
- 29 明治以後の風俗画  
Genre-Painting in the Meiji, Taisho and Showa Eras
- 30 第28回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 28th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和31年度[1956]

- 31 安井曾太郎遺作展  
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 32 現代の版画—日本とエコール・ド・パリ  
Contemporary Prints: Japanese Artists and l'École de Paris
- 33 今日の写真—日本とフランス  
Contemporary Photography: Japan and France
- 34 日本の風景  
Japanese Scenery
- 35 日本の彫刻—上代と現代  
Exhibition of Japanese Sculpture: Contemporary versus Bronze Buddhist Statues, and Mask of the Asuka and the Nara Period
- 36 菊池契月遺作展  
Posthumous Exhibition of Keigetsu Kikuchi
- 37 日本の風刺絵画  
Japanese Satirical Painting (Cartoons)

- 38 近代日本の名作  
Masterpieces of Modern Japanese Painting
- 39 第4回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 4th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 40 20世紀のデザイン—ヨーロッパとアメリカ  
20th Century Design in Europe and America

昭和32年度[1957]

- 41 墨の芸術—中国と日本の絵画  
Suiboku Paintings of China and Japan
- 42 前衛美術の15人  
同時開催 アメリカ現代美術  
15 Vanguard Artists  
Special Showing of 8 Contemporary American Artists
- 43 第1回東京国際版画ビエンナーレ展(於 読売会館)  
特別展示 歌麿と北斎  
The 1st International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo  
Exhibition of Utamaro and Hokusai
- 44 四人の作家(平福百穂・小林徳三郎・武井直也・三岸好太郎)  
Exhibition of Four Artists: Hyakusui Hirafuku, Tokusaburo Kobayashi,  
Naoya Takei, Kotaro Migishi
- 45 最近のドイツ版画  
Deutsche Druckgraphik der letzten Jahre
- 46 17人の作家  
Living Seventeen Japanese Artists
- 47 第1回安井賞候補新人展  
The 1st Yasui Award Exhibition
- 48 近代日本絵画の歩み(於 京都市美術館)  
Development of Modern Japanese Painting

昭和33年度[1958]

- 49 近代日本における名作の展望—絵画と彫刻  
Masterpieces of Modern Japanese Painting and Sculpture
- 50 抽象絵画の展開  
Development of Japanese Abstract Painting
- 51 四人の作家(小川芋銭・梶田半古・佐分真・北脇昇)  
Exhibition of Four Artists: Usen Ogawa, Hanko Kajita,  
Makoto Saburi, Noboru Kitawaki
- 52 オーストラリア・ニュージーランド巡回 日本現代美術展国内展示  
Preview Exhibition of Contemporary Japanese Art Exhibition to be  
circulated in Australia and New Zealand
- 53 川合玉堂遺作展  
Posthumous Exhibition of Gyokudo Kawai
- 54 白隠の芸術—水墨画と書  
Hakuin's Art: Suiboku Painting and Calligraphy
- 55 第2回安井賞候補新人展  
The 2nd Yasui Award Exhibition

- 56 近代日本美術の常時陳列  
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 57 戦後の秀作  
Postwar Outstanding Works of Art
- 58 近代日本の静物画  
同時開催 ブラジル近代建築展—新首都建築  
Still-life in Modern Japanese Painting  
Modern Brazilian Architecture

昭和34年度[1959]

- 59 第5回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 5th São Paulo Biennial Exhibits from Japan
- 60 近代木彫の流れ  
Development of Modern Sculpture in Wood
- 61 現代日本の陶芸  
Contemporary Japanese Ceramic Art
- 62 横山大観遺作展  
Posthumous Exhibition of Taikan Yokoyama
- 63 ヨーロッパ巡回 棟方志功展国内展示  
Preview Exhibition of Shiko Munakata Exhibition to be circulated in Europe
- 64 第3回安井賞候補新人展  
The 3rd Yasui Award Exhibition
- 65 近代日本美術の常時陳列  
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 66 現代写真展 1959年  
同時開催 ハインツ・ハリエク＝ハルケの抽象光画  
Contemporary Photographs 1959  
Deutsche Lichtgrafik Werke von Heinz Hajek-Halke
- 67 近代日本の素描(アメリカ巡回展国内展示)  
同時開催 マリノ・マリーニのリトグラフ  
Japanese Drawings in XXth Century (Preview of the Travelling Exhibition in U. S. A.)  
Lithographs by Marino Marini
- 68 日本画の新世代  
Recent Development in Japanese Style Painting
- 69 第30回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Preview Exhibition of the 30th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和35年度[1960]

- 70 超現実絵画の展開  
同時開催 ブラジルのポエマ・コンクレート  
Development of Surrealistic Paintings  
Brazilian Poema Concrete
- 71 四人の作家(菱田春草・瑛九・上阪雅人・高村光太郎)  
Exhibition of Four Artists: Shunso Hishida, Ei-kyu, Gajin Kosaka, Kotaro Takamura
- 72 現代の眼—原始美術から  
Today's Focus: Primitive Art Seen Through Eyes of the Present

- 73 近代日本美術の常時陳列  
Permanent Exhibit: Modern Japanese Art
- 74 日本人の手—現代の伝統工芸  
同時開催 芸術としての写真  
Contemporary Japanese Handicrafts: Contemporary Traditional Crafts  
Photographs as Art
- 75 小林古徑遺作展  
Posthumous Exhibition of Kokei Kobayashi
- 76 第2回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 2nd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 77 第4回安井賞候補新人展  
The 4th Yasui Award Exhibition
- 78 現代写真展1960年  
同時開催 アニメーションの芸術  
Contemporary Photographs 1960  
Animation Art
- 79 現代スペイン絵画展  
Exposicion: Contrastes en la Pintura Española de Hoy
- 80 第6回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
同時陳列 現代日本の版画  
Preview Exhibition of the 6th São Paulo Biennial Exhibits from Japan  
Contemporary Japanese Prints

昭和36年度[1961]

- 81 文部省新収品を中心とする常時陳列  
Permanent Exhibit: Mainly New Acquisitions of the Ministry of Education
- 82 現代美術の実験  
Adventure in Today's Art of Japan
- 83 近代日本の名作展—日本画・洋画(於 仙台)  
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 84 近代日本油絵の流れ(於 日本橋三越)  
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 85 近代日本の名作展(於 札幌)  
Masterpieces of Modern Japanese Art
- 86 近代日本彫刻の流れ(於 日本橋三越)  
Development of Sculpture in Modern Japan
- 87 近代日本画の流れ(於 日本橋三越)  
Development of Japanese-Style Painting in Modern Japan
- 88 近代日本の洋画(於 大阪市立美術館)  
Development of Oil Painting in Modern Japan
- 89 第5回安井賞候補新人展(於 ブリヂストン美術館)  
The 5th Yasui Award Exhibition
- 90 現代日本の版画(於 銀座松坂屋)  
Contemporary Japanese Prints
- 91 現代絵画の展望(於 日本橋三越)  
Prominent Works of Contemporary Japanese Painting

昭和37年度[1962]

- 92 近代日本の造形—油絵と彫刻  
Oil Painting and Sculpture in Modern Japan
- 93 近代日本の造形—絵画と彫刻  
Painting and Sculpture in Modern Japan
- 94 近代の屏風絵  
Painting on Folding Screen in Modern Japan
- 95 第3回東京国際版画ビエンナーレ展  
特別展示 写楽  
The 3rd International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo Sharaku
- 96 四人の作家(坂田一男・野田英夫・近藤浩一路・藤川勇造)  
同時開催 フランス映画史展  
Exhibition of Four Artists: Kazuo Sakata, Hideo Noda, Koichiro Kondo, Yuzo Fujikawa  
History of French Films
- 97 第6回安井賞候補新人展  
The 6th Yasui Award Exhibition
- 98 現代写真展 1961—62年  
Contemporary Photographs 1961-62
- 99 近代日本の絵画と彫刻  
Painting and Sculpture of Modern Japan
- 100 須田国太郎遺作展  
Posthumous Exhibition of Kunitaro Suda
- 101 現代の油絵と版画  
Contemporary Oil Painting and Prints

昭和38年度[1963]

- 102 ビュッフェ展—その芸術の全貌  
同時陳列 現代の日本画  
Bernard Buffet: Exposition au Japon 1963  
Contemporary Japanese-Style Paintings
- 103 彫刻の新世代  
New Generation of Japanese Sculptures
- 104 現代の眼—暮らしの中の日本の美  
同時陳列 近代の日本画  
Today's Focus: Traditional Daily Implements of Japan Seen Through Eyes of the Present  
Modern Japanese-Style Paintings
- 105 近代日本の絵画と彫刻  
Painting and Sculpture of Modern Japan
- 106 近代日本美術における1914年  
同時陳列 近代日本の素描  
1914: The Beginning of an Era in Modern Japanese Art  
Modern Japanese Drawings
- 107 北大路魯山人の芸術  
同時陳列 日本の抽象絵画  
The Art of Rosanjin Kitaoji  
Japanese Abstract Paintings

- 108 第7回安井賞候補新人展  
同時開催 マヤ芸術の拓本展  
The 7th Yasui Award Exhibition  
Rubbed Prints of Mayan Art
- 109 滞欧作とその後  
同時陳列 織田一磨の版画  
Japanese Artists: A Contrast Seen before and after Sojourning in Europe or America  
Kazuma Oda's Prints
- 110 近代作家の回顧(富田溪仙・太田聰雨・佐藤玄々・石井柏亭・中西利雄)  
同時開催 第32回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Posthumous Exhibition of five Artists: Keisen Tomita, Chouu Ota, Gengen Sato, Hakutei Ishii, Toshio Nakanishi  
Preview Exhibition of the 32nd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和39年度[1964]

- 111 児島善三郎遺作展  
Posthumous Exhibition of Zenzaburo Kojima
- 112 ピカソ展—その芸術の70年  
Pablo Picasso Exhibition: Japan 1964
- 113 京都の日本画—円山応挙から現代まで  
Japanese Painting in Kyoto: from Okyo Maruyama to Present Generation
- 114 現代国際陶芸展  
同時陳列 本館所蔵の日本画  
International Exhibition of Contemporary Ceramic Art  
Japanese-style Paintings from the Museum Collection
- 115 近代日本の名作—オリンピック東京大会芸術展示  
Masterpieces of Modern Japanese Art: Art Exhibition during Tokyo Olympics
- 116 第4回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 4th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 117 第8回安井賞候補新人展  
同時陳列 新収集の日本画  
The 8th Yasui Award Exhibition  
New Pieces of Japanese-Style Paintings in the Museum Collection
- 118 戦中世代の画家  
Painters of the "Senchu" Generation
- 119 戦後の絵画—所蔵作品を中心として  
同時開催 第8回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
同時陳列 古賀春江の水彩  
Postwar Paintings: Mainly from the Museum Collection  
Preview Exhibition of the 8th São Paulo Biennial Exhibits from Japan  
Harue Koga's Water Colors

昭和40年度[1965]

- 120 近代における文人画とその影響—日本と中国  
Modern "Bunjin-ga" of China and Japan and its Influence
- 121 近代日本の裸体画  
同時陳列 新収集の油絵と彫刻  
Paintings of Nudes in Modern Japan  
New Pieces of the Museum Collection: Oil Painting and Sculpture

- 122 近代作家の回顧(小杉放庵・木村荘八・前川千帆・藤井浩祐)  
同時開催 ユーゴスラビア現代版画展  
Exhibition of Four Artists: Hoan Kosugi, Shohachi Kimura, Sempan Maekawa, Koyu Fujii  
Exhibition of Contemporary Prints in Yugoslavia
- 123 近代日本の油絵—所蔵品による  
Oil Paintings of Modern Japan from the Museum Collection
- 124 院展芸術の歩み—戦前  
The Retrospective Exhibition of the INTEN: The Prewar Period
- 125 在外日本作家展—ヨーロッパとアメリカ  
Exhibition of Japanese Artists Abroad: Europe and America
- 126 第1回日本芸術祭出品作品国内展示  
The 1st Preliminary Show of Japan Art Festival
- 127 第9回安井賞候補新人展  
同時陳列 2人のアメリカの写真作家  
The 9th Yasui Award Exhibition  
Two American Photographers
- 128 現代美術の新世代  
New Generation of Contemporary Art
- 129 近代の日本画—所蔵作品による  
同時開催 第33回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Modern Japanese-Style Paintings from the Museum Collection  
Preview Exhibition of the 33rd Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和41年度[1966]

- 130 現代の眼—東洋の幻想  
Today's Focus: Fantasy of the Orient Seen Through Eyes of the Present
- 131 近代作家の回顧—岸田劉生  
Posthumous Exhibition of Ryusei Kishida
- 132 ポーランドのポスター  
現代写真の10人  
Posters of Poland  
Ten Artists of Contemporary Japanese Photography
- 133 ミロ展  
Miro Exhibition
- 134 現代アメリカ絵画展  
Exhibition of Contemporary American Painting
- 135 第5回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 5th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 136 第10回安井賞候補新人展  
特別陳列 安井賞の作家たち—受賞作品とその後  
The 10th Yasui Award Exhibition  
Yasui Award Artists: Their Awards and Later Works
- 137 所蔵作品による近代日本の美術—大正から昭和前期の絵画  
同時開催 第9回サンパウロ・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Modern Japanese Art from the Museum Collection: Paintings from Taisho to Early Showa Eras  
Preview Exhibition of the 9th São Paulo Biennial Exhibits from Japan



昭和42年度[1967]

- 138 グラフィック・アート USA  
Graphic Art USA
- 139 近代日本の版画  
Modern Japanese Prints
- 140 第2回日本芸術祭出品作品国内展示  
The 2nd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 141 近代日本の水彩と素描  
Modern Japanese Water Colors and Drawings
- 142 現代イタリア美術展  
Exhibition of Contemporary Italian Art
- 143 ソ連絵画50年展  
50 Years of Painting U. S. S. R.
- 144 第11回安井賞候補新人展  
特別陳列 安井曾太郎の遺作  
The 11th Yasui Award Exhibition  
Posthumous Exhibition of Sotaro Yasui
- 145 近代日本の油絵—大正・昭和(戦前)を中心として／  
—昭和(戦後)を中心として  
同時開催 第34回ヴェニス・ビエンナーレ国際美術展出品作品国内展示  
Oil Paintings of Modern Japan: mainly from the Taisho and Showa (prewar) Periods: mainly from the Showa (postwar) Period  
Preview Exhibition of the 34th Venice Biennial Exhibits from Japan

昭和43年度[1968]

- 146 現代陶芸の新世代  
New Generation of Ceramic Art in Japan
- 147 第3回日本芸術祭出品作品国内展示  
The 3rd Preliminary Show of Japan Art Festival
- 148 ダダ展  
Dada
- 149 韓国現代絵画展  
Contemporary Korean Painting
- 150 東西美術交流展—明治100年記念  
Mutual Influences between Japanese and Western Art
- 151 第6回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 6th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo

昭和44年度[1969]

- 152 現代世界美術展—東と西の対話  
Contemporary Art: Dialogue between the East and the West
- 153 ヘンリー・ムーア展  
Henry Moore Exhibition in Japan, 1969
- 154 現代ドイツ建築展  
Moderne Deutsche Architektur
- 155 第4回ジャパ・アート・フェスティバル出品作品国内展示  
The 4th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 156 フランス現代タピスリー展  
Tapisserie Française d'aujourd'hui

157 ピカソ近作版画展  
Picasso's Recent Works in Prints

昭和45年度[1970]

- 158 富本憲吉遺作展  
Posthumous Exhibition of Kenkichi Tomimoto
- 159 ベン・シャーン展  
Ben Shahn
- 160 第5回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示  
The 5th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 161 1970年8月 現代美術の一断面  
August 1970: Aspects of New Japanese Art
- 162 現代イギリス美術展  
Contemporary British Art
- 163 現代インド絵画展  
Contemporary Indian Painting
- 164 第7回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 7th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 165 バウハウス50年展  
Bauhaus Exhibition

昭和46年度[1971]

- 166 近代日本美術における1930年  
Around 1930 in Modern Japanese Art
- 167 ルネ・マグリット展  
La Rétrospective René Magritte
- 168 第6回ジャパン・アート・フェスティバル出品作品国内展示  
The 6th Preliminary Show of Japan Art Festival
- 169 新収蔵作品の展示—日本画・版画・工芸・書  
New Acquisition: Japanese-Style Painting, Prints, Crafts, and Calligraphy
- 170 近代作家の回顧—山口薫  
Posthumous Exhibition of Kaoru Yamaguchi
- 171 現代ドイツ美術展  
ZEITGENÖSISCHE DEUTSCHE KUNST
- 172 現代の陶芸—アメリカ・カナダ・メキシコと日本  
Contemporary Ceramic Art: Canada, U. S. A., Mexico and Japan
- 173 戦後日本美術の展開—具象表現の変貌  
Development of Postwar Japanese Art: Figurative Art
- 174 新収蔵作品の展示—油絵と彫刻  
New Acquisition: Oil Painting and Sculpture

昭和47年度[1972]

- 175 現代スウェーデン美術展  
Swedish Art 1972: A Contemporary Theme
- 176 近代イタリア美術の巨匠たち  
Masters of Modern Italian Art from the Collection of Gianni Mattioli

- 177 昭和46年度新収蔵作品の展示  
同時陳列 本館所蔵の素描  
New Acquisition 1971  
Drawings in the Museum Collection
- 178 開館20年記念 現代の眼—近代日本の美術から  
The 20th Anniversary Exhibition: Today's Focus: on Modern Japanese Art
- 179 第8回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 8th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 180 ヨーロッパの日本作家  
Japanese Artists in Europe
- 181 平櫛田中展  
The Retrospective Exhibition of Denchu Hirakushi

昭和48年度[1973]

- 182 現代ユーゴスラヴィア美術展  
Contemporary Yugoslav Art
- 183 戦後日本美術の展開—抽象表現の多様化  
Development of Postwar Japanese Art: Abstract and Non-Figurative
- 184 新収蔵作品の展示  
同時陳列 東京国立博物館より移管の日本画  
New Acquisition 1972  
Japanese-Style Paintings Transferred from the Tokyo National Museum
- 185 近代日本美術史におけるパリと日本  
Modern Japanese Art and Paris
- 186 ジャコモ・マンズー展  
Exhibition of Giacomo Manzù
- 187 アメリカの日本作家  
Japanese Artists in the Americas
- 188 近代作家の回顧—新海竹蔵・福田豊四郎  
Modern Japanese Artists in Retrospect: Takezo Shinkai, Toyoshiro Fukuda

昭和49年度[1974]

- 189 アンドリュー・ワイエス展  
Works of Andrew Wyeth
- 190 徳岡神泉遺作展  
Posthumous Exhibition of Shinsen Tokuoka
- 191 15人の写真家  
Fifteen Photographers Today
- 192 現代メキシコ美術展  
Contemporary Mexican Art
- 193 第9回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 9th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 194 近代日本の美術  
Modern Japanese Art
- 195 福田平八郎遺作展  
Posthumous Exhibition of Heihachiro Fukuda

昭和50年度[1975]

- 196 ポール・デルボー展  
Paul Delvaux
- 197 前田青邨展  
The Retrospective Exhibition of Seison Maeda
- 198 香月泰男遺作展  
Posthumous Exhibition of Yasuo Kazuki
- 199 新収蔵作品の展示  
同時陳列 ソ連寄贈・福田平八郎作品展  
New Acquisition 1973 and 1974  
Exhibition of Works by Heihachiro Fukuda: Donation from the U. S. S. R.
- 200 シュルレアリスム展  
Surrealism
- 201 フランス工芸の美—15世紀から18世紀のタピスリー  
同時陳列 ジョセフ・アルバースの形成・連接  
Merveilles de la Tapisserie Française  
Josef Albers: Formulation, Articulation
- 202 ドイツ・リアリズム 1919—1933  
Realistische Tendenzen Deutscher Kunst 1919-1933 Eine Ausstellung aus Museen der DDR

昭和51年度[1976]

- 203 ルフィーノ・タマヨ展  
Exhibition Rufino Tamayo
- 204 安田靫彦展  
The Retrospective Exhibition of Yukihiro Yasuda
- 205 恩地孝四郎と「月映」  
Koshiro Onchi and "Tsukuhae"
- 206 シャガール展  
Exposition Mark Chagall
- 207 キュービズム展  
Cubism
- 208 第10回東京国際版画ビエンナーレ展  
The 10th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
- 209 今日の造形〈織〉—ヨーロッパと日本  
Fiber Works: Europe and Japan
- 210 新収蔵作品の展示  
New Acquisition 1975

昭和52年度[1977]

- 211 浜田庄司展  
The Retrospective Exhibition of Shoji Hamada
- 212 素朴な画家たち  
Peintres Naifs
- 213 新収蔵作品の展示  
New Acquisition 1975
- 214 フォンタネージ、ラグーザと明治前期の美術  
Fontanesi, Ragusa e l'arte Giapponese nel primo periodo Meiji

	215	Ⅱ1 工芸館開館記念展 現代日本工芸の秀作 Masterpieces of Contemporary Japanese Crafts: Commemorative Exhibition for Opening of the Crafts Gallery
	216	今日の造形〈織〉—アメリカと日本 Fiber Works: Americas and Japan
	217	フリードリッヒとその周辺 Casper David Friedrich und Sein Kreis
昭和53年度[1978]	218	マリノ・マリーニ展 Exhibition Marino Marini
	219	斎藤義重展 SAITO Yoshishige Exhibition 1978
	220	Ⅱ2 松田権六展 Gonroku Matsuda Exhibition
	221	佐伯祐三展 50th Year Posthumous Exhibition Yuzo Saeki
	222	世界現代工芸展 スカンディナヴィアの工芸 World Contemporary Crafts Exhibition: Scandinavian Craft
	223	ヨーロッパのポスター—その源流から現代まで L’Affiche en Occident de ses origines a nos jours
	224	Ⅱ3 近代日本の色絵磁器 Enamelled Porcelain of Modern Japan
	225	新収蔵美術作品の展示—昭和52年度 New Acquisition 1977
昭和54年度[1979]	226	没後50年記念 岸田劉生展 50th Year Posthumous Exhibition Ryusei Kishida
	227	第11回東京国際版画ビエンナーレ展 The 11th International Biennial Exhibition of Prints in Tokyo
	228	Ⅱ4 昭和52, 53年度収蔵工芸作品の展示 New Acquisition 1977 and 1978 (Craft)
	229	Ⅱ5 近代日本の漆芸 Lacquer Art of Modern Japan
	230	ドローネー展 ロベールとソニア Robert / Sonia Delaunay
	231	ブリジット・ライリー展—視覚の眩惑 Bridget Riley: Works 1959-78
昭和55年度[1980]	232	新収蔵美術作品の展示—昭和53, 54年度 New Acquisition 1978 and 1979
	233	山口長男・堀内正和展—日本の抽象美術のパイオニア Exhibition YAMAGUCHI Takeo & HORIUCHI Masakazu
	234	Ⅱ6 伝統と現代 日本の型染 KATAZOME Japanese stencil and print dyeing: Tradition and Today

昭和56年度[1981]

- 235 ポンピドゥ・センター／20世紀の美術  
Le Musée National d'Art Moderne Centre Georges Pompidou/ L'Art du 20e Siècle
- 236 **E7** 現代ガラスの美—ヨーロッパと日本  
Contemporary Glass: Europe and Japan
- 237 マチス展  
Matisse Exhibition
- 238 **E8** 石黒宗麿展—陶芸の心とわざ  
Munemaro Ishiguro Exhibition
- 239 **E9** 八木一夫展—火と土のメッセージ  
The Ceramic Artist Kazuo Yagi
- 240 20世紀カナダ絵画展  
20th Century Canadian Painting
- 241 東山魁夷展  
Kaii Higashiyama Exhibition
- 242 ムンク展—生の不安 愛と死  
Munch Exhibition
- 243 **E10** 現代ガラスの美—オーストラリア、カナダ、アメリカと日本  
Contemporary Glass: Australia, Canada, U. S. A. & Japan
- 244 1960年代—現代美術の転換期  
The 1960's: Decade of Change in Contemporary Japanese Art
- 245 **E11** 現代の食器—注ぐ  
Contemporary Vessels: How to pour
- 246 坂本繁二郎展  
Hanjiro Sakamoto Exhibition

昭和57年度[1982]

- 247 開館30周年記念展I 近代日本の美術—1945年以後  
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 1 [1945-]
- 248 **E12** 開館30周年記念展 近代日本の工芸  
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Crafts
- 249 アメリカに学んだ日本の画家たち展  
—国吉・清水・石垣・野田とアメリカン・シーン絵画  
Japanese Artists Who Studied in U. S. A. and The American Scene
- 250 開館30周年記念展II 近代日本の美術—1945年以前  
The 30th Anniversary Exhibition from the Museum Collection: Modern Japanese Art, Part 2 [1900-1945]
- 251 **E13** 近代日本のガラス工芸—明治初期から現代まで  
Modern Japanese Glass: Early Meiji to Present
- 252 ベルギー象徴派展  
Symbolism in Belgium
- 253 **E14** イギリスのニードルワーク  
British Needlework
- 254 **E15** 黒田辰秋展—木工芸の匠  
KURODA Tatsuki: Master Wood Craftsman

昭和58年度[1983]

- 255 ピカソ展  
Picasso
- 256 フランシス・ベーコン  
Francis Bacon: Paintings 1945-1982
- 257 **工16** 伝統工芸30年の歩み  
30 Years of Modern Japanese Traditional Crafts
- 258 現代美術における写真—1970年代の美術を中心として  
Photography in Contemporary Art
- 259 **工17** モダニズムの工芸家たち—金工を中心にして  
Modernism and Craftsmen The 1920's to the 1930's
- 260 20世紀アメリカのポスター ニューヨーク近代美術館所蔵による  
The modern American Poster
- 261 村上華岳展  
Kagaku Murakami Exhibition

昭和59年度[1984]

- 262 ティッセン・コレクション名作展—近代絵画の展開  
Modern Masters From The Thyssen-Bornemisza Collection
- 263 三次元性—ドイツ彫刻の現在  
Dreidimensional: Aktuelle Kunst aus der Bundesrepublik Deutschland
- 264 **工18** 河井寛次郎—近代陶芸の巨星  
Kanjirō Kawai
- 265 構成主義と幾何学的抽象  
Constructivism and the Geometric Tradition
- 266 **工19** 今日のジュエリー 世界の動向  
Contemporary Jewelry: The Americas, Australia, Europe and Japan
- 267 現代美術への視点—メタファーとシンボル  
Metaphor and/or Symbol: A Perspective on Contemporary Art
- 268 新収蔵作品展—昭和58, 59年度  
New Acquisition 1983 and 1984
- 269 **工20** 竹の工芸—近代における展開  
Modern Bamboo Craft
- 270 棟方志功展  
Shiko Munakata

昭和60年度[1985]

- 271 **工21** 現代染織の美—森口華弘・宗廣力三・志村ふくみ  
Kimono as Art: Modern Textile Works by Kako Moriguchi, Rikizo Munehiro, and Fukumi Shimura
- 272 モディリアーニ展  
Modigliani
- 273 写実の系譜 I—洋風表現の導入 江戸中期から明治初期まで  
Development of Western Realism in Japan
- 274 現代デザインの展望—ポストモダンの地平から  
Contemporary Landscape, From the Horizon of Postmodern Design
- 275 プロイセン文化財団ベルリン国立美術館所蔵 19世紀ドイツ絵画名作展  
Meisterwerke deutscher Malerei des 19. Jahrhunderts aus der Nationalgalerie Berlin: Staatliche Museen Stiftung Preussischer Kulturbesitz

	276	Ⅰ22 人形工芸 昭和期を中心にして Modern Japanese Dolls
昭和61年度[1986]	277	松本竣介展 Shunsuke Matsumoto Exhibition 1986
	278	所蔵作品による全館陳列—近代日本の美術 Modern Japanese Art from the Museum Collection
	279	近代の見なおし ポストモダンの建築1960—1986 Revision der Moderne: Postmoderne Architektur 1960-1986
	280	写実の系譜Ⅱ—大正期の細密描写 An Eye for Minute Details: Realistic Painting in the Taisho Period
	281	京都の日本画1910—1903 Nihon-ga the Kyoto School 1910-1930
	282	Ⅰ23 1960年代の工芸—昂揚する新しい造形 Forms in Aggression: Formative Uprising of the 1960s
	283	昭和60, 61年度 新収蔵作品展 New Acquisitions 1985 and 1986
	284	ゴーギャン展—楽園を求めて Paul Gauguin: In Search of Paradise
昭和62年度[1987]	285	カンディンスキー展 Kandinsky
	286	Ⅰ24 木工芸—明治から現代まで Modern Woodcraft
	287	杉山 寧展 Yasushi Sugiyama
	288	Ⅰ25 現代陶芸の美 加守田章二展 KAMODA Shoji: A Prominent Figure in Contemporary Ceramics
	289	若林奮展—今日の作家 Isamu Wakabayashi
	290	難波田龍起展—今日の作家 Tatsuoki Nambata
	291	ブリュッセル王立歴史博物館所蔵—ヨーロッパのレース Dentelles Européennes
	292	梅原龍三郎遺作展 Ryuzaburo Umehara Retrospective
昭和63年度[1988]	293	ルネ・マグリット展 René Magritte
	294	所蔵作品による全館陳列—近代美術における人間像 The Image of Man in Modern Japanese Art from the Museum Collection
	295	Ⅰ26 図案の変貌 Design in Transition
	296	写実の系譜Ⅲ—明治中期の洋画 Realistic Representation III: Painting in Japan 1884-1907



	297	<b>Ⅰ27</b> 現代イギリスの工芸 Contemporary British Crafts
	298	オディロン・ルドン展 Odilon Redon
平成元年度[1989]	299	高山辰雄展 Tatsuo Takayama
	300	所蔵作品による全館陳列—昭和の美術 Art of the Showa Period: From the Museum Collection
	301	<b>Ⅰ28</b> 生命のかたち—熊倉順吉の陶芸 Organs that Provoke: Ceramic Works of Junkichi Kumakura
	302	現代美術への視点—色彩とモノクローム A Perspective on Contemporary Art: Color and/or Monochrome
	303	<b>Ⅰ29</b> 能弁なオブジェ—現代アメリカ工芸の展開 The Eloquent Object: The Evolution of American Art in Craft Media since 1945
平成2年度[1990]	304	<b>Ⅰ30</b> ヴァン・ド・ヴェルド展 Van de Velde Exhibition
	305	文展の名作[1907—1918] Masterpieces from the Bunten Exhibition 1907-1918
	306	手塚治虫展 Osamu Tezuka Exhibition
	307	写真の過去と現在 The Past and the Present of Photography
	308	<b>Ⅰ31</b> グラフィックデザインの今日 Graphic Design Today
	309	移行するイメージ 1980年代の映像表現 Images in Transition: Photographic Representation in the Eighties
平成3年度[1990]	310	<b>Ⅰ32</b> 富本憲吉展 TOMIMOTO Kenkichi
	311	荒川修作の実験展—見る者がつくられる場 Constructing the Perceiver — ARAKAWA: Experimental Works
	312	<b>Ⅰ33</b> 大英博物館所蔵品による アフリカの染織 African Textiles
	313	古賀春江—創作のプロセス 東京国立近代美術館所蔵作品を中心に Harue Koga — The Creative Process: A Show Built Around the Museum Collection
	314	イサム・ノグチ展 Isamu Noguchi Retrospective 1992
平成4年度[1992]	315	ルネ・ラリック展 René Lalique
	316	現代美術への視点—形象のはざまに A Perspective on Contemporary Art: Among the Figures

- 317 アボリジニの美術 伝承と創造／オーストラリア大地の夢  
Crossroads Toward A New Reality: Aboriginal Art from Australia
- 318 セバスチャン・サルガドー人間の大地  
Sebastião Salgado: In Human Effort
- 319 **工34** 塗りの系譜  
Nuances in Lacquer: 70 Years of Innovations
- 320 フォーヴィズムと日本近代洋画  
Fauvism and Modern Japanese Painting

平成5年度[1993]

- 321 小川芋銭展  
OGAWA Usen Retrospective
- 322 柳原義達展  
Yoshitatsu Yanaguihara: A Retrospective
- 323 **工35** 現代の陶芸(I)山陰の陶窯―出西窯  
Contemporary Japanese Ceramic Shussai Kiln: Folk Craft in San'in Area
- 324 国画創作協会回顧展  
Kokuga-Sosaku-Kyokai Retrospective
- 325 黒田アキ 廻廊＝メタモルフォフォーゼ  
Aki Kuroda: Corridor=Metamorphosis
- 326 **工36** 現代の型染―くりかえすパターン  
Contemporary Stencil Dyeing and Printing: The Repetition of Patterns
- 327 山本丘人展  
YAMAMOTO Kyujin Retrospective

平成6年度[1994]

- 328 木村忠太展  
Chuta Kimura
- 329 **工37** イスラエルの工芸―アリックス・ド・ロスチャイルド財団のコレクションを中心にして―  
Israeli Contemporary Crafts ―Featuring the Collection of the Alix de Rothschild Foundation―
- 330 写実の系譜IV―「絵画」の成熟 1930年代の日本画と洋画  
Realistic Representation IV: Master Paintings in Japan in the 1930s
- 331 **工38** 素材の領分―素材を見直しはじめた美術・工芸・デザイン  
The Domain of the Medium: New Approaches to the Medium in Art, Craft, Design
- 332 日本の美―伝統と近代  
The Traditional Beauty in Japanese Art
- 333 **工39** 現代の彫漆  
Choshitsu [Carved Lacquer] Today
- 334 若林奮展―素描という出来事  
Isamu Wakabayashi: Works on Paper
- 335 メトロポリタン美術館所蔵 抽象表現主義―紙の上の冒険  
同時開催 国内所蔵 アメリカ抽象表現主義の名作展  
Abstract Expressionism: Works on Paper, Selections from The Metropolitan Museum of Art  
Abstract Expressionism: Masterpieces from Japanese Collections

	336	Ⅰ40 〈珠玉の陶芸〉板谷波山展 ITAYA Hazan Retrospective
平成7年度[1995]	337	東京国立近代美術館と写真 1953—1995 Photography and The National Museum of Modern Art, Tokyo 1953-1995
	338	Ⅰ41 コンテンポラリー・ジュエリー —日本の作家30人による— Contemporary Jewelry: Exploration by thirty Japanese artists
	339	Ⅰ42 アール・デコのポスター Art Déco Posters
	340	辰野登恵子 1986—1995 Toeko Tatsuno 1986-1995
	341	Ⅰ43 生活の中の工芸—1950—1960年代のモダン・クラフト Crafts in Everyday Life in the 1950s and the 1960s
	342	Ⅰ44 現代美術への視点 絵画、唯一なるもの A Perspective on Contemporary Art: Painting — Singular Object
	343	ドナウの夢と追憶：ハンガリーの建築と応用美術 1896—1916 Panorama: Architecture and Applied Arts in Hungary 1896-1916
	344	現代世界のポスター 東京国立近代美術館所蔵品より Contemporary Posters from Museum's Collection
	345	石元泰博展 現在の記憶 Yasuhiro Ishimoto: Remembrance of Things Present
	346	身体と表現 1920—1980 ポンビドゥーセンター所蔵作品から La Dimension du Corps 1920-1980
平成8年度[1996]	347	岸田劉生 所蔵作品と資料の展示 同時開催 平成5—7年度新収蔵作品展 KISHIDA Ryusei: Works and Archives from the Museum Collection New Acquisition 1993-1995
	348	東京国立近代美術館・国立西洋美術館 所蔵作品による 交差するまなざし—ヨーロッパと近代日本の美術 The Crossing Visions: European and Modern Japanese Art from the Collections of The National Museum of Western Art & The National Museum of Modern Art, Tokyo
	349	Ⅰ45 亀倉雄策のポスター 時代から時代へ 1953年—1996年の軌跡 Yusaku Kamekura Poster Exhibition
	350	Ⅰ46 磁器の表現 1990年代の展開 New Expression in Porcelain: Developments in the 1990s
	351	90年代の韓国美術から—等身大の物語 An Aspect of Korean Art in the 1990s
	352	東松照明写真展 インターフェイス Shomei Tomatsu: Interface
	353	プロジェクト・フォー・サバイバル 1970年以降の現代美術再訪 Project for Survival
	354	理知と幻想のシュルレアリスト 北脇昇展 Noboru Kitawaki: A Retrospective
	355	Ⅰ47 藤井達吉展—近代工芸の先駆者 Tatsukichi Fujii: A Pioneer in Modern Crafts

- 356 モダニズムの光跡 恩地孝四郎・椎原治・瑛九  
Traces of Light in Modernism: Koshiro Onchi, Osamu Shiihara and Ei-kyu
- 357 絵画の大地を揺り動かした画家 萬鐵五郎展  
YOROZU Tetsugoro Retrospective

平成9年度[1997]

- 358 モダン・デザインの父 ウィリアム・モリス展  
William Morris
- 359 **Ⅰ48** 福田繁雄のポスター—視覚の遊気  
Posters of FUKUDA Sigeo: An Artist of Visual Wit
- 360 アルフレッド・スティーグリッツと野島康三  
Alfred Stieglitz and Yasuzo Nojima
- 361 土田麦僊展  
TSUCHIDA Bakusen: A Retrospective
- 362 **Ⅰ49** 増村増城展—漆の美・塗の造形  
MASUMURA Mashiki: Intrinsic and Formal Beauty of Lacquer
- 363 村岡三郎展  
Saburo Muraoka
- 364 **Ⅰ50** トーネ・ヴィーゲラン展—ノルウェーの現代アート・ジュエリー—  
Tone Vigeland: Norwegian Art Jewelry
- 365 文人画の近代—鉄斎とその師友たち—  
Destination of the Literary School Painting in Modern Ages: Tessai and Teachers and Friends
- 366 写真の現在—距離の不在  
Photography Today: The Absence of Distance
- 367 加山又造展  
Matazo Kayama Exhibition

平成10年度[1998]

- 368 **Ⅰ51** 竹内碧外展 木工芸・わざと風雅  
Elegance of Woodwork: Art of TAKEUCHI Hekigai
- 369 20世紀の“線描”—〈生成〉と〈差異〉  
Making It Visible — Graphic Elements in 20th Century Art
- 370 **Ⅰ52** 永井一正ポスター展—Life  
Posters of Kazumasa Nagai [life]
- 371 土谷武展 しなやかな造形, 生成するかたち  
Takeshi Tsuchitani: A Retrospective
- 372 **Ⅰ53** 「かたち」の領分—機能美とその転生  
The Domain of the Form — Functional Beauty and its Transmigration
- 373 京都の工芸[1910-1940] 伝統と変革のはざまに  
Crafts Reforming In Kyoto [1910-1940] A Struggle Between Tradition AND Renovation
- 374 大辻清司写真実験室  
Kiyoji Ohtsui Retrospective: Experimental Workshop of Photography
- 375 **Ⅰ54** 鈴木治の陶芸—詩情のオブジェ  
Ceramic Art of SUZUKI Osamu: Poetry in Ceramic Works
- 376 鐙木清方展—回想の江戸・明治 郷愁のロマン  
KABURAKI Kiyokata: A Retrospective

平成11年度[1999]

- 377 **E55** 本野東一の染色  
MOTONO TOICHI: A Retrospective
- 378 横山操展  
Misao Yokoyama: A Retrospective
- 379 **E56** 田中一光ポスター展—伝統への接点  
Beyond Tradition: An Exhibition of IKKO TANAKA's Posters
- 380 **E57** 加藤土師萌の陶芸：近代陶芸の精華  
Hajime Kato: The Quintessence of Modern Japanese Ceramic Art
- 381 石内都 モノクローム—時の器  
Miyako Ishiuchi: Time Textured in Monochrome
- 382 顔—絵画を突き動かすもの(於 国立西洋美術館)  
VISAGE: Painting and the Human Face in 20th Century Art

平成12年度[2000]

- 383 **E58** 杉浦非水展 都市生活のデザイナー  
SUGIURA HISUI: A Retrospective
- 384 **E59** うつわをみる—暮らしに息づく工芸—  
Thoughts on Contemporary Vessels
- 385 トーマス・シュトゥルツ：マイ・ポートレート  
Thomas Struth: My Portrait
- 386 **E60** ドイツ陶芸の100年—アール・ヌーヴォーから現代作家まで—  
German Ceramics in 20th Century
- 387 美術館を読み解く—表慶館と現代の美術(於 東京国立博物館 表慶館)  
Reading the Art Museum: Hyokeikan and Art of Today

平成13年度[2001]

- 388 **E61** 1930年代日本の印刷デザイン—大衆社会における伝達  
Japanese Posters and tsHandbills in the 1930s: Communication in Mass Society
- 389 **E62** 現代の布—染と織の造形思考—  
Contemporary Textile —Weaving and Dyeing: Ways of Formative Thinking
- 390 **E63** 京都の工芸[1945-2000]  
Crafts in Kyoto: 1945-2000
- 391 未完の世紀:20世紀美術がのこすもの  
The Unfinished Century: Legacies of 20th Century Art
- 392 カンディンスキー展  
Kandinsky

平成14年度[2002]

- 393 写真の現在 2 サイト—場所と光景  
Photography Today 2— [sáit] site/sight
- 394 **E64** 森正洋—陶磁器デザインの革新—  
Masahiro Mori: A Reformer of Ceramic Design
- 395 小倉遊亀展  
Yuki Ogura: A Retrospective
- 396 **E65** 昭和の桃山復興展  
Modern Revival of Momoyama Ceramics: Turning Point Toward Modernization of Ceramics

- 397 現代美術への視点 連続と侵犯  
A Perspective on Contemporary Art: Continuity/Transgression
- 398 ヴォルフガング・ライブ展  
Wolfgang Laib
- 399 **Ⅰ66** クッションから都市計画まで—ヘルマン・ムテジウスと  
ドイツ工作連盟：ドイツ近代デザインの諸相 1900-1927  
From Cushion to Urban-Planning Hermann Muthesius and the German  
Werkbund: Modern Design in Germany 1900-1927
- 400 青木繁と近代日本のロマンティズム  
Shigeru AOKI and Romanticism in Modern Japanese Art
- 401 **Ⅰ67** 今日の人形芸術 想念の造形  
Contemporary Dolls: Formative Art of the Human Sentiment

平成 15 年度 [2003]

- 402 牛腸茂雄展  
Shigeo Gocho: A Retrospective
- 403 **Ⅰ68** オーストラリア現代工芸3人展：未知の形を求めて  
Light Black: Three Contemporary Australian Craftspersons
- 404 地平線の夢—昭和10年代の幻想絵画  
Dreams of the Horizon: Fantastic Paintings in Japan, 1935-1945
- 405 **Ⅰ69** 三代藍堂 宮田宏平—金属造形の先駆け  
Rando Miyata III: A Retrospective
- 406 野見山暁治展  
Gyoji Nomiyama: A Retrospective
- 407 **Ⅰ70** 現代の木工家具  
Contemporary Furniture and Woodworks in Japan
- 408 旅—「ここではないどこか」を生きるための10のレッスン  
Traveling: Towards the Border
- 409 **Ⅰ71** あかり：イサム・ノグチが作った光の彫刻  
Akari: Light Sculptures by Isamu Noguchi
- 410 ヨハネス・イッテン—造形芸術への道  
Johannes Itten: Wege zur Kunst
- 411 国吉康雄展  
Yasuo Kuniyoshi: A Retrospective

平成 16 年度 [2004]

- 412 ブラジル：ボディ・ノスタルジア  
Brazil: Body Nostalgia
- 413 琳派 RIMPA  
RIMPA
- 414 **Ⅰ72** 非情のオブジェ 現代工芸の11人  
Cool & Light: New Spirit in Craft Making
- 415 木村伊兵衛展  
Ihei Kimura—The Man with the Camera
- 416 草間彌生—永遠の現在  
YAYOI KUSAMA Eternity-Modernity

- 417 **E73** 人間国宝の日常のうつわ—もう一つの富本憲吉  
Daily Vessels by Kenkichi Tomimoto, the Master of Ceramic Art
- 418 痕跡—戦後美術における身体と思考  
TRACES—Body and Idea in Contemporary Art
- 419 **E74** 河野鷹思のグラフィック・デザイン—都会とユーモア  
Graphic Designs of Takashi KONO: Humor and City
- 420 ゴッホ展 孤高の画家の原風景  
Van Gogh in Context

1-3 平成17年度企画展覧会一覧表 Table of Exhibitions, 2005

回数	展覧会名			
	会期	延日数	入場者数	一日平均
420	ゴッホ展 孤高の画家の原風景			
	H17.3.23-5.22	60日	518,307人	8,638人
	(うち平成17年度中	51日	474,263人	9,299人)
421	伊砂利彦展—型染の美			
(工75)	H17.4.26-6.26	55日	23,248人	423人
422	近代日本画の名匠 小林古径展			
	H17.6.7-7.18	37日	66,885人	1,808人
423	アジアのキュビズム 境界なき対話			
	H17.8.9-10.2	48日	11,356人	237人
424	日本のアール・ヌーヴォー1900-1923：工芸とデザインの新時代			
(工76)	H17.9.17-11.27	62日	17,887人	289人
425	ドイツ写真の現在 かわりゆく『現実』と向かいあうために			
	H17.10.25-12.18	48日	25,887人	539人
426	アウグスト・ザンダー展			
	H17.10.25-12.18	48日	26,200人	546人
427	須田国太郎展			
	H18.1.13-3.5	45日	22,673人	504人
428	渡辺力ーリビンゲ・デザインの革新			
(工77)	H18.1.13-3.5	45日	18,757人	417人
429	藤田嗣治展 パリを魅了した異邦人			
	H18.3.28-5.21	50日	311,689人	6,234人
	(うち平成17年度中	4日	16,024人	4,006人)



## 会 期

平成17年4月26日～ 6月26日(55日間)

## 会 場

工芸館

## 入場者

23,248人(一日平均423人)

## 雑誌・新聞関連記事

Let's Enjoy TOKYO(web) 2005年3月29日

現代の眼(東京国立近代美術館) No.551(2005年4-5月)「私の制作型染 松一水一音楽一沖縄一無機的表現」(伊砂利彦)、「イメージの根源を探る一追体験の愉しみ」(藤本恵子)

京都新聞 2005年4月16日 「創作トーク 伊砂利彦さん 東京国立近代美術館工芸館で回顧展」(太田垣實)

新美術新聞 2005年4月21日号 「伊砂利彦一型染の美展 文様と染の美、探究の軌跡」(今井陽子)

eArt(web) 2005年4月22日 「展覧会情報一伊砂利彦」

東京新聞 2005年5月21日 「伊砂利彦一型染の美 この世界の鼓動掬い上げ意匠化」(藤田一人)

インターネットミュージアム 2005年5月「伊砂利彦一型染の美」

染織α No.290(2005年5月号)「伊砂利彦一型染の美展 東京国立近代美術館工芸館で開催」

美術の窓 2005年5月号 「中特集 伊砂利彦」

月刊チャイム 2005年5月号、6月号 「企画展 伊砂利彦一型染の美」

毎日新聞 2005年6月8日 「今週の1点 月の道=伊砂利彦一型染の美から」(督)

そめとおり 2005年6月号 「伊砂利彦一型染の美」

## 421(工75) 伊砂利彦一型染の美

我が国において染色は多種多彩な技法と様式が発展したが、近代以降、独立した造形表現として展開したことは、他国にもほとんど例を見ることができない。なかでも生産性向上の方策として考案された型染は、昭和初期より、技法上の制約から生ずるフォルムの鋭さとパターンの繰り返しによるリズムカルな構成が見直されて、多くの作家が創意の表現手段としてこの技法に臨んでいる。本展では、この染色という伝統ある分野において、技法的特性を十全に活かしながら、つねに新鮮な感覚と思想で長年制作に臨んでいる伊砂利彦の業績を検証した。それにより近代以降の工芸運動の展開を確認するとともに、現代における染色造形の可能性を問うことを目的とした。

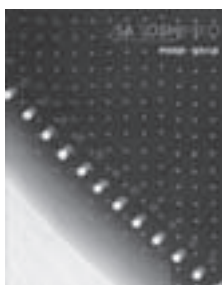
本来生産性の向上のために考案された型染は、型紙に刀で文様を彫りだし、糊を用いて防染となす技法的特性と、事物の本質を希求する近代的思想とが重なって、今日、その造形的可能性に注目が集まっている。伊砂利彦は型染の造形言語に着目して創作を展開した代表的作家のひとりであり、そのモチーフは自然の事物から音楽まで幅広い。本展では、伊砂の造形思考の展開を〈松〉〈水〉〈音楽〉と時代毎のモチーフを追い、近代以降の工芸運動の流れにおけるこの作家の位置と染色造形の可能性を検証した。

## ISA TOSHIHIKO: Beauty of Stencil Dyeing

The art of dyeing in Japan boasts diverse techniques and styles. It has developed in the modern era into a medium of artistic expression in its own right — a development seen in virtually no other country in the world. In particular, stencil dyeing, first devised as a way of improving productivity, has been taken up by numerous artists since the early Showa Period as a means of creative expression owing to an appreciation of the sharpness of form that result from constraints imposed by the technique and the sense of rhythm inherent in the repetition of patterns.

The exhibition looked at the achievements of Isa Toshihiko, who has been actively involved for many years in stencil dyeing and has constantly shown a freshness of sensitivity and originality of thought while making full use of the technical characteristics of this traditional Japanese craft. An objective of the exhibition was to review the modern arts and crafts movement and to explore the possibilities of dyeing as a medium of artistic expression in the present day.

Stencil dyeing, which originally developed as a way of improving productivity, is attracting attention today for its artistic possibilities, not the least because the technique, which consists of cutting designs into stencil and using a paste resist, concords with the modern idea of seeking the essence of things. Isa is one of the leading artists who have created works focused on the artistic language of stencil dyeing. His motifs range widely from nature to music. The exhibition followed the progression of Isa's motifs over the years from "pines" to "water" to "music", to investigate the positioning of this artist within the overall arts and crafts movement in the modern era and at the same time explore the artistic possibilities of stencil dyeing.



会 期
平成17年6月7日～7月18日(37日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、日本経済新聞社
協 賛
鹿島建設、コスモ石油、大日本印刷
協 力
山種美術館
入場者
66,885人(一日平均4,808人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) No.552 (2005年6-7月) 『『小林古径展』によせて—小林古径記念美術館からの発信』(笹川修一)、「晩年の小林古径—表装師川崎忠彦氏に聞く」(文責・古田亮)
美術の窓 2005年6月号 「再発見!! 小林古径の美学」、「古径が今に伝えるもの」(尾崎正明)、「はるかに古径をおもう」(一井建二)
日本経済新聞 2005年6月15日 「私の一点 小林古径展から」(梅原猛)、6月16日 「私の一点 小林古径展から」(水原紫苑)、6月17日 「私の一点 小林古径展から」(森下俊三)、6月18日 「私の一点 小林古径展から」(福井爽人)
Herald Tribune The Asahi Shinbun 2005年6月17日 "Simplicity key to nihonga artist's works"(Jeff Michael Hammond)
新美術新聞 2005年6月11日 「小林古径展」(中村麗子)
朝日新聞 2005年6月24日 「極楽井」(山盛英司)
産経新聞 2005年6月25日 「小林古径展」(岡本耕治)
中日新聞 2005年7月6日 「近代日本画の名匠 小林古径展」(浅野徹)
日経おとなのOFF 2005年8月 「近代日本画の名匠 小林古径展」(梅原猛)
文化庁月報 2005年5月 「小林古径展」(尾崎正明)
月刊おとなりさん 2005年7月 「特集 小林古径」

## 422 近代日本画の名匠 小林古径展

小林古径は1883(明治16)年に新潟県に生まれ、1914(大正3)年の第1回再興日本美術院展に《異端》を出品して同人に推挙され、その後、再興院展の中心的な画家として、1957(昭和32)年に亡くなるまで活躍した。近代日本画は、絶え間なく流れ込む西洋美術との葛藤を余儀なくされた。当然のことながら古径も、その問題の解決に腐心した画家の一人であったが古径の強靱ともいえる造形表現には、日本画、洋画といった区別を超えた絵画そのもののあり方をみいだすことができる。生涯にわたって絵画に本質的なものを追いつけた古径の歩みは、多くのことを示唆しているように思われる。

この展覧会は代表作を網羅した約120点の本画と、約80点の下図スケッチ類とで構成される。第1章「明治—歴史画からの出発—」では、最初期作品から梶田半古のもとで制作された歴史画を中心に紹介する。第2章「大正—ロマン主義の華やぎ—」では、大正期に描かれた華やかな色彩の作品を紹介、第3章「昭和—円熟の古径芸術—」はさらにⅠ「生命への賛歌」、Ⅱ「花と実と—自然を見つめて」、Ⅲ「人の姿—祈り／暮らし」に分けて構成し、古径の画業の軌跡を辿るとともに、各章ごとにトピックを設定し古径芸術の背景にあるものを探った。

### Kokei Kobayashi

Kokei Kobayashi was born in Niigata Prefecture in 1883. He exhibited *Searching for Christians* at the first Reorganized Inten exhibition of the Japan Art Institute in 1914 and was nominated as a member of the institute in the same year. From then until his death in 1957, Kobayashi remained a leading artist of Inten exhibitions.

Modern Nihonga has had to constantly fight against the influences of European art, and Kobayashi, like many of his colleagues, racked his brains over this problem. Nevertheless, in Kobayashi's highly powerful artistic expression one discovers the essence of pictorial art that transcends such classifications as Western style or Japanese style. The artistic career of Kobayashi, who sought to capture the intrinsic in paintings throughout his life, offers considerable food for thought.

The exhibition presented 120 paintings, including all of Kobayashi's major works, and 80 drawings and sketches. Chapter 1 (The Meiji Period – A Start from History Paintings) focused on his earliest works and historical paintings done while studying under Hanks Kajita. Chapter 2 (The Taisho Period – The Flamboyance of Romanticism) highlighted his brightly colored compositions painted in the Taisho Period. Chapter 3 (The Showa Period – The Ripening of Kokei's Art) was further divided into three parts: (I) In Praise of Life, (II) Flower and Fruit – Looking at Nature, and (III) Figures – Prayer/Life. The exhibition traced the development of Kobayashi's career as a painter while simultaneously exploring the context of his art by establishing topics for each section.



会 期
平成17年8月9日～10月2日(48日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、国際交流基金、 韓国国立現代美術館、シンガポール 美術館
協 力
日本航空
入場者
11,356人(一日平均237人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) No.552 (2005年6-7月) 展覧会予告(松本透) 民団新聞 2005年7月27日 展評 The Japan Journal 2005年7月(Vol.2, No.4) 展評 東洋経済日報 2005年8月12日 展評 日本経済新聞 2005年8月19日「文化往来」 朝日新聞 2005年8月25日 展評(山盛英司) メトロ(Metro) 2005年8月26日(No.596) "Cubism in Asia: Unbounded Dialogues—Regional Cubist Works Come Out of the Box" (Jeff Michael Hammond) 東京新聞 2005年8月27日 展評(藤田一人) 美術画報 2005年8月(No.48) 展評 現代の眼(東京国立近代美術館) No.553 (2005年8-9月)「一九七八年アジアへの旅 ／アジアのキュビズム展に想う」(後小路雅 弘)、「キュビズムの意味」(本江邦夫) 新美術新聞 2005年9月1日(No.1065) 展覧 会紹介(松本透) 日本経済新聞 2005年9月4日 展評(津) 読売新聞 2005年9月6日 展評(前田恭二) 週刊新潮 2005年9月8日 赤旗 2005年9月9日 展評(金子徹) 中日新聞 2005年9月14日 展評(浅野徹) 読売新聞 2005年9月14日 作品解説(松本 透) The Asahi Shimbun 2005年9月16日 展評(Akira Jan Fors) 高知新聞 2005年9月19日 展評 毎日新聞 2005年9月20日 展評(三田晴夫) 公明新聞 2005年9月30日「アジアでの展 開でみえた可能性—アジアのキュビズム 展」(中島芳郎) 中央公論 2005年9月号 展評(住友文彦) 遠近(国際交流基金) 第7号 2005年10月1 日「打ち込まれた無数の楔—アジアのキ ュビズム展を観て」(水沢勉) 芸術新潮 2005年10月号「触覚的楽天的キ ュビズムからアジアを見る」(榎木野衣) 美術手帖 第871号 2005年10月号「亜細 的立方体主義 翻訳・転換・交通—アジア のキュビズム展」(田中正之) 現代の眼(東京国立近代美術館) No.554 (2005年10-11月)「国際シンポジウムア ジアのキュビズム」(松本透) 読売新聞 2005年12月7日「回顧2005 美術」 (前田恭二) 日本経済新聞 2005年12月19日「回顧2005 美術」(白木緑) 毎日新聞 2005年12月20日「この1年 美術」 (三田晴夫)

## 423 アジアのキュビズム 境界なき対話

本展は、20世紀初頭にパリで起こったキュビズムの動向を、アジアの芸術家がいかに受け入れ、いかにそれに応えてきたか、という問題に焦点を当てた展覧会である。その際に、アジアにおける諸動向を、ヨーロッパの近代絵画の単なる受動的移入や模倣として見るのではなく、各地域の文化的土壌に根ざした創造的受容として捉えようというのが、基本的方針であった。アジアのほぼ全域を対象とするこの種の試みは前例がなく、また、総合的な調査・研究の蓄積も寡少であることから、主催者である3国立美術館(日本、韓国、シンガポール)及び国際交流基金は4度の合同調査を行い、各地の美術館・大学の研究者や美術批評家等から助言や資料提供を得ながら、展覧会の構成及び作家・作品の選定に当たった。

出品作品は、アジア11カ国(インド、インドネシア、ヴェトナム、シンガポール、スリランカ、タイ、大韓民国、中国、日本、フィリピン、マレーシア)の78作家による主に絵画作品122点(東京展出品は75作家115点及び特別出品2点)である。日本を例外として、アジア諸国におけるキュビズム受容(より一般的にはモダニズム芸術受容)のピークは、おおむね植民地からの独立前後の時期に当たっており、出品作の制作年は、それぞれの地域の歴史や国情に応じて1910年代から1980年代初頭という広範囲に及んでいる。また、本展のねらいは必ずしも国別の受容史ではなく、「アジアのキュビズム」という見方が成立しうるか否か、その可能性や有効性を問うものであることから、全体を、キュビズムの動向の指標に照らして、「第1章 テーブルの上の実験」「第2章 キュビズムと近代性」「第5章 身体」「第4章 キュビズムと国土(ネーション)」の4つの章に分けて構成した。

### Cubism in Asia: Unbounded Dialogues

The exhibition looked at how Asian artists accepted Cubism, which first appeared in Paris in the early 20th Century, and how they responded to its challenges. A basic policy of the exhibition was to look at the various Cubist trends in Asia not as a simple imitation or passive transplantation of modern European art but rather as a creative assimilation rooted in the cultures of individual countries.

The exhibition was unprecedented in that it encompassed virtually all of Asia. Owing to the lack of precedent as well as the scarcity of Pan-Asian studies, the sponsoring organizations—national art museums of Japan, South Korea and Singapore and The Japan Foundation—conducted four joint research trips to determine the exhibition content and to select artists and works. In this endeavor, the organizations were aided by suggestions and reference materials provided by museum and university researchers, art critics and other relevant parties in each country.

Shown were 122 works, primarily paintings, by 78 artists from 11 Asian countries, i.e. India, Indonesia, Vietnam, Singapore, Sri Lanka, Thailand, South Korea, China, Japan, the Philippines and Malaysia (the Tokyo showing consisted of 115 works by 75 artists, plus two special pieces). In Asian countries other than Japan, the assimilation of Cubism (or Modernism in more general terms) generally coincided with the countries' gaining independence from colonial rule. Accordingly, the production years of the works exhibited ranged widely from the 1910s to the early 1980s, in accordance with the different historical and political conditions of individual nations.

The aim of the exhibition was not necessarily to present a by-nation history of how Cubism was assimilated. Rather, it explored whether "Asian Cubism" was a valid viewpoint. Therefore, the exhibition was divided into four parts in line with major trends in Cubism: (I) On the Tables, (II) Cubism and Modernity, (III) Body, and (IV) Cubism and Nation.



会 期
平成17年9月17日～11月27日(62日間)
会 場
工芸館
入場者
17,887人(一日平均289人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) No.553(2005年8-9月)「東西交流の なかのアル・ヌーヴォー」(稲賀繁 美)、「新美術はどこから——アル・ ヌーヴォーと日本」(森仁史)
朝日新聞 2005年10月4日「元祖お 家芸琳派にあり」(山盛英司)
東京新聞 2005年11月5日「芸術運 動としての展開を検証する試み」(藤 田一人)
アート・トップ 2005年10-11月 「東西往還 遙かなる“琳派の旅”」(木 田拓也)

## 424(エ76) 日本のアル・ヌーヴォー 1900-1923：工芸とデザインの新時代

19世紀末のヨーロッパを席卷したアル・ヌーヴォーは、明治後半から大正にかけて、日本の工芸やデザインにも大きな影響をもたらした。アル・ヌーヴォーの伝播をきっかけとして、日本の工芸家たちは、旧態依然とした日本の工芸の立ち遅れを自覚し、図案の改革の重要性を認識することになった。しかし、その影響は単に装飾様式としてのものだけではなく、アル・ヌーヴォーの重要な側面は、工芸家や図案家だけでなく、画家や建築家などもジャンルの枠組みをこえて、工芸やデザインなど、生活の身近なものの制作にも高い関心を向けるようになったことである。日本においても、アル・ヌーヴォーの伝播によって、工芸家だけでなく、画家や建築家たちの間で、創作的で装飾性豊かな工芸品を制作しようとする機運が高まりを見せるとともに、西洋の模倣ではない、日本独自の表現を模索しようとする動きが見られるようになった。この展覧会では、明治後半から大正中頃にかけて活躍した画家、工芸家、図案家、建築家たちの作品——陶磁器、漆器、刺繍、家具、絵画、ポスター、雑誌表紙、本の装幀、図案集など——幅広いジャンルの作品を集め、日本におけるアル・ヌーヴォーの影響とその後の広がりを紹介し、そこに、日本近代の工芸とデザインの原点を探ることを目指した。

### Art Nouveau in Japan 1900-1923: The New Age of Crafts and Design

Art Nouveau, which swept Europe in the end of 19th Century, had an enormous impact on Japanese crafts and design from mid-Meiji to the early Taisho Period. In Japan, the spread of Art Nouveau caused craft artists to realize how stagnant Japanese crafts had become and to recognize the importance of developing innovative designs. An important aspect of Art Nouveau is that it not only offered a new style of decorative design, but also caused painters, architects and other artists, regardless of genre, to show strong interest in designing and creating articles for everyday use. In Japan, the spread of Art Nouveau caused painters and architects as well as craft artists to show interest in producing creative and highly decorative works of craft and developing expressions unique to Japan rather than imitating the West.

*Art Nouveau in Japan 1900-1923* brought together a wide variety of items—pottery, lacquer ware, embroidery, furniture, paintings, posters, magazine covers, book bindings, and design collections among others—made by painters, craftsmen, designers and architects who were active from the mid-Meiji to mid-Taisho Periods. The exhibition traced the initial influence and subsequent spread of Art Nouveau in Japan and sought to discover within this development the origins of modern Japanese crafts and design.





会 期
平成17年10月25日～ 12月18日(48日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、京都国立近代美術館、東京ドイツ文化センター、読売新聞社
特別協力
ピナコテーク・デア・モデルネ、ミュンヘン
入場者
25,887人(一日平均539人)
雑誌・新聞関連記事
TIME Asia edition September 26, 2005 "The Tempo of a nation"(Colin Pantall) 現代の眼(東京国立近代美術館) No.554 (2005年10-11月) 「文法と、もうひとつの物語 ベッヒャー以後のドイツの写真表現のゆくえ」(杉田敦)、「死んだ物象の支配と資本主義への到着—なぜ夢は実現されなかったか?」(エン・ペレント)
読売新聞 2005年10月12日 「ドイツ写真の現在展 東西統一 花開いた新世代」(増田玲)
日本カメラ 2005年11月号 「ドイツ写真の現在—かわりゆく『現実』と向かいあうために&アウグスト・ザンダー展 写真を通して異文化に触れる絶好の機会」(上野修)
美術手帖 2005年11月(第872号)「ドイツ写真の現在 インタビュー+作家解説」(保坂健二朗他)
産経新聞 2005年11月2日 「多様な方法で鑑賞者揺さぶる」(岡本耕治)
日本写真協会会報 2005年11月1日(第423号)「人気のドイツ現代写真に迫る」(聞き手・平木収)
芸術新潮 2005年12月号 「眺める少女の眺め ロレッタ・ルククス《窓辺にて》」
エスクァイア日本版 2005年12月号 「Art Walk「ゲルハルト・リヒター」&「ドイツ写真の現在」&「シュテファン・バルケンホール」同時代という横軸で共鳴する、ドイツ現代アートの秋。」(新川貴詩)
ミュージック・マガジン 2005年12月号 「客観性へのこだわりが変化する」(鳥原学)
STUDIO VOICE 2005年12月1日(Vol.360)「『そこ』から『ここ』へ 犯行現場としてのドイツ写真」(竹内万里子)

## 425 ドイツ写真の現在 かわりゆく『現実』と向かいあうために

ドイツの現代写真は、1990年代以降、高い評価を得てきた。「類型学」と呼ばれる手法を用いるベルント&ヒラ・ベッヒャーや、彼らに学んだデュッセルドルフ芸術アカデミー出身の写真家たちを中心に、その客観的・分析的な写真表現は、現代美術の分野で国際的に大きな存在感を示した。一方、東西再統一以降15年を経て、その社会的変容を反映した作品や、旧東独出身の新世代の登場、またデジタル技術の進展による写真表現の変化など、新たな展開も注目されている。本展では、そうした90年代以降のドイツ写真の状況を、変化する『現実』に対する、多様な取り組みという観点から捉え直し、最新の動向を含めて紹介することを目指した。なお、本展は、「日本におけるドイツ年 2005/2006」参加事業として企画され、ドイツ、ミュンヘンのピナコテーク・デア・モデルネより企画・出品に関して全面的な協力を得た。

展覧会は二部構成とし、第一部では90年代以降のドイツ写真を代表する作家としてベルント&ヒラ・ベッヒャー、ミハエル・シュミット、アンドレアス・グルスキー、トーマス・デマンド、ヴォルフガング・ティルマンスの5作家、第二部では近年注目され始めた新世代から、ハンス＝クリスティアン・シンク、ハイディ・シュベッカー、ロレッタ・ルククス、ベアテ・ゲーショウ、リカルダ・ログガンの5作家をそれぞれ紹介した。

### Zwischen Wirklichkeit und Bild: Positionen deutscher Fotografie der Gegenwart

Contemporary German photography has been evaluated highly since the 1990s. The objective and analytical photographic expression of German photographers centering on Bernd and Hilla Becher, who espouse a typological approach to photography, and students of the Kunstakademie Düsseldorf that studied under the Bechers, has attracted considerable international attention in the field of contemporary art. Meanwhile, photography that reflects changes in society since the reunification of Germany 15 years ago, the emergence of a new generation of photographers from the former East Germany, and new photographic expressions made possible by advances in digital technologies are also attracting attention.

The exhibition introduced such developments in German photography since the 1990s from the viewpoint of creative diversity occurring in response to changes in real life. Organized as part of the *Deutschland in Japan 2005/2006* project, the exhibition received the full-scale cooperation of the Pinakothek der Moderne of Munich with respect to planning and exhibits.

The exhibition was composed of two parts. Part I focused on leading figures in German photography since the 1990s: Bernd and Hilla Becher, Michael Schmidt, Andreas Gursky, Thomas Demand, and Wolfgang Tillmans. Part II featured Hans-Christian Schink, Heidi Specker, Loretta Lux, Beate Gütschow, and Ricarda Roggan, who have gained recognition in recent years as a new generation of German photographers.



会 期
平成17年10月25日～12月18日(48日間)
会 場
本館ギャラリー 4
主 催
東京国立近代美術館
入場者
26,200人(一日平均546人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) No.554(2005年10-11月)「[文献再録] ケルン芸術協会での個展にあたって」 (訳・解説 増田玲)、「our faceプロジェクト…見知らぬ誰かに会う肖像写真の旅」(北野謙)
装苑 2005年11月号「アウグスト・ザンダー展：アウグスト・ザンダー『時代の顔』」(増田玲)
日本カメラ 2005年11月号「ドイツ写真の現在—かわりゆく「現実」と向かいあうために&アウグスト・ザンダー展 写真を通して異文化に触れる絶好の機会」(上野修)
Pen 2005年12月1日(No.165)「人物の生業を、ザンダーは精密に写しとった。—シュテファン・バルケンホール」

## 426 アウグスト・ザンダー展

アウグスト・ザンダー(1876-1964)はワイマール時代のドイツの人々を撮影した膨大な肖像写真の仕事で知られる。ザンダーはあらゆる階層や職業の人々の肖像によって、ドイツ社会を包括的に描き出す「20世紀の人間」という壮大なプロジェクトに取り組んだ。その構想は未完に終わるが、見取り図として発表された1929年の写真集『時代の顔』は、当時のドイツ美術における新即物主義の潮流ともあいまって大いに注目され、客観的で即物的な描写のスタイルは、その後の写真表現に大いに影響を与えた。本展ではその写真集『時代の顔』をとりあげ、あらためてザンダーの仕事の見直す機会とした。

今回の展覧会では、現在ザンダーのアーカイブが置かれているドイツ、ケルンのSK文化財団所蔵の作品により、写真集『時代の顔』に収められた60点全てのイメージを、写真集どおりの構成により展示した。また、ザンダーのセルフ・ポートレイトを参考出品した。加えて各作品のキャプションと展示室内で無料配布した解説パンフレットにより、ザンダーが最終的に構想していた未完のプロジェクト「20世紀の人間」との連関を示した。

### August Sander: Face of Our Time

August Sander (1876-1964) is best known for the massive quantity of photographs he took of the German people in the Weimar period. He was involved in a monumental project called *People of the Twentieth Century*, in which he captured people of all classes and occupations in an attempt to create a comprehensive picture of Germany Society. While he was unable to finish the project, a selection of portraits taken for the project was published in *Face of Our Time* in 1929. The collection garnered considerable attention as soon as it appeared, partly due to the Neue Sachlichkeit movement in German art at the time, and Sander's objective, realistic style of portraiture greatly influenced photographic expression in subsequent years. The exhibition spotlighted the book *Face of Our Time* in order to take a new look at the works of August Sander.

All 60 portraits contained in the book were displayed in the order given in the published version. The photographs were on loan from Die Photographische Sammlung / SK Stiftung Kultur in Cologne, Germany, where the August Sander Archive is located at present. A self-portrait of Sander was also included for reference. Through captions provided with each portrait and free leaflets distributed in the exhibition hall, the relationship between the collection and *People of the Twentieth Century*, the project for which the collection was originally intended, was explained.



会 期
平成18年1月13日～3月5日(45日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、京都国立近代美術館
特別協力
大阪大学、大阪大学附属図書館
入場者
22,673人(一日平均504人)
雑誌・新聞関連記事
現代の眼(東京国立近代美術館) No.555(2005年12月-2006年1月) 「遺族からみた『須田国太郎』」(須田寛)、 「須田国太郎の位置」(山野英嗣) 新美術新聞 2005年12月1日 「須田国太郎展」(島田康寛) 日経新聞 2006年1月18日 「奥底から心揺さぶる魔術」(竹田博志) 読売新聞 2006年2月1日 芥川記者の展覧会へ行こう(芥川喜好) Herald Tribune The Asahi Shinbun 2006年2月17日 “Dark visions infused with a magic lightness”(C.B.Liddel)

## 427 須田国太郎展

須田国太郎(1891-1961)は京都に生まれ、京都帝国大学で美学美術史を学びながら関西美術院でデッサンを修めた。その後大学院に進学、1919年には絵画理論と実践の総合を求めるべく渡欧して、主にスペインのプラド美術館で、ヴェネチア派絵画の色彩表現やエル・グレコの明暗対比の技法を独学する。1923年に帰国後は、美術史を講じるかたわら制作に励み、41歳を迎えた1932年、東京銀座の資生堂画廊で初めて個展を開いた。これを機に、翌年、独立美術京都研究所の開設に伴い、学術面の指導者として招かれ、1934年には独立美術協会会員となって制作活動も本格化、渡欧で得た成果を糧に独自の重厚な作風を確立した。

今回の展覧会では、こうした須田の画業が通覧できるよう、「Ⅰ 1932年第1回個展」、「Ⅱ 1933年—1944年 戦前」、「Ⅲ 1945年—1961年 戦後」の3章によって通史的に全画業をたどり、続く「Ⅳ 珠玉の小品」、「Ⅴ 能・狂言」の2章によって須田芸術を多面的に捉える構成とした。

### SUDA Kunitaro

Kyoto-born Kunitaro Suda (1891-1961) studied aesthetics and art history at the Kyoto Imperial University and practiced drawing at the Kansai Bijutsuin. He went on to graduate school and traveled to Europe in 1919 for an all-round study of art theory and practice. At the Prado Museum in Spain, he studied the Venetian school's chromatic expressions and El Greco's use of chiaroscuro. After returning to Japan in 1923, Suda taught art history while painting in his free time. He held his first one-man exhibition in 1932 at the age of 41, at the Shiseido Gallery in Ginza, Tokyo. The exhibition led to his being invited in the following year to serve as academic advisor for the newly-established Dokuritsu Bijutsu Institute, Kyoto. He became a member of the Dokuritsu Bijutsu Kyokai (Independent Art Association) in 1934 and turned full-time to creative activity, establishing a uniquely imposing style grounded in his studies in Europe.

The exhibition was composed of five sections. The first three sections presented Suda's works in chronological order: (Ⅰ) 1932: The First Exhibition, (Ⅱ) 1933-1944: Before the War, and (Ⅲ) 1945-1961: After the War. The final two sections illustrated the diversity of Suda's art: (Ⅳ) Small Gems and (Ⅴ) Noh and Kyogen.



## 会 期

平成18年1月13日～3月5日(45日間)

## 会 場

本館ギャラリー 4

## 入場者

18,757人(一日平均417人)

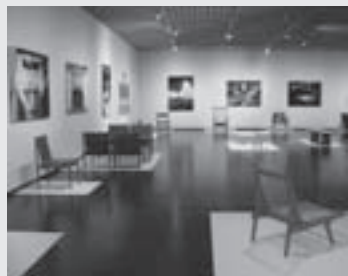
## 雑誌・新聞関連記事

現代の眼(東京国立近代美術館)  
No.555(2005年12～2006年1月)「デザインと私と」(渡辺力)、「剣持勇と渡辺力」(松本哲夫)

日本経済新聞 2006年2月25日「生活あってこそデザイン」(窪田直子)

新建築住宅特集 2006年3月号「意思のデザイン」(藤森泰司)

芸術新潮 2006年3月号「渡辺力の禁欲的デザイン論」



## 428(エ77) 渡辺力ーリビング・デザインの革新

日本のモダン・デザイン史において先駆的な役割を果たしたデザイナーの活動を検証するという目的で企画されてきたこれまでのデザイン展の方針を踏襲し、本展では家具やプロダクトの分野で戦後のデザイン界を牽引してきたデザイナー・渡辺力(1911-)を取り上げた。

1930年代、今日一般にバウハウスやル・コルビュジエに典型的な思想と作品が見出されるとされるモダン・デザインに触れた渡辺は、機能に裏打ちされ、かつ日本の生活に立脚したかたちを追求してきた。床座を旨とする日本の住生活に、西洋の生活様式の構成要素であるイスを見事に融合させ、近代日本の生活スタイルを明快に表現した初期の《ヒモイス》(1952年)や、伝統的な素材である籐をデザインのプロセスで捉えなおした《トリー・スツール》(1956年)は、日本のモダン・デザインを体現するものとして国内外で高く評価されている。また、日本インダストリアル・デザイナー協会(JIDA)や、手仕事の発掘と普及をめざしたクラフト・センター・ジャパンの設立、そのほか多くの批評活動を通して、いまだ黎明期にあった日本のデザイン運動に方向を与えその発展に尽力したという点でも、重要な役割を果たした。

渡辺のデザインに胚胎する思想を探るため、本展ではそのデザインの本領である家具に着目した。渡辺の活動は戦後に本格的に展開されたため、展覧会ではまず第一に、時系列にそって1950年代から80年代までに製作された家具デザインを、家具が使用されている室内空間の写真とともに展示した。また、渡辺がライフワークとして取り組んでいる領域に時計のデザインがある。本展では、60年代から現在にいたるまで手がけられた一連の時計のデザインを展示し、家具デザインのみならず生活にかかわるプロダクトにも通底する渡辺力のデザイン観を提示した。また、最後に、デザインのルーツを示唆するため、戦前の作品も取り上げた。

## Riki Watanabe: Innovating in Modern Living

Continuing the practice of past exhibitions of spotlighting the achievements of pioneering designers in Japan's modern design history, the exhibition featured Riki Watanabe (1911-), a leader in the postwar design world in the fields of furniture and products.

Watanabe, who first came into contact with modern design—the typical concepts and creations of which are today generally considered to be found in Bauhaus and Le Corbusier—in the 1930s, has consistently produced designs backed by function and grounded in daily Japanese life. His early *Rope Chair* (1952), which seamlessly incorporated an element of the Euro-American lifestyle into the Japanese living environment and articulated a new style of living in modern Japan, and the *Torii Stool* (1956), which reinterpreted cane, a traditional material, from the standpoint of design, have been lauded at home and abroad for embodying modern Japanese design.

Watanabe also played an important role in that he provided direction to Japan's nascent design movement and contributed to its advance through the establishment of the Japan Industrial Designers Association and the Craft Center Japan (a center for discovering and spreading new forms of handiwork) and through involvement in numerous critique/review activities.

To best explore the ideas and concepts that gave seed to Watanabe's designs, the exhibition focused on furniture, his forte. Viewers were first presented with a chronological display of his furniture designs from the 1950s, when Watanabe's activities took off in earnest, to the 1980s. The exhibits included photographs of his furniture in interior settings. Also featured were clocks designed by Watanabe from the 1960s to the present, clock design being a lifework of Watanabe. By looking at clocks as well as furniture, the exhibition sought to elucidate Watanabe's design viewpoint, which underlies all his designs, from furniture to smaller articles for daily use. Lastly, Watanabe's pre-war productions were also shown to hint at the roots of his designs.



会 期
平成18年3月28日～5月21日 (うち平成17年度4日間)
会 場
本館企画展示室
主 催
東京国立近代美術館、NHK、NHK プロモーション、日本経済新聞社
後 援
外務省、フランス大使館
協 賛
あいおい損害保険、大日本印刷、 松下電器
協 力
DNPアーカイブ・コム、日本航空
入場者
16,024人(一日平均4,006人) (平成17年度中)
雑誌・新聞関連記事
駱駝 2006年4月5日号 「レオナルド・フジタを巡る旅」(伊藤緋紗子)
美術画報 2006年6月7日号 「異国から祖国へ…藤田嗣治のフランス」(Tomoko FREDERIX)
芸術新潮 2006年4月号 「藤田嗣治の真実」(清水敏男、小谷野匡子)
ミセス 2006年6月号 「藤田嗣治 パリを魅了した画家」(玉川美佐子、高橋愛美)
サライ 2006年4月20日号 「巴里が賛美した肌色」(菅谷淳夫)
日本経済新聞 2006年3月5日 「美の美藤田嗣治一東と西を超えて(上) 東洋の香気あふれる裸体群像 西洋の懐深く飛び込む行動力」(宝玉正彦)
日本経済新聞 2006年3月12日 「美の美藤田嗣治一東と西を超えて(中) 小動物の迫真表現は北斎ばり ドラクロワに迫る劇的な構想」(宝玉正彦)
日本経済新聞 2006年3月19日 「美の美藤田嗣治一東と西を超えて(下) 楽器たち割るピカソを恐れず 戦後の傑作に『戯画』の明るさ」(宝玉正彦)
毎日新聞 2006年3月29日 「今週の一点アツツ島玉砕」(大西哲人)
朝日新聞 2006年3月30日 「パールぬぐフジタ 日本初公開作や戦争画も 緒に就いた『藤田と日本の和解』」(田中三蔵、山盛英司)
毎日新聞 2006年4月28日 「みえてきた画家の全容 エコール・ド・パリ、そして戦争画」(三田晴夫)
The Daily Yomiuri 2006年3月30日 "Léonard Foujita's autobiography in oil" (Julian Satterthwaite)
The Herald Tribune Asahi Shimbun 2006年4月21日 "Refocusing on Foujita's cross-cultural vision" (Jeff Michael Hammond)

## 429 藤田嗣治展 パリを魅了した異邦人

知名度は抜群ながら、さまざまな事情から長年展覧会の実現が見送られてきた藤田嗣治の全画業を紹介する、初めての展覧会である。これまで、ともすると波乱万丈の人生を中心に語られてきた藤田だが、本展覧会は、もう一度作品に即してこれを見直すことで、新しい藤田像を示すことを試みた。国内外から集めた97点の作品に加え、藤田遺愛の品など資料13点を展示した。カタログには詳細な年譜と文献目録を付し、展覧会とあわせ、全体で今後の藤田研究の基礎となるよう内容の充実を図った。

「乳白色の肌」で成功を収めた1920年代のパリ時代、中南米旅行から日本へ戻り、戦争画も描いた1930-40年代、そして宗教画や子ども像を描いた1950-60年代。各時代の代表作を過不足なく示し、作品の変化を通して藤田の全体像をつかむことのできるよう、作品選定に留意した。会場のパネルや解説類には、本展のための調査で発見された新しい知見を、わかりやすく、視覚的にも読みやすいかたちで示すようこころがけた。また、小・中学生向けに「こどもセルフガイド」を作成した。

### LEONARD FOUJITA

The exhibition was the first time that all of the paintings of Tsuguharu Foujita (also known as Léonard Foujita) were brought together in one place. Despite his outstanding fame, there had been no retrospective of Foujita previously due to a variety of obstacles. While past introductions of the artist have tended to focus on the vicissitudes of his life, the exhibition attempted to paint a new portrait of Foujita by taking a fresh look at his works.

In addition to 97 pieces gathered from diverse owners at home and abroad, 13 items of reference, such as personal articles cherished by Foujita, were displayed. The catalog was designed to serve, together with the exhibition itself, as a basis for future Foujita studies and as such provided a finely detailed chronology and bibliography.

Selections were made so that an overall understanding of Foujita could be gained by viewing the various changes in his compositions over the years. A full array of representative works in each of his major periods were shown: Paris in the 1920s, when he achieved fame for his nudes with "milky-white skin"; the 1930s and 40s, when he returned to Japan after touring Latin and South America and executed war paintings; and the 1950s and 60s, when he depicted children and religious subjects. New information about Foujita discovered in the research for the exhibition was presented on exhibition panels and commentaries, in an easy-to-understand and easy-to-read format. A guide for primary and junior high school students was also prepared.



会 場
本館所蔵品ギャラリー
入館者数
288,564人 (うち常設展のみ入館者数60,810人)

1-5	常設展・所蔵作品展示記録 Permanent Exhibit, 2005
1-5-1	本館

## a. 所蔵作品展「近代日本の美術」

近代日本美術の歴史的展開を系統的に分かりやすく展観していただくことを目指した。このため、平成17年度は各階ごとの時代区分などの大枠は一定に保ちつつ、会期ごとに展示作品のかなりの部分(日本画・版画・写真はすべて)を入れ替えながら、各作家および時代の多面的な相貌を幅広く鑑賞できるようにすること、会期ごとにテーマを立てた小特集を行い、新たな角度から作品に光を当てる試みを行うこと、また、セクション表示、館内解説などの改善に努め、より見やすい展示を心がけることに努めることとした。平成17年度は現代美術の普及にも重点を置き、所蔵作家によるギャラリートーク「アーティスト・トーク」を開始した。

◆平成17年3月5日(土)～5月22日(日)(75日間／うち平成17年度51日間)

特集展示(4階)：描かれた景観―移りゆく東京

版画コーナー(3階)：二つの版画集 ココシュカとコリント

写真コーナー(3階)：椎原治

出品点数：265点(うち重要文化財3点)

◆平成17年6月7日(火)～7月18日(月・祝)(37日間)

特集展示(4階)：絵の中の歴史

版画コーナー(3階)：浜口陽三

写真コーナー(3階)：奈良原一高「消滅した時間」

出品点数：199点(うち重要文化財2点)

◆平成17年7月26日(火)～10月2日(日)(60日間)

特集展示(4階)：中村不折

版画コーナー(3階)：谷中安規

写真コーナー(3階)：石内都「連夜の街」

出品点数：204点(うち重要文化財3点)

◆平成17年10月8日(土)～12月18日(日)(62日間)

特集展示(4階)：岸田劉生

横山大観《生々流転》

版画コーナー(3階)：近代の木版画―創作版画を中心に

写真コーナー(3階)：ドイツの近代写真

出品点数：214点(うち重要文化財4点)

◆平成17年12月24日(土)～平成18年3月5日(日)(59日間)

特集展示(4階)：陽成二

版画コーナー(3階)：近代日本の水彩画

写真コーナー(3階)：田村彰英「午後」

出品点数：206点(うち重要文化財6点)

◆平成18年3月11日(土)～5月21日(日)(64日間／うち平成17年度18日間)

特集展示(4階)：パリの街角へのまなざし

版画コーナー(3階)：浜田知明

写真コーナー(3階)：岡上淑子

出品点数：210点(うち重要文化財4点)



#### a. Modern Japanese Art from the Museum Collection

The overall objective of this exhibition is to present a systematic review of the historical development of modern art in Japan in an easy to understand manner. Accordingly, in fiscal 2005, our overall framework of dividing exhibition floors into different historical periods was maintained while replacing a considerable portion of the exhibited works (including all prints, photographs, and Japanese-style paintings) with every new presentation in order to allow visitors to appreciate the multifaceted aspects of each artist or time period. At the same time, smaller themed exhibitions were set up for every new presentation in order to illuminate works from new angles. Efforts were also made to facilitate viewing by improving section signs and on-floor commentaries. Emphasis was also placed on increasing the public's knowledge of contemporary art, and a series of gallery talks by artists whose works are included in the Museum Collection were held.

◆ March 5 (Saturday) – May 22 (Sunday), 2005 (75 days, of which 51 days were in fiscal 2005)

Topic in Focus (4th floor) : *Depicted Scenes: Tokyo in Transition*

Print Corner (3rd floor) : *Two Print Collections: Kokoschka and Corinth*

Photography Corner (3rd floor) : Osamu Shiihara

265 items exhibited (including three Important Cultural properties)

◆ June 7 (Tuesday) – July 18 (Monday/national holiday), 2005 (37 days)

Topic in Focus (4th floor) : *Historical Image in Modern Paintings*

Print Corner (3rd floor) : Yozo Hamaguchi

Photography Corner (3rd floor) : Ikko Narahara: *"Where Time Has Vanished"*

199 items exhibited (including two Important Cultural properties)

◆ July 26 (Tuesday) – October 2 (Sunday), 2005 (60 days)

Topic in Focus (4th floor) : Fusetsu Nakamura

Print Corner (3rd floor) : Yasunori Taninaka

Photography Corner (3rd floor) : Miyako Ishiuchi: *"Endless Night"*

204 items exhibited (including three Important Cultural properties)

◆ October 8 (Saturday) – December 18 (Sunday), 2005 (62 days)

Topic in Focus (4th floor) : Ryusei Kishida

Taikan Yokoyama: *Metempsychosis*

Print Corner (3rd floor) : Modern Woodblock Prints in Japan Centering on *Sosaku Hanga*

Photography Corner (3rd floor) : Modern German Photography

214 items exhibited (including four Important Cultural properties)

◆ December 24 (Saturday) – March 5 (Sunday), 2005 (59 days)

Topic in Focus (4th floor) : Kanji Yo

Print Corner (3rd floor) : Modern Japanese Watercolors

Photography Corner (3rd floor) : Akihide Tamura: *"Afternoon"*

206 items exhibited (including six Important Cultural properties)

◆ March 11 (Saturday) – May 21 (Sunday), 2005 (64 days, of which 18 days were in fiscal 2005)

Topic in Focus (4th floor) : *Paris: Photographs and Paintings*

Print Corner (3rd floor) : Chimei Hamada

Photography Corner (3rd floor) : Toshiko Okanoue

210 items exhibited (including four Important Cultural properties)



#### 会 期

平成17年7月26日(火)～10月2日(日)  
(60日間)

#### 会 場

本館ギャラリー 4

#### 雑誌・新聞関連記事

産経新聞 2005年8月15日 「内面に響く『沈黙の声』」(岡本耕治)

産経新聞(大阪) 2005年9月28日  
「『沈黙の声』展 東京国立近代美術館」(島敦彦)

中日新聞 2005年9月28日 「キム・スージャ『針の女』」(高満津子)



#### 会 期

平成18年3月11日(土)～5月21日(日)  
(64日間／うち平成17年度18日間)

#### 会 場

本館ギャラリー 4

#### d. 所蔵作品展: 沈黙の声 遠藤利克、ビル・ヴィオラ、キムスージャ

様々なメディアを用いながら、今日世界的にも傑出した活動を繰り広げる3人の作家によるインスタレーション3点により、近年の現代美術の成果の一端を紹介した。いずれの作品も内省的なたたずまいで観る者を静かにとらえ、表面的な流行とは無縁の美術の力を実感させた。今後の当館のメディア・アートへの取り組みの端緒ともなったと言える。

#### d. *Introspection: Toshikatsu Endo, Bill Viola and Kimsooja from the Museum Collection* (Gallery 4 on 2nd floor)

Three installations by three artists doing outstanding work on the international stage today by employing a variety of media were spotlighted in the exhibition as examples of recent achievements in contemporary art. All three works quietly capture the viewer's heart with their introspective appearance, allowing the viewer to feel the power of art that has nothing to do with superficial fads and fashion. The exhibition represents the first step in the Museum's involvement in media art.

#### e. 所蔵作品展: 現代の版画—写真の活用とイメージの変容

1960年代以降、写真的なイメージを取り入れることによって飛躍的にその表現を多様化させてきた版画作品の諸相を紹介した。これらの作品はもはや版画という狭い枠組みの中だけにとどまることなく、現代の社会に氾濫する「映像」の意味を問いつつ、ひろく人間の表現や認識一般についての探求に及んでいる。

#### e. *Contemporary Prints from the Museum Collection: Transformation of Photographic Image* (Gallery 4 on 2nd floor)

The expression of prints has undergone dramatic diversification since the 1960s through the incorporation of photographic images. The exhibition introduced diverse facets of such prints, which go beyond the limited boundaries of printed art to broadly explore possibilities in man's expression and awareness in general while questioning the meaning of various images that flood the world today.

**会 場**

工芸館

**入場者**

66,263人

(うち常設展のみ入館者数 36,889人)

**1-5-2 工芸館**

工芸館常設展は、1. 明治以降、およそ百年の工芸・デザインの歴史的な流れを紹介する展示「近代工芸の百年」、2. 陶磁、漆芸、金工など、各素材別の名品を展示する「近代工芸の名品」、3. 各時代の特色、特徴的な工芸運動、花や動物などのモチーフなどをテーマにした「テーマ展示」の、3つの柱によって行っている。また、昨年度以来、年間を通して、当館所蔵の名品を鑑賞できるように六つある展示室の一室を「人間国宝・巨匠コーナー」とし、展覧会の企画内容に関わらず、常時工芸館の名品紹介を行い、当館のコレクションを通じて、近代の工芸及びデザインの魅力に触れる機会を提供するよう努めてきた。

現在ではこれらの柱による展示を基礎としながら、小・中学生から高齢層まで、また一般の観客からコレクター、作家など、専門性の強い観客まで、いかに幅広い層の関心を引き、広く工芸館をアピールできるかが課題である。

そのため平成17年度では、3つの柱を基本にしつつ、それをいかに噛み砕くかに努力して展示のテーマ、構成を考えた。さらに昨年度から開始したボランティアガイドスタッフによる作品に触るコーナーを連動させ工芸品のより深い理解を図った。

また、常に所蔵作品や寄託作品の名品を見ることができる「人間国宝・巨匠コーナー」では、陶磁、染織、漆工、人形など、様々な分野の人間国宝などに加え、ルネ・ラリック、バーナード・リーチ、ルーシー・リーなどの作品、また、バウハウスやロシア・アヴァンギャルドの陶磁器など、欧米の巨匠作品、著名デザイン作品も幅広く紹介した。又、海外作家の作品を前に、イギリスの現代陶芸研究者によるギャラリートークを開催した。

The Crafts Gallery's permanent exhibitions are centered around three main shows: (1) A look at the history of crafts and design in post-feudal Japan, namely the past 100 years from the Meiji era onwards, (2) an exhibition of masterpieces in various materials such as pottery, lacquer ware, and metal work; and (3) an exhibition arranged around a specific theme such as a historical characteristic, an artists' movement or a design motif (flowers, animals, etc.). Since last fiscal year, the Gallery has set aside one of its six exhibition halls as a "Masterpiece Corner" to showcase works by Living National Treasures and other great masters throughout the year, thereby allowing visitors to view masterpieces in the Museum Collection at any time regardless of the content of the main exhibitions. The arrangement is intended to give everyone an opportunity to experience the appeal of modern crafts and design.

At present the Crafts Gallery is concentrating on how to raise interest among people of all ages, from grade school children to senior citizens, and among laymen as well as collectors, artists and other experts and professionals, in order to attract a larger cross section of people to the Gallery. With this goal in mind, efforts were made in fiscal 2005 to select exhibition themes and contents that are more accessible to the general public while maintaining the framework of the three main shows. Efforts were also made to promote deeper understanding of arts and crafts by incorporating a hands-on corner where visitors can touch exhibits under the direction of volunteer guides, a system that was started last fiscal year.

In the "Masterpiece Corners," where visitors can view masterpieces either owned by or on loan to the Museum, in addition to works by Japan's Living National Treasures in a variety of fields, including ceramic ware, dyed and woven fabrics, lacquer ware, and dolls, a wide range of works by great masters and famous designers of Europe and the USA were introduced, such as works by Rene Lalique, Bernard Leach, and Lucie Rie and Bauhaus and Russian avant-garde ceramics. Furthermore, gallery talks were held by a UK researcher of contemporary ceramics concerning the works of non-Japanese artists.



## 会 期

平成17年3月8日～平成17年4月17日  
(38日間／うち平成17年度16日間)

## 会 期

平成17年4月26日～6月26日(55日間)

### a. I 人間国宝の花／II 近代工芸の百年

所蔵作品より、人間国宝による花を主題とした名品を選択し「人間国宝・巨匠コーナー」を拡張して25点を展示した。また、万国博覧会や輸出工芸の明治時代を彩った作品から、近代的な個性を重視した作品、モダニズムや民藝の運動、戦後の創作や前衛、伝統工芸を代表する作家らの作品、クラフト、そして現代的な造形をうったえた制作など、近代・現代工芸の流れを優れた工芸作品によって検証した。

#### a. Part I: Flower Designs by Living National Treasures and Part II: History of Modern Crafts

Part I as the “Masterpiece Corner” featured works of craft with a floral motif made by Living National Treasures, selected from the Museum Collection. That was expanded to exhibit the 25 items selected. Part II investigated the development of modern crafts from the Meiji Period onward and included works that were made for exports or exhibited at the World Expo during the Meiji Period, works that emphasize modernistic originality, works by leading artists of Modernism, the mingei (folk craft) movement, postwar creativity, avant garde and traditional crafts, and productions that feature contemporary designs.

### b. 近代日本の型染

同時開催した「伊砂利彦—型染の美」展の理解を深めるため、所蔵から型染作品を選び会場を構成した。京都の日常的情景や自然の景色を叙情的に表し、伊砂に多大な影響を与えた稲垣稔次郎のほか、沖縄の紅型に強い刺激を受けながらも独自の表現を導き出した芹沢銈介や鎌倉芳太郎ら近代日本における型染の代表的作家全6名の作品を並べ、主題の設定による差異を確認しながら、シャープな形態やリズムカルな構成など、この技法の特色を浮き彫りにすることを目的とした。

#### b. Modern Japanese Stencil Dyeing

The exhibition highlighted a selection of stencil dyeing works from the Museum Collection to enhance enjoyment of *ISA TOSHIHIKO: Beauty of Stencil Dyeing* held simultaneously. Works by the six leading artists of modern stencil dyeing were displayed, including Toshijiro Inagaki, whose lyrical depictions of nature and daily scenes in Kyoto greatly influenced Isa, and Keisuke Serizawa and Yoshitaro Kamakura, who developed their own unique expressions while being greatly stimulated by *bingata* dyeing native to Okinawa. The objective was to review differences in subject matter while bringing into relief the sharp forms and rhythmical compositions characteristic of the technique.

#### 会 期

平成17年7月5日～9月4日(55日間)



#### 会 期

平成17年12月10日～18年3月5日  
(71日間)



### c. こども工芸館—動物とあそぼう

夏休み子ども向け企画として立案したもので、当館の所蔵作品を中心として工芸作品や美術・彫刻作品で、動物をモチーフとした作品を選び展示した。展覧会開催期間中は、子どもたちの自発的な鑑賞能力を引き出し、作品への関心を高めるため、「動物にがえ大会」を開催し、完成した似顔絵を会場に掲示した。

### c. Children's Program: *Designs Inspired from Creatures*

The program was initiated for children's enjoyment during the summer holidays. Crafts, paintings, and sculptures with animal motifs were selected, primarily from the Museum Collection, and exhibited. To encourage children's spontaneous appreciation of art and increase their interest in the exhibition, visiting children were encouraged to draw animal pictures, which were then displayed in the exhibition hall.

### d. 近代工芸の百年

近代日本の工芸は、個人の美意識に基づく作品の創造を目指した工芸家たちによって発展し、今日みられるような様々な特色を生み出した。ひとりの制作者においても伝統と革新とは常に相克し、素材や技法に立ち向かいながら、工芸という枠組みを問い直す試みが工芸の近代化を推し進めている。本展では、明治期の精緻で技巧を凝らした輸出工芸から作者の内面や時代精神が作品に投影され始めた1920年代以降の工芸改革運動、そして伝統の再解釈と“オブジェ”への挑戦が同時に進行した戦後の動向など、時代毎に浮かび上がる作家の思想、素材や技法の解釈、社会的背景等に着目し、日本の工芸100年の流れを所蔵作品によって紹介した。

### d. A History of Modern Crafts

Modern Japanese craft developed on the strength of artists who sought to create works on the basis of their own personal aesthetics, giving rise to the diverse distinctive features we see today. Constant conflict between tradition and innovation, even within the same artist, and attempts to go beyond the framework of one's craft while experimenting in new materials and techniques provide the impetus for modernization.

The exhibition, comprised entirely of items from the Museum Collection, introduced the development of modern Japanese crafts over the past 100 years, from intricate and elaborate articles made for export in the Meiji Period to items made in the 1920s, when the crafts revolution spurred artists to express their inner world or spirit, and crafts produced in the postwar era when departure from tradition and experimentation in three-dimensional art progressed simultaneously. Attention was paid to the artist's intent, reinterpretations of materials and techniques, the social context and other aspects.



#### 会 期

平成18年3月14日～平成18年5月21日  
(62日間／うち平成17年度16日間)



#### e. 花より工芸：新収蔵作品を中心に2001－2005

2001年から2005年までの5年間に工芸館の新しい所蔵作品として加わった作品約200点のうち、今回はじめて紹介する作品を中心に97点を選んで展示した。過去五年間の工芸館の収集活動の軌跡を振り返るとともに、当館の収集活動をアピールするというのがこの展覧会の趣旨である。8つのテーマ(「人形芸術の展開」「現代の布」「明治の輸出工芸」など)をもうけて展示するとともに、工芸の歴史的な動向や現代の工芸の状況について解説文を掲示し、来館者にわかりやすく鑑賞してもらう工夫をした。

#### e. Modern Crafts from the Museum Collection: 2001 – 2005

The Museum acquired some 200 new pieces of craft over the five years from 2001 to 2005. Of these, the exhibition spotlighted 97 items, some of them shown for the first time. The objective of the exhibition was to review and publicize the collection activities of the Crafts Gallery over the past five years. Eight themes were established, including the Art of Doll-making, Fabrics Today, and Craft Export in the Meiji Period. Commentaries on historical trends and current conditions of crafts in Japan were prepared to facilitate and promote visitors' appreciation of the exhibition.

会 期
平成17年8月27日～平成17年10月13日 (41日間)
会 場
北海道立釧路芸術館
入場者
4,183人(一日平均102人)
会 期
平成17年10月21日～平成17年12月11日 (45日間)
会 場
秋田市立千秋美術館
入場者
2,503人(一日平均48人)

### 1-5-3 東京国立近代美術館工芸館所蔵作品巡回展

東京国立近代美術館工芸館が所蔵する近代から現代にいたる、優れた工芸作品を効率的に活用・公開し、近代工芸への理解と普及を図るとともに、公開事業を推進することで地方における近代工芸の鑑賞機会の充実を促進すること、また、工芸館の事業を広く普及させ、あわせて企画・運営をとおして地方美術館との連携・交流を積極的に促進することを目的とした、新規事業である。平成17年度は、「近代工芸の名品展」を北海道立釧路芸術館と秋田市立千秋美術館で開催した。

日本の近代工芸の発展をその歴史的な流れや動向と照らし合わせながら、工芸館が所蔵する約2,000点の工芸コレクションのなかから、明治期以降から現代にいたる時代の展開や、革新的な動向などを代表する工芸各分野の作家の優品、また地元関連の作家作品を加えて110点を陳列した。

### Touring Exhibition of Crafts from the MOMAT Collection

The Crafts Gallery's touring exhibitions are a way of efficiently introducing superior works of modern and contemporary crafts from the Museum Collection to areas outside of the Museum's immediate locale. The underlying objectives of the exhibitions are to promote greater understanding and knowledge of modern crafts among the general public; to increase opportunities for people living in outlying areas to view modern crafts; and to promote collaboration and exchanges with local museums.

*Masterpieces of Modern Craft* was held at the Kushiro Art Museum, Hokkaido, and the Akita Senshu Museum of Art in fiscal 2005. Out of some 2,000 items in MOMAT's craft collection, 110 choice items by leading artists in various fields were selected for presentation and selection of local artists. These artists represent various historical periods and/or innovative trends seen in crafts over the past century from the Meiji Period to the present day.

## 2 作品貸与・特別観覧等

### 2-1 本館

貸 与 80件(332点)  
 特別観覧 183件(418点)  
 プリント・スタディ（写真作品観覧制度）＊平成17年12月より実施  
 利用件数 8件(12名)  
 観覧作品数 246点

**展覧会協力** 以下の展覧会に、作品を多数貸し出すなどの協力を行った。

#### ◆展覧会名

会場(会期)

- ◆「自然をめぐる千年の旅―山水から風景へ―」展  
愛知県美術館(2005. 3. 11―5. 8)
- ◆「歿後50年 安井曾太郎展」  
宮城県美術館(2005. 4. 16―6. 5)／茨城県近代美術館(2005. 6. 11―7. 24)  
／三重県立美術館(2005. 8. 6―9. 25)
- ◆「構造社―昭和初期彫刻の鬼才たち」展  
福井市美術館(2005.6.18―7.18)／宇都宮美術館(2005.9.11―10.23)／札幌  
芸術の森美術館(2005.10.30―2006.1.15)／松戸市立博物館(2006.1.28―  
2.26)
- ◆「東山魁夷展―自然とともに―」  
メナード美術館(2005. 7. 7―8. 28)
- ◆「自然と美の饗宴 東山魁夷展―戦後新しい日本画を求めて―」展  
香川県立東山魁夷せとうち美術館(2005. 10. 8―11. 20)
- ◆「昭和の美術 1945年まで―〈目的芸術〉の軌跡」展  
新潟県立近代美術館(2005. 11. 3―12. 11)

### 2-2 工芸館

貸 与 36件(296点)  
 特別観覧 38件(98点)

**展覧会協力** 以下の展覧会に、作品を多数貸し出すなどの協力を行った。

#### ◆展覧会名

会場(会期)

- ◆「アール・デコ展 ART DECO 1910-1939」展  
東京都美術館他(2005. 4. 16―11. 6)
- ◆「東京国立近代美術館所蔵品による一名品でたどる 近代日本工芸の歩  
み」展  
三重県立美術館(2005. 10. 4―11. 13)
- ◆「日本の伝統衣装―きものを支える人々―「今に伝えるつむぎの魅力―」  
シルク博物館(2005. 10. 8―2005. 11. 13)
- ◆「日本のわざと美」展―重要文化財とそれを支える人々―  
茨城県陶芸美術館、大阪歴史博物館(2005. 11. 19―2006. 2. 27)
- ◆「人間国宝展」  
日本橋高島屋、ジェイアール名古屋高島屋他(2006. 1. 2―10. 2)
- ◆「日本陶芸100年の精華」展  
茨城県陶芸美術館(2006. 1. 21―2006. 3. 20)

### ◆一條彰子

「作品および関連情報」、「作品選択について」／『美術を身近なものにするために—鑑賞実践ガイド』／鑑賞教育研究プロジェクト(平成15年度～平成17年度科学研究費補助金研究(研究代表者：石川誠(京都教育大学)))

「美術館を利用した学校の鑑賞教育を広めるために」／前掲科研成果報告書  
「日本の美術館教育事情—学校連携に向けての提言」、「美術館教育探求」、「調査報告」／『SoVA2005 子どもは美術で何を学ぶのか?』平成17年度～19年度科学研究費補助金成果報告書(研究代表者：橋本泰幸(鳴門教育大学))

「育てたい美術館好きの子ども」／『日本経済新聞(夕刊)』2005年11月18日  
執筆・編集／東京国立近代美術館体験型ワークシート『MOMATかんさつ日記』  
発表「日本の美術館教育事情」／前掲科研公開研究会、東京国立近代美術館会議室、平成18年1月28日

発表「科研費研究活動報告」／全国美術館会議第30回教育普及部会会合、国立西洋美術館講堂、平成18年3月9日

### ◆大谷省吾

編集／『東京国立近代美術館 所蔵品目録 水彩・素描 書 彫刻(立体造形) 資料 戦争記録画』

Chapter 3 Art during and after the War/Gallery Guide to the Collection of The National Museum of Modern Art, Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History

「キュビズムと日本」／『アジアのキュビズム展』カタログ

「吉原治良研究のこれまでとこれから」、「第3章 戦時中の絵画 二つの風景」、「文献目録」、「出品展覧会記録」／『吉原治良展』カタログ

「一九三〇年協会のメディア戦略と外山卯三郎」／東京文化財研究所編『大正期美術展覧会の研究』、東京文化財研究所

「広告と商業美術」／『コレクション・モダン都市文化』第10巻、ゆまに書房  
「シュルレアリスムの影響を受けた日本の画家たちにおける、性と死の表象について」／『藝叢』22号、筑波大学芸術学研究室

「変容する眼 瑛九のフォトコラージュについて」／『現代の眼』551号

「近代美術の東京」／『読売新聞(都内版)』(毎月一回連載)

講演「総合芸術への夢 実験工房の舞台作品を中心に」／神奈川県立近代美術館、平成18年2月19日

### ◆尾崎正明

Chapter 1-1 Art in the Meiji and Taisho Periods—Around the Launch of the Bunten/Gallery Guide to the Collection of The National Museum of Modern Art, Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History

「小林古径について」、作品解説／『小林古径展』カタログ

「藤田嗣治について」、章解説、コラム、年譜／『藤田嗣治展』カタログ

総説、作品解説／『作品集 加山又造』、共同通信社

### ◆蔵屋美香

編集／『東京国立近代美術館 所蔵品目録 水彩・素描 書 彫刻(立体造形) 資料 戦争記録画』

Chapter 2-1 Art of the Prewar Showa Period—Artists in the Modern City/Gallery Guide to the Collection of The National Museum of Modern Art, Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History

作家解説／『ドイツ写真の現在　かわりゆく「現実」と向かいあうために』展  
カタログ

「皮膚を切り裂く―藤田嗣治のふたつのモチーフ」、作品解説、コラム／  
『藤田嗣治展』カタログ

「壁画とタブロー―1900―1940年代」／木下直之編『講座日本美術史　6　美  
術を支えるもの』、東京大学出版会

「在外研修報告　イギリスでの研修を終えて―ホワイトチャペル・アート  
ギャラリーおよびエンゲージでの経験から」／『現代の眼』552号

「原田直次郎作《騎龍観音》について―ミュンヘンと護国寺と」／『現代の眼』  
553号

「展覧会予告　藤田嗣治展　パリを魅了した異邦人」／『現代の眼』556号  
発表「裸体の居場所　1900―1945年」／東京文化財研究所、平成17年12月14日

#### ◆鈴木勝雄

Chapter 4 Art in the 1950s and 1960s/*Gallery Guide to the Collection of The National  
Museum of Modern Art, Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History*

作家略歴／『アジアのキュビズム展』カタログ

作品解説／『藤田嗣治展』カタログ

「東松照明『太陽の鉛筆』について(図書資料)」／『東京国立近代美術館研究  
紀要』第10号

#### ◆都築千重子

編集／『東京国立近代美術館　所蔵品目録　水彩・素描　書　彫刻(立体造  
形)　資料　戦争記録画』

Chapter 2-2 Art of the Prewar Showa Period—Maturity of *Nihonga* (Japanese-Style  
painting) and *Yoga* (Western Style painting)/*Gallery Guide to the Collection of The  
National Museum of Modern Art, Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History*

作家・作品解説　横山操《清雪富士》、村山槐多《バラと少女》／『大いなる遺  
産　美の伝統展』カタログ、東京美術倶楽部、平成18年2月

「見ることと意識の覚醒：写真映像と版画―木村光佑と野田哲也を中心に」  
／『現代の眼』556号

「谷中安規《ロケーション》　1933年　夢へいざなう自由人―近代美術の東  
京」／『読売新聞』(都内版)平成18年9月2日

「三宅克己《上州妙義山》」／『文部科学時報』1551(平成17年6月号)2005  
(平成17)年6月

#### ◆中林和雄

編集／『東京国立近代美術館　所蔵品目録　水彩・素描　書　彫刻(立体造  
形)　資料　戦争記録画』

Introduction/*Gallery Guide to the Collection of The National Museum of Modern Art,  
Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History*

「キリンのモザイク」／『長沢秀之展』カタログ、アートトレースギャラリー

「リチャード・セラ、あるいは時限装置」／「Fuji Xerox Print Collection Richard  
Serra」展カタログ、Art Space by Fuji Xerox

「沈黙の声―遠藤利克　ビル・ヴィオラ　キムスージャ」／『現代の眼』553号

「今日の安井曾太郎―肖像画と風景画」／『現代の眼』554号

◆中村麗子

編集／『東京国立近代美術館 所蔵品目録 水彩・素描 書 彫刻(立体造形) 資料 戦争記録画』

作品解説、年譜、参考文献／『小林古径展』カタログ

作品解説／『大いなる遺産 美の伝統展』カタログ、東京美術倶楽部

作品解説／『作品集 加山又造』、共同通信社

作品解説「下村観山 弱法師」／『國華』1316号、朝日新聞社

「小林古径の落款、印章について」／『東京国立近代美術館研究紀要』10号

「近代美術の東京 長谷川利行 新宿風景」／『読売新聞』(都内版) 2005年4月12日

◆保坂健二郎

作家解説／『ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために』展カタログ

「Jun Aoki」／『Museums in the 21st Century: Concepts Projects Buildings』(共著)に所収予定

「墓から展覧会へのシフト オーヴェールを訪れて」／『美術手帖』863号、美術出版社

「配色や構図の実験? ヴァリエーションが証すユニークな方法論」／『美術手帖』863号、美術出版社

「カプアと産業遺跡のマッチング」／『美術手帖』864号、美術出版社

「アムス登、エゴン・シーレの身体 —アブラモヴィッチとドウ・シャステルのダンス・オマージュ」／『美術手帖』868号、美術出版社

「パウル・クレー・センター、ついにベルンにオープン!」／『美術手帖』868号、美術出版社

「絵画の黙示録」／『美術手帖』869号、美術出版社

「いまこそ表現への欲望を捨てよ」／『美術手帖』874号、美術出版社

インタビュー「岡崎乾二郎」／『美術手帖』874号、美術出版社

「大衆の欲望を美術館は一戦後60年のミュンヘンで思う」／『すばる』2005年9月号、集英社

「新しく生きるために勇気を出して笑うこと」／『すばる』2005年10月号、集英社

「そこに愛はあるのか」／『すばる』2005年11月号、集英社

「美術批評は赤ちゃんのように無謀たれ」／『すばる』2005年12月号、集英社

「再制作を壊す身体」／『すばる』2006年1月号、集英社

「青森で、建築は演劇を孕んだ」／『すばる』2006年2月号、集英社

「長崎に、祈りの空間を見た」／『すばる』2006年3月号、集英社

若手研究者フォーラムにおけるコメンテーター／第56回美学会全国大会、慶應義塾大学、2005年10月

◆古田 亮

Chapter 1-2 Art in the Meiji and Taisho Periods—Humanism in the Taisho Period/  
*Gallery Guide to the Collection of The National Museum of Modern Art, Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History*

「小林古径をめぐる、5つの断章」、作品解説／『小林古径展』カタログ

作品解説／『作品集 加山又造』、共同通信社

「官展・院展の日本画—琳派的傾向を中心に」／東京文化財研究所編『大正期美術展覧会の研究』、中央公論美術出版

「近代日本画と琳派」、「琳派からRIMPAへ」／『琳派RIMPA 国際シンポジウム報告書』、ブリュッケ

『狩野芳崖・高橋由一』／ミネルヴァ書房、平成18年

「土田麦僊試論—《明粧》を中心に」／『ミュージアム』599号、東京国立博物館

「吉川霊華の人と作品」／『現代の眼』556号

#### ◆増田 玲

章解説、作家解説／『ドイツ写真の現在—かわりゆく「現実」と向かいあうために』展カタログ

『『時代の顔』とく20世紀の人間』／『アウグスト・ザンダー展』会場パンフレット

「三宅克己と『趣味』の写真」／東京文化財研究所編『大正期美術展覧会の研究』、中央公論美術出版

#### ◆松本 透

Chapter 5 Contemporary Art, the 1970s and Beyond/*Gallery Guide to the Collection of The National Museum of Modern Art, Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History*

「キュビズムにおける身体」／『アジアのキュビズム』展カタログ

章解説、作品解説／『吉原治良展』カタログ

「身体／ジェンダー／色彩／装飾」／『国際シンポジウム2005「アジアのキュビズム—境界なき対話」報告書』、国際交流基金

「国際シンポジウム〈アジアのキュビズム〉」／『現代の眼』554号

#### ◆三輪健仁

編集／『東京国立近代美術館 所蔵品目録 水彩・素描 書 彫刻(立体造形) 資料 戦争記録画』

編集/*Gallery Guide to the Collection of The National Museum of Modern Art, Tokyo—Modern Japanese Art, A Concise History*

「コラム 『物語る』ための『フィールド』」／『アジアのキュビズム』展カタログ

#### ◆水谷長志

「独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム(<http://search.artmuseums.go.jp>)の公開について」／『アート・ドキュメンテーション通信』67号、アート・ドキュメンテーション研究会

「美術展カタログの収集と提供—ALCとJACのプロジェクトを通して」／『図書館雑誌』99巻9号、日本図書館協会、[発表]平成17年度全国図書館大会第5分科会(専門図書館部会)、茨城県開発公社ビル大会議室、平成17年10月27日、同大会記録

「美術抄録索引(主要4オンライン)サービスにおける雑誌重複タイトルの比較調査」／『アート・ドキュメンテーション研究』13号、アート・ドキュメンテーション研究会

展覧会カタログ等資料の取り扱い及び解説(案)、コーディングマニュアル(案)／[http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/news\\_cat\\_exhibition\\_an.html](http://www.nii.ac.jp/CAT-ILL/contents/news_cat_exhibition_an.html) (平成18年4月)

◆竹内万里子

作家解説／『ドイツ写真の現在 かわりゆく「現実」と向かいあうために』展  
カタログ

編集／『アウグスト・ザンダー展』会場パンフレット

◆白濱恵里子

「調査報告」／『SoVA2005 子どもは美術で何を学ぶのか？』平成17年度～19  
年度科学研究費補助金成果報告書(研究代表者：橋本泰幸(鳴門教育大学))

執筆・編集／東京国立近代美術館体験型ワークシート『MOMATかんさつ日記』

執筆・編集／『藤田嗣治展 こどもセルフガイド』

「春休み！こども美術館【〈見る〉を育む鑑賞プログラム】」／『現代の眼』552号

「KIDS★MOMAT 2005東京国立近代美術館のなつやすみ」／『現代の眼』555号

発表「科研費研究活動報告」／全国美術館会議第30回教育普及部会会合、西  
洋美術館講堂、平成18年3月9日

2 工芸館

◆今井陽子

「伊砂利彦の型染」／『伊砂利彦一型染の美』展カタログ

「浅井忠のモダニティ」、「章・用語解説」／『日本のアール・ヌーヴォー』展  
カタログ

執筆・編集／『たんけん！こども工芸館～動物とあそぼう』セルフガイド

「たんけん！こども工芸館」／『現代の眼』542号

「伊砂利彦 《序(花のほかには 松ばかり) 長唄娘道成寺より》」／『チャイム  
銀座』第26巻第4号 通巻269号、和光

「宮川香山 《色入菖蒲図花瓶》」／『チャイム銀座』第26巻第10号 通巻275  
号、和光

「鎌倉芳太郎の“紅型”—「印金臚型着物 倉」／『淡交』第59巻 第6号 通巻726号、  
淡交社

「野口光彦「陽炎」と御所人形」／『淡交』第59巻 第11号 通巻732号、淡交社

「指先でたどる情趣—芹川英子の人形」／芹川英子『華やぐいのち：芹川英子  
作品集』、小学館

講演「近代工芸案内～名品でたどる造形の道筋」／『東京国立近代美術館工  
芸館名品展—近代工芸の清華』展、秋田市立千秋美術館、平成17年10月30日

◆金子賢治

「近代陶芸史叙説要—『工芸』と『craft』をめぐる」／『東京国立近代美術館研  
究紀要』第10号

「作品にこめられた静かな主張」／『淡交』第60巻 第1号 通巻734号、淡交社

「野坂康起の今—原点へ」／『野坂康起展』カタログ、野坂康起

「岡田裕一色と形、もしくは窯変と絞り」／『岡田裕作品集』、瞬報社

「近代工芸の創世—新たな美を求めて」／『大いなる遺産 美の伝統』展カタ  
ログ、東京美術倶楽部

Formative thinking in Fukami Sueharu: craftical formation, not studio craft/SUEHARU  
FUKAMI, exhi. Cat., Museo Internazionale delle Ceramiche in Faenza



◆唐澤昌宏

「杉浦康益の存在証明―陶による岩の群から陶の博物誌まで―」／『杉浦康益―陶の花・陶の岩・陶の木立』展カタログ、財団法人神奈川芸術文化財団  
「加藤清之の造形思考」／『土から生み出すかたち 造形の軌跡―加藤清之展』展カタログ、愛知県陶磁資料館

「千葉の陶芸に期待すること―歴史を背景にして―」／『TAIKI PLUS 別冊』、新日本教育図書株式会社

「大塚茂吉―素材と技術、内面を生かすテラコッタ」／『炎芸術』84、阿部出版株式会社

「陶工・山田常山さん」／『陶説』633号、社団法人日本陶磁協会

作家解説／『制度制定50周年記念 人間国宝展』カタログ、NHK／NHKプロモーション

作品解説／『大いなる遺産 美の伝統』展カタログ、東京美術倶楽部

「金重陶陽『備前耳付水指』と桃山時代の備前焼」／『淡交』第59巻 第5号 通巻725号、淡交社

「長野埴志と“和銚”―松林の図肩衝釜』／『淡交』第59巻 第10号 通巻731号、淡交社

作品解説／『チャイム銀座』第26巻第5号 通巻270号、和光

作品解説／『チャイム銀座』第26巻第10号 通巻275号、和光

「辻晉堂陶彫作品―その独創性について」／パネルディスカッション(米子コンベンションセンター 国際会議室、2005年9月10日)

デザインセミナー「陶磁器デザインの現況」／国際デザインセンター・プレゼンテーションルーム、2005年10月15日

◆木田拓也

「杉浦非水と三越―東京国立近代美術館所蔵の三越PR誌の表紙」／『東京国立近代美術館研究紀要』第10号

「日本のアール・ヌーヴォー：新しい芸術としての工芸」／『日本のアール・ヌーヴォー』展カタログ

作品解説／『チャイム銀座』第26巻第3号 通巻268号、和光

作品解説／『チャイム銀座』第26巻第7号 通巻272号、和光

作品解説／『チャイム銀座』第27巻第2号 通巻277号、和光

「十三代今泉今右衛門『色絵かるかや文鉢』と江戸期の色鍋島」／『淡交』第59巻 第12号 通巻733号、淡交社

「古作を模とし、新たな制作に生かす」／『淡交』第60巻 第3号 通巻736号、淡交社

◆北村仁美

「『器官』としての家具―渡辺力のデザイン」、年表作成／『渡辺力：リビング・デザインの革新』展カタログ

「ルーシー・リー《鉢》」／現代の眼556号

「高村豊周『鼎』と古代中国の青銅器」／『淡交』第59巻 第4号 通巻724号、淡交社

「中里無庵『唐津水指』と桃山の唐津焼」／『淡交』第59巻 第9号 通巻729号、淡交社

◆富田康子

「まぼろしのモダニティ 藤井達吉をめぐって」／『日本のアール・ヌーヴォー』展カタログ

「魔術師たちの贈り物」(作品解説)／『アート・トップ』第203号～第208号、芸術新聞社

「藤井達吉とその家族の女たち」『染織α』2005年10月号 No.295、染織と生活社

「富本憲吉の染織」／『染織α』2006年2月号 No.299、染織と生活社

「大木秀春『桃帯留』と江戸金工の粋」／『淡交』第59巻 第7号 通巻727号、淡交社  
作品解説／『チャイム銀座』第26巻第6号 通巻271号、和光

◆諸山正則

「斎田梅亭の截金―『截金菱華文飾篋』」／『淡交』第59巻 第8号 通巻728号、淡交社

「主題を如何に表現するか」／『淡交』第60巻 第2号 通巻735号、淡交社

二代前田竹房斎の竹工芸の研究／『人間国宝 二代前田竹房斎』展カタログ(堺市博物館)、講演

「青銅の意識」／『畠山耕治展「青銅の意識」』カタログ、高島屋

本館アートライブラリは、3,898件の図書・カタログを受け入れ、平成17年度末現在の蔵書総数は、99,730件の図書・カタログと、3,420誌の雑誌となった。また、平成17年度中に行った資料の交換件数は、国内機関との間で274件、国外機関との間で212件であった。国立西洋美術館、東京都現代美術館、横浜美術館との美術図書館横断検索ALCは、順調に稼動しており、閉架資料の利用件数が昨年度同様拡大している。アートライブラリについては、ALCの紹介とともに、日本図書館協会主催全国図書館大会(於、水戸)等でも積極的に広報された。また、来年度公開予定の国立新美術館の図書室との連繋について、資料交換を含んだ、共同的な運営を図るよう協議を進めた。アートライブラリの中核となる資料である展覧会カタログについては、国立情報学研究所(NII)コンテンツ課主催の「展覧会カタログ等の取扱いに関する検討会議」に、東京藝術大学、筑波大学、女子美術大学、国立西洋美術館とともに出席して、NACSIS-CATへの登録促進について協議し、「展覧会カタログに関する取扱い及び解説(案)」「コーディングマニュアル(展覧会カタログに関する抜粋集)(案)」を共同で策定した。また、来年度のNIIによる展覧会カタログの遡及入力事業について、参加することになった。

なお、平成17年度のアートライブラリの利用者数は2,870人(9,610件)であった。

工芸館図書室は、528件の図書・カタログ・雑誌を受け入れ、平成17年度末現在の蔵書総数は12,801点の図書・カタログと650誌の雑誌となった。近年の工芸館の新収藏品でも増えつつあるイギリスを中心とした欧米の工芸に関する研究書を収集するとともに工芸制作の現場や作家の言葉を収録したビデオを収集した。

なお、平成17年度の図書閲覧室の利用者数は479人(1,624件)であった。個人的な調査を目的とした利用者以外にも、工芸館で開催中の展覧会に関連した資料を閲覧する利用者の増加を見た。

[本館]

#### ①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	187	567	20	774	21,745冊
洋図書	34	220	79	333	9,527冊
国内展覧会カタログ	3	1,224	334	1,561	40,842冊
海外展覧会カタログ	12	631	587	1,230	27,616冊
和雑誌	—	—	—	—	2,624誌
洋雑誌	—	—	—	—	796誌
計	236	2,642	1,020	3,898	99,730

## ②アーツライブラリ(本館2階)公開活動

開室日数	218日
公開件数	9,610件
入室者数	2,870人
公開請求件数	1,722件

## [工芸館]

### ①収集活動

種別	購入	寄贈	遡及入力	計	収蔵総点数
和図書	94	171	7	272	4,683冊
洋図書	3	7	0	10	528冊
国内展覧会カタログ	0	352	21	373	7,076冊
海外展覧会カタログ	1	24	23	48	639冊
和雑誌	—	—	—	—	589誌
洋雑誌	—	—	—	—	67誌
計	98	554	51	703	13,582

## ②図書閲覧室(工芸館1階)公開活動

開室日数	168日
公開件数	1,624件
入室者数	479人
公開請求件数	354件

## 1-2 児童生徒を対象とした事業

### 1-2-1 本館

◆小・中・高校生に対するギャラリートーク、ガイダンス、職場見学等の対応を随時行った。

小学校：4件(151人)

中学校：17件(220人)

高校：2件(181人)

うち、児童生徒へのギャラリートークにボランティアが活動した件数 8件

◆教員及び教育関係者への協力

・小中高校教員及び教育関係者の研究会等への協力(講演、展示解説等)：4件  
板橋区立中学校教育研究会美術部会、東京都図画工作研究会、水戸工業高校、練馬区図画工作研究部

・教職員鑑賞プログラム

「ゴッホ展—孤高の画家の原風景」教職員研修会 2回(うち平成17年度実施は1回)

日時：平成17年3月31日(木)午後2時から午後3時

4月15日(木)午後4時から午後5時30分

講師：保坂健二郎(企画課研究員)

参加者数：128名／107名

「近代日本画の名匠—小林古徑展」美術館活用研究会

日時：平成17年6月10日(金)午後4時から午後5時15分

講師：尾崎正明(副館長)

参加者数：66名

「生誕120年 藤田嗣治展—パリを魅了した異邦人」美術館活用研究会

日時：平成17年3月31日(金)午後3時30分から午後4時45分

講師：蔵屋美香(美術課主任研究官)

参加者数：108名

◆小・中学生向けプログラム

「夏休み！こども美術館」として、夏休みの期間中、ボランティアのガイドスタッフによる、ギャラリートーク(所蔵作品解説)及びワーク(所蔵作品解説と連動した制作実習)の小中学生向けプログラムを行った。

小学生プログラム 4回(117名)

日時：平成17年8月6日(土)、7日(日)

中学生プログラム 6回(144名)

日時：平成17年7月29日(金)、8月2日(火)、3日(水)

◆こどもセルフガイド

・小・中学生を対象として、所蔵品展に関連したこどもセルフガイド「東京国立近代美術館体験型ワークシート MOMATかんさつ日記」を作成し、来館した小・中学生に配布し、鑑賞の一助となるようにした。





・小・中学生を対象として、企画展「ゴッホ展—孤高の画家の原風景」に関連したこどもセルフガイド「ゴッホ展こどもセルフガイド」を作成し、学校等に配布するとともに、来館した小・中学生に配付し、鑑賞の一助となるようにした。

・小・中学生を対象として、企画展「生誕120年藤田嗣治展—パリを魅了した異邦人」に関連したこどもセルフガイド「フ・ジ・タッてどんなひと？—フジタの絵の世界を旅してみよう」を作成し、学校等に配布するとともに、来館した小・中学生に配付し、鑑賞の一助となるようにした。

#### ◆ホームページによる広報

当館の主要作品の図版・解説が掲載された「こどものページ」を運営した。

◆夏休み企画として、本館・工芸館・フィルムセンター共同スタンプラリー「KIDS★MOMAT」を行った。

### 1-2-2 工芸館

◆平成17年度の小・中・高校生の受け入れ実績は以下のとおりである。

中学校：2件(9人)

(参考)小中学校の教員の研究会：2件(28名)

(参考)小学生を対象とした工芸鑑賞プログラム作成のための共同研究(24名)

◆工芸館ガイドスタッフによる児童生徒を対象としたトシヨップ「どきどき！こども工芸館」を実施し、鑑賞と小品制作の2つの観点から工芸作品のーク&ワーク理解を深めた。

◆所蔵作品展「動物とあそぼう」の会期中、小・中学生を対象とした鑑賞補助教材「たんけん！こども工芸館」を配布し、スタンプラリーの形式も採用して楽しみながら工芸に関するクイズに答える手法で鑑賞の幅を広げる工夫をした。また、動物をテーマとする出品作の絵とコメントを記入して工芸館2階休憩室に掲示する「動物にがえ大会」を実施し、絵と言葉の2つの方法で作品鑑賞から得たイメージを表現する試みを行った。さらに、出品作家・島添昭義氏を招いてワークショップを行い、機能を実現しながら自由なイメージをふくらませてものづくりを行う工芸作品の理解を実践的に検証した(参加人数：小学生13人、未就学児3人)。

◆文京区小学校と共同して小学生を対象とした鑑賞教育のモデルケース作成の試みを行った(参加人数：24人)。その際、当館で実施中のタッチ&トークの方式を採用した。

◆「ゴッホ展 孤高の画家の原風景」講演会

「ファン・ゴッホをめぐる『物語』の系譜」

日時：平成17年4月2日(土) 午後2時から午後3時

講師：国府寺司(大阪大学教授)

聴講者数：110名

◆「近代日本画の名匠 小林古径展」講演会

「小林古径の芸術と生涯」

日時：平成17年7月2日(土) 午後2時から午後3時

講師：尾崎正明(副館長)

聴講者数：175名

「技法から見た古径作品の魅力」

日時：平成17年7月9日(土) 午後2時から午後3時

講師：田淵俊夫(日本画家)

インタビュアー：古田 亮(企画課主任研究官)

聴講者数：154名

◆「アジアのキュビズム 境界なき対話」展トークイベント

日時：平成17年8月27日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：中村一美(美術家)&松本 透(企画課長)

聴講者数：54名

日時：平成17年9月17日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：木下長宏(評論家)&林 道郎(上智大学教授)

聴講者数：56名

◆「アジアのキュビズム 境界なき対話」展ギャラリートーク

日時：平成17年9月3日(土) 午後2時から午後3時

講師：松本 透(企画課長)

聴講者数：25名

日時：平成17年9月24日(土) 午後2時から午後3時

講師：三輪健仁(美術課研究員)

聴講者数：34名

◆「ドイツ写真の現在 かわりゆく『現実』と向かいあうために」展トークイベント

日時：平成17年10月28日(金) 午前7時から午後8時

講師：ハンス＝クリスティアン・シンク、リカルド・ロッガン(出品作家)

聴講者数：95名

「自作について」

日時：平成17年10月29日(土) 午後2時から午後4時

講師：トーマス・デマンド(出品作家)

聴講者数：154名

◆「ドイツ写真の現在 かわりゆく『現実』と向かいあうために」展ギャラリートーク

日時：平成17年11月4日(金) 午後6時から午後7時

講師：増田 玲(美術課主任研究官)

聴講者数：52名

日時：平成17年11月18日(金) 午後6時から午後7時

講師：蔵屋美香(美術課主任研究官)

聴講者数：84名

日時：平成17年11月26日(土) 午後2時から午後3時

講師：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：65名

◆「アウグスト・ザンダー展」講演会

「顔と身振りーザンダーを中心にー」

日時：平成17年11月19日(土) 午後2時から午後3時

講師：多木浩二(評論家)

聴講者数：147名

◆「アウグスト・ザンダー展」ギャラリートーク

日時：平成17年12月9日(金) 午後6時から午後7時

講師：増田 玲(美術課主任研究官)

聴講者数：63名

◆「須田国太郎展」講演会

「須田国太郎 能・狂言デッサンの世界ー能と絵画の至福の出会い」

日時：平成18年1月28日(土) 午後2時から午後3時30分

講師：天野文雄(大阪大学大学院教授)

聴講者数：71名

主催：東京国立近代美術館、大阪大学、大阪大学附属図書館

「堂々たる異色 須田国太郎」

日時：平成18年2月4日(土) 午後2時から午後3時45分

講師：島田康寛(京都国立近代美術館学芸課長)

聴講者数：81名

◆「須田国太郎」展ギャラリートーク

日時：平成18年1月20日(金) 午後6時から午後7時

講師：古田 亮(企画課主任研究官)

聴講者数：48名

日時：平成18年2月10日(金) 午後6時から午後7時

講師：古田 亮(企画課主任研究官)

聴講者数：57名

◆研究員による所蔵品ガイド

「絵の中の歴史」

日時：平成17年6月11日(土) 午後2時から午後3時

担当研究員：古田 亮(企画課主任研究官)

聴講者数：37名



「中村不折の芸術」

日時：平成17年7月30日(土) 午後2時から午後3時

担当研究員：中村麗子(美術課研究員)

聴講者数：40名

日時：平成17年10月8日(土) 午後2時から午後3時

担当研究員：一條彰子(企画課主任研究官)

聴講者数：36名

日時：平成18年3月11日(土) 午後2時から午後3時

担当研究員：都築千重子(美術課主任研究官)

聴講者数：37名

◆研究員によるハイライト・ツアー

日時：平成17年4月3日(日) 午前11時から午後0時

担当研究員：中村麗子(美術課研究員)

聴講者数：30名

日時：平成17年6月19日(日) 午前11時から午後0時40分

担当研究員：古田 亮(企画課主任研究官)

聴講者数：30名

日時：平成17年7月3日(日) 午前11時から午後0時

担当研究員：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：40名

日時：平成17年8月7日(日) 午前11時から午後0時20分

担当研究員：増田 玲(美術課主任研究官)

聴講者数：36名

日時：平成17年9月4日(日) 午前11時から午後1時

担当研究員：都築千重子(美術課主任研究官)

聴講者数：35名

日時：平成17年10月2日(日) 午前11時から午後0時30分

担当研究員：一條彰子(企画課主任研究官)

聴講者数：42名

日時：平成17年11月6日(日) 午前11時から午後0時40分

担当研究員：大谷省吾(美術課主任研究官)

聴講者数：40名

日時：平成17年12月4日(日) 午前11時から午後0時

担当研究員：都築千重子(美術課主任研究官)

聴講者数：35名

日時：平成18年1月2日(月) 午前11時から午後0時

担当研究員：蔵屋美香(美術課主任研究官)

聴講者数：20名

日時：平成18年1月3日(火) 午前11時から午後0時

担当研究員：保坂健二郎(企画課研究員)

聴講者数：16名

日時：平成18年2月5日(日) 午前11時から午後0時  
担当研究員：鈴木勝雄(企画課主任研究官)  
聴講者数：20名

日時：平成18年3月5日(日) 午前11時から午後0時  
担当研究員：一條彰子(企画課主任研究官)  
聴講者数：47名

◆研究員によるフライデー・トーク

「1920年前後—キュビズム・未来派・構成主義の影響を中心に」  
日時：平成17年4月15日(金) 午後6時から午後7時  
担当研究員：三輪健仁(美術課研究員)  
聴講者数：32名

「1920年代の絵画」  
日時：平成17年5月13日(金) 午後6時から午後6時50分  
担当研究員：松本 透(企画課長)  
聴講者数：63名

「瑛九とオノサトシノブ」  
日時：平成17年6月24日(金) 午後6時から午後6時50分  
担当研究員：大谷省吾(美術課研究員)  
聴講者数：22名

「大正の写実主義」  
日時：平成17年7月15日(金) 午後6時から午後7時  
担当研究員：古田 亮(企画課主任研究官)  
聴講者数：57名

「原田直次郎作《騎龍観音》のなぞと魅力にせまる」  
日時：平成17年8月26日(金) 午後6時から午後6時50分  
担当研究員：蔵屋美香(美術課主任研究官)  
聴講者数：30名

「沈黙の声—遠藤利克 ビル・ヴィオラ キムスージャ」  
日時：平成17年9月16日(金) 午後6時から午後7時  
担当研究員：中林和雄(美術課長)  
聴講者数：15名

「終わりのない《生々流転》についての終わりのない話」  
日時：平成17年10月28日(金) 午後6時から午後6時50分  
担当研究員：古田 亮(企画課主任研究官)  
聴講者数：53名

「センス・オブ・ワンダー：驚嘆する感性」  
日時：平成17年11月25日(金) 午後6時から午後7時  
担当研究員：鈴木勝雄(企画課主任研究官)  
聴講者数：24名

「絵画を、空気の捉え方から見てみると…」  
日時：平成18年1月27日(金) 午後6時から午後6時50分  
担当研究員：保坂健二郎(企画課研究員)  
聴講者数：16名

「北脇昇：須田国太郎の弟子から前衛の道へ」

日時：平成18年2月17日(金) 午後6時から午後6時50分

担当研究員：大谷省吾(美術課主任研究官)

聴講者数：25名

「大正期の絵画から」

日時：平成18年3月3日(金) 午後6時から午後6時50分

担当研究員：松本 透(企画課長)

聴講者数：38名

#### ◆アーティスト・トーク

日時：平成17年6月10日(金) 午後6時30分から午後7時30分

アーティスト：堂本右美(画家)

聴講者数：55名

日時：平成17年7月29日(金) 午後6時30分から午後7時40分

アーティスト：石内 都(写真家)

聴講者数：78名

日時：平成17年10月14日(金) 午後6時30分から午後7時40分

アーティスト：黒川弘毅(彫刻家)

聴講者数：34名

日時：平成18年1月13日(金) 午後6時30分から午後7時30分

アーティスト：日高理恵子(画家)

聴講者数：106名

日時：平成18年3月31日(金) 午後6時30分から午後7時40分

アーティスト：池田良二(版画家)

聴講者数：142名

### 1-3-2 工芸館

#### ◆「伊砂利彦 型染の美」展ギャラリートーク

日時：平成17年4月29日(金・祝) 午後2時から午後3時

講師：伊砂利彦(出品作家)

聴講者数：81名

日時：平成17年5月22日(日) 午後2時から午後3時

講師：佐治ゆかり(福島県立美術館主任学芸員)

聴講者数：40名

日時：平成17年5月29日(日) 午後2時から午後3時

講師：伊砂利彦(出品作家)

聴講者数：95名

日時：平成17年6月5日(日) 午後2時から午後3時

講師：金子賢治(工芸課長)

聴講者数：72名

日時：平成17年6月19日(日) 午後2時から午後3時  
講師：今井陽子(工芸課主任研究官)  
聴講者数：41名

◆「伊砂利彦 型染の美」展レクチャー&ピアノ

日時：平成17年5月15日(日) 午後2時から午後3時  
講師：青柳いづみこ(ピアニスト・ドビュッシー研究家)  
聴講者数：108名

◆「日本のアール・ヌーヴォー」展ギャラリー・トーク

日時：平成17年9月25日(日) 午後2時から午後3時  
講師：今井陽子(工芸課主任研究官)  
聴講者数：12名

日時：平成17年10月9日(日) 午後2時から午後3時  
講師：小泉和子(京都女子大学教授)  
聴講者数：101名

日時：平成17年10月30日(日) 午後2時から午後3時  
講師：富田康子(工芸課客員研究員)  
聴講者数：15名

日時：平成17年11月6日(日) 午後2時から午後3時  
講師：前川公秀(千葉県立美術館学芸課長)  
聴講者数：45名

日時：平成17年11月20日(日) 午後2時から午後3時  
講師：木田拓也(工芸課研究員)  
聴講者数：20名

◆「渡辺力：リビング・デザインの革新」展ギャラリー・トーク

日時：平成18年1月21日(土) 午後3時から午後4時  
講師：諸山正則(工芸課主任研究官)  
聴講者数：75名

日時：平成18年2月11日(土) 午後3時から午後4時20分  
講師：渡辺力(出品作家)、山本章(プロダクトデザイナー)  
聴講者数：210名

日時：平成18年2月18日(土) 午後3時から午後4時  
講師：北村仁美(工芸課研究員)  
聴講者数：34名

◆「花・人間国宝」展ギャラリートーク

日時：平成17年4月3日(日) 午後2時から午後3時  
講師：諸山正則(工芸課主任研究官)  
聴講者数：51名

◆「動物とあそぼう」展ギャラリートーク

日時：7月17日(日) 14時～15時  
担当研究員：北村仁美(工芸課研究員)  
聴講者数：16名

日時：7月31日(日) 14時～15時

講師：木村政司(サイエンティフィック・イラストレーター、日本大学芸術学部教授)

聴講者数：34名

日時：8月14日(日) 14時～15時

担当研究員：富田康子(工芸課客員研究員)

聴講者数：11名

日時：8月28日(日) 14時～15時

担当研究員：富田康子(工芸課客員研究員)

聴講者数：23名出品作家によるトーク

◆「工芸の百年」展ギャラリートーク

日時：12月18日(日) 午後2時から午後3時

担当研究員：今井陽子(工芸課主任研究官)

聴講者数：18名

日時：平成18年1月20日(日) 午後2時から午後3時

講師：エドモンド・ドウ・ヴァール(陶芸家)

聴講者数：22名

日時：1月22日(日) 午後2時から午後3時

担当研究員：金子賢治(工芸課長)

聴講者数：42名

日時：2月12日(日) 午後2時から午後3時

担当研究員：富田康子(工芸課客員研究員)

聴講者数：23名

◆「花より工芸」展ギャラリートーク

日時：3月26日(日) 午後2時から午後3時

担当研究員：木田拓也(工芸課研究員)

聴講者数：16名

## 1-4 大学等との連携

### 1-4-1 本館

#### ◆博物館実習生

受入期間 平成17年8月22日～平成17年8月26日(5日間)

参加者数 10人

実習内容 講義・館内見学・ギャラリートーク実施・展示プラン立案など。「来館者に作品を伝える工夫」というテーマを設定。実習として、最終日に所蔵作品のギャラリートーク(解説)を行った。

#### 実習日程

8月22日 ガイダンス／館の概要・理念と方針／企画渉外係の仕事・グループワーク「展覧会をつくる」

8月23日 教育普及係の仕事／情報資料係の仕事・ライブラリ紹介・文献の調べ方／所蔵品ガイド見学／課題説明・課題準備

8月24日 展示係の仕事・所蔵品ギャラリー見学／絵画彫刻係の仕事・収蔵庫見学／課題準備

8月25日 写真係の仕事・収蔵庫見学／版画係の仕事・収蔵庫見学／質疑応答／課題準備

8月26日 トーク発表／総合ディスカッションとまとめ

#### ◆大学、生涯学習施設等の授業への協力(講演会、展示解説等を実施)

大学授業、学会等への協力 2件 2回 (46人)

玉川大学、岐阜女子大学

#### 大学生のインターンシップ受入

玉川大学(教育普及係にて6月から9月にかけて2名を受入)

生涯学習施設等への協力 5件 5回 (99人)

東京後楽ロータリークラブ(35人)、船橋市老人大学校(10人)、とやま美術館探訪友の会(13人)、生涯自遊倶楽部(29人)、いいな会(12名)

#### ◆大学等との協力のもとに講演会を実施

開催日：1月28日

参加者数 71人

事業内容：

「須田国太郎展」に特別協力をしている大阪大学、同大学附属図書館との共催により、同大学教授で附属図書館副館長でもある天野文雄氏が講演を行った。同大学附属図書館が所蔵する須田国太郎の能・狂言デッサンについて、能楽研究を専門とする天野氏がその近代能楽史資料としての希少性、重要性を論じた。

## ◆博物館実習生

受入期間 平成15年8月22日～平成15年8月26日(5日間)

開催場所 工芸館(会議室)

参加者数 6人(平成16年度実績4人)

担当した研究員数 7人(客員研究員を含む)

実習内容 講義、館内見学、作品取り扱いなど。

## ◆その他の連携・協力

〈校外授業として作品熟覧 3件〉

平成17年4月13日(東京国際ガラス学院15名)

平成17年6月20日・21日(多摩美術大学生産デザイン学科2・3年60名)

平成18年1月22日・23日(女子美術大学9名)

## 1-5 ボランティア

### 1-5-1 本館

常設展開館日の午後2時より約1時間、来館者との対話を交えながら、所蔵作品についてのギャラリートークを行った。また、春夏の「こども美術館」や学校からの申し込みに対して、小・中学生へのギャラリートークや制作指導、一般団体からの申し込みに対して、ギャラリートークを行った。常設展の展示替えごとに例会を開催し、研究員の展示に関する講義を受け、その時々の問題点等について協議しながら、トーク・プログラムを運営した。7月1日から8月31日にかけて解説ボランティア2期生を募集したところ、10名前後の枠に対し93名の応募があった。企画課職員と庶務課職員による書類選考、面接を実施し、12名を採用した。10月から12月にかけて、近代日本美術史講義やトーク実習等を含めた「2期養成研修」を7回実施した。2期生は1月より活動を開始した。

#### MOMATガイドスタッフによる所蔵品ガイド

登録人数：31名

延べ回数：281回(参加者：4,112名)

(平成16年度会期5のうち4月1日～5月22日) 49回／1,182人

会期1 36回／877名

会期2 59回／509名

会期3 61回／691名

会期4 59回／641名

会期5 17回／212名

活動内容：開館日の毎日午後2時より約1時間、来館者との対話を交えながら、所蔵作品についてのギャラリートークを行った。



会期中の毎水曜日と土曜日の午後2時からボランティアスタッフ(工芸館ガイドスタッフ)によるガイド〈タッチ&トーク〉を実施した。約60分間で行うガイド内容は、会場で展覧会の見所やさまざまなエピソードを紹介し、その内容にあわせ、1階会議室に設けた〈さわってみようコーナー〉で、所蔵作家等の資料や作品(所蔵登録外)に触れながら鑑賞する。また「どきどき！こども工芸館」では、児童生徒の夏休みにあわせた鑑賞機会の充実を促進するために、対象年齢を限定した〈タッチ&トーク〉を実施し、そこで得た印象を小品の作成を通して表現する試みを行った。また、英語によるガイド(2回)やハンディキャップを持った方へのガイド(1回)を実施した。展示ごとに内容等に関する担当研究員のレクチャーを行い、さらにフォローアップ研修等を重ねることで、ガイドの実力を高めるとともに、活動意欲の向上を図った。

登録人数：19名

【タッチ&トーク】

延べ回数：91回

参加者：タッチ967名・会場トーク1,134名)

【どきどき！こども工芸館】

延べ回数：3回

参加者：47名

【英語タッチ&トーク】

延べ回数：2回

参加者：14名



## 小林古径展

29×22.5cm / 236p

本文：

小林古径について(尾崎正明)

小林古径をめぐる、5つの断章(古田亮)

About Kokei Kobayashi (Masaaki Ozaki)

Five Aspects of Kokei Kobayashi (Ryo Furuta)

出品目録

第1章 明治—歴史画からの出発

第2章 大正—ロマン主義の華やぎ

第3章 昭和—円熟期の古径芸術

Ⅰ 生命への賛歌

Ⅱ 花と実と—自然をみつめて

Ⅲ 人の姿—祈り／暮らし

年譜(中村麗子編)

参考文献(中村麗子編)

落款印譜集

出品作品一覧

編集担当：尾崎正明／古田亮／中村麗子

翻訳：小川紀久子／マーサ・マクリントク

編集：東京国立近代美術館／日本経済新聞社

制作：エディタス

印刷：大日本印刷

発行：日本経済新聞社 ©2005



## アジアのキュビズム—境界なき対話

30×21cm / 日英語版296p (販売版212p)

付属資料：アジアのキュビズム年譜

29×20cm (四つ折り)

本文：

序論 アジアのキュビズム(建畠哲)

Part 1

第1章 テーブルの上の実験(林道郎)

〈コラム1〉「物語る」ための「フィールド」(三輪健仁)

第2章 キュビズムと近代性(アフマド・マシャディ)

〈コラム2〉国際都市：東京・上海・シャンティニケタン(建畠哲)

〈コラム3〉留学のかたち(林道郎)

テーマ1 キュビズムと戦争(崔銀珠)

第3章 身体(松本透)

〈コラム4〉外国人教師(後小路雅弘)

テーマ2 母と子(金仁恵)

第4章 キュビズムと国土(後小路雅弘)

〈コラム5〉ピカソー1940年代から50年代のアジア諸国における受容(金仁恵)

テーマ3 宗教と神話(ジョイス・ファン)

Part 2 キュビズム受容史(各国編)

中国(李超)

インド(ガヤトリ・デヴィ・シンハ)

インドネシア(リスキー・A・ザエラニ)

日本(大谷省吾)

韓国(金英那)

フィリピン(パトリック・D・フローレス)

シンガポール／マレーシア(アフマド・マシャディ)

スリランカ(ジャガト・ウィーラシンハ)

タイ(スティ・クナーウィッチャヤーノン)

Part 3 資料編

作家略歴  
用語解説  
参考文献  
出品リスト

編集担当：東京国立近代美術館：三輪健仁／鈴木勝雄／松本透  
国際交流基金：古市保子

編集補助：西野華子(国立新美術館)／帆足亜紀／石神森

編集協力：工作舎：米沢敬／田中健一郎

テキスト：建畠哲／林道郎／後小路雅弘／松本透／三輪健仁／大谷省吾／鈴木勝雄／西野華子／アフマド・マシャディ／ジョイス・ファン／崔銀珠／金仁恵／ガヤトリ・デヴィ・シンハ／ジャガト・ウィーラシンハ／スティ・クナーウィッチャヤーノン／リスキー・A・ザエラニ／金英那／パトリック・D・フロース／李超

英文和訳：木下哲夫／山本仁志／西野華子／佐藤実／帆足亜紀／難波祐子／堀川理沙／崔敬華／飯田志保子／山本敦夫

和文英訳：スタンレー・ネルソン・アンダソン／河野晴子／南平妙子／小川紀久子

韓国語和訳：町田春子

翻訳補助：稲見和己(インドネシア語)／加藤剛(中国語)／森絵里咲(ヴェトナム語)／佐藤孝治(ヒンディー語)／吉岡憲彦(タイ語)

デザイン：松田行正＋天野昌樹＋齋藤智恵子(マツダオフィス)

編集：東京国立近代美術館／国際交流基金

印刷：文唱堂印刷株式会社

発行：東京国立近代美術館／国際交流基金

©2005 東京国立近代美術館／国際交流基金



ドイツ写真の現在—かわりゆく「現実」と向かいあうために

22.5×28cm / 120p

本文：

ベルント&ヒラ・ベッヒャー

ミヒャエル・シュミット

アンドレアス・グルスキー

トーマス・デマンド

ヴォルフガング・ティルマンス

ハンス＝クリスティアン・シンク

ハイディ・シュベッカー

ロレッタ・ルックス

ベアテ・グーチョウ

リカルダ・ログガン

現実とイメージのはざまに—ドイツ現代写真の状況(インカ・グレーヴェ・インゲルマン)

作家解説

作品リスト

Between reality and the image — Contemporary positions in German art photography (Inka Graeve Ingelmann)

Notes on Artists

編集：増田玲／蔵屋美香／保坂健二郎／竹内万里子(東京国立近代美術館)

中田耕市(丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／財団法人ミモカ美術振興財団)

翻訳：中田耕市／小川紀久子／ジャクリヌ・トッド

デザイン：服部一成／山下智子

編集：東京国立近代美術館／丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／財団法人ミモカ美術振興財団  
／読売新聞東京本社文化事業部

制作：印象社

印刷：大日本印刷株式会社

発行：読売新聞東京本社

©2005 東京国立近代美術館／丸亀市猪熊弦一郎現代美術館／財団法人ミモカ美術振興財団／読売新聞社

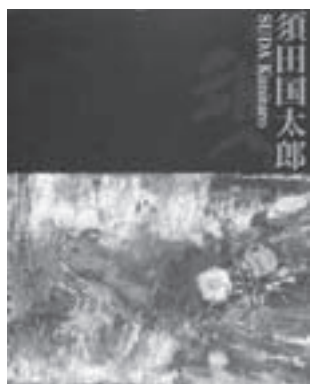
須田国太郎

28×22.5cm / 226p

本文：

須田国太郎の道(島田康寛)

《自画像》



図版

- I. 1932年 第1回個展
- II. 1933年—1944年 戦前
- III. 1945年—1961年 戦後
- IV. 珠玉の小品
- V. 能・狂言

署名

須田国太郎の描法(山野英嗣)

須田国太郎語録(西崎泰豪 編)

須田国太郎年譜

出品歴・掲載文献

主要展覧会図録

出品目録

編集：島田康寛／山野英嗣

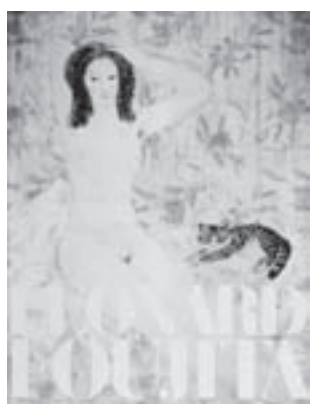
編集協力：鎌田智子・村上明子

デザイン：大向務(大向デザイン事務所)

印刷：野崎印刷紙業株式会社

発行：京都国立近代美術館

©2005 京都国立近代美術館



生誕120年 藤田嗣治展 パリを魅了した異邦人

29.5×22.5cm / 192p

本文：

藤田嗣治について(尾崎正明)

皮膚を切り裂く—藤田嗣治のふたつのモチーフ(蔵屋美香)

図版

第1章 エコール・ド・パリ時代

1-1 パリとの出会い

1-2 裸婦の世界

第2章 日本へ

2-1 色彩の開花

2-2 日本回帰

2-3 戦時下で

第3章 ふたたびパリへ

3-1 夢と日常

3-2 神への祈り

藤田嗣治の地塗り—遺された画布とボード—(宮田順一)

作品目録

展覧会歴

文献

出品リスト

編集：尾崎正明／蔵屋美香／鈴木勝雄(東京国立近代美術館)

藤崎綾(広島県立美術館)

弘中智子(編集補助、一橋大学大学院)

翻訳：小川紀久子 河野晴子

デザイン：栗原幸治

制作：印象社

印刷：大日本印刷

発行：NHK / NHKプロモーション / 日本経済新聞社 ©2006



## 2-1-2 工芸館

伊砂利彦—型染の美

28×22.2cm / 84p

本文：

伊砂利彦の型染(今井陽子)

Isa Toshiko: Stencil Dyeing (Imai Yoko)

図版

和紙型染の制作工程

出品目録

略年譜

編集：東京国立近代美術館 金子賢治、諸山正則、唐澤昌宏、今井陽子  
 翻訳：ルーシー・S・マクレリー  
 制作：ニューカラー写真印刷株式会社  
 発行：東京国立近代美術館  
 ©2005 東京国立近代美術館



日本のアール・ヌーヴォー 1900—1923 工芸とデザインの新時代  
 24.2×19.5cm / 196p

本文：  
 「日本のアール・ヌーヴォー 1900—1923—『新しい芸術』としての工芸」(木田拓也)  
 「浅井忠のモダニティ」(今井陽子)  
 「まぼろしのモダニティ—藤井達吉をめぐる」(富田康子)  
 Art Nouveau in Japan 1900-1923: Crafts as "New Art" (Takuya Kida)  
 Chu Asai's Modernity (Yoko Imai)  
 Illusory Modernity: Tastukichi Fujii (Yasuko Tomita)

図版

作家解説

関連年表

主要参考文献

出品作品リスト

編集：金子賢治、今井陽子、木田拓也、富田康子  
 翻訳：高山シンシア、ルーシー・S・マクレリー、山本仁志  
 制作：ニューカラー写真印刷株式会社  
 発行：東京国立近代美術館  
 ©2005 東京国立近代美術館



渡辺力：リビング・デザインの革新  
 25×19cm / 96p

本文：  
 「器官としての家具—渡辺力のデザイン」(北村仁美)  
 Furniture as Organ – Design of Riki Watanabe (Hitomi Kitamura)

図版

年譜

用語・人名解説

参考文献

出品作品リスト

編集：金子賢治、諸山正則、北村仁美  
 翻訳：ルーシー・マクレリー、ギャビン・フルー、山本仁志  
 制作：ニューカラー写真印刷株式会社  
 発行：東京国立近代美術館  
 ©2006 東京国立近代美術館

## 2-2 目録・ガイド等

### 2-2-1 本館



小林古径展 出品目録(展示替一覧)  
 25.5×18cm (二つ折り)

ドイツ写真の現在 作家解説・作品リスト  
 29.7×21cm (二つ折り)

執筆：東京国立近代美術館 増田玲／保坂健二郎／竹内万里子  
 丸亀市猪熊弦一郎現代美術館 中田耕市  
 デザイン：服部一成／山下智子  
 印刷：成旺印刷  
 編集・発行：東京国立近代美術館 ©2005

アウグスト・ザンダー展  
 21×14.8cm (五つ折り)

年譜  
 「20世紀の人間」の構成

出品作品リスト

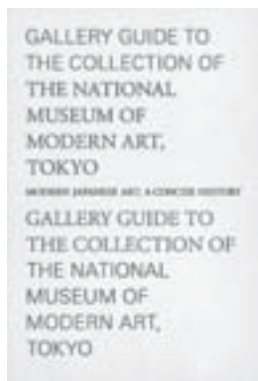
『時代の顔』と「20世紀の人間」(増田 玲)  
編集: 増田 玲/竹内万里子/保坂健二郎  
デザイン: 古田雅美  
発行: 東京国立近代美術館 ©2005

須田国太郎展 Floor Guide  
21×10cm (三つ折り)

藤田嗣治展  
26×19cm (二つ折り)  
フロアマップ  
出品リスト

東京国立近代美術館体験型ワークシート MOMATかんさつ日記  
21×14.8cm / 16p (リング止め)  
執筆・編集: 白濱恵里子/一條彰子  
デザイン・制作: 大岡寛典  
イラストレーション: 西島大介

藤田嗣治展こどもセルフガイド  
21×15cm (四つ折り)  
執筆・編集: 白濱恵里子  
デザイン・制作: 栗原幸治・大日本印刷株式会社



ギャラリーガイド英語版 *Gallery Guide to the Collection of The National Museum of Modern Art, Tokyo - Modern Japanese Art, A Concise History*  
22×15cm / 96p

本文:  
Introduction (中林和雄)  
Chapter 1-1 (尾崎正明)  
Chapter 1-2 (古田亮)  
Chapter 2-1 (蔵屋美香)  
Chapter 2-2 (都築千重子)  
Chapter 3 (大谷省吾)  
Chapter 4 (鈴木勝雄)  
Chapter 5 (松本透)  
Index of Personal Names  
編集: 東京国立近代美術館  
翻訳: 小川紀久子/勝矢桂子  
校閲: アリシア・ヴォルク  
デザイン: 近藤一弥  
発行: 東京国立近代美術館 ©2005

## 2-2-2 工芸館

各所蔵作品展及び企画展でフロア・ガイドを配布  
会場図面、作家名読み、作品名読み、作家略歴入り

### 作品観賞カード

四谷シモン《解剖学の少年》  
浜いさを《箱の男》  
吉田良《すぐり》  
アクセル・ルーカス《無題》  
土屋順紀《紋紗着物 月光》  
伊村俊見《延 03-3》  
築城則子《小倉縞木綿帯 分水嶺》  
須藤玲子《折り紙ブリーツ》  
ルーシー・リー《マンガン釉線文碗》  
バーナード・リーチ《蛸図大皿》  
執筆・編集: 東京国立近代美術館工芸課

制作：三和プリンティング株式会社  
発行：東京国立近代美術館 ©2005

## 2-3 研究紀要・年報等

東京国立近代美術館研究紀要 第10号

平成16年度 東京国立近代美術館年報

平成16年度 東京国立近代美術館概要

## 2-4 美術館ニュース『現代の眼』索引



### No.551 4-5月号

特集1：伊砂利彦—型染の美／特集2：平成16年度の新収蔵作品  
私の制作 型絵染 松—水—音楽—沖繩—無機的表现◆伊砂利彦  
イメージの根源を探る—追体験の愉しみ◆藤本恵子  
平成16年度の新収蔵作品(美術作品)について◆古田亮  
平成16年度の新収蔵作品(工芸作品)について◆金子賢治  
[作品研究]変容する眼 瑛九のフォトコラージュについて◆大谷省吾  
[連載26]「東京国立近代美術館の半世紀」連載26◆増田玲



### No.552 6-7月号

特集：近代日本画の名匠—小林古径  
「小林古径展」によせて—小林古径記念美術館からの発信◆笹川修一  
晩年の小林古径—表装師川崎忠彦氏に聞く[文責・古田亮]  
[所蔵作品展] こども工芸館—動物とあそぼう]自然を描くこと、自然から学んだこと◆木村政司  
[在外研修報告]イギリスでの研修を終えて—ホワイトチャペル・アートギャラリーおよびエンゲージでの経験から◆蔵屋美香  
[在外研修報告]イギリスにおける工芸の状況について◆今井陽子  
[教育普及レポート]春休み！こども美術館【〈見る〉を育む鑑賞プログラム】◆白濱恵里子  
[教育普及レポート]どきどき！こども工芸館【ガイド&ワークショップ】◆今井陽子



### No.553 8-9月号

特集1：アジアのキュビズム／特集2：日本のアール・ヌーヴォー  
—一九七八年アジアへの旅／アジアのキュビズム展に想う◆後小路雅弘  
キュビズムの意味◆本江邦夫  
東西交流のなかのアール・ヌーヴォー◆稲賀繁美  
新美術はどこから—アール・ヌーヴォーと日本◆森仁史  
[作品研究]原田直次郎作《騎龍観音》について—ミュンヘンと護国寺と◆蔵屋美香  
[所蔵作品展]沈黙の声—遠藤利克 ビル・ヴィオラ キムスージャ◆中林和雄



### No.554 10-11月号

特集1：ドイツ写真の現在—かわりゆく「現実」と向かいあうために／特集2：アウグスト・ザンダー  
文法と、もうひとつの物語 ベッヒャー以後のドイツの写真表現のゆくえ◆杉田敦  
死んだ物象の支配と資本主義への到着—なぜ夢は実現されなかったか？◆エンノ・ペルント  
[文献再録]ケルン芸術協会での個展にあたって◆アウグスト・ザンダー（訳・解説 増田玲）  
our faceプロジェクト…見知らぬ誰かに会う肖像写真の旅◆北野謙  
[作品研究]今日の安井曾太郎 肖像画と風景画◆中林和雄  
[報告]国際シンポジウム「アジアのキュビズム」◆松本透



## No.555 12-1月号

特集1：須田国太郎／特集2：渡辺力：リビング・デザインの革新

遺族からみた「須田国太郎」◆須田寛

須田国太郎の位置◆山野英嗣

[渡辺力インタビュー] デザインと私と——一九三〇年代[聞き手・北村仁美]

剣持勇と渡辺力◆松本哲夫

[所蔵作品展 近代工芸の百年] 明治時代前期の陶磁分野における西洋との出会い◆佐藤一信

[教育普及レポート] KIDS★MOMAT 2005 東京国立近代美術館のなつやすみ◆白濱恵里子・今井陽子・板倉史明



## No.556 2-3月号

特集：藤田嗣治 パリを魅了した異邦人

パリの藤田画伯と日本◆高階秀爾

藤田嗣治 パリ周縁へのまなざし◆林洋子

[所蔵作品展 現代の版画—写真の活用と版画の変容] 見ることと意識の覚醒：写真映像と版画—木村光佑と野田哲也を中心に◆都築千重子

[所蔵作品展 花より工芸：新収蔵作品を中心に 2001-2005] ハンス・ペルメール《人形》◆

今井陽子／ルーシー・リー《鉢》◆北村仁美

[作品研究] 吉川霊華の人と作品◆古田亮

[連載27] 東京国立近代美術館の半世紀◆尾崎正明



### 3 広報

#### 3-1 広報

##### 3-1-1 本館

###### ◆プレス・リリースの充実

昨年度から引き続き、プレス・リリースをカラー印刷とし、従来のカラー・コピーと同程度のコストで、出品作品等の魅力をより正確に伝えられるようにした。また、プレス用の画像をデジタルデータで貸し出すことで、広報活動の利便性を向上させ、プレス側からのさまざまな要望に迅速かつ柔軟に応えられるようにした。

###### ◆『ぴあ』との年間契約

代表的な情報誌『ぴあ』の展覧会紹介欄を年間で15枠買い取るなど、定常的な広報媒体とした。

◆「読売新聞」に毎月1回「近代美術の東京」を連載し、所蔵作品の普及と館の知名度の向上を図った。

◆各展覧会の性格に応じた広報活動に努めた。一例として、現代美術を紹介する「ドイツ写真の現在―かわりゆく『現実』と向かいあうために」展では交通広告を中心とし、近代作家の個展である「須田国太郎展」では、『朝日新聞』『毎日新聞(東京都民版)』『サンデー毎日』『東京人』など、活字メディアを中心とした広報活動を行った。

◆昨年度から引き続き、最寄り駅(営団地下鉄東西線・竹橋)に通じる東西線と京王線及びJRの駅にポスターを掲示するほか、展覧会によっては小田急線・東急線の駅における掲示を行った。例えば「ドイツ写真の現在」展では、横浜トリエンナーレの乗降客を見込み、東急線の桜木町駅に掲出した。

◆朝日新聞夕刊で、展示替えごとに年間5回の広告を掲載し、その時々の特集や催しを告知して、常設展示の新鮮さをアピールした。

##### 3-1-2 工芸館

工芸館では、次の3誌に所蔵作品を取り上げた連載を行い、近現代工芸及び東京国立近代美術館の活動全般の周知に努めるとともに、そのときどきの展覧会の広報普及を図っている。

###### ◆「近代工芸の名作」『月刊チャイム銀座』(発行：株式会社和光)

その月の展覧出品作のなかから一点名品を選び、その見所、歴史的意義、作家のプロフィールなどを解説する。

◆「古典が息づく現代の工芸 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌淡交』(平成16年1月～平成17年12月、発行：株式会社淡交社)

工芸作家の制作において、何世紀にもわたって伝えられてきた各時代の

ジャンルの異なる古典がさまざまな形で息づいている。この連載は所蔵作品の中から名品を一点選び、古典がどのように生かされ、作品制作と結びついているかをみることによって、工芸作品の奥の深さを知ってもらう。

「茶室の工芸学—現代工芸家の茶器 東京国立近代美術館工芸館所蔵品より」『茶道誌淡交』(平成18年1月～、発行：株式会社淡交社)

当館の所蔵品のなかから茶碗、釜、棗といった茶室で使用する工芸品を取り上げ、その作品において、いかに近代の作家たちが個性を表現しているかを解説する。

◆「日本の至宝 東京国立近代美術館コレクションより」『TAIKIプラス別冊』(季刊)(発行：新日本教育図書株式会社)

所蔵作品の中から名品を一点選び、その見所、作家のプロフィール、歴史的意義などを解説する。

また、下記の小冊子に情報を提供し、各号で展覧会広報を行っている。

・「展覧会情報」『I CLUB NEWS』(発行：株式会社伊勢丹)

在日外国人に対する展覧会情報の提供。

### 3-2 美術館情報システムによる普及・広報

平成7年度から、国立情報学研究所による学術情報ネットワークを介し、インターネット上に東京国立近代美術館ホームページを開設しており、平成15年度も各種展覧会、上映会、講演会などの催事情報の提供に努めた。10月にはトップページほかのデザインを一新するとともに、日替わり情報を掲載して、迅速かつ最新情報の提供が可能となった。平成17年度はメールマガジンを12号刊行して、約2,800名の登録を得ている。

平成13年6月、独立行政法人国立美術館ホームページを開設したが、平成14年10月より「法人文書ファイル管理システム」を整備し、独立行政法人国立美術館に関する情報を広く公開することに努めていることは、従来どおり変わりはない。

平成17年3月に公開した独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム(試行版)を平成18年1月、本版としてデータの追加更新を行うとともに、3月、同システムの英語版(試行版)を公開した。

東京都現代美術館美術図書室、横浜美術館美術図書室、国立西洋美術館と共同での横断検索ALCは、引き続き資料情報の提供の高度化に努めた。

主な日誌：

- 平成7年9月 学術情報ネットワーク接続  
東京国立近代美術館＝東京大学大型計算機センター 64kbps 専用線
- 平成7年10月 東京国立近代美術館ホームページ開設
- 平成8年6月 「インターネット版展覧会カタログ」として、「岸田劉生 所蔵作品と資料の展示」のカタログの抜粋(カラー図版のページ)を掲載
- 平成8年9月 来館者向け情報提供端末を本館4階ロビーに1台設置
- 平成9年8月 「小・中学生のための鑑賞教室」を追加
- 平成9年10月 来館者向け情報提供端末を工芸館2階に1台設置

平成9年12月	新しい所蔵作品検索サービスをインターネットホームページに公開
平成10年8月	英文版ホームページを追加
平成13年12月	美術館のリニューアル・オープンのお知らせのページを追加
平成13年6月	独立行政法人国立美術館のホームページを開設
平成13年10月	東京国立近代美術館＝東京大学情報基盤センター 1.5Mbps 専用線
平成14年3月	工芸館のページのバリアフリー設備についての案内を追加
平成14年3月	ホームページでの所蔵作品検索システムを更新
平成14年10月	独立行政法人国立美術館「法人文書ファイル管理システム」を公開
平成15年1月	所蔵図書の検索OPACを公開
平成15年8月	東京国立近代美術館メールマガジンを創刊
平成15年10月	トップページデザインを更新し、以後、日替わり情報を日次更新で掲載
平成16年3月	東京都現代美術館美術図書室、横浜美術館美術図書室との横断検索ALCを公開
平成17年3月	国立西洋美術館研究資料センター、美術図書館横断検索ALCに参加
平成18年1月	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム(本版)を公開し、データの追加更新
平成18年3月	独立行政法人国立美術館所蔵作品総合目録検索システム英語版(試行版)を公開

ホームページ上での公開・情報提供は、概略、次のような構成からなっている。

- トピックス
- 美術館
- 工芸館
- フィルムセンター
- イベント
- 解説ボランティア
- こどものページ
- ライブラリ
- 情報検索
- リンク
- 出版物
- 利用案内
- 交通情報
- 採用情報
- お問い合わせ先





## 1-1 映画フィルム Films

平成17年度は、各社からの購入、所蔵フィルムの不燃化や複製、寄贈等によって2,008本を新たに収集した。映画の種別として、日本劇映画、日本文化・記録映画、アニメーション映画、外国映画等、偏りなく着実に収蔵本数を増やすことが出来た。特に日本文化・記録映画について、昨年度と同様1,000本を超える作品を収集した。

日本文化・記録映画の製作者に呼びかけている原版寄贈について、平成17年度は、株式会社徳間書店、株式会社日映科学映画製作所等の企業や団体からの寄贈手続きを完了した。また、日本放送協会、有限会社天遊等の企業や団体、個人から、可燃性原版を含む貴重な日本劇映画及び文化・記録映画の寄贈を受けた。また、国際フィルム・アーカイブ連盟(FIAF)加盟機関であるミュンヘン映画博物館との交換寄贈により、ドイツ映画『巨人ゴーレム』(1920)を収集した。大手映画製作会社からの劇映画の原版寄託については、平成17年度も寄託契約の更新を行った。

購入については、企画上映等のために、未収蔵であったポジプリント及びデュープネガを購入したほか、共催企画となったニューヨーク近代美術館及びポルデノーネ無声映画祭の日本映画特集、東京フィルメックスの「中川信夫監督特集」のために、英語字幕付フィルムの購入や所蔵フィルムの複製化を行った。また、プラネット映画資料図書館、株式会社日本映画新社、株式会社マツダ映画社等が所有する日本劇映画及び文化・記録映画の可燃性原版から、不燃化したデュープネガ及びポジプリントを購入した。

収蔵するネガフィルムから新たにポジフィルムを作成することも平成17年度の課題であり、111本の作品についてポジを作成し、収蔵した。特に企画上映「NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選」のために、40本の上映用ポジを作成した。さらに、平成17年度にあらたに復元・上映を行った『キリストの一生』(1923)や『東洋の秘密』(1928)のフィルムは、フィルムセンターが収蔵するプリントが世界で唯一の(または最良の)素材であり、資料的価値の高いプリントである。

また、積極的な収集を目指した英語字幕付日本映画のプリントについては、22作品の所蔵フィルムに新たに英語字幕を付したほか、21作品の英語字幕付日本映画のポジを購入した。

平成17年度収集本数

種別	購入	寄贈	所蔵総本数
劇映画	300本	71本	10,698本
文化・記録映画	142本	1,426本	19,089本
アニメーション映画	29本	8本	1,993本
ニュース映画	5本	6本	10,969本
テレビ映画	0本	21本	3,709本
計	476本	1,532本	46,458本

※優秀映画鑑賞推進事業用及び国際映画祭出品事業用を含む

A total of 2,008 films were added to the NFC collection this year. These films were purchased, donated, or duplicated from the original nitrate films of the collection for preservation purposes. While it is notable that over 1,000 Japanese cultural and documentary films were added, the collection as a whole expanded in a balanced manner with the new titles of Japanese drama films, animation films and foreign films as well. Since 2001, NFC has been formally encouraging the production companies of cultural and documentary films to deposit the original films to NFC. This year, businesses and organizations including Tokuma Shoten Publishing Co., Ltd. and Nichiei Kagaku Eiga Co., Ltd. completed the donation. Several companies have renewed their contracts with NFC to donate the master films of feature drama films. In addition, various businesses, organizations and individuals including NHK (Japan Broadcasting Corporation), Tenyu Company, Inc., and Takeko Saito donated NFC rare films including nitrate master films of drama films and cultural and documentary films. Through mutual donation with Filmmuseum, Munich, FIAF colleague archive, German film “DER GOLEM, WIE ER IN DIE WELT KAM” (1920) was added to the NFC collection.

NFC purchased positives and duplicate negatives of the titles in the screening programs and added them to the collection. For the co-organized screening events of Japanese films at MOMA (Museum of Modern Art), Pordenone Silent Film Festival, and “Nobuo Nakagawa Retrospective” within Tokyo FILMeX, NFC purchased prints with English subtitles and made new prints from the collection and made subtitles. In addition, NFC purchased safety duplicate negatives and safety duplicate positives made from nitrate master films of rare Japanese films owned by Planet Bibliothèque de Cinéma, Nippon Eiga Shinsha, Matsuda Film Productions.

NFC also made many positives of the negatives in its collection. In addition, for the program of German and Austrian films, NFC made a number of projection prints. It is notable that the prints NFC newly restored for the screening series, namely, “I.N.R.I EIN FILM DER MENSCHLICHKEIT” (1923) and “GEHEIMNISSE DES ORIENTS” (1928) are either the only one or the best prints that exist in the world and thus are of extreme importance as reference materials.

## 1-2 映画関連資料 Non-film Materials

フィルムセンターで平成17年度に寄贈を受けた映画関連資料は以下のとおりである(図書資料を除く)。

- (1) 常設館プログラム「第一新聞」106号など計59,210点：月村吉治氏遺贈
- (2) 洋雑誌「American Cinematographer Vol.51, No.4」(1970年4月) など349点：柴田孝一氏寄贈

Non-film materials (excluding books) officially donated to NFC during 2005 are as follows:

- (1) 59,210 pieces of film-related materials including *Daichi Shimbun* No.106 (cinema pamphlet) from the late Yoshiharu Tsukimura
- (2) 349 pieces of film-related materials including foreign magazine *American Cinematographer* Vol. 51, No. 4 (April 1970) from Koichi Shibata.

近年はフィルムからデジタル媒体への急速な移行の中で、フィルム原版の保存とその保存活動を行うフィルムセンターの役割がますます重要となっている。オリジナルに近いフィルム素材を収集し、専門知識に基づいてその内容や物理的状態を調査し、適正な条件の下に保存するという一連の業務が映画保存の根幹だが、次の段階として、損傷した素材から視聴可能な素材を作り出す作業(復元)も積極的に取組んでいる。所蔵する可燃性フィルムを不燃化した例は93本であり、その中には日本の劇映画、記録映画などのほか、戦前に日本で公開され、本国では既に失われている世界的にも貴重なドイツ映画も含まれている。また、これまで3年にわたり映画フィルムのデジタル復元に取り組んできたが、平成17年度は新たな試みとして映画音声のデジタル復元に着手した。音をデジタル化し、様々なソフトウェアを用いてノイズ除去などの処理を行い、再びフィルムに焼付けるものであり、49本について実施した。1930年代に作られた9.5mmや16mmのフィルムと、それに合わせて再生するSPレコードのコレクションの一括寄贈を受けたことから、画・音ともにデジタル処理を施して最終的にフィルムに焼付けるというデジタル復元を『茶目子の一日』(1931)、『黒ニャゴ』(1929)の2作品について行った。

NFC has engaged in film preservation based on the policy that every motion picture film is a subject of preservation. Film industry has become more aware of the necessity of preservation in recent years. Especially in this age of rapid shift from photochemical film to the digital media, the importance of preserving original film (and thus the role of NFC as the institution engaged in preservation) is growing. In addition to the basic procedures of film preservation, that is, collecting film in the closest possible format to its original one, examining the content and the physical condition of the film based on specialized knowledge, and preserving the film in a right condition, NFC also engages in restoration of damaged films. This year, NFC made 93 safety duplicates of the nitrate films in its collection. They include Japanese drama films, documentary films, and most notably, rare German films that have been lost in Germany but have survived in Japan where they were theatrically released before the war. Regarding restoration using digital technology which NFC started 3 years ago as a new project, NFC digitally restored sound of 49 films this year by digitizing the sound data, conducting digital modification such as noise reduction using various software, and then recording the sound data back to the film. Also, as the collection of 9.5mm films and 16mm films made in the 1930s and the SP records to play with the films was donated, NFC digitally restored 2 titles, *Chameko no ichinichi* (1931) and *Kuronyago* (1929), by restoring the image and sound separately and eventually made the sound film.



フィルムセンターが所蔵するコレクションのカタロギングはNFCD (National Film Center Database / 所蔵映画フィルム及び所蔵映画関連資料のデータベース検索システム)を中心に行っている。平成15年度の新規開発では、旧来のOS依存型からWebベースのシステムへリニューアルをはかるとともに、構造面と機能面の双方で大幅な改良を加えた。登録の対象もこれまでのフィルム、ポスター、スチル写真、撮影台本の4部門から、新たに撮影機や映写機などの技術資料を加えた5部門へと拡張している。

映画フィルムの登録作業では、新規収集フィルムの登録作業に加えて、コンピュータ・データベース導入以前のコレクションを対象とする遡及登録を行った。また、将来の公開に向けて、実際のフィルムの映像をチェックしながら日本の戦前期ニュース映画の詳細なコンテンツデータを収集する作業も継続している。

映画関連資料のカタロギングでは、新規収集資料の日常的なカタロギングに加え、特にポスター・コレクションを対象とする抜本的な情報整備を行った。これは、従来は散発的に作成されていたレコードと素材の再確認と照合、未登録レコードの新規作成、そして一元的な資料番号の付与にいたる作業を総合的に行うものであり、昨年度に続く作業となる。

NFC's collection is mostly catalogued by NFCD (National Film Center Database), its in-house database of film and film-related non-film materials. Major improvement has been given to NFCD since 2 years ago in both the structure and function. Thanks to the improvement, NFC shifted from the OS-based system to the web-based one. Also, it has expanded to include 5 categories to cover technical reference materials such as cameras and projectors in addition to the 4 categories, film, poster, still photographs, and scripts that were covered in the old NFCD.

As for data entry, films that were acquired before the implementation of computerized systems were also entered retroactively in NFCD, in addition to newly purchased films. Regarding the news films from the pre-war period, detailed descriptions of the contents were written down by viewing the films.

Regarding non-film materials, in addition to routine cataloguing of newly acquired materials, NFC continued the task of rearrange the information of the poster collection in a major way. In the process, NFC first re-confirmed the materials and the records which used to be randomly made; second, NFC newly made the records of the un-registered materials, and then introduced a unified numbering system.

# Ⅱ 公衆への観覧

## 1 企画上映等

### 1-1 観覧者数

【上映会年間入館者数等(延べ数)】

■412作品・326プログラム・329日間・751回上映・1回平均入館者数171人

■入館者数 128,365人

一般61.14% シニア24.80% 学生5.46% 小人0.03% 無料8.57%

【展覧会年間入館者数等】(特別展示除く)

■263日間・1日平均入館者数40人

■入館者数 10,422人

### 1-1-1 上映会(大ホール・小ホール)

227 生誕百年特集 映画監督 稲垣浩

Hiroshi Inagaki Retrospective at his Centenary

平成17年4月5日～平成17年5月22日

53作品 47プログラム 42日間 100回上映 大ホール

入館者総数 14,442人(1回平均144人)

一般57.41% シニア29.16% 学生4.01% 小人0.03% 無料9.39%

228 生誕百年特集 映画監督 豊田四郎

Shiro Toyoda Retrospective at his Centenary

平成17年5月31日～平成17年7月17日

42作品 42プログラム 42日間 84回上映 大ホール

入館者総数 18,582人(1回平均221人)

一般56.58% シニア31.29% 学生3.27% 小人0.03% 無料8.83%

229 発掘された映画たち2005

Cinema: Lost and Found 2005

平成17年7月19日～平成17年8月18日

56作品 27プログラム 27日間 54回上映 大ホール

入館者総数 9,726人(1回平均180人)

一般60.11% シニア23.59% 学生7.07% 小人0.09% 無料9.14%

230 生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男

Mikio Naruse Retrospective at his Centenary

平成17年8月20日～平成17年10月30日

61作品 57プログラム 61日間 181回上映 大ホール

入館者総数 41,982人(1回平均232人)

一般65.75% シニア22.29% 学生5.72% 小人0.01% 無料6.23%

231 ポーランド映画、昨日と今日

Polish Film, Yesterday and Today

平成17年9月13日～平成17年9月25日

12作品 12プログラム 12日間 24回上映 小ホール

入館者総数 3,144人(1回平均131人)

一般62.28% シニア21.56% 学生9.03% 小人0.03% 無料7.09%

232 生誕百年特集 映画監督 斎藤寅二郎と野村浩将

Torajiro Saito and Hiromasa Nomura Retrospective at their Centenary

平成17年11月1日～平成17年11月18日

28作品 22プログラム 16日間 43回上映 大ホール

入館者総数 6,045人(1回平均141人)

一般56.58% シニア29.38% 学生2.68% 小人0% 無料11.36%

- 233 第6回東京フィルメックス 特集上映 生誕百年特集 映画監督 中川信夫 ～地獄のアルチザン～  
The 6<sup>th</sup> Tokyo FILMeX: Nobuo Nakagawa Retrospective at his Centenary  
平成17年11月19日～平成17年11月27日  
12作品 12プログラム 8日間 24回上映 大ホール  
入館者総数 3,435人(1回平均143人)  
一般65.97% シニア10.74% 学生7.10% 小人0% 無料16.19%
- 234 日韓友情年2005 韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集  
Yu Hyeon-Mok Retrospective: The Pathfinder of Korean Realism  
平成17年12月6日～平成17年12月25日  
12作品 12プログラム 18日間 35回上映 大ホール  
入館者総数 2,933人(1回平均84人)  
一般68.12% シニア13.91% 学生6.92% 小人0% 無料11.05%
- 235 シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち  
Silent Film Renaissance  
平成18年1月5日～平成18年1月15日  
12作品 10プログラム 10日間 20回上映 大ホール  
入館者総数 1,883人(1回平均94人)  
一般71.11% シニア11.15% 学生7.22% 小人0.16% 無料10.36%
- 236 松竹創業110周年記念 松竹映画探索 1960－70年代  
Shochiku Company at 110: A Quest of Shochiku Films in the 1960s and 1970s  
平成18年1月13日～平成18年3月26日  
34作品 33プログラム 33日間 66回上映 小ホール  
入館者総数 5,053人(1回平均77人)  
一般60.56% シニア21.47% 学生4.67% 小人0.22% 無料13.08%
- 237 日本におけるドイツ2005／2006 NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選  
A Study of German and Austrian Cinema: From the National Film Center Collection  
平成18年1月17日～平成18年3月26日  
90作品 52プログラム 60日間 120回上映 大ホール  
入館者総数 21,140人(1回平均176人)  
一般57.62% シニア26.65% 学生6.95% 小人0.02% 無料8.76%

#### 1-1-2 展覧会(展示室)

- 13 尾上松之助と時代劇スターの系譜  
Onoe Matsunosuke and the Culture of Period Films  
平成17年4月5日～平成17年10月9日 155日間  
入館者総数 5,181人(1日平均33人)
- 14 ポーランドの映画ポスター  
Polish Posters for Films – From the Collection of National Film Center  
平成17年10月28日～平成17年12月25日 45日間  
入館者総数 2,199人(1日平均49人)
- 15 松竹創業110周年記念 松竹と映画  
Shochiku Company at 110: Shochiku in the History of Japanese Cinema  
平成18年1月13日～平成18年3月26日 63日間  
入館者総数 3,042人(1日平均48人)
- 特別展示 『浮雲』再現セット  
Special Exhibition: Recreated Set of *Ukigumo*  
平成17年8月20日～平成17年12月25日 104日間  
入館者総数 4,764人(1日平均46人) ※展示室ロビー

1-2 企画上映 Screening Programs

1-2-1 上映企画一覧(開館より平成16年度まで)  
Screenings from the Opening in 1970 until 2004

回数 企画上映名

昭和45年度[1970]

- 1 アメリカ古典映画の回顧
- 2 成瀬巳喜男監督の特集
- 3 シナリオライター野田高梧をしのぶ
- 4 フランス映画の歴史
- 5 ドイツ映画の回顧上映

昭和46年度[1971]

- 6 田中絹代特集 ― 女優の歩みに見る日本映画史 ―
- 7 内田吐夢監督の回顧上映
- 8 フランス映画の特集
- 9 アニメーション映画の回顧
- 10 小津安二郎監督の特集

昭和47年度[1972]

- 11 ベルギー映画の特集
- 12 占領下の日本映画
- 13 音楽映画の特集
- 14 新収蔵映画の上映
- 15 金語楼映画の上映
- 16 ポーランド映画の回顧  
\*特別上映 第8回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
- 17 日本の記録映画特集 ― 戦前篇 ―

昭和48年度[1973]

- 18 イタリア映画の特集
- 19 溝口健二監督の特集
- 20 飯田蝶子特集  
\*特別上映 ジョン・フォード監督追悼特別上映
- 21 1930年代ヨーロッパ映画特集
- 22 1930年代ヨーロッパ映画特集(再上映)
- 23 収蔵映画未公開作品の上映
- 24 ― 交換映画祭 ― 現代ブルガリア映画の展望

昭和49年度[1974]

- 25 五所平之助監督特集
- 26 特集・逝ける映画人を偲んで
- 27 日本の記録映画特集 ― 戦後篇 ―
- 28 監督研究 清水宏と石田民三
- 29 島津保次郎監督特集  
\*特別上映 第9回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
- 30 フランス映画を創った人たち ― 第1期

	31	— ハンガリー映画祭 — ハンガリー映画の30年 映画史上の名作
昭和50年度[1975]	32	収蔵映画未公開作品の上映 — 戦前の時代劇を集めて
	33	— エリザベス女王御訪日記念 — 英国映画の史的展望
	34	特集・逝ける映画人を偲んで<1974-1975>
	35	— 昭和50年度(第30回記念)芸術祭協賛 — 芸術祭大賞映画の回顧
	36	フランス映画を創った人たち — 第2期
	37	小津安二郎監督特集
	土曜特集	映画史上の名作
昭和51年度[1976]	38	戦後日本映画の流れ<1946-1962> — 収蔵映画未上映作品より —
	39	戦前オーストリア映画の回顧<1919-1937>
	40	監督研究 衣笠貞之助
	41	特集・逝ける映画人を偲んで<1975-1976>
	42	70年代ポーランド映画の展望
	43	— 建国200年記念 — アメリカ映画の史的展望<1894-1936>
		*特別上映 第10回東京国際アマチュア映画コンクール受賞作品披露上映
	44	木下恵介監督特集
	45	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	映画史上の名作
昭和52年度[1977]	46	— 文化功労者記念 — 黒沢明監督特集
	47	監督研究 伊藤大輔
	48	現代ブルガリア映画の展望
	49	恐怖と幻想の映画特集
	50	長編ドキュメンタリー映画10選
	51	夏休み少年少女名作鑑賞
	52	特集・逝ける映画人を偲んで<1976-1977>
	53	映画に見る昭和十年代
	54	日本映画技術の展望 — 戦後30年 —
	55	カナダ映画の史的展望
	56	ソ連映画の史的展望<1923-1946>
	57	日本のアニメーション映画<1924-1958>
	58	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	日本映画特選/各国特選/映画史上の名作/昭和十年代公開のフランス映画
昭和53年度[1978]	59	日本映画の流れ<1961-1966> — 収蔵映画未上映作品より —
	60	映画史上の名作(第1集)
	61	溝口健二監督特集
	62	夏休み少年少女名作鑑賞
	63	特集・逝ける映画人を偲んで<1977-1978>
	64	— 生誕100年記念 — マキノ省三とその人脈
	65	映画史上の名作(第2集)

- 66 チャプリン初期短篇特集  
— キーストン、エッサネイ、ミューテュアル、ファースト・ナショナル時代 —
- 67 デンマーク映画の史的展望
- 68 田坂具隆監督特集
- 69 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 各国の音楽映画／各国特選／映画史上の名作/短篇・文化・記録映画特集

昭和54年度[1979]

- 70 長谷川一夫特集
- 71 映画史上の名作
- 72 特集・逝ける映画人を偲んで〈1978-1979〉
- 73 夏休み少年少女名作鑑賞
- 74 成瀬巳喜男監督特集
- 75 現代ベルギー映画の展望
- 76 牛原虚彦監督特集
- 77 豊田四郎監督特集
- 78 戦後フランス映画秀作特集〈1945-1954〉
- 79 監督研究 ジャン・ルノワール
- 80 オーストラリア映画の史的展望〈1919-1956〉
- 81 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 各国特選／戦前の音楽映画／米英映画特選／溝口健二監督特選／小津安二郎監督特選(サイレント篇)／短篇文化・記録映画特集

昭和55年度[1980]

- 82 戦後日本映画の流れ〈1967-1971〉 — 収蔵映画未上映作品から —
- 83 監督研究 クロード・ジュトラ
- 84 映画史上の名作
- 85 特集・逝ける映画人を偲んで〈1979-1980〉
- 86 夏休み少年少女名作鑑賞
- 87 — 近代映画協会30年記念 — 監督研究吉村公三郎と新藤兼人
- 88 戦後フランス映画秀作集〈1955-1960〉
- 89 小津安二郎監督特集
- 90 マーティン・スコセッシ監督特集
- 91 スイス映画の史的展望〈1941-1979〉
- 92 — 国際障害者年協賛 — 春休み少年少女名作鑑賞
- 土曜特集 小津安二郎監督特選(アンコール上映Ⅰ)  
戦後フランス映画秀作集(アンコール上映)／映画史上の名作(アンコール上映)／一つの原作・二つの映画／短篇・文化・記録映画特集

昭和56年度[1981]

- 93 ジョルジュ・サドウル賞受賞作品選集
- 94 映画史上の名作
- 95 稲垣浩監督特集
- 96 特集・逝ける映画人を偲んで〈1980-1981〉
- 97 夏休み少年少女名作鑑賞
- 98 1920年代のドイツ映画
- 99 日本のトーキー：誕生から確立へ
- 100 イタリア古典映画特集
- 101 日本映画史研究(1)—東映映画30年の歩み—

	102	フィンランド映画の史的展望〈1940-1977〉
	103	収蔵映画未上映作品集〈外国篇〉
	104	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	小津安二郎監督特選(アンコール上映Ⅱ)／映画史上の名作／清水宏監督研究／短篇・文化・記録映画特集
昭和57年度[1982]	105	映画史上の名作
	106	D.W.グリフィス監督特集
	107	夏休み少年少女名作特集
	108	特集・逝ける映画人を偲んで〈1981-1982〉
	109	日本映画史研究(2)―東宝映画50年の歩み―
	110	現代イギリス映画の展望
	111	スウェーデン映画の史的展望〈1910-1969〉
	112	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	短篇・文化・記録映画特集
昭和58年度[1983]	113	映画史上の名作
	114	ジョン・フォード監督特集〈1917-1946〉
	115	夏休み少年少女名作鑑賞
	116	特集・逝ける映画人を偲んで〈1982-1983〉
	117	フランス映画の回顧〈1930-1946〉(1)
	118	今井正監督特集
	119	フランス映画の回顧〈1930-1946〉(2)
	120	春休み少年少女名作鑑賞
	土曜特集	短篇・文化・記録映画特集
昭和59年度[1984]	121	フィルムセンター所蔵映画選集(1) 河村黎吉選集／テレンス・フィッシャー監督選集／ラルフ・トーマス監督選集／〈忠臣蔵〉映画選集／〈エノケン〉映画選集／マイケル・パウエル&エメリック・プレスバーク監督選集／〈鞍馬天狗〉映画選集／カルミネ・ガッローネ監督選集
	122	1920年代のドイツ映画―表現主義と新即物主義の間
	123	撮影監督 宮川一夫特集
	124	夏休み少年少女名作鑑賞
	125	特集・逝ける映画人を偲んで〈1983-1984〉
	126	スペイン映画の史的展望〈1951-1977〉
	127	フィルムセンター所蔵外国映画選集
	土曜特集	短篇・文化・記録映画特集
昭和60年度[1985]	128	フィルムセンター所蔵日本映画選集 ― 名俳優の魅力 ― 吉川満子選集／藤原釜足選集／浦辺粂子選集／浜村純選集／清川虹子選集／殿山泰司選集
	129	中国映画の回顧〈1922-1952〉
	130	所蔵外国映画選集Ⅱ〈フィルムセンター焼失フィルムのための募金の会寄贈による〉

	131	フィルムセンター所蔵日本映画選集 ― 映画カメラマンの魅力 〈1921-1944〉 水谷文次郎(至宏)選集／杉山公平選集／三村明選集／高橋通夫(與 吉)選集／伊藤武夫選集
	132	特集・逝ける映画人を偲んで〈1984-1985〉
昭和61年度[1986]	133	フィルムセンター所蔵外国映画選集 中南米映画選／北欧映画選／G.W.パプスト監督選／アナトール・リト ヴァック監督選／カール・リッター監督選／ヴィリ・フォルスト監督選／ジュ リアン・デュヴィヴィエ監督選／マルセル・シャンタル主演映画選／ 1930年代のヨーロッパ音楽映画選／オムニバス映画選／ドキュメンタ リー映画選／アニメーション映画選／“映画の映画”選／金曜特集・無 声映画選
	134	日本映画史研究(3) ― 蒲田映画の世界〈1921-1936〉
	135	アメリカ映画の名匠たち ― ラオール・ウォルシュとその時代〈1914-1939〉
	136	現代スイス映画の展望
昭和62年度[1987]	137	蒲田映画の若き日 ― 小津・清水・成瀬
	138	フィルムセンター所蔵日本映画選集
	139	特集・逝ける映画人を偲んで〈1986-1987〉
	140	中国映画の回顧〈1932-1964〉
	141	フィルムセンター所蔵外国映画選集
	142	フィルムセンター所蔵日本映画選集(1)
昭和63年度[1988]	143	フィルムセンター所蔵日本映画選集(2)
	144	特集・逝ける映画人を偲んで〈1987-1988〉
	145	フィルムセンター所蔵映画選集 ― 日本のアニメーション
	146	フィルムセンター所蔵外国映画選集 ― D.W.グリフィスとその時代
平成元年度[1989]	147	フィルムセンター所蔵日本映画選集 ― 新興キネマの世界
	148	フランス映画の黄金時代
	149	日本映画の系譜
	150	戦後ヨーロッパ映画秀作選
平成2年度[1990]	151	シナリオ作家 依田義賢特集
	152	特集・「ポーランド派」の映画
	153	特集・逝ける映画人を偲んで〈1988-1989〉
平成3年度[1991]	154	発掘された映画たち ― 小宮登美次郎コレクション
	155	特集・逝ける映画人を偲んで〈1990-1991〉
平成4年度[1992]	156	内田吐夢監督特集



	157 孫瑜監督と上海映画の仲間たち 中国映画の回顧
	158 フィルムセンター所蔵日本映画選集
平成5年度[1993]	159 知られざるアメリカ映画
	160 特集・逝ける映画人を偲んで〈1991-1993〉
平成6年度[1994]	161 サイレント・ルネサンス 映画と音楽の新たな出会いに向けて
平成7年度[1995]	162 開館記念特集 フィルムは魅了する：銀幕の体験
	163 開館記念特集 フィルムは記録する：日本の文化・記録映画作家たち
	164 マキノ雅広の世界：「次郎長三國志」と「日本侠客伝」
	165 インド映画の魅力
	166 1930年代ヨーロッパ映画10選
	167 女優 山田五十鈴
	168 特集・逝ける映画人を偲んで〈1993-1994〉
	169 第8回東京国際映画祭協賛企画 特集上映 日本映画の系譜
	170 特別企画上映／映画生誕百周年記念 シネマの冒険 闇と音楽
	171 コニカラー：甦る国産カラー・プロセス 「緑はるかに」特別上映会
	172 映画生誕百周年記念 ゴーモン映画の100年 フランス映画の100年
	173 映画生誕百周年記念 ジョルジュ・メリエス 夢と魔法の王国
	174 ゴーモン映画秀作選
	175 1950年代の青空と太陽
平成8年度[1996]	176 日本映画の発見Ⅰ：無声映画時代
	177 日本映画の発見Ⅱ：トーキーの開始と戦前の黄金時代
	178 芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽 1996
	179 ジャン・ルノワール、映画のすべて。
	180 フィルムは記録する '97：日本の文化・記録映画作家たち
平成9年度[1997]	181 日本映画の発見Ⅲ：戦争の時代
	182 特集・逝ける映画人を偲んで 1995-1996
	183 芸術祭協賛 シネマの冒険 闇と音楽 1997
	184 NFC所蔵外国映画選集 1970年代映画の一断面
	185 フィルムは記録する '98：日本の文化・記録映画作家たち
平成10年度[1998]	186 日本映画の発見Ⅳ：占領下のNIPPON
	187 特集・逝ける映画人を偲んで 1997
	188 シネマの冒険 闇と音楽 1998
	189 憧憬のフランス映画 ― 1930年代を中心に ―
平成11年度[1999]	190 日本映画の発見Ⅴ：栄光の'50年代
	191 発掘された映画たち 1999

- 192 ハリウッド伝説 ハワード・ホークス映画祭
- 193 シネマの冒険 闇と音楽：フリッツ・ラング選集

平成12年度[2000]

- 194 特別追悼特集 偉大なる“K”(1)：小林正樹
- 195 特別追悼特集 偉大なる“K”(2)：黒澤明
- 196 特別追悼特集 偉大なる“K”(3)：木下恵介
- 197 シネマの冒険 闇と音楽：オランダの無声映画 オランダ映画博物館  
無声映画コレクションより
- 198 フィルムは記録する2001：日本の文化・記録映画作家たち
- 199 発掘された映画たち2001：ロシア・ゴスフィルモフォンドで発見された日本映画

平成13年度[2001]

- 200 中国映画史の流れ：無声後期からトーキーへ
- 201 日本映画の発見Ⅵ：1960年代
- 202 日本におけるイタリア2001 イタリア映画大回顧
- 203 フィルムで見る20世紀の日本

平成14年度[2002]

- 204 NFC所蔵外国映画選集 追憶のスター女優たち
- 205 日本映画の発見Ⅶ：1970年代
- 206 こども映画館 2002年の夏休み
- 207 2002年日韓国民交流年記念事業 韓国映画―栄光の1960年代
- 208 シネマの冒険 闇と音楽 D・W・グリフィス選集
- 209 特集・逝ける映画人を偲んで 1998-2001(1)
- 210 こども映画館 2003年の春休み

平成15年度[2003]

- 209 特集・逝ける映画人を偲んで 1998-2001(2)
- 211 発掘された映画たち2003
- 212 映画監督 市川崑
- 213 社団法人映像文化製作者連盟創立50周年記念 短篇映像メディアに見る現代日本
- 214 日本におけるトルコ年記念事業 トルコ映画の現在
- 215 聖なる映画作家, カール・ドライヤー
- 216 小津安二郎生誕100年記念 小津安二郎の藝術
- 217 第4回東京フィルメックス 特集上映 清水宏 生誕100年
- 218 シリーズ・日本の撮影監督(1)

平成16年度[2004]

- 219 日本・キューバ外交関係樹立75周年記念 キューバ映画への旅
- 220 アジア映画―“豊穡と多様”
- 221 日本アニメーション映画史
- 222 映画女優 高峰秀子
- 223 第5回東京フィルメックス 特集上映 内田吐夢監督選集 映画真剣勝負
- 224 特集・逝ける映画人を偲んで 2002-2003
- 225 シネマの冒険 闇と音楽 アメリカ無声映画傑作選
- 226 フィルムは記録する2005：日本の文化・記録映画作家たち

会 期
平成17年4月5日～平成17年5月22日 (42日間)
会 場
大ホール
上映回数
100回
入場者総数
14,442人(1回平均144人)
雑誌・新聞関連記事
日本経済新聞(2005年3月14日)「生誕百年の監督特集」
公明新聞(2005年3月18日)「稲垣浩生誕百年」
しんぶん赤旗(2005年3月31日)「生誕百年特集 映画監督 稲垣浩」
協同組合通信(2005年3月31日)「生誕百年特集 映画監督 稲垣浩」
朝日新聞(2005年4月7日)「生誕百年特集 稲垣浩」
週刊文春(2005年4月7日)「生誕百年特集 稲垣浩」
毎日新聞(2005年5月19日)「生誕百年特集 稲垣浩」

## 227 生誕百年特集 映画監督 稲垣浩

豪快な作風のスター映画によって高い人気を誇ってきた稲垣浩監督(1905-80)は、2005年に生誕100年を迎えた。この機会をとらえ、同監督の遺した作品を通じてその仕事を総合的に振り返る企画である。

片岡千恵蔵プロの時代劇監督としてデビューを果たし、無声映画からトーキーへの移行に順応して才能を開花させた稲垣監督は、明朗かつ知的な時代劇の作り手として評価を確立し、その後日本映画史の古典の地位を占める『無法松の一生』(1943)や子どもの心を描いた繊細な秀作『手をつなぐ子等』(1948)、そして1950年代以降には東宝撮影所で数々のヒット大作を発表している。この企画では、時代ごとのこうした特徴的な作品に加え、これまでの同監督特集でも殆ど紹介されなかった終戦前後期の作品の上映を実現した。フィルムセンターは、同監督の一周忌に当たる1981年に同監督特集を開催したが、今回はその約2倍に当たる53作品を上映した。また、「NFCニューズレター」の誌面で稲垣監督の子息であるカメラマン稲垣涌三氏へのインタビューを実施したことも新たな試みとなった。

### Hiroshi Inagaki Retrospective at his Centenary

Commemorating the 100<sup>th</sup> anniversary of the birth of Hiroshi Inagaki (1905-80), master-hand director well known for dynamic motion pictures featuring big stars, this program showcased his films in a comprehensive manner.

Inagaki made a directorial debut during the silent era at the Kataoka Chiezo Production. Successfully adapted to the talkie era, Inagaki soon became critically acclaimed for his bright and intelligent period films including *Mubomatsuno issbo* (1943) which now is listed as one of the important classics of the Japanese cinema and *Tewo tsunagu kora* (1948), a sensitive film depicting children's feelings. After the 1950s, Inagaki made a number of big hits at the Toho studios. This program showcased Inagaki's entire career by screening films across his different eras including the films made around the end of world war 2, which have rarely been screened in the past. Consisting of 53 titles, this program was twice the size of the former retrospective held at NFC in 1981, a year after his death. Publishing the interview with Inagaki's son, cinematographer Yozo Inagaki, for the *NFC Newsletter* added depth to the program.



1

4/5(火)3:00pm 4/29(金・祝)11:00am

**諸譚三浪士**(66分・16fps・16mm・白黒・無声・不完全)  
'30(片岡千恵蔵プロ)(原)田中務(脚)稲垣浩(撮)酒井健三(出)片岡千恵蔵、尾上桃華、瀬川路三郎、桜井京子、市川小文治、香川良介、松下猛男、実川延一郎

**一心太助**(57分・16fps・16mm・白黒・無声・不完全)  
'30(片岡千恵蔵プロ)(原)(脚)稲垣浩(撮)石本秀雄(出)片岡千恵蔵、衣笠淳子、山本嘉一、津守精一、島田文郎、渥美秀一郎、香川良介、浅野雪子、中村寿郎、伊藤すゑ、市川小文治、成松和一、瀬川路三郎、林誠之助、中村秀郎

2

4/5(火)7:00pm 4/30(土)5:00pm

**國定忠治 旅と故郷**[玩具フィルム](1分・35mm・白黒・無声)  
'33(片岡千恵蔵プロ)(出)片岡千恵蔵、松葉家小花、高津慶子

**旅は青空**(11分・35mm・白黒・部分)  
'32(片岡千恵蔵プロ)(脚)稲垣浩(撮)石本秀雄(美)平松智恵吉(音)松平信博(出)片岡千恵蔵、田村邦男、成松和一

**男達ばやり**(80分・16fps・16mm・白黒・無声・不完全)  
'31(片岡千恵蔵プロ)(原)池田大伍(脚)稲垣浩(撮)石本秀雄(出)片岡千恵蔵、海江田譲二、実川延一郎、寺島貢、衣笠淳子、市川小文治、瀬川路三郎、成松和一、林誠之助、江崎荘人、大崎史郎

3

4/6(水)3:00pm 4/29(金・祝)2:00pm

**大菩薩峠 第二篇**[玩具フィルム](1分・35mm・白黒・無声)  
'36(日活京都)(出)大河内傳次郎

**大菩薩峠 第一篇(甲源一刀流の巻)**(77分・35mm・白黒)  
'35(日活京都)(応援監督)山中貞雄、荒井良平(原)中里介山(脚)三村伸太郎、武田寅男、稲垣浩(撮)谷本精史(音)西梧郎(出)大河内傳次郎、入江たか子、黒川弥太郎、沢田清、岡譲二、山本嘉一、高勢実乗、酒井米子、中田弘二、市川小文治、清川莊司、鳥羽陽之助、深水藤子

4

4/6(水)7:00pm 4/30(土)2:00pm

**血煙高田馬場(決闘高田の馬場)**[再公開版](51分・35mm・白黒)  
'37(日活京都)(共同監督)マキノ正博(原)(脚)牧陶三(撮)三井六三郎、石本秀雄(音)高橋半(出)阪東妻三郎、市川百々之助、原駒子、伊庭駿三郎、志村喬、大倉千代子、香川良介、小松みどり、市川正二郎、藤川三之祐、瀬川路三郎

**闇の影法師**(55分・35mm・白黒・不完全)  
'38(日活京都)(原)(脚)飯沼成治(撮)宮川一夫(音)西梧郎(出)阪東妻三郎、沢村国太郎、市川正二郎、轟夕起子、中野かほる、小松みどり、市川百々之助、藤川三之祐、香川良介、志村喬、林誠之助

5

4/7(木)3:00pm 4/29(金・祝)5:00pm

**出世太閤記**[再公開版](97分・35mm・白黒)

'38(日活京都)(原)(脚)山上伊太郎(撮)宮川一夫(美)角井平吉(音)西梧郎(出)嵐寛壽郎、月形龍之介、尾上菊太郎、河部五郎、市川小文治、原健作、市川春代、小松みどり、清水照子、瀬川路三郎、香川良介、尾上華丈、志村喬、團德磨、市川正二郎、東明二郎、吉田一子

6

4/7(木)7:00pm 4/30(土)11:00am

**海を渡る祭禮**(24分・35mm・白黒・部分)  
'41(日活京都)(脚)三村伸太郎(撮)石本秀雄(音)西梧郎(出)市川春代、月宮乙女、戸上城太郎、香川良介、志村喬、上田吉二郎

**宮本武蔵 第三部 剣心一路**[不完全](68分・35mm・白黒)  
'40(日活京都)(原)吉川英治(脚)稲垣浩、榎本宏(撮)宮川一夫(音)西梧郎(出)片岡千恵蔵、宮城千賀子、月形龍之介、尾上菊太郎、澤村國太郎、原健作、薄田研二、大倉千代子

7

4/8(金)3:00pm 5/1(日)2:00pm

**江戸最後の日**(97分・35mm・白黒)  
'41(日活京都)(原)吉田紘二郎(脚)和田勝一、稲垣浩(撮)石本秀雄(美)角井平吉(音)西梧郎(出)阪東妻三郎、尾上菊太郎、原健作、香川良介、志村喬、大澤健司、戸上城太郎、上田吉二郎、木野浩、河部五郎、遠山満、環歌子、柳恵美子、澤村敏子、常盤操子

8

4/8(金)7:00pm 5/3(火・祝)11:00am

**宮本武蔵 一乗寺決闘**(88分・35mm・白黒)  
'42(日活京都)(原)吉川英治(脚)稲垣浩(撮)石本秀雄(美)角井平吉(音)西梧郎(出)片岡千恵蔵、市川春代、月宮乙女、宮城千賀子、藤川三之祐、香川良介、尾上華丈、志村喬、河部五郎、大國一公、遠山満、上田吉二郎、東明二郎

9

4/9(土)11:00am 5/6(金)3:00pm

**独眼龍政宗**(83分・35mm・白黒)  
'42(大映京都)(原)石坂洋次郎(脚)稲垣浩(撮)石本秀雄(音)西梧郎(出)片岡千恵蔵、月形龍之介、高山徳右衛門、市川春代、戸上城太郎、水島道太郎、国分みさを、常盤操子、荒木忍、香川良介、尾上華丈、上田吉二郎、東良之助、光岡龍三郎、原聖四郎、遠山満、大國一公

10

4/9(土)2:00pm 5/1(日)11:00am 5/10(火)3:00pm

**無法松の一生**(78分・35mm・白黒)  
'43(大映京都)(原)岩下俊作(脚)伊丹万作(撮)宮川一夫(美)角井平吉(音)西梧郎(出)阪東妻三郎、月形龍之介、永田靖、園井恵子、川村禾門、澤村アキオ、杉狂児、山口勇、葛木香一、尾上華丈、小宮一晃、香川良介、小林叶江

11

4/9(土)5:00pm 5/11(水)7:00pm

**狼火は上海に揚る**[不完全](65分・35mm・白黒)  
'44(大映＝中華電影)(共同監督)岳楓(脚)八尋不二(撮)青島順一郎、高橋武則、黄紹芬(美)角井平吉(音)西梧郎、梁楽音(出)阪東妻三郎、月形龍之介、石黒達也、梅薫、李麗華、王丹鳳

12

4/10(日)11:00am 5/6(金)7:00pm

東海水滸伝(77分・35mm・白黒)

'45(大映京都)(共同監督)伊藤大輔(脚)八尋不二(撮)石本秀雄、宮川一夫(美)角井平吉(音)西梧郎(出)阪東妻三郎、片岡千恵蔵、市川右太衛門、逢初夢子、花柳小菊、市川春代、遠山満、寺島貢、深水藤子、香川良介、原聖四郎、光岡龍三郎、島田照夫、水野浩、藤原鶏太

13

4/10(日)2:00pm 5/10(火)7:00pm

最後の攘夷党(84分・35mm・白黒)

'45(大映京都)(原)菊池寛(脚)藤木弓(稲垣浩)(撮)宮川一夫(美)角井平吉(音)西梧郎、深井史郎(出)嵐寛寿郎、水野浩、笠智衆、南部章三、原聖四郎、寺島貢、市川春代、光岡龍三郎、相馬千恵子、ロバート・H・ジョンソン、メリー・マックフィールド

14

4/10(日)5:00pm 5/12(木)3:00pm

おかぐら兄弟(82分・35mm・白黒)

'46(大映京都)(脚)藤木弓(稲垣浩)(撮)石本秀雄(美)中村嘉寿(音)西梧郎(出)片岡千恵蔵、古川緑波、上田吉二郎、村田宏寿、渡辺篤、原健作、市川春代、嵐寿之助、市川左正、南部章三、仲上小夜子、近藤りん子

15

4/12(火)3:00pm 5/1(日)5:00pm

壮士劇場(89分・35mm・白黒)

'47(大映京都)(脚)八尋不二(撮)石本秀雄、宮川一夫(美)角井平吉(音)西梧郎(出)阪東妻三郎、入江たか子、月形龍之介、日高澄子、山本礼三郎、尾上菊太郎、香川良介、原聖四郎、荒木忍、寺島貢

16

4/12(火)7:00pm 5/4(水・祝)2:00pm 5/21(土)5:00pm

手をつなぐ子等(86分・35mm・白黒)

'48(大映京都)(原)田村一二(脚)伊丹万作(撮)宮川一夫(美)角井平吉(音)大木正夫(出)笠智衆、初山たかし、香川良介、杉村春子、徳川夢聲、泉田行夫、村田宏壽、島村イツマ、宮田二郎、常盤操子、伊達三郎、葉山富之輔、牧龍介、小田切ふみ子

17

4/13(水)3:00pm 5/3(火・祝)2:00pm

白頭巾現わる(84分・35mm・白黒)

'49(新東宝)(脚)三村伸太郎(撮)安本淳(美)進藤誠吾(音)伊藤宣二(出)大河内傳次郎、藤田進、小杉勇、黒川弥太郎、鳥羽陽之助、野上千鶴子、江川宇礼雄、牧由紀子、宮川玲子、清川荘司、田中春男、横山運平

18

4/13(水)7:00pm 5/5(木・祝)11:00am

忘れられた子等(86分・35mm・白黒)

'49(稲垣プロ=新東宝)(原)田村一二(脚)稲垣浩(撮)安本淳(美)堀保治(音)西梧郎(出)堀雄二、笠智衆、泉田行夫、岩田直二、葛木香一、浅野光男、葉山富之輔、松浦築枝、滝沢静子、木下サヨ子、大洲啓介、

大洲章三、佐々木統子

19

4/14(木)3:00pm 5/3(火・祝)5:00pm

群盗南蛮船(95分・35mm・白黒)

'50(新東宝)(脚)三村伸太郎(撮)安本淳(出)尾上梅幸、久我美子、尾上松緑、市川男女蔵、尾上九朗右衛門、花井蘭子、沢村貞子、花岡菊子、一の宮あつ子

20

4/14(木)7:00pm 5/4(水・祝)11:00am

海賊船(114分・35mm・白黒)

'51(東宝)(脚)小國英雄(撮)鈴木博(美)安倍輝明(音)深井史郎(出)三船敏郎、浅茅しのぶ、大谷友右衛門、田崎潤、森繁久彌、上田吉二郎、大泉滉、富田仲次郎、谷晃、福原秀丈、高原駿雄、大久保正信、松尾文人、英百合子

21

4/15(金)3:00pm 5/4(水・祝)5:00pm

稲妻草紙(98分・35mm・白黒)

'51(松竹京都)(脚)鈴木兵吾、稲垣浩(撮)安本淳(美)角井平吉(音)鈴木静一(出)阪東妻三郎、田中絹代、木暮実千代、三国連太郎、進藤英太郎、上田吉二郎、羅門光三郎、戸上城太郎、永田光男、葛木香一、尾上栄五郎、富本民平、山路義人、谷晃

22

4/15(金)7:00pm 5/5(木・祝)2:00pm

風雲千両船(93分・35mm・白黒)

'52(東宝)(原)村上元三(脚)三村伸太郎(撮)安本淳(美)北猛夫(音)深井史郎(出)大谷友右衛門、長谷川一夫、山口淑子、市川段四郎、二本柳寛、加東大介、大日方伝、山根寿子、東野英治郎、志村喬、木匠マユリ、小杉義男、小川虎之助、澤村國太郎、澤村貞子、汐見洋

23

4/17(日)5:00pm 5/12(木)7:00pm

お祭り半次郎(89分・35mm・白黒)

'53(東宝)(脚)藤木弓(稲垣浩)(撮)安本淳(美)安倍輝明(音)清瀬保二(出)長谷川一夫、高峰三枝子、三国連太郎、山田巳之助、北川町子、富田仲次郎、佐々木孝丸、芝田信、上田吉二郎、谷晃、阿部九州男、三好栄子、中北千枝子、沢井三郎、津田光男

24 25 26

①4/16(土)11:00am 5/8(日)11:00am 5/19(木)3:00pm

②4/16(土)2:00pm 5/8(日)2:00pm 5/19(木)7:00pm

③4/16(土)5:00pm 5/8(日)5:00pm 5/20(金)3:00pm

「宮本武蔵」シリーズ

①宮本武蔵(93分・35mm・カラー)

'54(東宝)(原)吉川英治(脚)北條秀司、若尾徳平、稲垣浩(撮)安本淳(美)伊藤熹朔、園真(音)團伊玖磨(出)三船敏郎、尾上九朗右衛門、三国連太郎、八千草薫、水戸光子、岡田茉莉子、三好栄子、平田昭彦、阿部九州男、小杉義男、加東大介、小澤栄、上山草人、谷晃、如月寛多

②續宮本武蔵 一乗寺の決斗(103分・35mm・カラー)

'55(東宝)(原)吉川英治(脚)北條秀司、若尾徳平、稲垣浩(撮)安本淳



(美)伊藤薫朔、園眞(音)團伊玖磨(出)三船敏郎、鶴田浩二、岡田茉莉子、八千草薫、木暮実千代、水戸光子、平田昭彦、加東大介、尾上九朗右衛門、堺左千夫、藤木悠、北川町子、三好榮子、東野英治郎、飯田健人

③宮本武蔵 完結篇 決闘巖流島(104分・35mm・カラー)  
'56(東宝)(原)吉川英治(脚)北條秀司、若尾徳平、稲垣浩(撮)山田一夫(美)伊藤薫朔、植田寛(音)團伊玖磨(出)鶴田浩二、三船敏郎、八千草薫、嵯峨三智子、岡田茉莉子、志村喬、千秋実、佐々木孝丸、加東大介、田中春男、上田吉二郎、富田仲次郎、高堂國典、沢村宗之助

27  
4/19(火)3:00pm 5/5(木・祝)5:00pm

嵐(108分・35mm・白黒)  
'56(東宝)(原)島崎藤村(脚)菊島隆三(撮)飯村正(美)北猛夫、植田寛(音)深井史郎(出)笠智衆、久保明、雪村いづみ、田中絹代、加東大介、東郷晴子、山本廉、大塚國夫、中北千枝子、清水元、山田巳之助、谷晃、松尾文人、稲葉義男、江川字礼雄、菅大作

28 29  
①4/17(日)11:00am 5/13(金)3:00pm  
②4/17(日)2:00pm 5/13(金)7:00pm

「柳生武芸帳」シリーズ  
①柳生武芸帳(106分・35mm・カラー)  
'57(東宝)(原)五味康祐(脚)稲垣浩、木村武(撮)飯村正(美)北猛夫、植田寛(音)伊福部昭(出)三船敏郎、鶴田浩二、久我美子、香川京子、岡田茉莉子、中村扇雀、大河内傳次郎、岩井半四郎、小堀明男、東野英治郎、平田昭彦、香川良介、戸上城太郎、上田吉二郎、左卜全、土屋嘉男  
②柳生武芸帳 双龍秘剣(105分・35mm・カラー)  
'58(東宝)(原)五味康祐(脚)稲垣浩、若尾徳平(撮)中井朝一(美)北猛夫、植田寛(音)伊福部昭(出)鶴田浩二、三船敏郎、乙羽信子、久我美子、岡田茉莉子、中村扇雀、大河内傳次郎、松本幸四郎、戸上城太郎、岩井半四郎、東野英治郎、上田吉二郎、小堀明男、左卜全、村上冬樹

30  
4/19(火)7:00pm 5/7(土)11:00am

太夫さんより 女体は哀しく(113分・35mm・カラー)  
'57(宝塚映画)(原)北條秀司(脚)八住利雄(撮)岡崎宏三(美)伊藤薫朔、植田寛(音)深井史郎(出)乙羽信子、淡路恵子、田中絹代、扇千景、伊藤久哉、小沢栄太郎、浪花千栄子、田中春男、平田昭彦、東郷晴子、千石規子、山茶花究

31  
4/20(水)3:00pm 5/7(土)2:00pm

旅姿鼠小僧(88分・35mm・白黒)  
'58(東宝)(脚)稲垣浩、高木隆(撮)中井朝一(美)植田寛(音)深井史郎(出)鶴田浩二、草笛光子、八千草薫、伊藤久哉、杉山昌三九、飯田蝶子、三井弘次、戸上城太郎、中村是好、沢村いき雄、立花暎子、北野八代子、佐田豊、林幹

32  
4/20(水)7:00pm 5/14(土)11:00am

無法松の一生(104分・35mm・カラー)  
'58(東宝)(原)岩下俊作(脚)稲垣浩、伊丹万作(撮)山田一夫(美)植田

寛(音)団伊玖磨(出)三船敏郎、高峰秀子、芥川比呂志、飯田蝶子、笠智衆、田中春男、多々良純、中村伸郎、宮口精二、中北千枝子、有島一郎、左卜全、高堂国典、土屋嘉男、沢村いき雄、小杉義男、上田吉二郎

33  
4/21(木)3:00pm 5/7(土)5:00pm

或る剣豪の生涯(111分・35mm・カラー)  
'59(東宝)(脚)稲垣浩(撮)山田一夫(美)伊藤薫朔(音)伊福部昭(出)三船敏郎、宝田明、司葉子、河津清三郎、藤原釜足、平田昭彦、三好榮子、淡路恵子、田中春男、上田吉二郎、富田仲次郎、堺左千夫、稲葉義男、中北千枝子、田島義文、谷晃、佐田豊

34  
4/21(木)7:00pm 5/14(土)2:00pm

日本誕生(124分・35mm・カラー・短縮版)  
'59(東宝)(脚)八住利雄、菊島隆三(撮)山田一夫(美)伊藤薫朔、植田寛(音)伊福部昭(特技監督)円谷英二(出)三船敏郎、鶴田浩二、原節子、司葉子、水野久美、上原美佐、香川京子、田中絹代、乙羽信子、杉村春子、久保明、宝田明、小林桂樹、加東大介、三木のり平、有島一郎、柳家金語楼、榎本健一、朝汐太郎、中村鴈治郎、東野英治郎、平田昭彦、志村喬

35  
4/22(金)3:00pm 5/14(土)5:00pm

ふんどし医者(116分・35mm・白黒)  
'60(東宝)(原)中野実(脚)菊島隆三(撮)山田一夫(美)中古智(音)団伊玖磨(出)森繁久弥、原節子、江利チエミ、夏木陽介、志村喬、山村聰、中谷一郎、田島義文、高原駿雄、八波むと志、田村まゆみ、中北千枝子、十朱久雄、清水元、小杉義男、菅井きん

36  
4/22(金)7:00pm 5/15(日)11:00am

大坂城物語(95分・35mm・カラー)  
'61(東宝)(原)村上元三(脚)木村武、稲垣浩(撮)山田一夫(美)植田寛(音)伊福部昭(出)三船敏郎、山田五十鈴、香川京子、星由里子、久我美子、夏木陽介、平田昭彦、志村喬、市川団子、田崎潤、丹波哲郎、中丸忠雄、香川良介、藤木悠、河津清三郎、藤田進、岩井半四郎、堺左千夫

37  
4/23(土)11:00am 5/17(火)3:00pm

ゲンと不動明王(102分・35mm・パートカラー)  
'61(東宝)(原)宮口しづえ(脚)井手俊郎、松山善三(撮)山田一夫(美)竹中和雄(音)団伊玖磨(出)笠智衆、三船敏郎、小柳徹、坂部尚子、千秋実、乙羽信子、浜美枝、夏木陽介、飯田蝶子、高橋とよ、東郷晴子、千石規子、小杉義男、左卜全、田武謙三、香川良介、横山運平

38  
4/23(土)2:00pm 5/18(水)7:00pm

野盗風の中を走る(111分・35mm・白黒)  
'61(東宝)(原)真山美保(脚)井手雅人、稲垣浩(撮)山田一夫(美)植田寛(音)石井欽(出)夏木陽介、佐藤允、市川染五郎、中村萬之助、松本幸四郎、雪村いづみ、田村奈己、若林映子、笠智衆、中丸忠雄、田島義

文、谷見、多々良純、市川中車、小杉義男、山本廉、大木正司、大塚国夫、  
天本英世

39

4/23(土)5:00pm 5/17(火)7:00pm

**どぶろくの辰**(115分・35mm・カラー)

'62(東宝)(原)中江良夫(脚)井手雅人、八住利雄(撮)山田一夫(美)植  
田寛(音)石井欽(出)三船敏郎、三橋達也、淡島千景、池内淳子、有島  
一郎、田崎潤、土屋嘉男、田島義文、香川良介、中北千枝子、中島その  
み、小杉義男、野村浩三、堺左千夫、山本廉、大木正司、谷見、清川莊  
司

40

4/24(日)0:00pm 5/18(水)2:00pm

**忠臣蔵 花の巻 雪の巻**(117分と90分・35mm・カラー)

'62(東宝)(脚)八住利雄(撮)山田一夫(美)伊藤嘉彦、植田寛(音)伊福  
部昭(出)松本幸四郎、三船敏郎、加山雄三、三橋達也、宝田明、夏木陽  
介、佐藤允、高島忠夫、河津清三郎、志村喬、市川中車、加東大介、小  
林桂樹、池部良、原節子、司葉子、団令子、星由里子、白川由美、水野  
久美、浜美枝、田村奈己、藤山陽子、池内淳子、淡路恵子、小泉博、森  
繁久弥、草笛光子、新珠三千代、フランキー堺、三木のり平、柳家金語  
楼

41

4/24(日)5:00pm 5/20(金)7:00pm

**秘剣**(108分・35mm・白黒)

'63(東宝)(原)五味康祐(脚)木村武、稲垣浩(撮)山田一夫(美)植田寛  
(音)石井欽(出)市川染五郎、長門裕之、月形龍之介、池内淳子、中川  
ゆき、田村奈己、清水将夫、香川良介、左ト全、三井弘次、中谷一郎、  
児玉清、山本廉、藤田進、田崎潤、田島義文、土屋嘉男、伊吹徹、天本  
英世

42

4/26(火)3:00pm 5/15(日)2:00pm

**土魂魔道 大龍巻**(106分・35mm・カラー)

'64(宝塚映画)(原)南條範夫(脚)木村武、稲垣浩(撮)山田一夫(美)植  
田寛(音)石井欽(特技監督)円谷英二(出)市川染五郎、夏木陽介、佐  
藤允、三船敏郎、星由里子、水野久美、草笛光子、久我美子、久保明、  
平田昭彦、堺左千夫、小杉義男、香川良介、稲葉義男、戸上城太郎

43

4/26(火)7:00pm 5/21(土)2:00pm

**がらくた**(118分・35mm・カラー)

'64(東宝)(脚)三村伸太郎、井手雅人、稲垣浩(撮)山田一夫(美)植田  
寛(音)団伊玖磨(出)市川染五郎、星由里子、大空真弓、有島一郎、平  
田昭彦、石山健二郎、中丸忠雄、小川虎之助、中北千枝子、左ト全、田  
崎潤、富田仲次郎、田中春男、佐田豊、堺左千夫、向井淳一郎、沢村い  
き雄

44

4/27(水)3:00pm 5/15(日)5:00pm

**暴れ豪右衛門**(100分・35mm・白黒)

'66(東宝)(脚)井手雅人、稲垣浩(撮)山田一夫(美)植田寛(音)石井欽  
(出)三船敏郎、佐藤允、田村亮、加東大介、星由里子、乙羽信子、大空

真弓、平田昭彦、黒部進、富田仲次郎、清水元、西村晃、天本英世、小  
杉義男、堺左千夫、田島義文、上田吉二郎、佐々木孝丸

45

4/27(水)7:00pm 5/22(日)4:00pm

**佐々木小次郎**(151分・35mm・カラー)

'67(東宝)(原)村上元三(脚)白坂依志夫、松浦健郎、稲垣浩(撮)斉藤  
孝雄(美)植田寛(音)崎出伍一(出)尾上菊之助、仲代達矢、三橋達也、  
長門勇、司葉子、星由里子、沢井桂子、大空真弓、三益愛子、中丸忠雄、  
土屋嘉男、市川中車、平田昭彦、清水将夫、藤田進、石山健二郎、香川  
良介

46

4/28(木)3:00pm 5/11(水)3:00pm 5/22(日)0:00pm

**風林火山**(165分・35mm・カラー)

'69(三船プロ)(原)井上靖(脚)橋本忍、国弘威雄(撮)山田一夫(美)植  
田寛(音)佐藤勝(出)三船敏郎、佐久間良子、中村錦之助、石原裕次  
郎、中村賀津雄、中村梅之助、田村正和、中村勘九郎、緒形拳、大空真  
弓、春川ますみ、久我美子、中村翫右衛門、月形龍之介、志村喬、南原  
宏治、平田昭彦、土屋嘉男、香川良介、清水将夫、戸上城太郎

47

4/28(木)7:00pm 5/21(土)11:00am

**待ち伏せ**(118分・35mm・カラー)

'70(三船プロ)(脚)藤木弓(稲垣浩)、小国英雄、高岩肇、宮川一郎(撮)  
山田一夫(美)植田寛(音)佐藤勝(出)三船敏郎、石原裕次郎、浅丘ル  
リ子、勝新太郎、中村錦之助、市川中車、有島一郎、北川美佳、土屋嘉  
男、戸上城太郎、中北千枝子、山崎竜之介、久野征四郎、荒木保夫、田  
中浩、木村博人

■(監)=監督・演出 (原)=原作・原案 (脚)=脚本・潤色・劇化・  
脚色 (撮)=撮影 (美)=美術・設計・美術監督 (音)=音楽・  
作曲 (出)=出演

会 期
平成17年5月31日～平成17年7月17日 (42日間)
会 場
大ホール
上映回数
84回
入場者総数
18,582人(1回平均221人)
雑誌・新聞関連記事
朝日新聞(2005年5月19日)「生誕百年特集 映画監督 豊田四郎」
公明新聞(2005年5月20日)「映画監督 豊田四郎」
しんぶん赤旗(2005年5月26日)「映画監督 豊田四郎」
THE JAPAN TIMES(2005年5月27日)「DIRECTOR'S FESTIVAL Toyoda Centenary」
文化庁月報(2005年6月号)「生誕百年特集 映画監督 豊田四郎」(岡田秀則)
毎日新聞(2005年7月26日)「脚本家の栄光」(松田真)

## 228 生誕百年特集 映画監督 豊田四郎

数々の芳醇な文芸映画を送り出し、日本映画の艶やかな表現に貢献した監督・豊田四郎(1905-77)の生誕100年を祝して、現存する作品を上映してその業績を総合的に振り返る企画である。豊田監督は、石坂洋次郎原作の『若い人』(1937)を大ヒットさせた後、著名な文学を映画化する才能と真摯なヒューマンイズムの視点が評価され、戦後も長きにわたって日本の文芸映画路線を担う巨匠として活躍を続け、鋭い人間観察、きめの細かい演技指導を通じて、希代の演出家として不動の評価を確立した。最高傑作といわれる織田作之助原作の『夫婦善哉』(1955)のほか、永井荷風、志賀直哉、川端康成から坂口安吾、谷崎潤一郎、井伏鱒二まで、名だたる文豪の話題作を映画化したが、この企画では現在まで残存する映画のうち『せきれいの曲』(1951)や『花のれん』(1959)などの新規収集作品を含む42作品を上映し、三回忌に当たる1979年に26作品を上映した同監督の特集をしのぐ規模となった。また、「NFCニューズレター」誌上で、映画史家・田中眞澄氏と映画学研究者・藤井仁子氏による、それぞれ新視点の監督論を発表するよう依頼し、高い名声に比して評伝・作品研究書が存在しないなど、関連文献の少ないこの巨匠に関する研究を深めることができた。

### Shiro Toyoda Retrospective at his Centenary

Commemorating the 100<sup>th</sup> anniversary of the birth of Shiro Toyoda (1905-77), 42 of his films were shown in this program. This program was thus in a much bigger scale than the former retrospective with 26 titles NFC held in 1979, 3 years after Toyoda's death. Known as master director of "literary films", that is, films based on famous novels, Toyoda made a significant contribution to the history of Japanese cinema with his emphasis on subtle and nuanced acting based on his sharp observation of human nature. His works include the early box-office hit *Wakai hito* (1937), based on Yojiro Ishizaka's novel and *Meotozenzai* (1955), based on Sakunosuke Oda, is considered Toyoda's best work. Other authors Toyoda based his films on are Kafu Nagai, Naoya Shiga, Yasunari Kawabata, Ango Sakaguchi, Junichiro Tanizaki and Masuji Ibuse. In conjunction with this program, NFC added *Sekirei no kyoku* (1951) and *Hananoren* (1959) to its collection. NFC commissioned film historian Masumi Tanaka and scholar on film studies Jinshi Fujii to write scholarly essays on Toyoda from a new perspective, thus added scholarship on director Toyoda on whom, despite his fame, not much research had been done.





1  
5/31(火)3:00pm 6/24(金)7:00pm

**若い人**(81分・35mm・白黒)  
'37(東京発声映画製作所)(原)石坂洋次郎(脚)八田尚之(撮)小倉金弥(美)河野鷹思(音)久保田公平(出)大日方傳、市川春代、夏川靜江、英百合子、山口勇、伊藤智子、林千歳、押本映二、鹿島俊策、松林清三郎、春日章、松田宏一、吉川英蘭

2  
5/31(火)7:00pm 6/29(水)3:00pm

**泣蟲小僧**(80分・35mm・白黒)  
'38(東京発声映画製作所)(原)林芙美子(脚)八田尚之(撮)小倉金弥(美)河野鷹思(音)今澤将矩(出)藤井貢、林文雄、栗島すみ子、逢初夢子、市川春代、梅園竜子、山口勇、一木禮司、高島敏郎、藤輪欣司、吉川英蘭、品川真人、横山一雄

3  
6/1(水)3:00pm 6/25(土)1:00pm

**冬の宿**(84分・35mm・白黒・不完全)  
'38(東京発声映画製作所)(原)阿部知二(脚)八田尚之(撮)小倉金弥(美)進藤誠吾(音)中川栄三、津川圭一(出)勝見庸太郎、水町庸子、原節子、北沢彪、藤輪欣司、林文夫、島絵美子、堀川浪之助、押本映治、伊志井正也、田辺若男、伊田芳美、平陽光、青野瓢吉、南部邦彦、一木禮司

4  
6/1(水)7:00pm 6/24(金)3:00pm

**鶯**(71分・35mm・白黒)  
'38(東京発声映画製作所)(原)伊藤永之介(脚)八田尚之(撮)小倉金弥(美)進藤誠吾(音)中川栄三(出)勝見庸太郎、霧立のぼる、清川虹子、御橋公、伊達信、鶴丸睦彦、押本映治、堤真佐子、村井キヨ、藤輪欣司、北沢彪、汐見洋、文野朋子、杉村春子、水町庸子、藤間房子、堀川浪之助

5  
6/2(木)3:00pm 6/25(土)4:00pm

**小島の春**(88分・35mm・白黒)  
'40(東京発声映画製作所)(原)小川正子(脚)八木保太郎(撮)小倉金弥(美)園真(音)津川圭一(出)夏川靜江、菅井一郎、杉村春子、清水美佐子、水谷史郎、勝見庸太郎、林幹、英百合子、田中筆子、菊川郁子、中村メイコ、三津田健、小島洋々、二葉かほる

6  
6/2(木)7:00pm 6/26(日)1:00pm

**大日向村**(84分・35mm・白黒)  
'40(東京発声映画製作所)(原)和田傳(脚)八木隆一郎(撮)小原譲治(美)園真(音)中川栄三(出)河原崎長十郎、中村翫右衛門、杉村春子、伊藤智子、藤間房子、藤輪欣司、生方賢一郎、林幹、中村鶴蔵、坂東調右エ門、市川菊之助、市川笑太郎、助高屋助蔵、市川薙司、橘小三郎、瀬川菊之丞、原緋沙子

7  
6/3(金)3:00pm 6/28(火)7:00pm

**わが愛の記**(99分・16mm・白黒)  
'41(東京発声映画製作所)(原)山口さとの(脚)八木保太郎(撮)小倉金弥(美)園真(音)深井史郎(出)遠藤慎吾、山岸美代子、三樹万豊、林千歳、矢口陽子、小高たかし、三原純、横山運平、横田壽、林幹、石黒達也、杉村春子、志村アヤコ、末弘美子、関志保子

8  
6/3(金)7:00pm 6/26(日)4:00pm

**若き姿**(81分・35mm・白黒・不完全)  
'43(朝鮮映画)(脚)八田尚之(撮)三浦光雄(美)五所福之助、高垣昇(出)丸山定夫、月形龍之介、高山徳右衛門、佐分利信、龍崎一郎、永田靖、東山千栄子、三谷幸子、黄淑、文芸峯、金玲、清川莊司、中村彰、森赫子

9  
6/4(土)1:00pm 6/28(火)3:00pm

**女の四季**(100分・35mm・白黒)  
'50(東宝)(原)丹羽文雄(脚)八住利雄(撮)木塚誠一(美)久保一雄(音)飯田信夫(出)若山セツコ、杉村春子、池部良、東山千栄子、薄田研二、荒木道子、藤原釜足、赤木蘭子、渡辺篤、谷間小百合、小杉義男

10  
6/4(土)4:00pm 6/29(水)7:00pm

**せきれいの曲**(100分・35mm・白黒)  
'51(東宝)(脚)水木洋子(撮)三浦光雄(美)北川恵筈(音)大木正夫(出)轟夕起子、有馬稲子、山村聰、立花満枝、斎藤達雄、御橋公、村上冬樹、南美江、本間文子、三條利喜江、左ト全、大山健二、石黒達也、有馬是馬

11  
6/5(日)1:00pm 6/30(木)7:00pm

**風ふたたび**(88分・35mm・白黒)  
'52(東宝)(原)永井龍男(脚)植草圭之助(撮)会田吉男(美)河東安英(音)清瀬保二(出)原節子、池部良、山村聰、浜田百合子、三津田健、杉村春子、龍岡晋、南美江、御橋公、菅原通済、十朱久雄、村上冬樹

12  
6/5(日)4:00pm 7/1(金)3:00pm

**春の囁き**(93分・35mm・白黒)  
'52(東宝)(脚)植草圭之助、古川良範、豊田四郎(撮)三浦光雄(美)安倍輝明(音)芥川也寸志(出)三國連太郎、岡田茉莉子、遠山幸子、青山京子、久保明、鈴木孝次、三津田健、中村是好、千石規子、荒木道子、浦邊糸子、二本柳寛

13  
6/7(火)3:00pm 7/2(土)1:00pm

**雁**(104分・35mm・白黒)  
'53(大映東京)(原)森鷗外(脚)成澤昌茂(撮)三浦光雄(美)伊藤嘉朔(音)團伊玖磨(出)高峰秀子、芥川比呂志、宇野重吉、東野英治郎、飯田蝶子、田中榮三、浦邊糸子、小田切みき、三宅邦子、伊達正、山田禪二、町田博子

14

6/7(火)7:00pm 7/3(日)4:00pm

**或る女**(134分・35mm・白黒)  
'54(大映東京)(原)有島武郎(脚)八住利雄(撮)峰重義(美)木村威夫(音)團伊玖磨(出)京マチ子、森雅之、船越英二、芥川比呂志、若尾文子、沼田曜一、丸山修、信欣三、近衛敏明、高松英郎、浦邊粂子、夏川静江、岡村文子、滝花久子、小田切みき、星ひかる

15

6/8(水)3:00pm 7/1(金)7:00pm

**麦笛**(103分・35mm・白黒)  
'55(東宝)(原)室生犀星(脚)池田一郎、豊田四郎(撮)三浦光雄(美)河東安英(音)団伊玖磨(出)久保明、青山京子、太刀川洋一、越路吹雪、志村喬、中北千枝子、三好栄子、浪花千栄子、浜田百合子、藤原釜足、塩沢登代路、左ト全、三条利喜江、東静子

16

6/8(水)7:00pm 7/2(土)4:00pm

**夫婦善哉**(120分・35mm・白黒)  
'55(東宝)(原)織田作之助(脚)八住利雄(撮)三浦光雄(美)伊藤嘉潮(音)團伊玖磨(出)森繁久彌、淡島千景、司葉子、浪花千栄子、山茶花究、小堀誠、田中春男、田村樂太、森川佳子、志賀殖家弁慶、萬代峰子、三好栄子、上田吉二郎、澤村宗之助、谷晃、若宮忠三郎、三條利喜江

17

6/9(木)3:00pm 7/3(日)1:00pm

**白夫人の妖恋**(103分・35mm・カラー)  
'56(ショウ・プラザーズ＝東宝)(原)林房雄(脚)八住利雄(撮)三浦光雄(美)三林亮太郎、園眞(音)團伊玖磨(出)池部良、山口淑子、八千草薫、徳川夢声、上田吉二郎、清川虹子、田中春男、東野英治郎、小杉義男、谷晃、小泉澄子、宮田芳子、沢村いき雄、左ト全、河崎堅男、山田彰

18

6/9(木)7:00pm 7/9(土)1:00pm

**猫と庄造と二人のをんな**(135分・16mm・白黒)  
'56(東京映画)(原)谷崎潤一郎(脚)八住利雄(撮)三浦光雄(美)伊藤嘉潮、園眞(音)芥川也寸志(出)森繁久彌、香川京子、山田五十鈴、浪花千栄子、萬代峰子、三好栄子、南悠子、芦乃家雁玉、林田十郎、田中春男、山茶花究、横山エンタツ、環三千世、春江ふかみ、都家かつ江、内海突破

19

6/10(金)3:00pm 7/10(日)4:00pm

**雪国**(133分・35mm・白黒)  
'57(東宝)(原)川端康成(脚)八住利雄(撮)安本淳(美)伊藤嘉潮、園眞(音)団伊玖磨(出)池部良、岸恵子、八千草薫、久保明、森繁久彌、加東大介、田中春男、中村彰、浪花千栄子、多々良純、万代峯子、浦辺粂子、中田康子、東郷晴子、千石規子、三好栄子、谷晃、若宮忠三郎、市原悦子

20

6/10(金)7:00pm 6/30(木)3:00pm

**夕嵐**(114分・35mm・カラー)

'57(宝塚映画)(脚)八住利雄(撮)安本淳(美)伊藤嘉潮(音)芥川也寸志(出)淡島千景、若尾文子、志村喬、池部良、千石規子、河津清三郎、小沢栄太郎、中田康子、多々良純、浪花千栄子、市原悦子、万代峯子、谷口香、高見ありさ、杉狂児、堤康久、川内まり子、桂美保

21

6/11(土)1:00pm 7/5(火)7:00pm

**負ケラレマセン勝ツマデハ**(106分・35mm・白黒)  
'58(東京映画)(原)坂口安吾(脚)八住利雄(撮)安本淳(美)河東安英(音)芥川也寸志(出)森繁久彌、望月優子、野添ひとみ、淡島千景、三遊亭小金馬、伴淳三郎、乙羽信子、小林桂樹、有島一郎、内海突破、左ト全、一龍齋貞鳳

22

6/11(土)4:00pm 7/6(水)7:00pm

**駅前旅館**(109分・35mm・カラー)  
'58(東京映画)(原)井伏鱒二(脚)八住利雄(撮)安本淳(美)松山崇(音)団伊玖磨(出)森繁久彌、フランキー堺、伴淳三郎、淡島千景、草笛光子、淡路恵子、藤木悠、多々良純、左ト全、森川信、山茶花究、三井美奈、浪花千栄子

23

6/12(日)1:00pm 7/5(火)3:00pm

**花のれん**(129分・35mm・白黒)  
'59(宝塚映画)(原)山崎豊子(脚)八住利雄(撮)安本淳(美)伊藤嘉潮(音)芥川也寸志(出)淡島千景、森繁久彌、石浜朗、花菱アチャコ、乙羽信子、佐分利信、浪花千栄子、飯田蝶子、司葉子、万代峯子、田村樂太、山茶花究、頭師孝雄、環三千世

24

6/12(日)4:00pm 7/6(水)3:00pm

**男性飼育法**(103分・35mm・カラー)  
'59(東京映画)(原)三宅艶子(脚)八住利雄(撮)安本淳(美)伊藤嘉潮(音)芥川也寸志(出)森繁久彌、淡島千景、花菱アチャコ、淡路恵子、小林桂樹、水谷良重、八波ひと志、由利徹、南利明、都家かつ江、菅井きん、横山道代、荒木道子、三宅艶子、石山文恵、伊藤嘉潮、市原悦子、細川俊夫

25

6/14(火)3:00pm 7/9(土)4:00pm

**暗夜行路**(140分・35mm・白黒)  
'59(東京映画)(原)志賀直哉(脚)八住利雄(撮)安本淳(美)伊藤嘉潮(音)芥川也寸志(出)池部良、淡島千景、仲代達矢、山本富士子、千秋実、杉村春子、中村伸郎、北村和夫、仲谷昇、汐見洋、三津田健、賀原夏子、長岡輝子、荒木道子、南美江、市原悦子、岸田今日子、小池朝雄、天津敏

26

6/14(火)7:00pm 7/7(木)3:00pm

**珍品堂主人**(120分・35mm・カラー)  
'60(東京映画)(原)井伏鱒二(脚)八住利雄(撮)玉井正夫(美)伊藤嘉潮(音)佐藤勝(出)森繁久彌、淡島千景、淡路恵子、小林千登勢、峯京子、乙羽信子、高島忠夫、東野英治郎、山茶花究、有島一郎、柳永二郎、千石規子、都家かつ江、横山道代、市原悦子、林寛、古今亭今輔

27

6/15(水)3:00pm 7/10(日)1:00pm

**暹東綺譚**(120分・35mm・白黒)

'60(東京映画)(原)永井荷風(脚)八住利雄(撮)玉井正夫(美)伊藤嘉翔(音)団伊玖磨(出)山本富士子、芥川比呂志、新珠三千代、乙羽信子、淡路恵子、東野英治郎、中村伸郎、宮口精二、織田政雄、中村芝鶴、岸田今日子、日高澄子、高友子、長岡輝子、賀原夏子、原知佐子

28

6/15(水)7:00pm 7/8(金)3:00pm

**東京夜話**(108分・35mm・白黒)

'61(東京映画)(原)富田常雄(脚)八住利雄(撮)玉井正夫(美)伊藤嘉翔(音)芥川也寸志(出)芥川比呂志、山崎努、淡島千景、乙羽信子、団令子、岸田今日子、森繁久彌、有島一郎、フランキー堺、富田恵子、丹波哲郎、中村伸郎、名古屋章、馬淵晴子、原知佐子

29

6/16(木)3:00pm 7/8(金)7:00pm

**明日ある限り**(113分・35mm・白黒)

'62(東京映画)(原)壺井栄(脚)八住利雄(撮)岡崎宏三(美)中古智(音)林光(出)佐野周二、香川京子、山崎努、池内淳子、星由里子、杉村春子、浪花千栄子、千秋美、乙羽信子、清水喜代子、稲垣隆、水野久美、北村和夫、伊藤幸子、荒木道子、南美江、加藤治子、一竜齋貞鳳

30

6/16(木)7:00pm 7/16(土)1:00pm

**如何なる星の下に**(117分・35mm・カラー)

'62(東京映画)(原)高見順(脚)八住利雄(撮)岡崎宏三(美)伊藤嘉翔(音)平岡精二(出)山本富士子、池部良、森繁久弥、加東大介、池内淳子、三益愛子、淡路恵子、大空真弓、乙羽信子、植木等、西村晃、山茶花究、北あけみ

31

6/17(金)3:00pm 7/17(日)1:00pm

**憂愁平野**(114分・35mm・カラー)

'63(東京映画)(原)井上靖(脚)八住利雄(撮)岡崎宏三(美)伊藤嘉翔(音)団伊玖磨(出)森繁久彌、山本富士子、新珠三千代、浪花千栄子、仲代達矢、長門裕之、大空真弓、乙羽信子、久里千春、若宮忠三郎、桜井浩子、中谷一郎

32

6/17(金)7:00pm 7/16(土)4:00pm

**台所太平記**(110分・35mm・カラー)

'63(東京映画)(原)谷崎潤一郎(脚)八住利雄(撮)岡崎宏三(美)伊藤嘉翔(音)団伊玖磨(出)森繁久弥、淡島千景、団令子、乙羽信子、淡路恵子、フランキー堺、三木のり平、池内淳子、中尾ミエ、大空真弓、水谷良重、京塚昌子、森光子、山茶花究、西村晃、松村達雄、小沢昭一、飯田蝶子

33

6/18(土)1:00pm 7/7(木)7:00pm

**新・夫婦善哉**(118分・35mm・白黒)

'63(東京映画)(原)織田作之助、上司小剣(脚)八住利雄(撮)岡崎宏三

(美)伊藤嘉翔(音)団伊玖磨(出)森繁久彌、淡島千景、淡路恵子、浪花千栄子、小池朝雄、山茶花究、三木のり平、八千草薫、中川ゆき、田中春男、藤田まこと、八代万智子、辻伊万里、安達國晴、若宮忠三郎、松村達雄

34

6/18(土)4:00pm 7/12(火)3:00pm

**喜劇 陽気な未亡人**(98分・35mm・カラー)

'64(東京映画)(脚)八住利雄(撮)岡崎宏三(美)伊藤嘉翔(音)団伊玖磨(出)フランキー堺、新珠三千代、望月優子、岸田今日子、水谷良重、中尾ミエ、坂本九、淡島千景、乙羽信子、池内淳子

35

6/19(日)1:00pm 7/12(火)7:00pm

**甘い汗**(119分・35mm・白黒)

'64(東京映画)(原)水木洋子(撮)岡崎宏三(美)水谷浩(音)林光(出)京マチ子、佐田啓二、池内淳子、桑野みゆき、小沢栄太郎、山茶花究、名古屋章、小沢昭一、市原悦子、木村俊恵、桜井浩子、川口敦子、千石規子、沢村貞子、春風亭柳朝、若宮忠三郎

36

6/19(日)4:00pm 7/14(木)7:00pm

**波影**(107分・35mm・白黒)

'65(東京映画)(原)水上勉(脚)八住利雄(撮)岡崎宏三(美)伊藤嘉翔(音)芥川也寸志(出)若尾文子、中村賀津雄、大空真弓、乙羽信子、浪花千栄子、沢村貞子、春川ますみ、山茶花究、三島雅夫、太刀川寛、田武謙三、柳家小せん、深見泰三、大辻伺郎、ロミ山田、木村俊恵

37

6/21(火)3:00pm 7/13(水)7:00pm

**四谷怪談**(105分・35mm・カラー)

'65(東京映画)(原)鶴屋南北(脚)八住利雄(撮)村井博(美)水谷浩(音)武満徹(出)仲代達矢、岡田茉莉子、中村勘三郎、池内淳子、大空真弓、淡路恵子、小沢栄太郎、三島雅夫、平幹二朗、東野英治郎、永田靖、滝田裕介、中野伸逸、矢野宣、三戸部スエ、秋好光果

38

6/21(火)7:00pm 7/14(木)3:00pm

**大工太平記**(101分・35mm・カラー)

'65(東京映画)(原)平田雅哉、内田克巳(脚)八住利雄(撮)村井博(美)伊藤嘉翔(音)山本直純(出)森繁久彌、藤田まこと、頭師佳孝、乙羽信子、中村玉緒、池内淳子、ハナ肇、山茶花究、淡路恵子、石山健二郎、三木のり平、太宰久雄、田崎潤、曾我廼家一二三、萬代峰子、松本染升

39

6/22(水)3:00pm 7/17(日)4:00pm

**千曲川絶唱**(102分・35mm・白黒)

'67(東京映画)(脚)松山善三(撮)岡崎宏三(美)狩野健(音)佐藤勝(出)北大路欣也、星由里子、平幹二朗、いしだあゆみ、田中邦衛、宮口精二、浜田寅彦、中村たつ、福田豊土、三島雅夫、都家かつ江、関口銀三、山本清、岩倉高子、上田忠好、若宮忠三郎

6/22(水)7:00pm 7/15(金)3:00pm

**喜劇 駅前百年**(102分・35mm・カラー)

'67(東京映画)(脚)八住利雄、広沢栄(撮)岡崎宏三(美)小島基司(音)  
山本直純(出)森繁久彌、淡島千景、伴淳三郎、乙羽信子、松山英太郎、  
フランキー堺、名古屋章、池内淳子、大空真弓、山茶花究、三木のり平、  
森光子、赤木春恵、堺正章、三波伸介、戸塚睦夫、伊東四朗、左ト全

6/23(木)3:00pm 7/15(金)7:00pm

**喜劇 駅前開運**(95分・35mm・カラー)

'68(東京映画)(脚)広沢栄(撮)村井博(美)小島基司(音)別宮貞雄  
(出)森繁久彌、伴淳三郎、沢村貞子、頭師佳孝、フランキー堺、森光子、  
池内淳子、野川由美子、大空真弓、藤田まこと、佐藤友美、藤村有弘、  
山茶花究、中村是好、黒柳徹子、三波伸介、戸塚睦夫、伊東四朗

6/23(木)7:00pm 7/13(水)3:00pm

**地獄変**(95分・35mm・カラー)

'69(東宝)(原)芥川龍之介(脚)八住利雄(撮)山田一夫(美)村木忍  
(音)芥川也寸志(出)中村錦之助、仲代達矢、内藤洋子、大出俊、下川  
辰平、内田喜郎、中村吉十郎、鈴木治夫、天本英世、大久保正信、音羽  
久米子、猪俣光世、沢村いき雄、今福正雄

■(監)=監督・演出 (原)=原作・原案 (脚)=脚本・脚色・潤色  
(撮)=撮影 (美)=美術・美術監督 (音)=音楽 (出)=出演

会 期
平成17年7月19日～平成17年8月18日 (27日間)
会 場
大ホール
上映回数
54回
入場者総数
9,726人(1回平均180人)
雑誌・新聞関連記事
東京新聞(2005年6月24日)「映画は復元したけれど」(嵐寛ファン)
朝日新聞(2005年6月25日)「銀幕の李香蘭よみがえる」
神奈川新聞(2005年7月1日)「よみがえる幻の映像」
毎日新聞(2005年7月5日)「発掘された映画たち」
産経新聞(2005年7月15日)「時代が薫る お宝映像」(松本明子)
読売新聞(2005年7月15日)「幻の作品一堂に」(山根貞男)
日本経済新聞(2005年7月24日)「実験映像『銀輪』」(松本／宝)
文化庁月報(2005年7月号)「発掘された映画たち2005」(板倉史明)
芸術新潮(2005年7月号)「古くて新しい 発掘された映画を見逃すな」
読売新聞(2005年8月6日)「快傑ハヤブサ」
朝日新聞(2005年8月23日)「あだ花に終わらぬ『満映』」(隈元信一)
東京人No.221(2005年12月)「昨今、日本映画発掘情報」(田中真澄)



## 229 発掘された映画たち2005

「発掘された映画たち」は、近年フィルムセンターが新たに発掘または復元したフィルムを上映するシリーズ企画である。5回目となる今回は、デジタル復元作品を含む多彩なフィルムを上映することで、文化遺産としての映画という認識のさらなる普及を目指した。

上映された56作品は、ロシアの Gosfilmofond が収蔵していた戦前・戦中期の日本映画の発掘作品に加え、ドイツ、オーストリア、フィンランド、中国など世界各国のフィルム・アーカイブや、国内各地で発見された作品からなっている。その中には、戦時下の上海で製作された『萬世流芳』(1943)、そして作曲家・貴志康一がドイツで製作した『鏡』(1933)と『春』(1934)など、これまで日本で現存が確認されていなかった映画史的に貴重な作品も含まれており、また、染色フィルムとしても重要な日活版「関東大震災実況」(1923)や、我が国独自のカラー・システム「コニカラー・システム」を復元した『赤い陣羽織』(1958)といった映画技術史上のトピックとなる作品も上映した。さらに、アジア初の長篇アニメ『鉄扇公主』(1941)の日本語吹替版と人気漫画『サザエさん』の初映画化(1948)は、漫画やアニメーションの研究者などにも注目された。その他、国際的評価が高まっている清水宏監督の3作品や、デジタル復元活動の成果として『新・平家物語』(1955)などを上映した。日本の実験映画のさきがけとなった『銀輪』(1955)の上映に際しては映画監督・松本俊夫氏のトークショーも実施した。

### Cinema: Lost and Found 2005

“Cinema: Lost and Found” series provides an opportunity to screen the motion pictures that have recently been collected and restored by NFC. In its 5<sup>th</sup> edition, NFC showed a variety of films including those recently restored with digital technology so the public would be more aware of the notion that motion picture is cultural heritage.

The program consisted of 56 titles including Japanese wartime and immediate post-war film recently found at Gosfilmofond, national film archive of Russia, and others found in countries such Germany, Austria, Finland and China as well as those found within Japan. They included the films that had formerly been considered lost. For example, *Banseiryūbo* (1943) which was made in wartime Shanghai, *SPIEGEL* (1933) and *IM FRUHLING-EIN FILM VON JAPANISCHEN FRUHLINGSFESTEN* (1934) which Japanese composer Koichi Kishi made in Germany are especially important from the point of view of film history. The program also screened some films that are significant examples of the history of film technology such as *Kanto daishinsai jikkō* (1923) which is important tinted film made at Nikkatsu, and *Akai jinbaori* (1958) which was made in the Japanese original color system named “Konicolor System” and was restored for this screening. In addition, the Japanese dubbed version of the first animation feature film in Asia *Tessenkoshu* (1941) and the first drama film based on the popular comic series *Sazaesan* (1948) attracted special attention of scholars of comics and animation. Other films included 3 films by Hiroshi Shimizu, who has recently gained international acclaim, and digitally restored *Shinheike monogatari* (1955). One of the directors of *Ginrin* (1955), forerunner of Japanese experimental film, Toshio Matsumoto gave a talk in person after the screening.



1

7/19(火)3:00pm 8/6(土)4:00pm

保津川の急流(4分・16fps・35mm・染調色・無声)  
'06(ノパテ)

天地創造の映画劇(13分・16fps・35mm・染色・無声)  
'10頃(ノパテ)

小林富次郎葬儀(7分・16fps・35mm・白黒・無声)  
'10(吉沢商店)

大阪倉庫の爆発(5分・16fps・35mm・染色・無声・不完全)  
'17(天活大阪)

関東大震災実況(18分・16fps・35mm・染色・無声・不完全)  
'23(日活向島)(撮)高阪利光、伊佐山三郎

鏡 *SPIEGEL* (16分・35mm・白黒・日本語字幕付)  
'33(ウーファ・貴志学術映画研究所)(監)(音)貴志康一(製)ニコラ  
ウス・カウフマン(脚)ヴィルヘルム・ブラガー (解)ヴィルヘルム・  
マルテン(出)湯浅初枝

春 *IM FRUHLING - EIN FILM VON JAPANISCHEN FRUHLINGSFESTEN* (13分・35mm・白黒・日本語字幕付)  
'34(ウーファ・貴志学術映画研究所)(監)(脚)(音)貴志康一(監)(脚)  
ヴィルヘルム・ブラガー (製)ニコラウス・カウフマン(解)マルティ  
ン・ヤコブ(出)湯浅初枝

バンサ *BEI DEN BANSA AUF BORNEO*  
(17分・35mm・白黒・日本語字幕付)  
'34(東和商事映画部)(監)小倉清太郎(撮)林田重男、大森昌夫(編)鈴  
木重吉

2

7/19(火)7:00pm 8/6(土)1:00pm

★武士道 *BUSHIDO: DAS EISERNE GESETZ*  
(84分・18fps・35mm・白黒・無声・日本語字幕付)  
'25(東亜等持院=H・K・ハイラント・プロ)(監)ハインツ・カール・  
ハイラント、賀古残夢(脚)長野健太(撮)橋本佐一呂(出)明石潮、岡  
島艶子、カール・テティンク、ロー・ホール

3

7/20(水)3:00pm 8/7(日)4:00pm

國士無双[デジタル復元版](21分・18fps・35mm・白黒・無声・短縮版)  
'32(千恵プロ=日活)(監)伊丹万作(原)(脚)伊勢野重任(撮)石本秀  
雄(出)片岡千恵蔵、高勢実乗、瀬川路三郎、渥美秀一郎、伴淳三郎、山  
田五十鈴

瀧の白糸[画面分割版](3分・24fps・35mm・白黒・無声・断片)  
瀧の白糸[部分デジタル版](102分・24fps・35mm・白黒・無声)  
'33(入江ぶろだくしょん)(監)溝口健二(原)泉鏡花(脚)東坊城恭長  
(撮)三木茂(出)入江たか子、岡田時彦、菅井一郎、村田宏壽、見明凡  
太郎

4

7/20(水)7:00pm 8/7(日)1:00pm

新・平家物語[予告編](3分・35mm・カラー)  
新・平家物語[デジタル復元版](107分・35mm・カラー)  
'55(大映京都)(監)溝口健二(原)吉川英治(脚)依田義賢、成澤昌成、  
辻久一(撮)宮川一夫 (美)水谷浩(音)早坂文雄(出)市川雷蔵、久我美  
子、林成年、木暮実千代、進藤英太郎

5

7/21(木)3:00pm 8/13(土)4:00pm

月のかんさつ(8分・35mm・パートカラー)  
'55(東映教育映画部)(監)(脚)蔵田直八(撮)宮西良太郎

赤い陣羽織(94分・35mm・カラー)  
'58(歌舞伎座映画)(監)山本薩夫(原)木下順二(脚)高岩肇(撮)前田  
実(美)久保一雄(音)大木正夫(出)中村勘三郎、有馬稲子、伊藤雄之  
助、香川京子、三島雅夫、多々良純、小松方正

6

7/21(木)7:00pm 8/14(日)1:00pm

★日蓮上人 龍乃口法難(34分・16fps・35mm・白黒・無声)  
'21(国活巢鴨)(監)吉野二郎(監修)花井日秀居士(脚)桂田阿弥笠  
(撮)青嶋順一郎(出)市川崚十郎、澤村四郎五郎、澤村四若、中村駒三  
郎、片岡童十郎、市川升童、阪東佳玉

稲田の草庵(24分・24fps・35mm・染調色・無声)  
'23(伊予津島仏教映画宣伝部=牧野教育映画)(監)沼田紅緑

★母と子(22分・24fps・35mm・染色[一部白黒]・無声)  
'26(社会教育映画研究所)(監)古林貞二(出)出雲美樹、久松三岐

黎け行く村(39分・18fps・35mm・染色・無声)  
'27(都商会)(監)ヘンリー小谷(出)伊志井寛、橋重子、山田直、八田新二

7

7/22(金)3:00pm 8/18(木)7:00pm

温泉悲話 三朝小唄(60分・18fps・35mm・白黒・無声)  
'29(マキノ御室)(監)(原)(脚)人見吉之助(撮)木村角山(出)岡島艶  
子、秋田伸一、岡村義男、藤川澄子、マキノ正美、石川良平、柳妻麗三郎

少年諸君(28分・24fps・35mm・白黒・無声)  
'32(兄弟プロダクション)(原)(脚)(監)高田保(撮)鈴木博、早船彌壽  
次(出)澤村宗之助、澤村敏之助、澤村雄之助、澤村美永子、河村芳栄

わかちみち  
岐路(36分・18fps・35mm・無声)  
'33(テラダ映画)(監)竹内俊一(脚)柳武史(撮)寺田清彦

8

7/22(金)7:00pm 8/10(水)3:00pm

勝鬨(76分・18fps・35mm・染色・無声・不完全)  
'26(マキノ御室)(監)勝見正義(原)(脚)西條照太郎(撮)石本秀雄  
(出)月形龍之介、マキノ輝子、鹿島陽之助、岩城秀哉、鈴木澄子、児島  
武彦、市川小文治、久利富周介

★護持院ヶ原の火華(39分・18fps・35mm・白黒・無声・部分)  
'33(宝塚キネマ)(監)後藤岱山(原)(脚)西條照太郎(撮)平野好美  
(出)羅門光三郎、月宮乙女、阪東太郎、毛利峰子、武者小路五郎、矢野  
伊之助、市川龍男

9

7/23(土)1:00pm 8/3(水)7:00pm

西南戦争悲史 孝女白菊(44分・18fps・35mm・白黒・無声)  
'25(東亜甲陽)(監)賀古残夢(原)(脚)檜山美登(撮)河崎喜久三(出)  
上村節子、石川秀道、荒木忍、中川芳江、月岡正美

★山村の光(56分・18fps・35mm・白黒・無声)  
'31(松竹蒲田)(監)松井稔(原)簡易保険局(脚)松崎博臣(撮)杉本正  
二郎(出)若水照子、結城一郎、飯田蝶子、石山龍嗣、河村黎吉、菅原秀  
雄

10

7/23(土)4:00pm 8/4(木)3:00pm

★愛と憎しみ 涙の惨劇(71分・18fps・35mm・白黒・無声)  
'32(新興東京)(監)中島宝三(原)(脚)八尋不二(撮)藤井静(出)若菜  
馨、上田寛、徳川良子、隅田ます代、森山保、橘光浩、草間実、金澤美  
都子

★乙女橋(54分・24fps・35mm・白黒・無声)  
'36(新興東京)(監)(脚)川手二郎(原)簡易保険局(撮)中井朝一(出)  
江川なほみ、姫宮接子、隅田万寿代、三樹豊、岡崎光彦

11

7/24(日)0:00pm 8/5(金)2:00pm

銀河(188分・18fps・35mm・白黒・無声)  
'31(松竹蒲田)(監)清水宏(原)加藤武雄(脚)村上徳三郎(撮)佐々木  
太郎(出)八雲恵美子、高田稔、川崎弘子、日守新一、藤野秀夫、吉川満  
子、斉藤達雄、山縣直代、月田一郎、小林十九二、伊達里子、山本冬郷

12

7/24(日)4:00pm 8/12(金)7:00pm

輝く愛(38分・35mm・白黒・弁士解説版)  
'31(松竹文化映画部)(監)清水宏、西尾佳雄(脚)松崎博臣(撮)野村昊  
(出)小藤田正一、半田日出丸、野寺正一、早見照代、小村新一郎、富士  
龍子

陸軍大行進  
(88分・24fps・35mm・白黒・無声[一部サウンド版]・不完全)  
'32(松竹)(監)清水宏、佐々木康、石川和雄、松井稔、井上金太郎、渡  
邊哲二(原)櫻井忠温(脚)吉田百助、松崎博臣(撮)小田瀬太郎、佐々  
木太郎、杉本正二郎、青木勇、石村蘇鉄、森尾鉄郎(出)奈良真養、河  
村黎吉、藤野秀夫、花岡菊子、江川宇礼雄、城多二郎、高田浩吉、川田  
芳子、林長二郎、岩田祐吉

13

7/26(火)3:00pm 8/4(木)7:00pm

★民族の叫び(61分・18fps・35mm・白黒・無声・不完全)  
'28(松竹蒲田)(監)野村芳亭(原)黄子明(脚)吉田百助(撮)小田濱太  
郎(出)岩田祐吉、井上正夫、筑波雪子、清水一郎

★九條武子夫人 無憂華(39分・35mm・白黒・不完全)  
'30(東亜京都)(監)根津新(原)九條武子、山中峯太郎(脚)柳原燐子  
(撮)河崎喜久三(音)本願寺築地時別院雅楽部(出)三原那智子、鈴木  
京子、高野豊洲、久世小夜子、小川雪子、中村園枝、岡田静江

14

7/26(火)7:00pm 8/17(水)3:00pm

★中山七里(37分・21fps・35mm・白黒・不完全)  
'30(ミナトーキー)(監)落合浪雄(原)長谷川伸(撮)ヘンリー小谷、奥  
津武(音)成生利男(出)市川小太夫、春野歌子、松本高麗五郎、石山健  
二郎

美丈夫左京(48分・35mm・白黒・弁士解説版)  
'31(松竹下加茂)(監)星哲六(原)(脚)水足蘭秋(撮)森尾鉄郎(出)林  
長二郎(長谷川一夫)、北原露子、浦波須磨子、志賀靖郎、高松錦之助、  
東栄子、中村吉松、上田吉次郎

15

7/27(水)3:00pm 8/11(木)7:00pm

忠活活殺録(48分・35mm・白黒・不完全)  
'36(マキノ・トーキー)(監)久保為義、マキノ正博(原)伊藤大輔(脚)  
比佐芳武(撮)大森伊八(音)マキノ管弦楽団(出)清水英太郎、大内弘、  
大倉千代子、大久保清子、原駒子、葉山純之輔、光岡龍三郎、浅野進  
二郎、大倉文男、島津勝二、林誠太郎、西村清

★追分三五郎(60分・35mm・白黒)  
'35(太秦発声=日活)(監)辻吉朗(原)(脚)小磯夏男(撮)河崎喜久三  
(出)黒川彌太郎、花井蘭子、廣澤虎造、市川小文治、鳥羽陽之助、阪東  
勝太郎、尾上桃華、高崎健太郎、大崎史郎、林雅美、上田吉二郎、五月  
潤子、衣笠潤子

16

7/27(水)7:00pm 8/12(金)3:00pm

第二の母(45分・35mm・白黒)  
'36(日活多摩川)(監)田口哲、春原政久(原)(脚)小国英雄(撮)福田寅  
次郎(出)中野かほる、伊沢一郎、井染四郎、佐藤園治、大島屯、石井美  
英子、紅沢葉子

怪猫謎の三味線(74分・35mm・白黒)  
'38(新興京都)(監)牛原虚彦(原)(脚)波多謙治(撮)高橋武則(音)呉  
守邦(出)鈴木澄子、浅香新八郎、歌川絹枝、高山廣子、森静子、嵐徳  
三郎、伴淳三郎、南部章三、寺島貢、尾上榮五郎、梅村蓉子、三保敦美、  
森光子、浅野八重子、浅野百合子、松本泰輔

17

7/28(木)3:00pm 8/13(土)1:00pm

海魔陸を行く(53分・35mm・白黒)  
'50(ラジオ映画)(監)伊賀山正徳(原)今村貞雄(脚)松永六郎(撮)福  
田寅次郎(音)伊藤宣二(出)徳川夢声

鉄扇公主(西遊記 鐵扇公主の巻)[日本語吹替版]  
(65分・35mm・白黒)  
'41(中華聯合製片公司)(監)萬籟鳴、萬古蟾(原)(脚)王乾白(撮)劉度  
共、陳正發(出)徳川夢声、山野一郎、牧野周一、丸山章治、松井美明、  
水谷正夫、荒井雅吾、月野道代、小野松枝、神田千鶴子

18

7/28(木)7:00pm 8/16(火)3:00pm

★特別任務班 日露戦争秘史 興亜の人種(49分・35mm・白黒)  
'41(旭日映画)(監)山下元廣(撮)岡野進一(音)福田宗吉(出)浅岡信夫、福田満州、西條香代子

★姿なき敵(52分・35mm・白黒・不完全)  
'45(大映東京)(監)千葉泰樹(原)並河亮(脚)小川記正(撮)秋野栄久(美)高橋康一(音)横田昌久(出)宇佐美淳、佐伯秀男、山本冬郷、北龍二、見明凡太郎、大井正夫、花布辰男、隅田一男、石黒達也、岩村英子、平井岐代子、村田知英子

19

7/29(金)3:00pm 8/14(日)4:00pm

萬世流芳(151分・35mm・白黒・日本語字幕付)  
'42(中華聯合製片公司＝中華電影＝満映)(監)ト萬蒼、朱石麟、馬徐維邦、張善琨、楊小仲(原)周貽白(脚)朱石麟(撮)周達明、余省三(音)林秉憲(出)高占非、李香蘭、陳雲裳、袁美雲、王引

20

7/29(金)7:00pm 8/11(木)3:00pm

★別離傷心(46分・35mm・白黒・不完全)  
'41(日活多摩川)(監)市川哲夫(原)伊地知進(脚)岡田豊(撮)山崎安一郎(音)飯田景応(出)山田耕子、永田靖、水島道太郎、鳴海浄、井東日出夫、大町文夫、小峰千代子

★家(76分・35mm・白黒)  
'43(松竹太秦)(監)倉谷勇(原)諏訪三郎(脚)陶山鉄(撮)源佑介(出)小杉勇、小澤榮太郎、東野英治郎、風見章子、紅澤葉子、山内明、瀧花久子、團徳麿、戸田春子、殿山泰司

21

7/30(土)1:00pm 8/5(金)7:00pm

★海賊旗吹っ飛ぶ(75分・35mm・白黒・不完全)  
'43(松竹下加茂)(監)辻吉朗、マキノ眞三(原) 絲屋寿雄、小倉浩一郎(脚)マキノ眞三、瀧澤一(撮)三木滋人、服部幹夫(音)大沢寿人(出)高田浩吉、宮城千賀子、澤村國太郎、尾上菊太郎、斉藤達雄、坂本武、西村青児、大塚紀男、朝霧鏡子、榎美佐子、岡村文子

22

7/30(土)4:00pm 8/9(火)3:00pm

★笑う地球に朝がくる(42分・35mm・白黒・不完全)  
'40(南旺映画)(監)津田不二夫、千葉泰樹(原)(脚)南せん子(撮)東健(音)杉井幸一(出)岸井明、東喜代駒、大竹タモツ、エデ・カンタ、中川辨公、楠本武志、三遊亭金馬、飯山茂雄、櫻川忠七、村山進一

サザエさん 七転八起の巻(53分・35mm・白黒)  
'48(マキノ映画)(監)荒井良平(原)長谷川町子(脚)京都伸夫(撮)藤井春美、平野好美(音)服部良一(出)東屋トン子、木野浩、宮城千賀子、滝沢静子、沢蘭子、服部富子、オリエ津坂、平野邦彦、小笠原マリ子、大伴千春、美川眞砂子、井上清

23

7/31(日)1:00pm 8/17(水)7:00pm

一谷嫩軍記(107分・35mm・パートカラー)  
'50(プレミアビクチュア)(監)マキノ正博(原)並木宗輔 他(撮)岡崎宏三 他(出)中村吉右衛門、中村芝翫、松本幸四郎、中村勘三郎、澤村訥升、中村又五郎、中村吉之丞

24

7/31(日)4:00pm 8/9(火)7:00pm

歌麿(14分・35mm・カラー)  
'52(秀映社)(監)住田暎介(撮)山田耕造

菅原伝授手習鑑(88分・35mm・パートカラー)

'50(プレミアビクチュア)(監)マキノ正博(原)竹田出雲 他(撮)飯野博三郎、宮西良太郎(出)中村吉右衛門、中村芝翫、松本幸四郎、澤村訥升、中村又五郎、中村吉之丞、市川染五郎、中村萬之助

25

8/2(火)3:00pm 8/10(水)7:00pm

快傑ハヤブサ[第一篇～第四篇](計87分・35mm・白黒・不完全)  
'49(映画配給)(監)(出)ハヤブサ・ヒデト(原)有吉光也(脚)山田直(撮)高間秀治、赤川博臣(出)長谷川ひとみ、柏正子、稲葉正一、吉岡フランク、有島一郎

26

8/2(火)7:00pm 8/18(木)3:00pm

銀輪(12分・35mm・カラー・英語版・日本語字幕なし)  
'55(新理研映画)(監)矢部正男、松本俊夫、樋口源一郎(脚)北代省三、山口勝弘、松本俊夫(撮)荒木秀三郎(特殊撮影)円谷英二(美)北代省三、山口勝弘(音)武満徹、鈴木博義

心の故郷(77分・35mm・白黒・日本語字幕付)  
'49(東西映画企業社)(監)尹龍奎(原)咸世徳(撮)韓達模(出)崔銀姬、卞基鍾、柳民

27

8/3(水)3:00pm 8/16(火)7:00pm

★現代日本 教育篇・子供篇・産業篇  
(計27分・35mm・白黒・英語版)  
'37(東亜発声ニュース)(監)鈴木重吉[教育篇、産業篇]、藤田嗣治[子供篇](音)山田耕作、小松平五郎

★日本の姿[第一篇～第六篇](計69分・35mm・白黒・一部英語版)  
'39(鐵道省)(監)村尾薫(撮)朝日映画(音)諸井三郎

■(監)=監督・演出 (原)=原作・原案 (脚)=脚本・潤色・劇化・脚色 (撮)=撮影 (美)=美術・設計・美術監督 (音)=音楽・作曲 (出)=出演、吹替  
★=ゴスフィルモフォンで発見された作品



会 期
平成17年8月20日～平成17年10月30日 (61日間)
会 場
大ホール
上映回数
181回
入場者総数
41,982人(1回平均232人)
雑誌・新聞関連記事
産経新聞(2005年5月18日)『『ささいな出来事』の魅力』(山根貞男)
週刊文春(2005年6月9日)「女優で綴る成瀬巳喜男の世界」(山根貞男)
東京新聞(2005年8月16日)「成瀬巳喜男監督を特集」(路)
文化庁月報(2005年8月号)「生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男」(岡田秀則)
日本経済新聞(2005年9月12日)「成瀬巳喜男監督特集『風化していく原風景』」(宇田川幸洋)
思想運動(2005年9月15日)「成瀬作品の“映画の可能性”が今ふたたび」(遠藤裕二)
芸術新潮(2005年9月号)「この秋はフィルムセンターで成瀬にはまる」
STUDIO VOICE(2005年9月号)「成瀬巳喜男は偉大な映画作家である」(北小路隆志)
東京新聞(2005年10月18日)「成瀬映画礼賛」(山下柚実)
CG WORLD(2005年10月号)「生誕百年記念特集 映画監督成瀬巳喜男」

## 230 生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男

2005年に生誕百年を迎えた日本の映画監督を顕彰する企画上映のひとつとして、世界的な評価を得ている成瀬巳喜男監督(1905-69)の作品を上映した。長年フィルム上映のできなかった作品を加えた大規模の回顧上映を実施することで、稀代の映画芸術家の全体像の把握を試みたものである。

1930年に監督デビューを果たした成瀬巳喜男は、生涯に90本近い作品を監督したが、本企画では現存する最古の作品『腰辨頑張れ』(1931)から1967年の遺作『乱れ雲』まで計61作品を上映した。これまで上映する機会の少なかった松竹蒲田撮影所時代の無声作品5本や、東宝の前身であるP.C.L.映画製作所の作品群、さらに、一部分ではあるが、戦時下に監督した『上海の月』(1941)や『勝利の日まで』(1945)というフィルムセンターにしか収蔵していない作品も上映した。戦後の作品では、『めし』(1951)、『浮雲』(1955)、『放浪記』(1962)、『乱れる』(1964)をはじめ、成瀬巳喜男の殆どの代表作を網羅することで、成瀬作品の特質を検証した。なお、特別企画として「成瀬巳喜男シンポジウム」を開催し、ドキュメンタリー映画の上映と当時のスタッフによるトークを通じて、成瀬監督や作品にまつわる背景を明らかにすることができた。

### Mikio Naruse Retrospective at his Centenary

The year 2005 marks the 100<sup>th</sup> anniversary of the birth of Mikio Naruse (1905-69) who has gained international critical acclaim in recent years. Through this large-scale retrospective with a number of films that had not been screened on big screen for many years, NFC tried to showcase this film artist's works as a whole.

In his filmmaking career between his directorial debut in 1930 and 1967, Naruse directed nearly 90 films, out of which 61 films were shown in this program, from the oldest existing film by Naruse, *Koshiben ganbare* (1931), to his last film *Midaregumo* (1967). The program included films that had formerly rarely been screened, for example, silent films made at the Kamata studios and films made at P.C.L., the predecessor of Toho. In addition, it was significant that part of *Shanbaino tsuki* (1941) and *Shorino hi made* (1945) which Naruse directed during the war were screened, since NFC is the only institution that has these prints. From the post-war era, most of Naruse's important films such as *Meshi* (1951), *Ukigumo* (1955), *Horoki* (1962) and *Midareru* (1964) were screened. As a special event, "Naruse Mikio Symposium" was held. Through the screening of a documentary film about Naruse and the panel discussions by filmmakers who worked with Naruse, the audience was able to learn about the background of director Naruse and his films.



1
8/20(土)11:00am 9/14(水)4:00pm 9/27(火)7:00pm

**腰辨頑張れ**(38分・18fps・35mm・白黒・無声)  
'31(松竹蒲田)(原)成瀬巳喜男(撮)三浦光男(光雄)(出)山口勇、浪花友子、加藤精一、明山静江、菅原秀雄、関時男

**夜ごとの夢**(64分・24fps・35mm・白黒・無声)  
'31(松竹蒲田)(原)成瀬巳喜男(脚)池田忠雄(撮)猪飼助太郎(美)浜田辰雄(出)栗島すみ子、斉藤達雄、木島照子、新井淳、吉川満子、坂本武、大山健一、小倉繁、飯田蝶子、沢蘭子

2
8/21(日)11:00am 9/13(火)7:00pm 9/28(水)1:00pm

**生さぬ仲**(105分・18fps・16mm・白黒・無声)  
'32(松竹蒲田)(原)柳川春葉(脚)野田高梧(撮)猪飼助太郎(美)浜田辰雄(出)奈良真養、筑波雪子、小島壽子、葛城文子、岡譲二、岡田嘉子、結城一朗、阿部正三郎、宮島健一、河原侃二、大山健二、花岡菊子、突貫小僧

3
8/21(日)2:00pm 9/14(水)1:00pm 9/29(木)4:00pm

**君と別れて**(72分・20fps・35mm・白黒・無声)  
'33(松竹蒲田)(原)(脚)成瀬巳喜男(撮)猪飼助太郎(美)浜田辰雄(出)吉川満子、磯野秋雄、水久保澄子、河村黎吉、富士龍子、藤田陽子、突貫小僧、飯田蝶子、若水絹子、竹内良一、小林十九二

4
8/21(日)5:00pm 9/15(木)1:00pm 9/27(火)1:00pm

**限りなき舗道**(87分・24fps・35mm・白黒・無声)  
'34(松竹蒲田)(原)北村小松(脚)池田實三(撮)猪飼助太郎(美)周襄吉(出)忍節子、磯野秋雄、山内光、若葉信子、葛城文子、日守新一、香取千代子、結城一朗、井上雪子、松岡富士子、谷麗光、三井秀男、阿部正三郎、突貫小僧、坂本武

5
8/23(火)1:00pm 9/17(土)11:00am 9/28(水)4:00pm

**乙女ごゝろ三人姉妹**(75分・35mm・白黒)  
'35(P.C.L.映画製作所)(原)川端康成(脚)成瀬巳喜男(撮)鈴木博(美)久保一雄(音)紙恭輔(出)細川ちか子、堤眞佐子、梅園竜子、林千歳、大川平八郎、滝澤修、伊藤薫、岸井明、藤原釜足

6
8/23(火)4:00pm 9/18(日)2:00pm 9/30(金)1:00pm

**二人妻 妻よ薔薇のやうに**(74分・35mm・白黒)  
'35(P.C.L.映画製作所)(原)中野實(脚)成瀬巳喜男(撮)鈴木博(美)久保一雄(音)伊藤昇(出)千葉早智子、英百合子、伊藤智子、堀越節子、細川ちか子、丸山定夫、大川平八郎、伊東薫、藤原釜足

7
8/23(火)7:00pm 9/23(金・祝)11:00am 9/29(木)1:00pm

**噂の娘**(54分・35mm・白黒)  
'35(P.C.L.映画製作所)(脚)成瀬巳喜男(撮)鈴木博(美)山崎醇之輔(音)伊藤昇(出)千葉早智子、梅園龍子、伊藤智子、汐見洋、御橋公、藤

原釜足、大川平八郎

**雪崩**(59分・35mm・白黒)  
'37(P.C.L.映画製作所)(原)大佛次郎(構案)村山知義(脚)成瀬巳喜男(撮)立花幹也(美)北猛夫(音)飯田信夫(出)佐伯秀男、江戸川蘭子、霧立のぼる、汐見洋、英百合子、丸山定夫、三島雅夫、生方明

8
8/24(水)1:00pm 9/17(土)2:00pm 9/29(木)7:00pm

**桃中軒雲右衛門**(73分・35mm・白黒)  
'36(P.C.L.映画製作所)(原)眞山青果(脚)成瀬巳喜男(撮)鈴木博(美)北猛夫(音)伊藤昇(出)月形龍之介、細川ちか子、千葉早智子、藤原釜足、伊東薫、三島雅夫、市川朝太郎、小杉義男、御橋公、伊達信、小澤栄

9
8/24(水)4:00pm 9/23(金・祝)2:00pm 10/4(火)1:00pm

**君と行く路**(69分・35mm・白黒)  
'36(P.C.L.映画製作所)(原)三宅由岐子(脚)成瀬巳喜男(撮)鈴木博(美)北猛夫(音)伊藤昇(出)大川平八郎、佐伯秀男、清川玉枝、藤原釜足、高尾光子、山縣直代、堤眞佐子

10
8/24(水)7:00pm 9/18(日)5:00pm 9/27(火)4:00pm

**朝の並木道**(60分・35mm・白黒)  
'36(P.C.L.映画製作所)(脚)成瀬巳喜男(撮)鈴木博(美)北猛夫(音)伊藤昇(出)千葉早智子、赤木蘭子、大川平八郎、御橋公、山口ミサヲ、清川玉枝、三島雅夫、伊達里子、清川虹子

11
8/25(木)1:00pm 9/17(土)5:00pm 9/30(金)4:00pm

**女人哀愁**(74分・35mm・白黒)  
'37(P.C.L.映画製作所＝入江プロ)(原)(脚)成瀬巳喜男(脚)田中千禾夫(撮)三浦光雄(美)戸塚正夫(音)江口夜詩(出)入江たか子、堤眞佐子、佐伯秀夫、大川平八郎、神田千鶴子、澤蘭子、水上怜子、清川玉枝、初瀬浪子、北沢彪、伊東薫、御橋公

12
8/25(木)4:00pm 9/25(日)2:00pm 10/5(水)1:00pm

**禍福 前篇**(78分・35mm・白黒)  
'37(東宝東京)(原)菊池寛(脚)岩崎文隆(撮)三浦光雄(美)北猛夫(音)仁木他喜雄(出)高田稔、入江たか子、丸山定夫、英百合子、堀越節子、生方明、伊東薫、御橋公、伊藤智子、竹久千恵子、逢初夢子、大川平八郎、神田千鶴子

13
8/25(木)7:00pm 9/25(日)5:00pm 10/5(水)4:00pm

**禍福 後篇**(79分・35mm・白黒)  
'37(東宝東京)(原)菊池寛(脚)岩崎文隆(撮)三浦光雄(美)北猛夫(音)伊藤昇(出)高田稔、入江たか子、丸山定夫、英百合子、堀越節子、生方明、伊東薫、御橋公、伊藤智子、竹久千恵子、逢初夢子、大川平八郎、神田千鶴子

14
8/26(金)1:00pm 9/18(日)11:00am 10/4(火)7:00pm

**鶴八鶴次郎**(88分・35mm・白黒)  
'38(東宝東京)(原)川口松太郎(脚)成瀬巳喜男(撮)伊藤武夫(美)久保一雄(音)飯田信夫(出)長谷川一夫、山田五十鈴、藤原釜足、大川平八郎、三島雅夫、横山運平、椿澄枝、清川玉枝、伊藤智子

15
8/26(金)4:00pm 9/25(日)5:00pm 10/6(木)1:00pm

**はたらく一家**(65分・35mm・白黒)  
'39(東宝東京)(原)徳永直(脚)成瀬巳喜男(撮)鈴木博(美)松山崇(音)太田忠(出)大日方博、椿澄枝、徳川夢声、本間教子、生方明、伊東薫、南青吉、平田武、阪東精一郎、若葉喜世子、眞木順、藤輪欣司

16
8/26(金)7:00pm 10/1(土)11:00am 10/11(火)4:00pm

**まごころ**(67分・35mm・白黒)  
'39(東宝東京)(原)石坂洋次郎(脚)成瀬巳喜男(撮)鈴木博(美)中古智(音)服部正(出)入江たか子、高田稔、村瀬幸子、悦ちゃん、加藤照子、藤間房子、清川莊司

17
8/27(土)11:00pm 9/14(水)7:00pm 10/4(火)4:00pm

**旅役者**(70分・35mm・白黒)  
'40(東宝東京)(原)宇井無愁(脚)成瀬巳喜男(撮)木塚誠一(美)安倍輝明(音)早坂文雄(出)藤原鶏太(釜足)、柳谷寛、高勢實乗、清川莊司、御橋公、中村是好、山根壽子、清川虹子、深見泰三

18
8/27(土)2:00pm 9/15(木)2:00pm 9/30(金)7:00pm

**上海の月**(53分・35mm・白黒・部分)  
'41(東宝東京＝中華電影)(原)松崎啓次(脚)山形雄策(撮)三村明(美)松山崇(音)服部良一(出)山田五十鈴、汪洋、里見藍子、大川平八郎、佐伯秀男、清川莊司、大日方博

**秀子の車掌さん**(54分・35mm・白黒)  
'41(南旺映画)(原)井伏鱒二(脚)成瀬巳喜男(撮)東健(美)小池一美(音)飯田信夫(出)高峰秀子、藤原鶏太(釜足)、夏川大二郎、清川玉枝、勝見庸太郎、榎田敬治、山川ひろし、松林久晴、林喜美子、馬野都留子

19
8/27(土)5:00pm 9/16(金)1:00pm 10/6(木)4:00pm

**母は死なず**[ゴスフィルモフォンド版](62分・35mm・白黒・不完全)  
'42(東宝映画)(原)河内仙介(脚)猪俣勝人(撮)木塚誠一(美)北川恵司(音)服部正(出)入江たか子、菅井一郎、藤原鶏太(釜足)、澤村貞子、齋藤英雄、轟夕起子、小高まさる、藤田進、鳥羽陽之助、清水将夫、矢口陽子

20
8/28(日)11:00am 9/15(木)7:00pm 10/7(金)1:00pm

**歌行燈**(93分・35mm・白黒)  
'43(東宝映画)(原)泉鏡花(脚)久保田万太郎(撮)中井朝一(美)平川透徹(音)深井史郎(出)花柳章太郎、山田五十鈴、柳永二郎、大矢市次

郎、伊志井寛、瀬戸英一、村田正雄、清川玉枝

21
8/28(日)2:00pm 9/16(金)4:00pm 10/20(木)1:00pm

**愉しき哉人生**(77分・35mm・白黒)  
'44(東宝)(脚)成瀬巳喜男、八住利雄(撮)伊藤武夫(美)北川恵司(音)鈴木静一(出)柳家金語楼、山根寿子、中村メイコ、横山エンタツ、花岡菊子、渡辺篤、清川玉枝、小高たかし、鳥羽陽之助、三条利喜江

22
8/28(日)5:00pm 9/20(火)1:00pm 9/28(水)7:00pm

**芝居道**(82分・35mm・白黒)  
'44(東宝)(原)長谷川幸延(脚)八住利雄(撮)小倉金彌(美)中古智(音)清瀬保二(出)古川緑波、長谷川一夫、山田五十鈴、伊井友三郎、花井蘭子、渡辺篤、進藤英太郎、志村喬、伊藤智子、清川莊司、鳥羽陽之助

23
8/30(火)1:00pm 9/23(金・祝)5:00pm 10/5(水)7:00pm

**勝利の日まで 藝能戦線版第二輯**(15分・35mm・白黒・断片)  
'45(東宝)(脚)サトー・ハチロー (撮)立花幹也、木塚誠一(美)北猛夫(音)鈴木静一(出)徳川夢声、古川緑波、高峰秀子

**三十三間堂通し矢物語**(77分・35mm・白黒)  
'45(東宝)(脚)小国英雄(撮)鈴木博(美)河東安英(出)長谷川一夫、田中絹代、市川扇升、河野秋武、葛城文子、田中春男、横山運平、清川玉枝、鳥羽陽之助、沢井三郎、花沢徳衛

24
8/30(火)4:00pm 10/2(日)2:00pm 10/12(水)4:00pm

**四つの恋の物語**(110分・35mm・白黒)  
'47(東宝)[第二話「別れも愉し」](脚)小国英雄(撮)木塚誠一(美)江坂実(音)早坂文雄、栗原重一(出)木暮実千代、沼崎勲、英百合子、菅井一郎、小林十九二、竹久千恵子  
[第一話「初恋」](監)豊田四郎(脚)黒沢明(撮)川村清衛(美)松山崇(出)池部良、久我美子、志村喬、杉村春子[第三話「恋はやさし」](監)山本嘉次郎(脚)山崎謙太(撮)伊藤武夫(美)北川恵司(出)榎本健一、若山セツ子、飯田蝶子[第四話「恋のサーカス」](監)衣笠貞之助(脚)八住利雄(撮)中井朝一(美)平川透徹(出)浜田百合子、河野秋武、田中筆子、進藤英太郎

25
8/30(火)7:00pm 9/24(土)2:00pm 10/7(金)4:00pm

**石中先生行状記**(96分・35mm・白黒)  
'50(藤本プロ＝新東宝)(原)石坂洋次郎(脚)八木隆一郎(撮)鈴木博(美)中古智(音)服部正(出)宮田重雄、渡辺篤、堀雄二、木匠久美子、進藤英太郎、杉葉子、池部良、藤原釜足、出雲八重子、三船敏郎、飯田蝶子、小島洋々、若山セツ子、中北千枝子

26
8/31(水)1:00pm 10/1(土)5:00pm 10/14(金)7:00pm

**薔薇合戦**(98分・35mm・白黒)  
'50(松竹京都＝映画芸術協会)(原)丹羽文雄(脚)西亀元貞(撮)竹野

治夫(美)松山崇(音)鈴木静一(出)三宅邦子、若山セツ子、桂木洋子、鶴田浩二、安部徹、永田光男、若杉曜子、大坂志郎、千石規子、進藤英太郎

27
8/31(水)4:00pm 10/2(日)5:00pm 10/11(火)7:00pm
<b>銀座化粧</b> (87分・35mm・白黒) '51(新東宝)(原)井上友一郎(脚)岸松雄(撮)三村明(美)河野鷹思(音)鈴木静一(出)田中絹代、花井蘭子、堀雄二、香川京子、柳永二郎、東野英治郎、田中春男、小杉義男、三島雅夫、清川玉枝、春山葉子

28
8/31(水)7:00pm 10/13(木)1:00pm 10/22(土)11:00am
<b>舞姫</b> (85分・35mm・白黒) '51(東宝)(原)川端康成(脚)新藤兼人(撮)中井朝一(美)中古智(音)齋藤一郎(出)高峰三枝子、山村聰、二本柳寛、片山明彦、岡田茉莉子、木村功、澤村貞子、見明凡太郎、大川平八郎、谷桃子パレエ団

29
9/1(木)1:00pm 10/8(土)11:00am 10/20(木)4:00pm 10/25(火)7:00pm
<b>めし</b> (97分・35mm・白黒) '51(東宝)(原)林芙美子(脚)井手俊郎、田中澄江(撮)玉井正夫(美)中古智(音)早坂文雄(出)上原謙、原節子、島崎雪子、杉葉子、杉村春子、風見章子、花井蘭子、二本柳寛、小林桂樹、大泉滉、清水一郎、田中春男、山村聰、中北千枝子、谷間小百合

30
9/1(木)4:00pm 10/9(日)11:00am 10/26(水)7:00pm
<b>お國と五平</b> (91分・35mm・白黒) '52(東宝)(原)谷崎潤一郎(脚)八住利雄(撮)山田一夫(美)中古智(音)清瀬保二(出)木暮実千代、大谷友右エ門(中村雀右衛門)、山村聰、田崎潤、鳥羽陽之助、三好栄子、藤原釜足、小倉繁

31
9/1(木)7:00pm 10/9(日)5:00pm 10/18(火)1:00pm 10/20(木)4:00pm
<b>おかあさん</b> (98分・35mm・白黒) '52(新東宝)(脚)水木洋子(撮)鈴木博(美)加藤雅俊(音)齋藤一郎(出)田中絹代、香川京子、岡田英次、片山明彦、加東大介、鳥羽陽之助、三島雅夫、中北千枝子、三好栄子、一の宮あつ子、本間文子、澤村貞子

32
9/2(金)1:00pm 10/6(木)7:00pm 10/30(日)2:00pm
<b>稻妻</b> (87分・35mm・白黒) '52(大映東京)(原)林芙美子(脚)田中澄江(撮)峰重義(美)仲美喜雄(音)齋藤一郎(出)高峰秀子、三浦光子、香川京子、村田知英子、根上淳、小澤栄、浦辺条子、中北千枝子、瀧花久子、植村謙三郎、杉丘穂子、丸山修、高品格、伊達正

33
9/2(金)4:00pm 10/8(土)5:00pm 10/19(水)7:00pm
<b>夫婦</b> (86分・35mm・白黒) '53(東宝)(脚)水木洋子、井手俊郎(撮)中井朝一(美)松山崇(音)齋藤一郎(出)上原謙、杉葉子、三国連太郎、小林桂樹、藤原釜足、岡田茉莉

子、豊島美智子、田代百合子、滝花久子、木匠マユリ、鳥羽陽之助、三好栄子

34
9/2(金)7:00pm 10/9(日)2:00pm 10/18(火)4:00pm
<b>妻</b> (96分・35mm・白黒) '53(東宝)(原)林芙美子(脚)井手俊郎(撮)玉井正夫(美)中古智(音)齋藤一郎(出)上原謙、高峰三枝子、丹阿彌谷津子、高杉早苗、新珠三千代、三国連太郎、清水将夫、石黒達也、伊豆肇、坪内美子、本間文子

35
9/3(土)11:00am 9/20(火)4:00pm 10/27(木)7:00pm
<b>あにいうと</b> (86分・35mm・白黒) '53(大映東京)(原)室生犀星(脚)水木洋子(撮)峰重義(美)仲美喜雄(音)齋藤一郎(出)京マチ子、森雅之、久我美子、堀雄二、船越英二、山本禮三郎、浦邊条子、潮万太郎、宮嶋健一、河原侃二、本間文子

36
9/3(土)2:00pm 9/21(水)7:00pm 10/14(金)1:00pm 10/23(日)5:00pm
<b>山の音</b> (94分・35mm・白黒) '54(東宝)(原)川端康成(脚)水木洋子(撮)玉井正夫(美)中古智(音)齋藤一郎(出)原節子、山村聰、上原謙、杉葉子、長岡輝子、丹阿彌谷津子、中北千枝子、角梨枝子、十朱久雄、北川町子、金子信雄

37
9/3(土)5:00pm 9/22(木)4:00pm 10/28(金)7:00pm
<b>晚菊</b> (101分・35mm・白黒) '54(東宝)(原)林芙美子(脚)田中澄江、井手俊郎(撮)玉井正夫(美)中古智(音)齋藤一郎(出)杉村春子、上原謙、沢村貞子、細川ちか子、望月優子、小泉博、有馬稲子、見明凡太郎、沢村宗之助、加東大介

38
9/4(日)11:00am 9/20(火)7:00pm 10/13(木)4:00pm 10/29(土)2:00pm
<b>浮雲</b> (122分・35mm・白黒) '55(東宝)(原)林芙美子(脚)水木洋子(撮)玉井正夫(美)中古智(音)齋藤一郎(出)高峰秀子、森雅之、岡田茉莉子、山形勲、中北千枝子、加東大介、木匠マユリ、千石規子、村上冬樹、大川平八郎、金子信雄、ロイ・H・ジェームズ

39
9/4(日)2:00pm 9/21(水)1:00pm 10/18(火)7:00pm 10/27(木)1:00pm
<b>驟雨</b> (90分・35mm・白黒) '56(東宝)(原)岸田國士(脚)水木洋子(撮)玉井正夫(美)中古智(音)齋藤一郎(出)原節子、佐野周二、香川京子、根岸明美、小林桂樹、中北千枝子、東郷晴子、長岡輝子、加東大介、伊豆肇、堺左千夫、村上冬樹

40
9/4(日)5:00pm 9/22(木)1:00pm 10/14(金)4:00pm
<b>妻の心</b> (98分・35mm・白黒) '56(東宝)(脚)井手俊郎(撮)玉井正夫(美)中古智(音)齋藤一郎(出)高峰秀子、小林桂樹、千秋実、中北千枝子、三好栄子、根岸明美、田中春男、花井蘭子、杉葉子、三船敏郎、加東大介、沢村貞子

41

9/6(火)1:00pm 9/24(土)5:00pm 10/19(水)7:00pm 10/30(日)5:00pm

**流れる**(116分・35mm・白黒)  
'56(東宝)(原)幸田文(脚)田中澄江、井手俊郎(撮)玉井正夫(美)中古智(音)斎藤一郎(出)田中絹代、山田五十鈴、高峰秀子、岡田茉莉子、杉村春子、栗島すみ子、中北千枝子、賀原夏子、宮口精二、加東大介、中村伸郎、音羽久米子、南美江、上田吉二郎

42

9/6(火)4:00pm 10/1(土)4:00pm 10/20(木)7:00pm

**あらくれ**(121分・35mm・白黒)  
'57(東宝)(原)徳田秋声(脚)水木洋子(撮)玉井正夫(美)河東安英(音)斎藤一郎(出)高峰秀子、上原謙、森雅之、加東大介、仲代達矢、東野英治郎、岸輝子、宮口精二、中北千枝子、三浦光子、千石規子、坂本武、志村喬

43

9/6(火)7:00pm 10/8(土)2:00pm 10/21(金)1:00pm

**杏っ子**(109分・35mm・白黒)  
'58(東宝)(原)室生犀星(脚)田中澄江、成瀬巳喜男(撮)玉井正夫(美)中古智(音)斎藤一郎(出)香川京子、木村功、山村聰、小林桂樹、三井美奈、加東大介、千秋実、太刀川洋一、佐原健二、夏川静江、中村伸郎、藤木悠、中北千枝子、沢村貞子

44

9/7(水)1:00pm 10/2(日)11:00am 10/21(金)7:00pm

**鯨雲**(129分・35mm・カラー)  
'58(東宝)(原)和田傳(脚)橋本忍(撮)玉井正夫(美)中古智、園真(音)斎藤一郎(出)淡島千景、新珠三千代、司葉子、木村功、小林桂樹、水野久美、加東大介、中村鴈治郎、杉村春子、清川虹子、飯田蝶子、大塚国夫、太刀川洋一、長岡輝子

45

9/7(水)4:00pm 10/15(土)2:00pm 10/28(金)1:00pm

**コタンの口笛**(126分・35mm・カラー)  
'59(東宝)(原)石森延男(脚)橋本忍(撮)玉井正夫(美)中古智(音)伊福部昭(出)久保賢、幸田良子、森雅之、宝田明、久保明、水野久美、志村喬、山茶花究、土屋嘉男、中北千枝子、左ト全、三好栄子

46

9/7(水)7:00pm 9/24(土)11:00am 10/16(日)2:00pm 10/27(木)4:00pm

**女が階段を上る時**(111分・35mm・白黒)  
'60(東宝)(脚)菊島隆三(撮)玉井正夫(美)中古智(音)黛敏郎(出)高峰秀子、森雅之、団令子、仲代達矢、加東大介、中村鴈治郎、小沢栄太郎、淡路恵子、山茶花究、多々良純、藤木悠、織田政雄、三津田健、細川ちか子、沢村貞子

47

9/8(木)1:00pm 10/16(日)11:00am 10/21(金)4:00pm

**娘・妻・母**(122分・35mm・カラー)  
'60(東宝)(脚)井手俊郎、松山善三(撮)安本淳(美)中古智(音)斎藤一郎(出)原節子、高峰秀子、宝田明、小泉博、仲代達矢、三益愛子、森雅之、団令子、草笛光子、淡路恵子、加東大介、上原謙、杉村春子、笠智衆

48

9/8(木)4:00pm 10/15(土)11:00am 10/25(火)1:00pm

**夜の流れ**(111分・35mm・カラー)  
'60(東宝)(共同監督)川島雄三(脚)井手俊郎、松山善三(撮)安本淳、飯村正(美)松山崇、北辰雄(音)斎藤一郎(出)司葉子、山田五十鈴、宝田明、三橋達也、白川由美、水谷良重、草笛光子、三益愛子、越路吹雪、志村喬、星由里子、横山道代、岡田真澄、中丸忠雄、村上冬樹

49

9/8(木)7:00pm 10/16(日)5:00pm 10/26(水)4:00pm

**秋立ちぬ**(79分・35mm・白黒)  
'60(東宝)(脚)笠原良三(撮)安本淳(美)北辰雄(音)斎藤一郎(出)乙羽信子、夏木陽介、原知佐子、加東大介、河津清三郎、大澤健三郎、一木双葉、藤原釜足、賀原夏子、菅井きん、藤間紫

50

9/9(金)1:00pm 10/12(水)4:00pm 10/22(土)2:00pm

**妻として女として**(106分・35mm・カラー)  
'61(東宝)(脚)井手俊郎、松山善三(撮)安本淳(美)中古智(音)斎藤一郎(出)高峰秀子、淡島千景、森雅之、仲代達矢、星由里子、水野久美、淡路恵子、飯田蝶子、丹阿弥谷津子、中北千枝子、関千恵子、藤間紫

51

9/9(金)4:00pm 10/11(火)1:00pm 10/23(日)11:00am

**女の座**(111分・35mm・白黒)  
'62(東宝)(脚)井手俊郎、松山善三(撮)安本淳(美)中古智(音)斎藤一郎(出)高峰秀子、司葉子、星由里子、団令子、淡路恵子、草笛光子、笠智衆、宝田明、三橋達也、小林桂樹、杉村春子、北あけみ、丹阿弥谷津子、三益愛子、夏木陽介、加東大介、香川良介

52

9/9(金)7:00pm 10/19(水)1:00pm 10/30(日)11:00am

**放浪記**(123分・35mm・白黒)  
'62(宝塚映画)(原)林芙美子、菊田一夫(脚)井手俊郎、田中澄江(撮)安本淳(美)中古智(音)古関裕爾(出)高峰秀子、田中絹代、宝田明、加東大介、小林桂樹、草笛光子、仲谷昇、伊藤雄之助、多々良純、織田政雄、加藤武、文野朋子、賀原夏子、飯田蝶子

53

9/11(日)11:00am 9/16(金)7:00pm 10/25(火)4:00pm

**女の歴史**(126分・35mm・白黒)  
'63(東宝)(脚)笠原良三(撮)安本淳(美)中古智(音)斎藤一郎(出)高峰秀子、仲代達矢、宝田明、星由里子、山崎努、賀原夏子、淡路恵子、草笛光子、加東大介、藤原釜足、堺左千夫、中北千枝子、清水元

54

9/11(日)2:00pm 9/21(水)4:00pm 10/13(木)7:00pm 10/29(土)5:00pm

**乱れる**(98分・35mm・白黒)  
'64(東宝)(脚)松山善三(撮)安本淳(美)中古智(音)斎藤一郎(出)高峰秀子、加山雄三、草笛光子、白川由美、浜美枝、三益愛子、藤木悠、北村和夫、十朱久雄、浦辺粂子、柳谷寛、佐田豊、中山豊、矢吹寿子、中北千枝子



55

9/11(日)5:00pm 9/22(木)7:00pm 10/26(水)1:00pm

**女の中にいる他人**(102分・35mm・白黒)

'66(東宝)(原)エドワード・アタイヤ(脚)井手俊郎(撮)福沢康道(美)中古智(音)林光(出)小林桂樹、新珠三千代、三橋達也、草笛光子、若林映子、長岡輝子、加東大介、藤木悠、十朱久雄、稲葉義男、関千恵子

56

9/12(火)1:00pm 10/12(水)7:00pm 10/22(土)5:00pm

**ひき逃げ**(94分・35mm・白黒)

'66(東宝)(脚)松山善三(撮)西垣六郎(美)中古智(音)佐藤勝(出)高峰秀子、司葉子、小沢栄太郎、加東大介、中山仁、黒沢年男、賀原夏子、浦辺粂子、稲葉義男、加藤武、土屋嘉男、佐田豊

57

9/12(火)4:00pm 10/7(金)7:00pm 10/23(日)2:00pm 10/29(土)11:00am

**乱れ雲**(108分・35mm・カラー)

'67(東宝)(脚)山田信夫(撮)逢沢譲(美)中古智(音)武満徹(出)加山雄三、司葉子、草笛光子、森光子、浜美枝、加東大介、土屋嘉男、藤木悠、中丸忠雄、中村伸郎、村上冬樹

■(監)=監督・演出 (原)=原作・原案 (脚)=脚本・脚色・潤色  
(撮)=撮影 (美)=美術・装置・舞台設計 (音)=音楽・音楽監督  
(出)=出演

会 期
平成17年9月13日～平成17年9月25日 (12日間)
会 場
小ホール
上映回数
24回
入場者総数
3,144人(1回平均131人)
共催
ポーランド商工会議所EXPO事務局
協力
駐日ポーランド共和国大使館
雑誌・新聞関連記事
朝日新聞(2005年8月25日)「ポーランド映画 昨日と今日」
読売新聞(2005年8月26日)「ポーランド温故知新の秋ドイツ」
しんぶん赤旗(2005年9月8日)「新作と名作あわせて『ポーランド映画祭』」
読売新聞(2005年9月9日)「ポーランド映画 昨日と今日」
日本経済新聞(2005年9月12日)「上映会 ポーランド映画 昨日と今日」
琉球新報(2005年10月17日)「作品の発信力で最良鑑賞」(浦崎浩寛)
キネマ旬報(2005年11月下旬号)「ポーランド映画の〈今日〉」(マチェイ・パヴリツキ)

## 231 ポーランド映画、昨日と今日

2005年日本国際博覧会「愛・地球博」ポーランド館を出展したポーランド商工会議所との共催のもと、ポーランド映画史上の名作と近年製作された秀作を組み合わせ、その変わることもない豊かな映画文化を紹介しようとしたものである。

この企画は、ポーランドの巨匠アンジェイ・ワイダ監督がポーランド映画の新世代を紹介する目的で発案したものであるが、フィルムセンターがポーランド映画史上の名作を加えるよう提案し、旧作と新作6本ずつ、計12本の上映を行うこととなった。フィルムセンターにとっては15年ぶりのポーランド映画の特集であり、1950年代のいわゆる「ポーランド派」を代表する作品と、優秀な新世代の台頭する現代作品を対比する構成とすることができた。新作の選択にはワイダ監督の近作『仕返し』(2002)を含め、近年、商業劇場で公開されにくい最新のポーランド映画の貴重な鑑賞機会となった。オープニングには駐日ポーランド大使や映画評論家マチェイ・パヴリツキ氏を迎えた記者会見などが行われ、また、新作の上映に際しては、現地より提供された上映作品のポスターを展示したほか、ポーランド文化研究家・久山宏一氏の執筆・編集による詳細な解説文を配布した。

### Polish Film, Yesterday and Today

Co-organized with the EXPO Bureau of the Polish Chamber of Commerce which participated in EXPO 2005 Aichi Japan, this program screened masterpieces of Polish film history and recently made strong titles together so as to showcase the strength of Polish cinema heritage.

This program was originally conceived by Polish master director Andrzej Wajda as the showcase of the new generation of Polish cinema. By NFC's suggestion, historical masterpieces were added and the program showed 6 such films and 6 new films. Thus, the program was able to give a three dimensional sketch of Polish cinema by showcasing both the brilliant heritage represented by the so-called "Polish School" of the 1950s and the contemporary industry led by talented filmmakers of the new generation. This was the 1st program of Polish cinema since 1990 for NFC. Wajda, who has been the driving force of Polish film history, was involved in the programming of the recent titles, and thus the program provided the opportunity to see new Polish films that have rarely been given theatrical release in Japan, including *Zemsta* (2002) by Wajda himself. On the opening day, press conference was held and the Polish Ambassador in Japan and Polish film critic Maciej Pavlicki attended. Posters for the recent titles that were lent by Poland were exhibited in the lobby and detailed program notes written and edited by scholar Koichi Kuyama were handed out to the audience.



パートⅠ 1954～1979

9/13(火)2:30pm 9/16(金)6:30pm

**フリギアの星の下で**(112分・35mm・白黒) Pod gwiazdą frygijską'54  
(監)(脚)イエジー・カヴァレロヴィッチ(原)イゴル・ネヴェルリ(脚)  
イゴル・ネヴェルリ(撮)セヴェリン・クルシンスキ(美)ロマン・マン(音)スタニスワフ・スクロヴァチェフスキ(出)ユゼフ・ノヴァク、  
ルツィナ・ヴィンニツカ、ハリーナ・プシフィルスカ、スタニスワフ・  
ヤシュキェヴィチ

9/13(火)6:30pm 9/18(日)1:00pm

**鉄路の男**(83分・35mm・白黒) Człowiek na torze  
'56(監)(脚)アンジェイ・ムンク(原)(脚)イエジー・ステファン・ス  
タヴィンスキ(撮)ロムアルト・クロパト(美)ロマン・マン(出)カジ  
ミェシュ・オパリンスキ、ジグムント・マチェイエフスキ、ジグムン  
ト・ジンテル、ジグムント・リストキェヴィッチ、ロマン・クウォソ  
フスキ

9/14(水)2:30pm 9/17(土)4:00pm

**エヴァは眠りたい**(99分・35mm・白黒) Ewa chce spać  
'57(監)(脚)タデウシュ・フミェレフスキ(脚)アンジェイ・チェカル  
スキ、イエレミ・プシボラ(撮)ステファン・マティシュキェヴィッ  
チ(美)ロマン・マン、アダム・T・ノヴァコフスキ(音)ヘンリク・  
チシ(出)バルバラ・クファトコフスカ、スタニスワフ・ミクルスキ、  
ステファン・バルティク、マリア・カニェフスカ、ロマン・クウォソ  
フスキ

9/14(水)6:30pm 9/16(金)2:30pm

**水の中のナイフ**(101分・35mm・白黒) Nóż w wodzie  
'62(監)(脚)ロマン・ポランスキ(脚)イエジー・スコリモフスキ、ヤ  
クブ・ゴールドベルク(撮)イエジー・リプマン(美)ボレスワフ・カム  
ィコフスキ(音)クシシュトフ・コメダ(出)レオン・ニェムチク、ヨラ  
ンタ・ウミェツカ、ジグムント・マラノヴィッチ

9/15(木)2:30pm 9/18(日)4:00pm

**アマチュア**(117分・35mm・カラー) Amator  
'79(監)(脚)クシシュトフ・ケシロフスキ(脚)イエジー・シュトウ  
ル(撮)ヤツェク・ベトリツキ(美)アンジェイ・ラファウ・ヴァルテ  
ンベルゲル(音)クシシュトフ・クニツェル(出)イエジー・シュトウ  
ル、マウゴジャータ・ゾンプコフスカ、イエジー・ノヴァク、タデウ  
シュ・ブラデツキ、クシシュトフ・ザヌッシ

9/15(木)6:30pm 9/17(土)1:00pm

**ヴィルコの娘たち**(116分・35mm・カラー) Panny z Wilka  
'79(監)アンジェイ・ワイダ(原)ヤロスワフ・イヴァシュキェヴィッ  
チ(脚)ズビグニェフ・カミンスキ(撮)エドヴァルト・クウォシンス  
キ(美)アラン・スタルスキ(音)カロール・シマノフスキ(出)ダニエル・  
オルブリフスキ、アンナ・セニェク、クリスティヌ・バスカル、マヤ・  
コモロフスカ、スタニスワヴァ・ツェリンスカ、クリスティナ・ザフ  
ファトヴィッチ、ゾフィア・ヤロシェフスカ、タデウシュ・ピャウォ  
シンスキ、ヤロスワフ・イヴァシュキェヴィッチ

パートⅡ 1999～2004

9/20(火)2:30pm 9/25(日)4:00pm

**パン・タデウシュ物語**(147分・35mm・カラー) Pan Tadeusz  
'99(監)(脚)アンジェイ・ワイダ(原)アダム・ミツキェヴィッチ(脚)  
ヤン・ノヴィナ・ザジツキ、ビョートル・ヴェレシニャク(撮)パヴェ  
ウ・エデルマン(美)アラン・スタルスキ(音)ヴォイチェフ・キラル  
(出)ボグスワフ・リンダ、ダニエル・オルブリフスキ、グラジナ・シャ  
ボウオフスカ、アンジェイ・セヴェリン、マレク・コンドラト、ミハル・  
ジェブロフスキ、アリツィア・パフレダ＝ツルシ、クシシュトフ・コ  
ルベルゲル

9/20(火)6:30pm 9/23(金・祝)1:00pm

**借金**(97分・35mm・カラー) Dług  
'99(監)(脚)クシシュトフ・クラウゼ(脚)イエジー・モラフスキ(撮)  
バルトシュ・プロコボヴィッチ(美)マгдаレナ・ディポント(音)ミ  
ハウ・ウルパニャク(出)ロベルト・ゴネラ、ヤツェク・ボルツフ、ア  
ンジェイ・ヒラ、ツェザリ・コシンスキ、ヨアンナ・シュルミェイ、  
アグニェシュカ・ヴァルフルスカ

9/21(水)2:30pm 9/23(金・祝)4:00pm

**エディ**(98分・35mm・カラー) Edi  
2002(監)(脚)ビョートル・チシャスカルスキ(脚)ヴォイチェフ・レ  
ピャンカ(撮)クシシュトフ・ブタク(美)ヴォイチェフ・ジョガワ(音)  
ヴォイチェフ・レマンスキ(出)ヘンリク・ゴウエンビェフスキ、ヤ  
ツェク・ブラチャク、アレクサンドラ・キシヨ、トマシュ・ヤロシュ

9/21(水)6:30pm 9/24(土)1:00pm

**仕返し**(100分・35mm・カラー) Zemsta  
2002(監)(脚)アンジェイ・ワイダ(原)アレクサンデル・フレドロ(撮)  
パヴェウ・エデルマン(美)タデウシュ・コサレヴィッチ、マгдаレナ・  
ディポント(音)ヴォイチェフ・キラル(出)ロマン・ポランスキ、ヤ  
ヌシュ・ガヨス、アンジェイ・セヴェリン、カタジナ・フィゲラ、  
ダニエル・オルブリフスキ、アガタ・ブゼック、ラファウ・クルリコ  
フスキ

9/22(木)2:30pm 9/24(土)4:00pm

**ワルシャワ**(105分・35mm・カラー) Warszawa  
2003(監)(脚)ダリウシュ・ガイェフスキ(脚)マテウシュ・ベドナル  
キェヴィッチ(撮)ヴォイチェフ・シェベル(美)エルヴィラ・ブルー  
タ(音)グルーブ〈コロモラヌィ〉(出)アグニェシュカ・グロホフスカ、  
ウカシュ・ガルリツキ、ドミニカ・オスタウオフスカ、レフ・マツキ  
ェヴィッチ、スワヴォミル・オジェホフスキ、アンジェイ・シェイナフ、  
ウメダ・トモホ

9/22(木)6:30pm 9/25(日)1:00pm

**答の痕**(91分・35mm・カラー) Pregi  
2004(監)マгдаレナ・ピェコシュ(原)(脚)ヴォイチェフ・クチョ  
ク(撮)マルチン・コシャウカ(美)ヨアンナ・ドロシュキェヴィッチ、  
エヴァ・スコチコフスカ(音)アドリアン・コナルスキ(出)ミハウ・  
ジェブロフスキ、ヤン・フリチ、アグニェシュカ・グロホフスカ、ヴァ  
ツワフ・アダムチック、ボリス・シツ、ヤン・ペシェク

■(監)=監督 (原)=原作 (脚)=脚本・台詞 (撮)=撮影 (美)  
=美術 (音)=音楽 (出)=出演



会 期
平成17年11月1日～平成17年11月18日 (16日間)
会 場
大ホール
上映回数
43回
入場者総数
6,045人(1回平均141人)
雑誌・新聞関連記事
文化庁月報(2005年9月号)「生誕百年 映画監督 斎藤寅次郎と野村浩将」(板 倉史明)
読売新聞(2005年10月21日)「斎藤寅 次郎と野村浩将の特集上映会」
しんぶん 赤旗(2005年10月27日)「生 誕百年 斎藤寅次郎と野村浩将」
朝日新聞(2005年10月28日)「生誕百 年 映画監督 斎藤寅次郎と野村浩将」
東京新聞(2005年11月1日)「生誕百年 特集 映画監督 斎藤寅次郎と野村浩 将」
しんぶん 赤旗(2005年11月4日)「よみ がえるナンセンス喜劇」(娯楽映画研 究家)

## 232 生誕百年特集 映画監督 斎藤寅次郎と野村浩将

生誕百年を迎えた日本の映画監督を顕彰する連続企画のひとつである。喜劇映画を得意とした斎藤寅次郎監督(1905-82)と、『愛染かつら』(1938-39)などのメロドラマ作家として一時代を築いた野村浩将監督(1905-79)の作品を計28本上映することを通じて、喜劇とメロドラマという娯楽映画の二大ジャンルを探究し、そこに通底する共通点を明らかにすることを目指した。

斎藤寅次郎作品については計14作品を上映した。作品選定に当たっては、『エノケンの法界坊』(1938)や『東京五人男』(1945)といった斎藤の代表作のほか、これまで上映機会の少なかった『突貫驛長』(1945)や『花吹雪 御存知 七人男』(1954)なども上映した。さらに、近年「映画保存協会」が発見した無声映画『モダン怪談100,000,000円』(1929)や、『のど自慢狂時代』(1949)や『青空天使』(1950)などの復元作品も上映することで、アーカイブでの上映としての特性を色濃く出した。

野村浩将作品については、1986年の松竹蒲田撮影所特集の際に7作品を上映したが、今回は新たな収集作品を加えて13作品を上映した。彼の代表作は『人妻椿』(1936)や『愛染かつら』(1938-39)などの女性を主人公とするメロドラマであるが、今回はその他にも、野村の初期のヒット作である「与太者」シリーズ4本や、上映機会の少ない『舞台姿』(1940)も紹介した。

### Torajiro Saito and Hiromasa Nomura Retrospective at their Centenary

Commemorating the 100<sup>th</sup> anniversary of the births of Torajiro Saito (1905-82) and Hiromasa Nomura (1905-79), this program screened the total of 28 films by these two directors. Saito is known for diverse comedy films ranging from sharp farce to family dramas. Nomura established himself as master director of melodrama films including *Aizen katsura* (1938-39) which was a huge nationwide hit. By programming the retrospective of them together, NFC intended to examine and compare two major genres of entertainment film, that is, comedy and melodrama.

As for Saito's films, 14 titles were shown. They included Saito's representative films such as *Enokenno bokkaibo* (1938) and *Tokyo goninotoko* (1945) as well as other titles that had rarely been screened such as *Tokkan ekicho* (1945) and *Hanafubuki gozonji shichinin otoko* (1954). In addition, films that had recently been found and restored were also screened, making the program reflecting the archival characteristics of NFC. These films included *Modan kaidan 100,000,000 yen* (1929), silent film found by Film Preservation Society, and *Nodojimankyojidai* (1949) and *Aozoratenshi* (1950).

As for films by Hiromasa Nomura, 6 newly acquired films in addition to 7 films shown in 1986 as part of the program on the Shochiku Kamata studios were screened. In addition to Nomura's representative melodrama films such as *Hitozumatsubaki* (1936) and *Aizen katsura* that feature heroines, this program also showed the Yotamono series (4 films) which was Nomura's early hits, and *Butaisugata* (1940) which had rarely been screened before.



齋藤寅二郎

1

11/4(金)4:00pm 11/13(日)1:00pm

モダン怪談 100,000,000円[松竹グラフ版]

(15分・16fps・35mm・白黒・無声)

'29(松竹蒲田)(原)大森文雄(脚)池田忠雄(撮)武富善雄(出)齋藤達雄、松井潤子、坂本武、吉川満子、小倉繁

のど自慢狂時代(50分・35mm・白黒・不完全)

'49(東横映画)(原)サトウハチロー (脚)八住利雄(撮)友成達雄(出)灰田勝彦、並木路子、花菱アチャコ、古賀政男、和田肇、清川虹子

2

11/1(火)4:00pm 11/12(土)1:00pm

石川五右エ門の法事[パテベピー短縮版]

(21分・16fps・35mm・白黒・無声)

'30(松竹蒲田)(原)絹川秀治(脚)池田忠雄、伏見晃(撮)武富善雄(出)渡辺篤、香取千代子、坂本武、横尾泥海男、青木富夫

突貫驛長(62分・35mm・白黒)

'45(東宝)(原)松下井知夫(脚)如月敏、志村敏夫(撮)立花幹也(美)北川恵音(音)伊藤昇(出)古川緑波、英百合子、志村喬、山根壽子、岸井明、藤間房子、渡邊篤、高勢實乗、三谷幸子、河野糸子、石田守英、堀井英一、横尾泥海男、坊屋三郎、白川道太郎

3

11/1(火)7:00pm 11/18(金)1:00pm

爆弾花嫁(23分・24fps・35mm・白黒・サウンド版[一部無声])

'35(松竹蒲田) (監)佐々木啓祐(原)(脚)池田実三(撮)前野直之助(編)齋藤寅二郎(出)谷麗光、柳井小夜子、小倉繁、阿部正三郎、出雲八重子

子寶夫婦(59分・35mm・白黒)

'41(東宝東京)(原)曾我廼家五郎(脚)志村敏夫(撮)木塚誠一(美)北猛夫(音)飯田信夫(出)徳川夢声、英百合子、三谷幸子、月田一郎、岸井明、渡邊篤、清川玉枝、三邦映子

4

11/2(水)1:00pm 11/18(金)4:00pm

エノケンの法界坊[短縮版](53分・35mm・白黒)

'38(東宝東京)(脚)和田五雄、小川正記、小國英雄(撮)鈴木博(美)中古智(音)栗原重一(出)榎本健一、宏川光子、小笠原章二郎、柳田貞一、中村是好、如月寛多、英百合子

思ひつき夫人[短縮版](50分・35mm・白黒・不完全)

'39(東宝京都)(原)菊田一夫(脚)小國英雄(撮)友成達雄(美)吉松英海(音)山田英一(出)竹久千恵子、花菱アチャコ、清川虹子、霧立のぼる、岸井明、山野一郎

5

11/2(水)4:00pm 11/17(木)1:00pm

親子鯨(75分・35mm・白黒)

'40(東宝東京)(脚)志村敏夫(撮)立花幹也(美)北辰雄(音)服部良一

(出)渡邊篤、川田義雄、英百合子、山根壽子、小宮一晃、清川虹子、立花潤子、柳谷寛、若宮金次郎、杉寛

6

11/2(水)7:00pm 11/11(金)4:00pm

東京五人男(84分・35mm・白黒)

'45(東宝)(脚)山下與志一(撮)友成達雄(美)北辰雄(音)鈴木静一(特殊技術)圓谷英一(円谷英二)(出)古川緑波、横山エンタツ、花菱アチャコ、石田一松、柳家権太樓、高勢實乗、鳥羽陽之助、永井柳作、高堂國典、小高つとむ、石田守英

7

11/3(木・祝)1:00pm 11/11(金)7:00pm

青空天使(63分・35mm・白黒・不完全)

'50(太泉映画)(脚)山下與志一(撮)友成達雄(美)北辰雄(音)萬城目正(出)美空ひばり、入江たか子、花菱アチャコ、横山エンタツ、川田晴久、伴淳三郎、清川虹子、清川玉枝

8

11/3(木・祝)4:00pm 11/18(金)7:00pm

花吹雪 御存じ七人男(79分・16mm・白黒)

'54(新東宝)(原)旗一兵(脚)八住利雄(撮)服部幹夫(美)川村芳久(音)米山正夫(出)花菱アチャコ、田端義夫、伴淳三郎、嵯峨美智子、中村錦之助、鮎川十糸子、月丘千秋、川田晴久、益田喜頓、山茶花究、堺駿二、香川良介、野沢英一

9

11/4(金)1:00pm 11/13(日)4:00pm

ハワイ珍道中(88分・35mm・カラー)

'54(新東宝)(脚)八住利雄(撮)友成達雄(美)加藤雅俊(音)原六朗(出)花菱アチャコ、田端義夫、堺駿二、伴淳三郎、江利チエミ、安西郷子、宮川玲子、清川虹子、斎藤達雄、潮万太郎、小倉繁、益田キートン、神楽坂はん子

10

11/1(火)1:00pm 11/16(水)7:00pm

大笑い江戸っ子祭(85分・35mm・白黒)

'59(東宝)(脚)蓮池義雄、淀橋太郎(撮)西前弘(美)鳥居塚誠一(音)宅孝二(出)三木のり平、有島一郎、雪村いづみ、南都雄二、ミヤコ蝶々

野村浩将

11

11/4(金)7:00pm 11/15(火)1:00pm

涙の愛嬌者(41分・18fps・35mm・白黒・無声)

'31(松竹蒲田)(原)(脚)伏見晃(撮)高橋與吉(出)小藤田正一、高尾光子、新井淳、阪本武、関時男、山口勇、半田日出丸、突貫小僧、小倉繁、大山健二

玄関番とお嬢さん(67分・35mm・白黒)

'34(松竹蒲田)(原)(脚)北村小松(撮)高橋與吉(美)浜田辰雄(音)今澤将矩、早乙女光(出)水久保澄子、藤井貢、伏見信子、斎藤達雄、吉川満子、突貫小僧、葛城文子、坂本武、飯田蝶子、磯野秋雄、三井秀男、

阿部正三郎、若水絹子

12

11/5(土)1:00pm

**令嬢と與太者**(118分・18fps・35mm・白黒・無声)

'31(松竹蒲田)(原)一木歆(脚)柳井隆雄(撮)高橋與吉(美)浜田辰雄(出)磯野秋雄、阿部正三郎、三井秀男、結城一朗、若水照子、武田春郎、井上雪子、大野秀郎、河村黎吉、阪本武

13

11/5(土)4:00pm 11/11(金)1:00pm

**與太者と藝者**(104分・20fps・35mm・白黒・無声)

'33(松竹蒲田)(原)(脚)柳井隆雄(撮)高橋與吉(美)脇田世根一(出)磯野秋雄、三井秀男、阿部正三郎、若水絹子、花岡菊子、光川京子、若水照子、結城一朗、市村美津子、河村黎吉

14

11/6(日)1:00pm 11/10(木)4:00pm

**應援團長の戀**(78分・35mm・白黒)

'33(松竹蒲田)(原)(脚)野田高梧(撮)高橋與吉(出)岡譲二、田中絹代、江川宇礼雄、逢初夢子、沢蘭子、若水照子

15

11/6(日)4:00pm 11/10(木)7:00pm

**與太者と花嫁**(93分・35mm・白黒・サウンド版)

'34(松竹蒲田)(原)(脚)柳井隆雄(撮)高橋與吉(美)浜田辰雄(音)万城目正(出)磯野秋雄、三井秀男、阿部正三郎、岩田祐吉、大塚君代、加賀見二、齋藤達雄、新井淳、水嶋亮太郎

16

11/8(火)1:00pm 11/17(木)4:00pm

**與太者と小町娘**(72分・35mm・白黒・サウンド版)

'35(松竹蒲田)(原)野村浩将(脚)池田忠雄(撮)高橋與吉(出)磯野秋雄、三井秀男、阿部正三郎、坪内美子、上山草人、山口勇、大日方傳、河村黎吉、関口小太郎

17

11/8(火)3:30pm 11/16(水)0:30pm

**人妻椿 前後篇**(142分・35mm・白黒)

'36(松竹大船)(原)小島政二郎(脚)柳井隆雄(撮)高橋通夫(美)浜田辰雄(音)万城目正(出)川崎弘子、佐分利信、小嶋和子、上原謙、藤野秀夫、山内光、三宅邦子、上山草人、野寺正一、坂本武、飯田蝶子、笠智衆、大山健二、磯野秋雄、阿部正三郎、忍節子、河村黎吉、吉川満子、水島亮太郎

18

11/8(火)7:00pm 11/16(水)4:00pm

**女醫絹代先生**(91分・35mm・白黒)

'37(松竹大船)(原)野村浩将(脚)池田忠雄(撮)高橋通夫(美)周襄吉(音)万城目正(出)田中絹代、佐分利信、坂本武、東山光子、吉川満子、島田富美子、水島亮太郎、谷麗光、大山健二、磯野秋雄、小林十九二、縣秀介、山田長生

19

11/9(水)1:00pm 11/12(土)4:00pm

**愛染かつら [新篇總輯篇]**(89分・35mm・白黒)

'38-39(松竹大船)(原)川口松太郎(脚)野田高梧(撮)高橋道夫(音)萬城目正(出)田中絹代、上原謙、佐分利信、大山健二、水戸光子、三樹豊、桑野通子、藤野秀夫、葛城文子、森川まさみ、河村黎吉、吉川満子、小島敏子、齋藤達雄、坂本武、岡村文子、出雲八重子、東山光子、忍節子、草香田鶴子、久原良子

20

11/9(水)4:00pm 11/17(木)7:00pm

**絹代の初戀**(82分・35mm・白黒)

'40(松竹大船)(脚)池田忠雄(撮)高橋道夫(美)濱田辰雄(音)早乙女光(出)田中絹代、河村黎吉、佐分利信、河野敏子、三樹豊、葛城久子、水戸光子、吉川満子、坪内美子、東山光子、久原良子、山口勇、寺門修、宮島健二

21

11/9(水)7:00pm 11/15(火)4:00pm

**舞台姿**(102分・35mm・白黒)

'40(松竹大船)(脚)池田忠雄、荒田正男(撮)齋藤正夫(美)浜田辰雄(音)伊藤宣二(出)田中絹代、島崎滌、河村黎吉、坂本武、小林十九二、水島亮太郎、阿部正三郎、磯野秋雄、三井秀男、飯田蝶子、吉川満子、小藤田正一

22

11/10(木)1:00pm 11/15(火)7:00pm

**お絹と番頭**(73分・35mm・白黒)

'40(松竹大船)(脚)池田忠雄(撮)齋藤正夫(美)濱田辰雄(音)伊藤宣二(出)田中絹代、上原謙、齋藤達雄、三宅邦子、藤野秀夫、小林十九二、磯野秋雄、阿部正三郎、三井秀男、岡村文子、近衛敏明、沖田儀一、河村黎吉、坪内美子、青山萬里子、久原良子、大塚君代、東山光子、草香田鶴子、葉山正雄

■フィルムセンターでは齋藤監督の本名である「寅二郎」の表記に統一しています。

■(監)=監督・演出 (原)=原作・原案 (脚)=脚本・脚色・潤色 (撮)=撮影 (美)=美術・美術監督 (音)=音楽 (出)=出演

会 期
平成17年11月19日～平成17年11月27日 (8日間)
会 場
大ホール
上映回数
24回
入場者総数
3,435人(1回平均143人)
共 催
特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会
雑誌・新聞関連記事
日本経済新聞(2005年9月7日)「J ホラーの原点、英語字幕付きで特集上映」
産経新聞(2005年9月15日)「ジャパニーズホラー傑作選」
日本経済新聞社(2005年11月14日)「映画祭 東京フィルメックス」
しんぶん赤旗(2005年11月16日)「生誕100年 映画監督中川信夫の世界」(映画監督)
中央公論(2005年12月号)「生誕百年 映画監督 中川信夫」(岡田秀則)
映像新聞(2006年1月2日)「中川信夫監督作品を特集」(中川洋吉)

## 233 第6回東京フィルメックス 特集上映 生誕百年特集 映画監督 中川信夫 ～地獄のアルチザン～

第6回東京フィルメックスとの共同開催により、怪談映画などの娯楽分野で優れた作品を発表した中川信夫監督(1905-84)の代表作と隠れた秀作を上映し、映画の「職人」として語られることの多いこの監督の再発見を目指した企画である。

『東海道四谷怪談』(1959)や『地獄』(1960)などの怪談映画を発表して、日本映画史に独特の地位を占める中川信夫監督は2005年に生誕百年を迎えた。フィルムセンターではこれを記念して第6回を迎えた東京フィルメックスとの共催により、12本の作品を上映した。作品選定では、「怪談映画の巨匠」という中川監督への画一的なイメージを崩す多彩な作品を選び、上映機会の少ない児童映画や歌謡映画、文芸映画、仁侠映画なども紹介した。上映に際しては、フィルムセンター所蔵のポスターや遺族より提供のあった同監督の遺品を会場ホワイエで展示したほか、2回実施したトークショーでは、『東海道四谷怪談』などの主演女優若杉嘉津子氏及び中川監督の助手だった鈴木健介氏(11月19日)、現代日本映画を代表する監督黒沢清氏及び俳優西島秀俊氏を招き(11月25日)、中川監督の人となりの紹介や作品分析を行った。また、すべての上映フィルムに英語字幕を付すこの企画の方針は、来日した海外の映画上映関係者による鑑賞を通じて、その後の中川作品の海外映画祭への出品へと結びついた。

### The 6<sup>th</sup> Tokyo FILMeX: Nobuo Nakagawa Retrospective at his Centenary

Co-organized with Tokyo FILMeX for the 6th time, this program intended to give an opportunity to re-discover Nobuo Nakagawa at the centenary from his birth. Though Nakagawa directed a number of strong entertainment films such as horror films, he had so far been treated more of a “craftman” of cinema than “artist.”

Diverse programming was intended in order to showcase Nakagawa's talent beyond that of the “craftman” of horror films. Thus, childrens' films, films with popular music, literary films and yakuza films that had rarely been screened were included as well as his famous horror films such as *Tokaido yotsuya kaidan* (1959) and *Jigoku* (1960). In conjunction with the screenings, posters of Nakagawa's films from the NFC collection and Nakagawa's personal objects lent by his family were exhibited in the lobby. In addition, talks were given twice. On November 19th, Katsuko Wakasugi, actor who played the heroine in a number of Nakagawa's films including *Tokaido yotsuya kaidan*, and Kensuke Suzuki who used to work with Nakagawa spoke, while on the 25th director Kiyoshi Kurosawa and actor Hidetoshi Nishijima, both representative figures of contemporary Japanese film industry, had a discussion. This series make it a policy to make English subtitles for all the films and thus, through the international guests in the audience, it has facilitated the films to be later screened at international film festivals. Films by Nakagawa were no exception.



11/19(土)11:00am 11/24(木)4:00pm

**エノケンのとび助冒険旅行**(76分・35mm・白黒)

'49(新東宝=エノケンプロ)(監)中川信夫(脚)山本嘉次郎(撮)河崎喜久三(美)進藤誠吾(音)早坂文雄(出)榎本健一、ダイゴ幸江、花島希世子、木場福地

11/19(土)2:00pm 11/25(金)7:00pm

**私刑(リンチ)**(88分・35mm・白黒)

'49(新東宝=竹井プロ)(監)中川信夫(原)大坪砂男(脚)小沢効(撮)川崎喜久三(美)下河原友雄(音)服部正(出)嵐寛寿郎、進藤英太郎、東野英治郎、池部良、久我美子

11/19(土)5:00pm 11/27(日)2:00pm

**さすらいの旅路**(86分・35mm・白黒)

'51(新東宝)(監)中川信夫(原)大林清(脚)岸松雄、井手雅人(撮)鈴木博(美)加藤雅俊(音)服部正(出)若山セツ子、龍崎一郎、田崎潤、清川玉枝

11/20(日)11:00am 11/27(日)5:00pm

**思春の泉**(88分・35mm・白黒)

'53(新東宝=俳優座)(監)中川信夫(原)石坂洋次郎(脚)館岡謙之助(撮)横山実(美)北川勇(音)斎藤一郎(出)左幸子、宇津井健、岸輝子、高橋豊子、東野英治郎

11/20(日)2:00pm 11/24(木)1:00pm

**人形佐七捕物帖 妖艶六死美人**(75分・35mm・白黒)

'56(新東宝)(監)中川信夫(原)横溝正史(脚)赤坂長義(撮)平野好美(美)若武仙史(音)渡辺宙明(出)若山富三郎、日比野恵子、杉山弘太郎、宇治みさ子、天知茂、若杉嘉津子

11/20(日)5:00pm 11/26(土)11:00am

**毒婦高橋お伝**(74分・35mm・白黒)

'58(新東宝)(監)中川信夫(脚)仲津勝義、中沢信(撮)川崎喜久三(美)黒沢治安(音)渡辺宙明(出)若杉嘉津子、松本朝生、明智十三郎、丹波哲郎、中村彰

11/22(火)1:00pm 11/24(木)7:00pm

**亡霊怪猫屋敷**(69分・35mm・パートカラー)

'58(新東宝)(監)中川信夫(原)橘外男(脚)石川義寛、藤島二郎(撮)西本正(美)黒沢治安(音)渡辺宙明(出)細川俊夫、江島由里子、五月藤江、芝田新、中村竜三郎

11/22(火)4:00pm 11/26(土)5:00pm

**女吸血鬼**(78分・35mm・白黒)

'59(新東宝)(監)中川信夫(原)橘外男(脚)中沢信、仲津勝義(撮)平野好美(美)黒沢治安(音)井内久(出)天知茂、和田桂之助、中村虎彦、三原葉子、池内淳子

11/22(火)7:00pm 11/25(金)1:00pm

**東海道四谷怪談**(76分・35mm・カラー)

'59(新東宝)(監)中川信夫(原)鶴屋南北(脚)大貫正義、石川義寛(撮)西本正(美)黒沢治安(音)渡辺宙明(出)天知茂、若杉嘉津子、江見俊太郎、中村竜三郎、北沢典子、池内淳子

11/23(水・祝)11:00am 11/25(金)4:00pm

**地獄**(101分・35mm・カラー)

'60(新東宝)(監)(脚)中川信夫(脚)宮川一郎(撮)森田守(美)黒沢治安(音)渡辺宙明(出)天知茂、沼田曜一、中村虎彦、宮田文子、三ツ矢歌子

11/23(水・祝)2:00pm 11/27(日)11:00am

**「粘土のお面」より かあちゃん**(88分・35mm・白黒)

'61(新東宝)(監)中川信夫(原)豊田正子(脚)館岡謙之助(撮)平野好美(美)黒沢治安(音)木下忠司(出)伊藤雄之助、望月優子、二木てるみ、津沢彰秀、北沢典子

11/23(水・祝)5:00pm 11/26(土)2:00pm

**妖艶毒婦伝 人斬りお勝**(89分・35mm・カラー)

'69(東映東京)(監)中川信夫(原)高橋猛(脚)高田宏治(撮)飯村雅彦(美)江野慎一(音)河辺公一(出)宮園純子、大信田礼子、西村晃、近藤正臣、賀川雪絵



会 期
平成17年12月6日～平成17年12月25日 (18日間)
会 場
大ホール
上映回数
35回
入場者総数
2,933人(1回平均84人)
協力
文化庁、韓国映像資料院、 福岡市総合図書館
後援
駐日韓国大使館韓国文化院
雑誌・新聞関連記事
民団新聞(2005年11月30日)「韓国リ アリズム映画」
文化庁月報(2005年11月号)「ユ・ヒョ ンモク監督特集」(岡田秀則)
東洋経済新報(2005年12月2日)「ユ・ ヒョンモク監督作品を特集上映」
しんぶん赤旗(2005年12月2日)「韓国 芸術映画の巨匠」
日本経済新聞(2005年12月7日)「韓国 映画の巨匠 ユ・ヒョンモク監督を特 集」

## 234 日韓友情年2005 韓国リアリズム映画の開拓者 <sup>ユ・ヒョンモク</sup> 兪賢穆監督特集

2005年日韓友情年を記念して、<sup>シンサンオク</sup>申相玉、<sup>キムギヨン</sup>金綺泳らとともに韓国映画の第1次黄金期を牽引した巨匠・<sup>ユ・ヒョンモク</sup>兪賢穆監督(1923-)の代表作を日本語字幕付きで上映し、韓国映画史の再発見に資する企画である。文化庁のほか、韓国映像資料院と福岡市総合図書館の協力を得た。

フィルムセンターとしては、平成14(2002)年度に「韓国映画 栄光の1960年代」を開催して以来2回目の韓国映画特集となるが、今回は、これまで日本でまとめて紹介される機会のなかった兪賢穆監督の業績に焦点を当てることとした。韓国映画史上の最重要人物の一人である兪監督が発表した42本のうち、『誤発弾』(1961)や『カインの後裔』(1968)などの秀作を含む12本の主要作品を上映し、本国で「芸術映画の巨匠」と呼ばれた多彩な作風をたどった。上映プリントは、ともにフィルム・アーカイブである韓国映像資料院と福岡市総合図書館の所蔵するプリントを借用したほか、オープニングに際しては監督夫妻と韓国映像資料院の<sup>イ・ヒョイン</sup>李孝仁院長を招聘し、開幕レセプションと監督による舞台挨拶を実施した。また、監督インタビューや作品論、詳細なフィルモグラフィーを掲載したカタログを発行した。

### *Yu Hyeon-Mok Retrospective: The Pathfinder of Korean Realism*

Commemorating the Korea-Japan Friendship Year 2005, NFC showed representative films by Yu Hyeon-Mok (1923-) with Japanese subtitles. This was the 2nd program of Korean films at NFC following “Korean Films—The Glorious 1960s.” Yu was the driving force of the Korean film industry in its first Golden Age of the 1960s together with directors Shin Sang-ok and Kim Ki-Yeong. By focusing on his films, this program intended to let the audience rediscover Korean film history. Out of 42 films by Yu, NFC screened 12 representative works including *An Aimless Bullet* (1961) and *Descendent of Cain* (1968) to survey diverse film styles of Yu who has long been called the “master of artistic film” in Korea. NFC borrowed prints from the collection of Korean Film Archive and the Fukuoka City Public Library, invited director Yu and his wife as well as Yi Hyoin of the Korean Film Archive for the opening reception where director gave a speech. A catalogue consisting of the interview with the director, critical essays of the films and the thorough filmography was published in conjunction with this event. In addition to the support from the Korean Film Archive and the Fukuoka City Public Library, NFC received support from the Agency for Cultural Affairs for this event.



1

12/8(木)3:00pm 12/18(日)1:00pm 12/21(水)7:00pm

あなたと永遠に(109分・35mm・白黒) 그대와 영원히  
FOREVER WITH YOU  
'57(三星映画)(脚) 박종삼(脚) 박성浩(撮)邊仁楨(美)李奉先(出)都琴峰、崔滿鉉、李薫

2

12/6(火)7:00pm 12/17(土)1:00pm 12/21(水)3:00pm

誤発弾(107分・35mm・白黒) 오발탄 AN AIMLESS BULLET  
'61(大韓映画製作)(原)李範宣(脚)李鍾璣(撮)金學成(美)白南俊、李壽珍(音)金聖泰(出)金振奎、崔茂龍、文貞淑、徐愛子、金惠貞

3

12/7(水)3:00pm 12/17(土)4:00pm 12/25(日)1:00pm

金薬局の娘たち(108分・35mm・白黒) 김약국의 딸들  
DAUGHTERS OF THE PHARMACIST KIM  
'63(極東興業)(原)朴景利(脚)劉漢徹(撮)邊仁楨(美)李奉先(音)金聖泰(出)黃貞順、金東園、崔智姬、嚴鶯蘭、姜美愛、許長江、朴魯植、黃海

4

12/8(木)7:00pm 12/16(金)3:00pm 12/24(土)4:00pm

殉教者(131分・35mm・白黒) 순교자 MARTYR  
'65(合同映画)(原)リチャード・E・キム[金恩國](脚)李眞燮、金剛潤(撮)沈載興(美)李奉先(音)韓相基(出)金振奎、南宮遠、張東輝、朴殿、尹一峯、全昌根

5

12/9(金)7:00pm 12/20(火)3:00pm 12/24(土)1:00pm

太陽はまた昇る(101分・35mm・白黒) 태양은 다시 뜬다  
THE SUN RISES AGAIN  
'65(極東興業)(脚)金志軒(撮)邊仁楨(美)盧仁澤(音)金東振(出)金振奎、嚴鶯蘭、許長江、李樂薫、高銀兒、金東園、李藝春

6

12/10(土)1:00pm 12/14(水)7:00pm 12/22(木)3:00pm

恐妻家三代(103分・35mm・白黒) 공처가 삼대  
THREE HENPECK GENERATIONS  
'67(合同映画)(脚)金志軒(撮)チェ・ヨンジ(美)洪性七(音)李鳳祥(出)崔滿鉉、黃貞順、許長江、趙美鈴、申星一、高銀兒

7

12/10(土)4:00pm 12/16(金)7:00pm 12/18(日)4:00pm

終電で来た客たち(104分・35mm・カラー) 막차로 온 손님들  
GUESTS WHO CAME BY THE LAST TRAIN  
'67(韓国映画＝東洋映画興業)(原)洪盛原(脚)李相法、李恩成(撮)閔貞植(美)朴石人(音)韓相基(出)李純才、文姬、成薫、南貞姬、金聲玉、安仁淑

8

12/9(金)3:00pm 12/11(日)1:00pm 12/22(木)7:00pm

カインの後裔(112分・35mm・白黒) 카인의 후예 Descendent of Cain  
'68(韓国映画＝東洋映画興業)(原)黃順元(脚)李相法(撮)李石出(美)朴石人(音)金東振(出)金振奎、文姬、朴魯植、張東輝、崔峰

9

12/11(日)4:00pm 12/15(木)7:00pm

みんなあげましょう(95分・35mm・カラー) 몽땅 드릴까요  
I'LL GIVE YOU EVERYTHING  
'68(泰昌興業)(原)朴祚烈(脚)金貞玉、イ・ユミン(撮)李石出(美)李文鉉(音)韓相基(出)金振奎、趙美鈴、孫芳園、吳鉉基、楊薫

10

12/7(水)7:00pm 12/13(火)3:00pm 12/25(日)4:00pm

修学旅行(102分・35mm・白黒) 수학여행 SCHOOL EXCURSION  
'69(東洋映画興業)(脚)李相法(撮)閔貞植(美)キム・ホグン(音)金東振(出)具鳳書、文姬、黃海、張東輝

11

12/13(火)7:00pm 12/15(木)3:00pm 12/23(金・祝)1:00pm

長雨(124分・35mm・カラー) 장마 RAINY DAYS  
'79(南亜振興)(原)尹興吉(脚)尹三六(撮)劉永吉(美)趙景煥(音)韓相基(出)黃貞順、金石薫、金信載、李大根、康石雨

12

12/14(水)3:00pm 12/20(火)7:00pm 12/23(金・祝)4:00pm

人間の子(127分・35mm・カラー) 사람의 아들 SON OF MAN  
'80(合同映画)(原)李文烈(脚)洪坡(撮)鄭一成(美)都庸雨(音)韓相基(出)河明中、崔佛岩、姜郁起、吳樹美、吳美燕、李純才、朱善泰

■(監)＝監督・演出 (原)＝原作・原案 (脚)＝脚本・脚色 (撮)＝撮影 (美)＝美術 (音)＝音楽 (出)＝出演

会 期
平成18年1月5日～平成18年1月15日 (10日間)
会 場
大ホール
上映回数
20回
入場者総数
1,883人(1回平均94人)
雑誌・新聞関連記事
文化庁月報(2005年12月号)「シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち」(板倉史明)
ムジカノーヴァ(2005年4月号)「アメリカ無声映画の傑作をピアノ伴奏とともに」(ヒリップ・カーリー)
読売新聞(2006年1月6日)「シネマの冒険 闇と音楽」
読売新聞(2006年1月11日)「シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち」
しんぶん赤旗(2005年12月22日)「シネマの冒険 闇と音楽」
映像新聞(2005年12月26日)「無声映画をピアノ伴奏付きで上映」
聖教新聞(2005年12月26日)「生誕百年の監督たち」
キネマ旬報(2006年1月上旬号)「シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち」
常陽藝文(2006年1月号)「シネマの冒険 闇と音楽：生誕百年の監督たち」
シネフロント(2005年11月・12月合併号)「シネマの冒険 闇と音楽」
読売ウィークリー (2006年1月8日～15日号合併)「シネマの冒険 闇と音楽：生誕百年の監督たち」
ムジカノーヴァ (2006年1月号)「ピアノ生伴奏付きサイレント映画の上映会シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち」(小原孝)

## 235 シネマの冒険 闇と音楽 生誕百年の監督たち

無声映画に伴奏音楽などを付して上映するフィルムセンター恒例の企画で、無声映画の魅力を伴奏音楽によってより生き生きと伝えることを目指した。今回は、2005年に生誕百年を迎えた日本の映画監督4人(斎藤寅二郎、成瀬巳喜男、野村浩将、稲垣浩)の無声作品12本を、10番組に構成して上映した。

斎藤寅二郎監督作品は『石川五右エ門の法事』(1930)と、2005年に新たに収集した『モダン怪談 100,000,000円』を上映した。成瀬巳喜男監督作品は、現存する全無声作品(5作品)を上映した。野村浩将監督作品は、フィルムセンター初上映となる『與太者と縁談』(1932)を含む4本を上映、また、稲垣浩監督作品は、『諧謔三浪士』(1930)を上映した。

伴奏者は、天池穂高氏、小原孝氏、小林弘人氏、松村牧垂氏、柳下美恵氏、谷川賢作氏の6名であった。なお、1月5日に実施した2公演のみ、グループ名「谷川賢作 Sonorizzano」として、谷川賢作氏(ピアノ)のほか、三木黄太氏(チェロ)、酒井聡行氏(アルトサックス、フルート)、小竹満里氏(パーカッション、マリンバ)が参加して演奏を行った。

### Silent Film Renaissance Masters at their Centenary

This is an annual program that shows quality silent films with live music accompaniment. This year's edition showed 12 silent films in 10 programs, by four Japanese directors who commemorated their centenary. The four directors are Torajiro Saito, Mikio Naruse, Hiromasa Nomura, and Hiroshi Inagaki. As for Saito, *Ischikawagoemonno boji* (1930) and newly acquired *Modan kaidan 100,000,000 yen* were screened. All five of the existing silent films by Naruse were shown. Four films by Nomura including *Yotamonoto endan* (1932) that was shown at NFC for the 1st time were screened. *Kaigyakusan-roshi* (1930) by Inagaki was shown.

Musicians who played accompaniment were as follows: Hodaka Amaiike, Takashi Obara, Hiroto Kobayashi, Makia Matsumura, Mie Yanashita, and Kensaku Tanikawa. Two shows on January 5th were the exception and the group "Kensaku Tanikawa Sonorizzano" with Kensaku Tanikawa (piano), Kota Miki (cello), Toshiyuki Sakai (alto sax, flute), Mari Kotake (percussion, marimba) played.





## 1

1/7(土)1:00pm 1/13(金)3:00pm

**モダン怪談** 100,000,000円[松竹グラフ版](15分・16fps)

'29(松竹蒲田)(監)斎藤寅二郎(原)大森文雄(脚)池田忠雄(撮)武富善雄(出)斎藤達雄、松井潤子、坂本武

**石川五右衛門の法事** [パテベビー短縮版](21分・16fps)

'30(松竹蒲田)(監)斎藤寅二郎(原)絹川秀治(脚)池田忠雄、伏見晃(撮)武富善雄(出)渡邊篤、香取千代子、坂本武

**腰辨頑張り**(38分・18fps)

'31(松竹蒲田)(脚)(監)成瀬巳喜男(撮)三浦光男(光雄)(出)山口勇、浪花友子、加藤精一

## 2

1/5(木)3:00pm 1/14(土)1:00pm

**夜ごとの夢**(64分・24fps)

'33(松竹蒲田)(原)(監)成瀬巳喜男(脚)池田忠雄(撮)猪飼助太郎(出)栗島すみ子、斎藤達雄、木島照子

## 3

1/8(日)4:00pm 1/13(金)7:00pm

**生さぬ仲**(94分・20fps)

'32(松竹蒲田)(監)成瀬巳喜男(原)柳川春葉(脚)野田高梧(撮)猪飼助太郎(出)岡田嘉子、奈良真養、筑波雪子

## 4

1/8(日)1:00pm 1/11(水)7:00pm

**君と別れて**(72分・20fps)

'33(松竹蒲田)(原)(脚)(監)成瀬巳喜男(撮)猪飼助太郎(出)水久保澄子、吉川満子、磯野秋雄

## 5

1/10(火)7:00pm 1/15(日)4:00pm

**限りなき舗道**(87分・24fps)

'34(松竹蒲田)(監)成瀬巳喜男(原)北村小松(脚)池田實三(撮)猪飼助太郎(出)忍節子、香取千代子、日守新一

## 6

1/11(水)3:00pm 1/12(木)7:00pm

**令嬢と與太者**(89分・24fps)

'31(松竹蒲田)(監)野村浩将(原)一木欽(脚)柳井隆雄(撮)高橋與吉(出)磯野秋雄、阿部正三郎、三井秀男

## 7

1/6(金)3:00pm 1/7(土)4:00pm

**與太者と縁談**(83分・24fps)

'32(松竹蒲田)(監)野村浩将(原)(脚)柳井隆雄(撮)高橋與吉(出)磯野秋雄、三井秀男、阿部正三郎

## 8

1/5(木)7:00pm 1/14(土)4:00pm

**與太者と藝者**(104分・20fps)

'33(松竹蒲田)(監)野村浩将(原)(脚)柳井隆雄(撮)高橋與吉(出)磯野秋雄、三井秀男、阿部正三郎

## 9

1/12(木)3:00pm 1/15(日)1:00pm

**女學生と與太者**(98分・20fps)

'33(松竹蒲田)(監)野村浩将(原)(脚)池田忠雄(撮)高橋與吉(出)磯野秋雄、三井秀男、阿部正三郎

## 10

1/6(金)7:00pm 1/10(火)3:00pm

**諧謔三浪士**(66分・16fps・不完全)

'30(片岡千恵蔵プロ)(監)稲垣浩(原)田中務(脚)稲垣浩(撮)酒井健三(出)片岡千恵蔵、尾上桃華、瀬川路三郎

■(監)=監督・演出 (原)=原作・原案 (脚)=脚本・脚色・潤色 (撮)=撮影 (出)=出演

■プリントはすべて35mm、白黒です。

会 期
平成18年1月13日～平成18年3月26日 (33日間)(金曜・土曜・日曜の上映)
会 場
小ホール
上映回数
66回
入場者総数
5,053人(1回平均77人)
雑誌・新聞関連記事
産経新聞(2006年1月7日)「松竹映画探索 1960～70の輝き」 朝日新聞(2006年1月11日)「ツウな松竹映 画、再上映」 東京新聞(2006年1月17日)「ヌーベルバ ーグ中心に特集上映」 産経新聞(2006年1月25日)「松竹創業110 周年記念松竹と映画」 常陽藝文(2006年1月号)「松竹創立110周 年記念 松竹映画再発見 松竹と映画」 ピクトアップ(2006年2月号)「松竹映画の 傑作：秀作に出会える貴重な特集上映シ リーズ！」 brain(ブレン)(2006年2月号)「あの映 画を一挙公開、松竹映画探索 1960～ 70年代」 TOKION(2006年2月号)「威厳と歴史を持 つ巨匠「松竹」が、2005年創業110周年!!」 シネフロント(2005年11月・12月合併号) 「松竹映画探索」 しんぶん赤旗(平成18年1月12日)「松竹映 画探索1960～70年代」 常陽藝文2006. 1月号(2006年2月号)「松竹 創立110周年記念 松竹映画再発見」 フラッシュ (2006年2月7日号)「松竹110 周年を記念して名作を再上映 邦画黄金 期を肌で感じるイチオシ5作」 クラック(2006年2月号)「松竹映画探索 1960～70年代」 メトロ沿線だより(2006年2月号)「松竹創 業110周年記念松竹映画探索1970-1970年 代」 amour(アムール)(2006年2月号)「松竹創 業110周年記念松竹映画探索1960-70年代」 In red(2006年3月号)「松竹映画探索1960- 70年代」 ソトコト(2006年3月号)「松竹創業110周 年記念松竹映画探索1960～70年代」 常陽藝文2006. 3月号(2006年2月号)「松竹 創立110周年記念 松竹映画再発見」 和のしつらいを楽しむ(2006年3月20日発 売)「松竹創立110周年記念 松竹と映画」 Esquire(2006年3月号)「松竹映画探索1960 ～70年代」 キネマ旬報2006年3月上旬号「松竹映画探 索1960-70年代」 東京メトロ沿線だより(2006年3月号)「松 竹創業110周年記念松竹映画探索1960-70 年代」

## 236 松竹創業110周年記念 松竹映画探索 1960～70年代

松竹株式会社の創業110周年を記念して、松竹映画の歴史の中でも比較的振り返られることの少ない1960年代と1970年代の作品34本を、5つのテーマに沿って上映した企画である。いわゆる日本映画の“黄金時代”と言われる1950年代の後に、新感覚の監督や俳優が台頭してきた松竹映画の野心的な時代に照準を当てた。

この時代の松竹映画を代表する意味で、「松竹ヌーヴェルヴァーグ1960年」「喜劇」「SF映画」「サスペンス映画」「青春映画」という5つのテーマを設定したこの企画は、上映機会の少ない作品を積極的に選択しつつ、松竹が主催企画として行った「野村芳太郎監督特集」(2005年8月13日～9月2日)や「松竹110年祭」(同年11月19日～12月16日)とも内容的に重ならないように番組作りを行った。その結果、いわゆる“松竹ヌーヴェルヴァーグ”世代の中でも顧みられることの少ない高橋治、田村孟、森川英太郎といった新感覚の監督や、プログラム・ピクチャー(低予算の量産娯楽映画)の枠内で優れた演出力を発揮してきた前田陽一、瀬川昌治、森崎東、貞永方久、山根成之といった監督たちの作品も上映した。松竹の永い伝統の中でも独自の輝きを見せた一時代を通じて、松竹映画史の全体像を浮かび上がらせ、その理解を促す企画となった。

### Shochiku Company at 110: A Quest of Shochiku Films in the 1960s and 1970s

Commemorating the 110th anniversary of Shochiku Co., Ltd, this program screened the total of 34 Shochiku films made in the 1960s and the 1970s, the era which tends to attract less attention than the other eras in the history of Shochiku cinema, since the so-called “Golden Age” of Japanese cinema, the 1950s, stands out. However, the 1960s and the 1970s are also significant in that directors and actors with new ideas were emerging then.

Films were selected under five categories, that is, “Shochiku ‘Nouvelle Vague 1960,’” “Comedy,” “Science Fiction,” “Suspense,” and “Youth Dramas.” Priority was given to the films that tend not to be screened often. In addition, NFC selected films that were not included in “Yoshitaro Nomura Retrospective” (Aug.13-Sep.2) and “Shochiku 110 Years” (Nov.19-Dec.16), both of which were organized by Shochiku itself. As a result, this program focused on film directors who tend not to receive enough attention, that is, “Nouvelle Vague” directors such as Osamu Takahashi, Takeshi Tamura and Eitaro Morikawa, and directors such as Yoichi Maeda, Masaji Segawa, Azuma Morisaki, Masahisa Sadanaga and Shigeyuki Yamane who showed directorial talent within the genre of Program Picture (low-budget, mass-produced entertainment films.) Through this program with a number of new prints, NFC provided a unique opportunity for the viewers to deepen their understanding of the history of Shochiku films.



■松竹ヌーヴェルヴァーグ1960年

1

1/13(金)2:00pm 2/18(土)3:00pm

明日の太陽(6分・35mm・カラー)

’59(監)大島渚(撮)川又昂

日本の夜と霧(107分・35mm・カラー)

’60(監)(脚)大島渚(脚)石堂淑朗(撮)川又昂(美)宇野耕司(音)真鍋理一郎(出)渡辺文雄、桑野みゆき、津川雅彦、小山明子

2

1/13(金)6:00pm 2/19(日)0:00pm

ろくでなし(88分・35mm・白黒)

’60(監)(脚)吉田喜重(撮)成島東一郎(美)芳野尹孝(音)木下忠司(出)津川雅彦、川津祐介、高千穂ひづる、山下洵一郎、渡辺文雄

3

1/14(土)0:00pm 2/19(日)3:00pm

恋の片道切符(82分・35mm・白黒)

’60(監)(脚)篠田正浩(撮)小杉正雄(美)梅田千代夫(音)池田正義、海老原啓一郎(出)小坂一也、牧紀子、平尾昌章(昌晃)、永井達郎、佐竹明夫

4

1/14(土)3:00pm 2/24(金)2:00pm

彼女だけが知っている(64分・35mm・白黒)

’60(監)(脚)高橋治(脚)田村孟(撮)川又昂(美)宇野耕司(音)中村八大(出)笠智衆、渡辺文雄、小山明子、水戸光子、松本克平

5

1/15(日)0:00pm 2/24(金)6:00pm

悪人志願(83分・35mm・白黒)

’60(監)(脚)田村孟(脚)成田孝雄(撮)舎川芳次(美)森田郷平(音)真鍋理一郎(出)炎加世子、渡辺文雄、津川雅彦、三島雅夫

6

1/15(日)3:00pm 2/25(土)0:00pm

武士道無残(74分・35mm・白黒)

’60(監)(脚)森川英太郎(撮)川原崎隆夫(美)大角純一(音)真鍋理一郎(出)森美樹、高千穂ひづる、山下洵一郎、渡辺文雄

■喜劇

7

1/20(金)2:00pm 2/25(土)3:00pm

馬鹿まるだし(87分・35mm・カラー)

’64(監)(脚)山田洋次(原)藤原審爾(脚)加藤泰(撮)高羽哲夫(美)佐藤公信(音)山本直純(出)ハナ肇、桑野みゆき、花澤徳衛、清水まゆみ

8

1/20(金)6:00pm 2/26(日)0:00pm

ちんころ海女っこ(83分・35mm・カラー)

’65(監)(脚)前田陽一(原)富永一朗(脚)石堂淑朗(撮)小原治夫(美)佐藤公信(音)山本直純(出)中村晃子、ホキ徳田、南道郎、扇町京子

9

1/21(土)0:00pm 2/26(日)3:00pm

吹けば飛ぶよな男だが(91分・35mm・カラー)

’68(監)(脚)山田洋次(脚)森崎東(撮)高羽哲夫(美)重田重盛(音)山本直純(出)なべおさみ、緑魔子、有島一郎、佐藤蛾次郎、ミヤコ蝶々

10

1/21(土)3:00pm 3/3(金)2:00pm

コント55号と水前寺清子の 神様の恋人(89分・35mm・カラー)

’68(監)(脚)野村芳太郎(脚)山根雄一郎、吉田剛(撮)川又昂(美)芳野尹孝(音)崎出伍一(出)萩本欽一、坂上二郎、水前寺清子、伴淳三郎

11

1/22(日)0:00pm 3/3(金)6:00pm

喜劇 逆転旅行(92分・35mm・カラー)

’69(監)瀬川昌治(原)(脚)舟橋和郎(撮)高羽哲夫(美)熊谷正雄(音)いずみたく(出)フランキー堺、ミヤコ蝶々、森田健作、伴淳三郎、倍賞千恵子

12

1/22(日)3:00pm 3/4(土)0:00pm

喜劇 男は愛嬌(87分・35mm・カラー)

’70(監)(脚)森崎東(脚)熊谷勲、梶浦政男(撮)吉川憲一(美)芳野尹孝(音)山本直純(出)渥美清、倍賞美津子、寺尾聰、沖山秀子

13

1/27(金)2:00pm 3/4(土)3:00pm

満願旅行(93分・35mm・カラー)

’70(監)瀬川昌治(原)(脚)舟橋和郎(撮)丸山恵司(美)熊谷正雄(音)いずみたく(出)フランキー堺、ミヤコ蝶々、森田健作、団令子、香山美子

14

1/27(金)6:00pm 3/5(日)0:00pm

喜劇 冠婚葬祭入門(87分・35mm・カラー)

’70(監)(脚)前田陽一(原)塩月弥栄子(脚)宮川一郎(撮)荒野諒一(美)芳野尹孝(音)木下忠司(出)三木のり平、倍賞美津子、由利徹、森光子、古今亭志ん朝

15

1/28(土)0:00pm 3/5(日)3:00pm

誰かさんと誰かさんが全員集合!! (87分・35mm・カラー)

’70(監)(脚)渡辺祐介(脚)田坂啓(撮)荒野諒一(美)森田郷平(音)森岡賢一郎(出)ザ・ドリフターズ、岩下志麻、内田朝雄、倍賞美津子

16

1/28(土)3:00pm 3/10(金)2:00pm

喜劇 大誘拐(90分・35mm・カラー)

’76(監)(脚)前田陽一(原)吉田進(脚)瀬川昌治、永井素夫(撮)吉川憲一(美)熊谷正雄(音)いずみたく(出)ミヤコ蝶々、三木のり平、森田健作、夏純子、小池朝雄

17
1/29(日)0:00pm    3/10(金)6:00pm
<b>瀬戸はよいとこ 花嫁観光船</b> (93分・35mm・カラー) ’76(監)(脚)瀬川昌治(脚)大川久男(撮)丸山恵司(美)佐藤之俊(音)いずみたく(出)フランキー堺、山城新伍、朝丘雪路、財津一郎、田坂都

18
1/29(日)3:00pm    3/11(土)0:00pm
<b>俺は田舎のプレスリー</b> (85分・35mm・カラー) ’78(監)満友敬司(原)山田洋次(脚)朝間義隆、梶浦政男(撮)竹村博(美)重田重盛(音)渋谷毅(出)勝野洋、ハナ肇、カルーセル麻紀、嵐寛寿郎、鮎川いづみ

■SF映画

19
2/3(金)2:00pm    3/11(土)3:00pm
<b>宇宙大怪獣ギララ</b> (88分・35mm・カラー) ’67(監)(脚)二本松嘉瑞(脚)元持栄美、石田守良(撮)平瀬静雄(美)重田重盛(音)いずみたく(特撮)池田博(出)和崎俊也、ペギー・ニール、柳沢真一、岡田英次

20
2/3(金)6:00pm    3/12(日)0:00pm
<b>吸血鬼ゴケミドロ</b> (84分・35mm・カラー) ’68(監)佐藤肇(脚)高久進、小林久三(撮)平瀬静雄(美)芳野尹孝(音)菊池俊輔(出)吉田輝雄、佐藤友美、楠侑子、高英男、高橋昌也

■サスペンス映画

21
2/4(土)0:00pm    3/12(日)3:00pm
<b>黒の斜面</b> (93分・35mm・カラー) ’71(監)貞永方久(原)(脚)菊島隆三(撮)丸山恵司(美)熊谷正雄(音)池野成(出)加藤剛、岩下志麻、市原悦子、滝田裕介

22
2/4(土)3:00pm    3/17(金)2:00pm
<b>可愛い悪女</b> (84分・35mm・カラー) ’71(監)(脚)井上梅次(撮)小杉正雄(美)森田郷平(音)広瀬健次郎(出)范文雀、滝田裕介、中丸忠雄、森次浩司、生田悦子

23
2/5(日)0:00pm    3/17(金)6:00pm
<b>影の爪</b> (90分・35mm・カラー) ’72(監)貞永方久(原)シャロット・アームストロング(脚)白坂依志夫、大野靖子、桂千穂(撮)加藤正幸(美)重田重盛(音)池野成(出)岩下志麻、香山美子、井上孝雄

■青春映画

24
2/5(日)3:00pm    3/18(土)0:00pm
<b>九ちゃん音頭</b> (78分・35mm・カラー) ’62(監)市村泰一(脚)山田洋次、不破三雄(撮)小杉正雄(美)熊谷正雄(音)ダニー飯田(出)坂本九、桑野みゆき、山下洵二(洵一郎)、渡辺トモコ

25
2/10(金)2:00pm    3/18(土)3:00pm
<b>天使の誘惑</b> (87分・35mm・カラー) ’68(監)田中康義(脚)野村芳太郎(撮)丸山恵司(美)佐藤公信(音)山本直純(出)黛ジュン、石坂浩二、石立鉄男、田中邦衛、芦野宏

26
2/10(金)6:00pm    3/19(日)0:00pm
<b>小さなスナック</b> (83分・35mm・カラー) ’68(監)斎藤耕一(脚)桜井義久(撮)竹村博(美)梅田千代夫(音)今井久(出)藤岡弘、尾崎奈々、パープル・シャドウズ、ヴィレッジ・シンガーズ

27
2/11(土・祝)0:00pm    3/19(日)3:00pm
<b>恋の季節</b> (87分・35mm・カラー) ’69(監)井上梅次(脚)田波靖男(撮)丸山恵司(美)森田郷平(音)いずみたく(出)今陽子、森田健作、奈美悦子、入川保則、松岡きっこ

28
2/11(土・祝)3:00pm    3/24(金)2:00pm
<b>藍より青く</b> (94分・35mm・カラー) ’73(監)(脚)森崎東(原)山田太一(脚)熊谷勲(撮)竹村博(美)重田重盛(音)佐藤勝(出)松坂慶子、大和田伸也、三國連太郎、田中邦衛

29
2/12(日)0:00pm    3/24(金)6:00pm
<b>同棲時代 今日子と次郎</b> (87分・35mm・カラー) ’73(監)山根成之(原)上村一夫(脚)石森史郎(撮)川又昂(美)森田郷平(音)青山八郎(出)由美かおる、仲雅美、大信田礼子、ひし美ゆり子

30
2/12(日)3:00pm    3/25(土)0:00pm
<b>としごろ</b> (89分・35mm・カラー) ’73(監)市村泰一(脚)元持栄美(撮)小杉正雄(美)梅田千代夫(音)小川寛興(出)森昌子、秋谷陽子、和田アキ子、石川さゆり、山口百恵

31
2/17(金)2:00pm    3/25(土)3:00pm
<b>さらば夏の光よ</b> (89分・35mm・カラー) ’76(監)山根成之(原)遠藤周作(脚)ジェームス三木(撮)坂本典隆(美)森田郷平(音)梅垣達志(出)郷ひろみ、秋吉久美子、川口厚、仲谷昇

2/17(金)6:00pm 3/26(日)0:00pm

パーマネントブルー 真夏の恋(88分・35mm・カラー)

'76(監)山根成之(原)素九鬼子(脚)石森史郎、ジェームス三木(撮)  
坂本典隆(美)横山豊(音)来生たかお(出)秋吉久美子、佐藤佑介、岡  
田英次

2/18(土)0:00pm 3/26(日)3:00pm

恋人岬(91分・35mm・カラー)

'77(監)西河克己(原)梶原一騎、牧美也子(脚)石松愛弘(撮)竹村博  
(美)芳野尹孝(音)平尾昌晃(出)松坂慶子、原田美枝子、テレサ野田、  
細川俊之

■(監)=監督・演出 (原)=原作・原案 (脚)=脚本・脚色  
(撮)=撮影 (美)=美術 (音)=音楽 (出)=出演

会 期
平成18年1月17日～平成18年3月26日 (60日間)
会 場
大ホール
上映回数
120回
入場者総数
21,140人(1回平均176人)
雑誌・新聞関連記事

文部科学時報(2005年12月号)「ドイツ・オーストリア映画名作選」(板倉史明)  
週刊金曜日589号(2006年1月13日)「無声映画生演奏付き上映」(溝口彰子)  
産経新聞(2006年2月15日)「田中路子の名画よみがえる、戦前 異国で恋と歌に生きる」  
常陽藝文(2006年1月号)「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
文化庁月報(2006年1月号)「ドイツ・オーストリア映画名作選」(板倉史明)  
ソトコト2006. 2月号「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
ピノライフ(vol.2)「サイレント映画伴奏者が来日。ピアノ生演奏付上映会が楽しめる！ドイツ・オーストリア映画名作選」上映  
しんぶん赤旗(2006年1月19日)「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
常陽藝文(2006年2月号)「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
東京メトロ沿線だより(2006年2月号)「NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選」  
MOE(2006年3月号)「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
キネ旬報(2006年2月下旬号)「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
アート・トップ(2006年2月・3月号) NFC所蔵外国映画選集 「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
NHKラジオ ドイツ語講座(2006年3月号)「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
クラシック・ジャーナル(2006年3月号)「NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選」  
常陽藝文(2006年3月号)「ドイツ・オーストリア映画名作選」  
キネマ旬報(2006年3月上旬号)「日本におけるドイツ年 2005/2006」  
東京メトロ沿線だより(2006年3月号)「NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選」  
SHIBUYA FM(2006年2月7日(火))「SHIBUYA VILLAGE VOICE」岡田主任研究官 生放送出演



## 237 日本におけるドイツ2005/2006 NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選

フィルムセンターが収蔵するドイツ・オーストリア映画の中から、1920年代から1930年代の作品を中心に、短篇・長篇合わせて90本の映画を上映した。1920年代初頭のドイツ表現主義映画や1930年代初頭の音楽映画といった知名度のある作品だけでなく、近年までほとんど顧みられることのなかった1930年代中期から後期の作品にも焦点を当て、戦前・戦中のドイツ・オーストリア映画史を俯瞰する視点を紹介しようと試みた。さらに、ドイツから無声映画伴奏者のギュンター・A・ブーフヴァルト氏を招聘し、一部の無声映画作品の上映に伴奏音楽を付した。

代表的な上映作品としては、『カリガリ博士』(1920)や『朝から夜中まで』(1921)といったドイツ表現主義映画の代表作や、字幕を極力用いない「室内劇映画」の代表作『除夜の悲劇』(1923)などの無声映画期の重要作、そして『会議は踊る』や『狂乱のモンテカルロ』(いずれも1931)といった音楽映画のほか、ベルリン・オリンピックの記録映画『民族の祭典』『美の祭典』(いずれも1938)や世界の先駆的な学術映画であるウーファ社の文化映画、そして、実験映画作家オスカー・フィッシンガーの初期作品が挙げられる。また、1930年代のオーストリア映画を牽引した俳優兼映画監督のヴィリ・フォルストと、当時のヨーロッパで活躍した日本人オペラ歌手・田中路子の小特集を組んだ。さらに、映画作品についての理解を深めるため、専門家によるゲスト・トークを開催した。

### A Study of German and Austrian Cinema: From the National Film Center Collection

This program showed 90 German and Austrian films from the NFC collection. Consisting of both shorts and feature length films, the focus was on the 1920s and the 1930s. In addition to the famous films such as German Expressionist films of the early 1920s and the music films of the early 1930s, NFC also focused on the films made between the mid to late 1930s that had rarely been paid attention to in the past so as to showcase the overview of the German and Austrian cinema of the pre- and mid-war period. NFC invited Günter A. Buchwald from Germany to play musical accompaniment at the time of some of the screenings.

The program included representative works of the German Expressionism such as DAS KABINETT DES DR. CALIGARI (1920) and VON MORGEN BIS MITTERNACHTS (1921), SYLVESTER-TRAGÖDIE EINER NACHT (1923), important silent titles such as a representative “chamber drama” film that expresses drama with the least amount of intertitles, music films such as DER KONGRESS TANZT and BOMBEN AUF MONTE CARLO (both in 1931), documentary films on the Berlin Olympics FEST DER VÖLKER-OLYMPIA FILM TEIL I and FEST DER SCHÖNHEIT-OLYMPIA FILM TEIL II (both in 1938), “culture films” by Ufa that are considered to be the forerunners of scientific films in the world, and the early films by experimental filmmaker Oscar Fischinger. Also, the program had two mini-features, one on Villi Forst, actor/director who was a driving force of the 1930s Austrian film industry, and Japanese opera singer Michiko Tanaka who was active in Europe at the time. In addition, lectures by specialists were given.



## ■伴奏つき無声映画

1
1/31(火)7:00pm 2/4(土)1:00pm
<b>巨人ゴーレム</b> (94分・18fps・35mm・染色) DER GOLEM, WIE ER IN DIE WELT KAM '20(ウニオン＝ウーファ)(脚)パウル・ヴェゲナー (監)カール・ベーゼ(原)グスタフ・マイリンク(脚)ヘンリク・ガレーン(撮)カール・フロイント(美)ハンス・ペルツィヒ、クルト・リヒター (出)パウル・ヴェゲナー、アルバート・スタインリュック、リディア・サルモノヴァ

2
2/1(水)3:00pm 2/5(日)4:00pm
<b>朝から夜中まで</b> (68分・18fps・35mm・白黒) VON MORGENS BIS MITTERNACHTS '21(イラグ・フィルム)(監)(脚)カールハインツ・マルティン(原)ゲオルク・カイザー (脚)ヘルバート・ユットケ(撮)カール・ホフマン(美)ロベルト・ネッパッハ(出)エルンスト・ドイッチュ、エルナ・モレナ、ローマ・バーン、アドルフ・エドガー・リホ、フリーダ・リヒャルト

3
2/2(木)3:00pm 2/4(土)4:00pm
<b>キリストの一生</b> (102分・20fps・35mm・染色) I.N.R.I.-EIN FILM DER MENSCHLICHKEIT '23(ノイマン・フィルム＝ウーファ)(監)(脚)ロベルト・ヴィーネ(撮)アクセル・グラートクヤーエル、ルードヴィッヒ・リッパート、ライマール・クンツェ (美)エルネ・メッツナー (出)グレゴリ・クマラ、ヘンニー・ボルテン、アスタ・ニールセン、ヴェルナー・クラウス

4
1/31(火)3:00pm 2/3(金)7:00pm
<b>除夜の悲劇</b> (66分・18fps・35mm・染色) SYLVESTER-TRAGÖDIE EINER NACHT '23(レックス・フィルム)(監)ルプ・ピック(脚)カール・マイヤー(撮)カール・ハッセルマン、ガイド・ゼーバー (美)ロベルト・A・ディートリッヒ、クラウス・リヒター (出)オイゲン・クレッパ、エディット・ボスカ、フリーダ・リヒャルト、ルドルフ・ブリュマー

5
2/1(水)7:00pm 2/3(金)3:00pm
<b>プラーグの大学生</b> (77分・20fps・35mm・白黒) DER STUDENT VON PRAG '26(ゾーカル・フィルム)(監)(脚)ヘンリク・ガレーン(脚)ハンス・ハインツ・エヴァース(撮)ギュンター・クランプ、エーリッヒ・ニツチュマン(美)ヘルマン・ヴァルム(出)コンラート・ファイト、ヴェルナー・クラウス、アグネス・エスターハーツィ

6
2/2(木)7:00pm 2/5(日)1:00pm
<b>東洋の秘密</b> (103分・20fps・35mm・染色と彩色)

GEHEIMNISSE DES ORIENTS
'28(ウーファ)(監)(脚)アレクサンダー・ヴォルコフ(脚)ノルベルト・ファルク、ロベルト・リープマン(撮)クルト・クーラン、ニコライ・トボルコフ、フォードル・ブルガソフ(美)アレクサンドル・ロシャコフ、ヴラディーミル・マインガルト(出)ニコライ・コリン、イヴァン・ペトロヴィッチ、マルチェラ・アルバニ、ディタ・パルロ

■ドイツ名作選
7
1/17(火)3:00pm 2/19(日)1:00pm 3/16(木)7:00pm
<b>カリガリ博士</b> (52分・20fps・35mm・無声・白黒) DAS KABINETT DES DR. CALIGARI '20(デクラ)(監)ロベルト・ヴィーネ(脚)カール・マイヤー、ハンス・ヤノヴィッツ(撮)ヴィリー・ハマイスター (美)ヴァルター・レーリッヒ、ヴァルター・ライマン、ヘルマン・ヴァルム(出)ヴェルナー・クラウス、コンラート・ファイト、リル・ダゴファアー

<b>亜細亜の光</b> (69分・24fps・35mm・無声・白黒) DIE LEUCHTE ASIENS '25(ミュンヒェナー・リヒトシュピールクンスト)(監)フランツ・オステン、ヒマンス・ライ(原)エドウィン・アーノルド(脚)ニランヤン・バル(撮)ヴィリー・キールマイヤー、ヨゼフ・ヴィルシグ(美)デヴィカ・ラニ(出)ヒマンス・ライ、セータ・デヴィ、サラダ・ウキル
---

8
1/17(火)7:00pm 3/17(金)3:00pm
<b>マッターホーン</b> (82分・24fps・35mm・無声・白黒) DER KAMPF UMS MATTERHORN (THE CONQUEST OF THE MATTERHORN) '28(ホム・フィルム)(監)マリオ・ボンナルド(監)(脚)ヌンツィオ・マラソンマ(原)アーノルト・ファンク(撮)ヴィリー・ヴィンターシュタイン、ゼップ・アルガイアー (出)ルイス・トレンカー、マルチェラ・アルバニ、クリフォード・マクラグレン、ペーター・フォス

9
1/18(水)3:00pm 2/19(日)4:00pm 3/17(金)7:00pm
<b>パンドラの箱</b> (120分・20fps・35mm・無声・白黒) DER BÜCHSE DER PANDORA (THE BOX OF PANDORA) '29(ネロ・フィルム)(監)ゲオルグ・ヴィルヘルム・パプスト(原)フランク・ヴェデキント(脚)ラディスラウス・ヴァイダ(撮)ギュンター・クランプ(美)アンドレイ・アンドレイエフ、ゴットリーブ・ヘッシュ (出)ルイーズ・ブルックス、フリッツ・コルトナー、フランツ・レデラー、グスタフ・ディースル、アリーツェ・ロベルテ

10
1/18(水)7:00pm 2/21(火)3:00pm
<b>ニーナ・ペトロヴナ</b> (102分・24fps・35mm・無声・白黒) DIE WUNDERBARE LÜGE DER NINA PETROWNA (THE WONDERFUL LIE OF NINA PETROVNA) '29(ウーファ)(監)ハンス・シュヴァルツ(脚)ハンス・セケリー (撮)カール・ホフマン(美)ロベルト・ヘールト、ヴァルター・レーリッヒ(出)ブリギッテ・ヘルム、フランツ・レデラー、ウオーウィック・ウォード

1/19(木)3:00pm 2/25(土)1:00pm

**白魔**(93分・24fps・35mm・無声版・白黒)  
DER WEISSE TEUFEL (THE WHITE DEVIL)

'29(ウーファ)(監)(脚)アレクサンダー・ヴォルコフ(原)レフ・トルストイ(脚)ミヒャエル・リンスキー (撮)クルト・クーラン(美)アレクサンダー・ロシャコフ、W・マインハルト(出)イヴァン・モジューヒン、リル・ダゴファア、ベティ・アマン、アレクサンダー・ムルスキー

1/19(木)7:00pm 2/22(水)3:00pm

**ガソリンボーイ三人組**(80分・35mm・白黒)

DIE DREI VON DER TANKSTELLE

'30(ウーファ)(監)ヴィルヘルム・ティーレ(脚)フランツ・シュルツ、パウル・フランク(撮)フランツ・プラナー (美)オットー・フンテ(音)ヴェルナー・R・ハイマン(出)ヴィリー・フリッツ、オスカー・カールヴァイス、ハインツ・リューマン、リリアン・ハーヴェイ

1/20(金)3:00pm 2/25(土)4:00pm 3/14(火)7:00pm

**嘆きの天使**(107分・35mm・白黒) DER BLAUE ENGEL

'30(ウーファ)(監)ヨゼフ・フォン・シュテルンベルク(ジョセフ・フォン・スタンバーグ)(原)ハインリッヒ・マン(脚)ロベルト・リープマン、カール・ツックマイヤー、カール・フォルメラ (撮)ギュンター・リッター、ハンス・シュネーベルガー (美)オットー・フンテ、エミール・ハスラー (音)フリードリッヒ・ホレンダー (出)エミール・ヤニングス、マルレーネ・ディートリッヒ、ハンス・アルバース

1/20(金)7:00pm 2/26(日)1:00pm 3/22(水)3:00pm

**会議は踊る**(91分・35mm・白黒) DER KONGRESS TANZT

'31(ウーファ)(監)エリック・シャレル(脚)ノルベルト・ファルク、ロベルト・リープマン(撮)カール・ホフマン(美)ロベルト・ヘールト、ヴァルター・レーリッヒ(音)ヴェルナー・R・ハイマン(出)リリアン・ハーヴェイ、ヴィリー・フリッツ、コンラート・ファイト、リル・ダゴファア

1/21(土)1:00pm 2/21(火)7:00pm 3/23(木)3:00pm

**三文オペラ**(111分・35mm・白黒) DREIGROSCHENOPER

'31(ワーナー・ブラザーズ=ファースト・ナショナル=トビス)(監)ゲオルグ・ヴィルヘルム・パプスト(原)ベルトルト・ブレヒト(脚)レオ・ラニア、ラディスラウス・ヴァイダ、ベラ・バラージュ (撮)フリッツ・アルノ・ヴァグナー(美)アンドレイ・アンドレイエフ(音)クルト・ヴァイル(出)ルドルフ・フォルスター、カローラ・ネーヘル、ラインホルト・シュンツェル、フリッツ・ラスプ、ヴァレスカ・ゲルト

1/21(土)4:00pm 2/22(水)7:00pm

**少年探偵団**(73分・35mm・白黒) EMIL UND DIE DETEKTIVE

'31(ウーファ)(監)ゲルハルト・ランプレヒト(原)エーリッヒ・ケストナー (脚)ビリー・ヴィルダー (ワイルダー)(撮)ヴェルナー・ブランドス(美)ヴェルナー・シュリヒティング(音)アラン・グレー (出)ロルフ・ヴェンクハウス、ケーテ・ハーク、フリッツ・ラスプ

1/22(日)1:00pm 2/23(木)3:00pm

**狂乱のモンテカルロ**(89分・35mm・白黒)

BOMBEN AUF MONTE CARLO

'31(ウーファ)(監)ハンス・シュヴァルツ(原)イエネ・ヘルタイ、フリッツ・レック・マレツェヴェン(脚)ハンス・ミュラー、フランツ・シュルツ(撮)ギュンター・リッター、コンスタンティン・チャット(美)エーリッヒ・ケッテルフート(音)ヴェルナー・R・ハイマン(出)ハンス・アルバース、アンナ・ステン、ハインツ・リューマン、ペーター・ローレ

1/22(日)4:00pm 2/24(金)3:00pm 3/15(水)7:00pm

**制服の処女**(89分・35mm・白黒) MÄDCHEN IN UNIFORM

'31(ドイツ・フィルム)(監)レオンティーネ・ザガン(脚)クリスタ・ヴィンスロー、F・D・アンダム(撮)ライマール・クンツェ、フランツ・ヴァイマイル(美)フリッツ・マウリシャット、フリードリッヒ・ヴァインクラー (音)ハンソン・ミルデ・マイスナー (出)ドロテア・ヴィーク、ヘルタ・ティーレ、エレン・シュヴァンネッケ、エミリア・ウンダ

1/24(火)3:00pm 2/23(木)7:00pm

**激情の嵐**(82分・35mm・白黒) STÜRME DER LEIDENSCHAFT

'31(ウーファ)(監)ロベルト・ジオドマーク(脚)ロベルト・リープマン、ハンス・ミュラー (撮)ギュンター・リッター(美)エーリッヒ・ケッテルフート(音)フリードリッヒ・ホレンダー (出)エミール・ヤニングス、アンナ・ステン、トルーデ・ヘスターベルク、フランツ・ニクリッシュ

1/24(火)7:00pm 3/1(水)3:00pm

**F・P 1号応答なし**(85分・35mm・白黒) F.P1 ANTWORTET NICHT

'32(ウーファ)(監)カール・ハートル(原)(脚)クルト・ジオドマーク(脚)ヴァルター・ライシュ (撮)ギュンター・リッター、コンスタンティン・チャット、オットー・ベッカー (美)エーリッヒ・ケッテルフート(音)アラン・グレー (出)ハンス・アルバース、ジビツレ・シュミッツ、パウル・ハルトマン、ペーター・ローレ、ヘルマン・シュペールマン

1/25(水)3:00pm 2/26(日)4:00pm

**今宵こそは**(82分・35mm・白黒) DAS LIED EINER NACHT

'32(ツィネ・アリアンツ)(監)アナトール・リトヴァク(脚)イルマ・フォン・クーベ、アルブレヒト・ヨゼフ(撮)フリッツ・アルノ・ヴ



アグナー (美)ヴェルナー・シュリヒティング(音)ミーシャ・スボリアンスキー (出)ヤン・キープラ、フリッツ・シュルツ、マグダ・シュナイダー、マルゴ・リオン、オットー・ヴァルブルク

## 22

1/25(水)7:00pm 3/4(土)1:00pm

**私と女王様**(84分・35mm・白黒) ICH UND DIE KAISERIN  
'33(ウーファ)(監)フリードリッヒ・ホレンダー(原)フェリックス・ザルテン(脚)ヴァルター・ライシュ、ロベルト・リープマン(撮)フリーデル・ベーン＝グルント(美)ロベルト・ヘールト、ヴァルター・レーリッヒ(音)フランツ・ヴァクスマン(ワックスマン)(出)リリアン・ハーヴェイ、コンラート・ファイト、マディ・クリスチャンス

## 23

1/26(木)3:00pm 3/4(土)4:00pm 3/24(金)7:00pm

**ウイナ風景**(10分・35mm・白黒)  
SPAZIERGANG MIT ROBERT STOLZ DURCH WIEN  
'38(トビス・ザシャ)(撮)(構)ヴィリ・ゴルトベルガー (音)ロベルト・シュトルツ

**ワルツ合戦**(91分・35mm・白黒) WALZERKRIEG  
'33(ウーファ)(監)ルードヴィッヒ・ベルガー (脚)ハンス・ミュラー、ロベルト・リープマン(撮)カール・ホフマン(美)ロベルト・ヘールト、ヴァルター・レーリッヒ(音)フランツ・グローテ、アロイス・メリヒャール(出)レナーテ・ミュラー、ヴィリー・フリッツェ、パウル・ヘルビガー、アドルフ・ヴォールブリュック、ロージー・バルソニー

## 24

1/26(木)7:00pm 3/5(日)1:00pm 3/21(火・祝)1:00pm

**冬の歡び**(14分・35mm・白黒) WINTER IN DEUTSCHLAND  
'30年代(音)ジュゼッペ・ベツチェ

**スキー学校**(13分・35mm・白黒) A HIGHSCHOOL OF SKIING  
'30年代(ゼレノフォン)

**モンブランの王者**(65分・35mm・白黒)  
DER EWIGE TRAUM (DER KÖNIG DES MONT BLANC)  
'34(ツィネ・アリアンツ)(監)(脚)アーノルト・ファンク(撮)リヒャルト・アングスト、クルト・ノイバート(美)ヴェルナー・シュリヒティング(音)ジュゼッペ・ベツチェ (出)ゼップ・リスト、ブリギッテ・ホルナイ、エルンスト・ナンセン、エドゥアルト・フォン・ヴィンターシュタイン

## 25

1/27(金)3:00pm 2/28(火)7:00pm

**絵画の都**(10分・35mm・白黒) KASSEL  
'30年代(アトランティック・フィルム)(音)ヴォルフガング・ツェラー

**歌へ今宵を**(87分・35mm・白黒) MEIN HERZ RUFT NACH DIR  
'34(ツィネ・アリアンツ)(監)カルミネ・ガッローネ(脚)エルンスト・マリシュカ(撮)フリーデル・ベーン＝グルント(美)ヴェルナー・シュリヒティング(音)ロベルト・シュトルツ(出)ヤン・キープラ、マルタ・エッゲルト、パウル・ケンブ、パウル・ヘルビガー

## 26

2/8(水)7:00pm 3/5(日)4:00pm

**三千米滑降**(16分・35mm・白黒)  
MIR BRETTELN IN DEN DREITAUZENDEN  
'30年代(ドイツ国鉄映画部)(撮)ハンス・H・タイザー (音)フランク・フォックス

**白雪地獄**(90分・35mm・白黒)  
DIE WEISSE HÖLLE VOM PIZ PALÜ  
'35(ゾーカル・フィルム)(監)(脚)アーノルト・ファンク(監)ゲオルク・ヴァイルヘルム・パプスト(脚)ラディスラウス・ヴァイダ(撮)ゼップ・アルガイアー、リヒャルト・アングスト、ハンス・シュネーベルガー (美)エルネ・メッツナー (音)ジュゼッペ・ベツチェ (出)グスタフ・ディースル、レニ・リーフェンシュタール、エルンスト・ペーターゼン

## 27

1/28(土)1:00pm 2/28(火)3:00pm

**ネルドリンゲンの思ひ出**(10分・35mm・白黒)  
NÖRDLINGEN ANNO 1634  
'30年代(ドイツ国鉄映画部)(音)マルク・ロラン

**ジプシ男爵**(90分・35mm・白黒) ZIGEUNERBARON  
'35(ウーファ)(監)カール・ハートル(原)マウルス・ヨーカイ、ヨハン・シュトラウス、イグナツ・シュニ(脚)ヴィネタ・クリンガーほか(撮)ギュンター・リッター(美)ヴェルナー・シュリヒティング(音)アロイス・メリヒャール(出)アドルフ・ヴォールブリュック(アントン・ウォルブルック)、ハンジ・クノテック、フリッツ・カンパース

## 28

1/28(土)4:00pm 3/1(水)7:00pm 3/24(金)3:00pm

**第九交響楽**(98分・35mm・白黒) SCHLUSSAKKORD  
'36(ウーファ)(監)(脚)デトレフ・ジールク(ダグラス・サーク)(脚)クルト・ホイザー (撮)ロベルト・バーベルスケ(美)エーリッヒ・ケッテルフト(音)クルト・シュレーダー(出)ヴィリー・ビルゲル、リル・ダゴファー、マリア・フォン・タスナディ、マリア・コッペンヘーファー

## 29

2/12(日)1:00pm 3/2(木)3:00pm 3/21(火・祝)4:00pm

**思ひ出の曲**(82分・35mm・白黒) DAS HOFKONZERT  
'36(ウーファ)(監)(脚)デトレフ・ジールク(ダグラス・サーク)(原)パウル・フェアヘーヴェンほか(脚)フランク・ヴァルナー・バステ(撮)フランツ・ヴァイマイル(美)フリッツ・マウリシャット(音)エドムント・ニックほか(出)マルタ・エッゲルト、ヨハンネス・ヘースタース

## 30

1/29(日)4:00pm 3/3(金)3:00pm

**古城と郷土**(13分・35mm・白黒)  
ROMANTISCHES DEUTSCHES BURGENLAND  
'30年代(デーリング)(撮)A・ルツ

**早春**(96分・35mm・白黒) DAS MÄDCHEN IRENE

'36(ウーファ)(監)(脚)ラインホルト・シュンツェル(原)(脚)エーファ・ライトマン(撮)ロベルト・バーベルスケ(美)ルードヴィッヒ・ライバー、ヴァルター・ライマン(音)アロイス・メリヒャール(出)リル・ダゴファア、カール・シェンベック、ザビーネ・ペーターズ

31

2/7(火)3:00pm 3/2(木)7:00pm

**新しき土[ドイツ版]**(127分・35mm・白黒・ドイツ語部分日本語字幕なし) DIE NEUE ERDE (DIE TOCHTER DES SAMURAI)  
'37(ファンク映画製作所＝東和商事＝J.O.スタジオ)(監)(脚)アーノルト・ファンク、伊丹万作(撮)リヒャルト・アングスト(美)吉田謙吉(音)山田耕筰(出)早川雪洲、原節子、小杉勇、ルート・エヴェラー、英百合子、中村吉治、高木永二、常盤操子、市川春代

32

2/7(火)7:00pm 3/8(水)3:00pm

**誓ひの休暇**(87分・35mm・白黒) URLAUB AUF EHRENSWORT  
'37(ウーファ)(監)カール・リッター (原)キリアン・コル、ヴァルター・ブレーム(原)(脚)チャールズ・クライン(脚)フェリックス・リュッケンドルフ(撮)ギュンター・アンダース(美)ヴァルター・レーリッヒ(音)エルネスト・エーリッヒ・プーダー (出)ロルフ・メービウス、インゲボルク・テーク、フリッツ・カンパース、ベルタ・ドレウス

33

2/8(水)3:00pm 3/11(土)1:00pm

**お伽の郷土**(12分・35mm・白黒) HEIMAT DES MÄRCHENS  
'30年代(監)ルドルフ・シャート(撮)エーリッヒ・メンツェル

**こわれ瓶<sup>がめ</sup>**(84分・35mm・白黒)  
DER ZERBROCHENE KRUG

'37(トビス・マグナ)(監)グスタフ・ウチツキ(原)ハインリッヒ・フォン・クライスト(脚)テア・フォン・ハルボウ(撮)フリッツ・アルノ・ヴァグナー (美)ロベルト・ヘールト(音)ヴォルフガング・ツェラー (出)エミール・ヤニングス、フリードリッヒ・カイスラー、マックス・ギュルシュトルフ、パウル・ダールケ、リナ・カルステンズ

34

1/27(金)7:00pm 3/7(火)3:00pm

**最後の一兵まで**(88分・35mm・白黒) UNTERNEHMEN MICHAEL  
'37(ウーファ)(監)(脚)カール・リッター (原)ハンス・フリッツ・フォン・ツヴェール(脚)マティアス・ヴィーマンほか(撮)ギュンター・アンダース(美)ヴァルター・レーリッヒ(音)ヘルバート・ヴィント(出)ハインリッヒ・ゲオルゲ、マティアス・ヴィーマン、パウル・オットー

35

2/9(木)3:00pm 2/24(金)7:00pm

**旅する人々**(106分・35mm・白黒) FAHRENDES VOLK  
'38(トビス)(監)(脚)ジャック・フェデー (脚)ジャック・ヴィオ(撮)フリッツ・コッホ、ヨゼフ・イリッヒ(音)ヴォルフガング・ツェラー (出)ハンス・アルバース、フランソワーズ・ロゼー、カミッラ・ホルン、ヘルバート・ヒューブナー、ハンネス・シュテルツァー

36

2/10(金)3:00pm 3/12(日)1:00pm

**美しき独逸**(17分・35mm・白黒)  
DEUTSCHLAND KREUZ UND QUER

'35(ウーファ)(監)ウルリッヒ・カイザー (脚)ヴィル・フィッシャー (撮)エーリッヒ・メンツェル(音)ハンス・オットー・ボルグマン

**民族の祭典 オリンピア 第1部**(85分・35mm・白黒)  
FEST DER VÖLKER-OLYMPIA FILM TEIL I

'38(オリンピア・フィルム)(総指揮)レニ・リーフェンシュタール(撮)ハンス・エルトル、ヴァルター・フレンツ、グッツィ・ランチュナーほか(音)ヘルベルト・ヴィント、ヴァルター・グロノスタイ

37

2/10(金)7:00pm 3/12(日)4:00pm

**美の祭典 オリンピア 第2部**(81分・35mm・白黒)  
FEST DER SCHÖNHEIT-OLYMPIA FILM TEIL II  
'38(オリンピア・フィルム)[以下「民族の祭典」に同じ]

## ■短篇映画小特集

38

2/9(木)7:00pm 3/19(日)1:00pm

**ウーファ社文化映画[1](計113分)**

**紙の出来るまで**(8分・35mm・白黒)  
FROM TREE TO PAPER (VOM BAUM ZUM PAPIER)  
'28(監修)ニコラス・カウフマン

**蜂の王國**(8分・35mm・白黒) THE HORNET STATE (IM HORNISSENSTAAT)  
'28(監修)ウルリッヒ・シュルツ(監)ヴォルフラム・ユングハンス(撮)パウル・クリーン、ベルンハルト・ユッペ

**炎と氷の島**(8分・35mm・白黒) THE ISLE OF FIRE AND ICE (DAS INSELLAND AUS FEUER UND EIS)  
'29(監)ウルリッヒ・シュルツ(撮)ヴォルフガング・エッティング

**植物の神秘**(9分・35mm・白黒) GEHEIMNISSE IM PFLANZENLEBEN  
'31(脚)ヴィルヘルム・プラーガー (撮)ヴォルフラム・ユングハンス(音)コンラート・ベルンハルト

**生存闘争**(12分・35mm・白黒)  
NATUR ALS SCHÜTZERIN IM KAMPF UMS DASEIN  
'32(監)ウルリッヒ・シュルツ、ヴォルフラム・ユングハンス(脚)ニコラス・カウフマン(撮)パウル・クリーン(音)ハーバート・ヴィント

**緑の放浪者**(14分・35mm・白黒) GRÜNE VAGABUNDEN  
'33(監)ヴォルフラム・ユングハンス(脚)ウルリッヒ・シュルツ(撮)パウル・クリーン(音)ハーバート・ヴィント

**鋼鉄交響楽**(12分・35mm・白黒) METALL DES HIMMELS  
'35(監)ヴァルター・ルットマン(原)ハンス・グロース(脚)パウル・エンゲルマン(撮)ゲルハルト・ミュラー (音)ヴァルター・グロノスタイ

**航空郵便**(15分・35mm・白黒) BRIEFE FLIEGEN ÜBER DEN OZEAN  
'35(監)フリッツ・カラブ(撮)ゲルハルト・ミュラー (音)ヴァル

ター・ヴィニツヒ

**みんな泳げ!**(12分・35mm・白黒) HINEIN!

'36(監)ゲスタ・ノルトハウス(撮)クルト・シュタンケ(音)ハンス・エーベルト

**夜の猛禽**(15分・35mm・白黒)

VOM UHU UND ANDEREN GESICHTERN DER NACHT

'36(監)ウルリッヒ・シュルツ、ヴォルフラム・ユングハンス(撮)ヴァルター・ズーフナー (音)ハンス・エーベルト

39

2/11(土・祝)1:00pm 3/19(日)4:00pm

**ウーファ社文化映画[2](計105分)**

**生命の神秘**(14分・35mm・白黒) MYSTERIUM DES LEBENS

'37(監)ウルリッヒ・シュルツ、ヘルタ・ユーリッヒ(音)エルンスト・エーリッヒ・ブーダー

**レントゲン線**(18分・35mm・白黒) RÖNTGEN-STRAHLEN

'37(監)(脚)マルティン・リクリ(構)ニコラス・カウフマン

**植物の感覚生活**(14分・35mm・白黒)

DAS SINNESLEBEN DER PFLANZEN

'37(監)ウルリッヒ・シュルツ、ヴォルフラム・ユングハンス(撮)ヴァルター・ズーフナー (音)アルバート・ルイグ

**低温**(12分・35mm・白黒) KALT..., KÄLTER..., AM KÄLTESTEN!

'37(監)(脚)マルティン・リクリ(撮)クルト・シュタンケ(音)フリッツ・シュタインマン

**とんぼ**(12分・35mm・白黒) LIBELLEN

'38(監)ヴォルフラム・ユングハンス(撮)ヴァルター・ズーフナー、カール・ヒルビバー (音)クレメンス・シュマルシュティッヒ

**北海の渡り鳥**(16分・35mm・白黒) STAMMGÄSTE AN DER NORDSEE

'38(監)ウルリッヒ・シュルツ(撮)ヴァルター・ズーフナー、オイゲン・シューマッヒャー (音)ルドルフ・ペラック

**蜜蜂の集団生活**(19分・35mm・白黒) DER BIENENSTAAT

'38(構)ウルリッヒ・シュルツ(撮)ヴォルフラム・ユングハンス、カール・ヒルビバー、ヴァルター・ズーフナー (音)ハンス・エーベルト

40

2/11(土・祝)1:00pm 3/3(金)7:00pm

**オスカー・フィッシングの抽象映画とウーファ社音楽短篇(計66分)**

**アメリカン・フォックストロット**(4分・35mm・白黒)

STUDIE 5 (AMERICAN FOXTROT)

'30(監)オスカー・フィッシング

**ハンガリアン・ダンス5番**(3分・35mm・白黒)

STUDIE 7 (UNGARISCHER TANZ No.5)

'31(監)オスカー・フィッシング (音)ヨハネス・ブラームス

**魔法使の弟子**(5分・35mm・白黒) STUDIE 8 (L'APPRENTI SORCIER)

'31(監)オスカー・フィッシング (音)ポール・エイブラハム・デュカス

**ハンガリアン・ダンス6番**(3分・35mm・白黒)

STUDIE 9 (UNGARISCHER TANZ No.6)

'31(監)オスカー・フィッシング (音)ヨハネス・ブラームス

**アイーダのバレエ音楽**(5分・35mm・白黒)

STUDIE 10 (BALLET MUSIK AUS AIDA)

'32(監)オスカー・フィッシング (動画)ハンス・フィッシング (音)ジュゼッペ・ヴェルディ

**モーツァルトのメヌエット**(5分・35mm・白黒)

STUDIE 11 (MENUETT VON MOZART)

'32(監)オスカー・フィッシング (音)W・A・モーツァルト

**ルビンシュタインの光の踊り**(4分・35mm・白黒)

STUDIE 12 (LICHTERTANZ)

'32(監)オスカー・フィッシング (動画)ハンス・フィッシング (音)アントン・ルビンシュタイン

**ドン・コザックの歌**(11分・35mm・白黒) DON-KOSAKEN CHOR

'36(ウーファ)(監)ヨハネス・ゲーター (出)ドン・コザック合唱団

**野營の歌**(9分・35mm・白黒) AM LAGERFEUER

'36(ウーファ)(監)ヨハネス・ゲーター (撮)コンスタンティン・チェット(出)ドン・コザック合唱団

**アヴェ・マリア**(8分・35mm・白黒) AUS DER SCHATZKAMMERMUSIK

'36(ウーファ)(監)ヨハネス・ゲーター (出)ドン・コザック合唱団

**故郷の歌**(9分・35mm・白黒) DIE HEIMAT IM LIED

'36(ウーファ)(監)ヨハネス・ゲーター (出)ドン・コザック合唱団

## ■オーストリア名作選

41

1/29(日)1:00pm 3/7(火)7:00pm

**女ひとり**(84分・35mm・白黒) EPISODE

'35(トビス・ザシャ)(監)(脚)ヴァルター・ライシュ (撮)ハリー・ストラドリング(音)ヴィリー・シュミット=ゲントナー (出)パウラ・ヴェッセリー、カール・ルードヴィッヒ・ディール、オットー・トレスラー

42

2/12(日)4:00pm 3/8(水)7:00pm

**郷愁**(88分・35mm・白黒) HOHE SCHULE

'35(ABCフィルム=トビス・ザシャ)(監)エーリッヒ・エンゲル(脚)ハインリッヒ・オーバーレンダー (撮)ブルーノ・モンディ (美)ユリウス・フォン・ボルソディ (音)ヴィリー・シュミット=ゲントナー(出)ルドルフ・フォルスター、アンゲラ・ザローカー、ハンス・ホンマ

43

2/14(火)3:00pm 3/9(木)7:00pm

**白夜の果てに**(93分・35mm・白黒) DER POSTMEISTER

'40(ウィーン・フィルム)(監)グスタフ・ウチツキ(原)A・S・プーシキン(脚)ゲルハルト・メンツェル(撮)ハンス・シュネーベル

ガー (美)クルト・ヘールト、ヴェルナー・シュリヒティング(音)  
ヴィリー・シュミット・ゲントナー (出)ハインリッヒ・ゲオルゲ、  
ヒルデ・クラール、ジークフリート・プロイエル、ハンス・ホルト

■ヴィリ・フォルスト小特集

44

2/14(火)7:00pm 3/11(土)4:00pm

モナ・リザの失踪(87分・35mm・白黒)

DER RAUB DER MONA LISA

'31(ズーペル・フィルム)(監)ゲーツァ・フォン・ボルファリ(脚)  
ヴァルター・ライシュ(撮)ヴィリ・ゴルトベルガー(美)アンドレイ・  
アンドレイエフ、ロベルト・ディートリッヒ(音)ロベルト・シュト  
ルツ(出)ヴィリ・フォルスト、トルーデ・フォン・モロ、グスタフ・  
グリュンドゲンス、マックス・ギュルシュトルフ、アントン・ポイ  
ントナー

45

2/15(水)3:00pm 3/10(金)7:00pm 3/18(土)1:00pm

シューベルトの故郷(13分・35mm・白黒)

FRANZ SCHUBERT UND SEINE HEIMAT

'30年代(ドイツ国鉄映画部)(撮)アドルフ・エーン

未完成交響楽(88分・35mm・白黒) LEISE FLEHEN MEINE LIEDER

'33(ツイネ・アリアンツ)(監)(脚)ヴィリ・フォルスト(原)ヴァル  
ター・ライシュ (撮)フランツ・プラナー (美)ユリウス・フォン・  
ボルソディ (音)フランツ・シューベルト(出)ハンス・ヤーライ、  
マルタ・エッゲルト、ルイゼ・ウルリッヒ、オットー・トレスラー

46

2/15(水)7:00pm 3/9(木)3:00pm 3/25(土)1:00pm

たそがれの<sup>フィッシュ</sup>維納(99分・35mm・白黒) MASKERADE

'34(トビス・ザシャ)(監)(脚)ヴィリ・フォルスト(撮)フランツ・  
プラナー (美)カール・シュテパネク(音)ヴィリー・シュミット=  
ゲントナー (出)パウラ・ヴェッセリー、アドルフ・ヴォールブリ  
ュック(アントン・ウォルブルック)、オルガ・チェーホヴァ、ペー  
ター・ペーターゼン

47

2/16(木)3:00pm 3/25(土)4:00pm

囁きの木蔭(86分・35mm・白黒) SO ENDETE EINE LIEBE

'34(ツイネ・アリアンツ)(監)(脚)カール・ハートル(撮)フランツ・  
プラナー (美)ヴェルナー・シュリヒティング(音)フランツ・グロ  
ーテ(出)ヴィリ・フォルスト、パウラ・ヴェッセリー、グスタフ・  
グリュンドゲンス、フランツ・ヘルテリッヒ

48

2/16(木)7:00pm 3/15(水)3:00pm 3/26(日)1:00pm

マヅルカ(94分・35mm・白黒) MAZURKA

'35(ツイネ・アリアンツ)(監)ヴィリ・フォルスト(脚)ハンス・ラ  
モー (撮)コンスタンティン・チェット(美)ヘルマン・ヴァルム、  
カール・ハッカー (音)ペーター・クロイダー (出)ボーラ・ネグリ、  
アルブレヒト・シェーンハルス、インゲボルク・テーク

49

2/17(金)3:00pm 3/18(土)4:00pm

ひめぐと(100分・35mm・白黒) ALLOTRIA

'36(ツイネ・アリアンツ)(監)(脚)ヴィリ・フォルスト(脚)ヨッヘ  
ン・フート(撮)テッド・パーレ、ヴェルナー・ボーネ(美)ヴェルナー・  
シュリヒティング(音)ペーター・クロイダー (出)アドルフ・ヴォ  
ールブリュック(アントン・ウォルブルック)、レナーテ・ミュラー、  
イエニー・ユーゴー、ハインツ・リューマン、ヒルデ・ヒルデブラ  
ント

50

2/17(金)7:00pm 3/14(火)3:00pm 3/26(日)4:00pm

ブルグ劇場(120分・35mm・白黒) BURGTHEATER

'36(ヴィリ・フォルスト・プロ)(監)(脚)ヴィリ・フォルスト(脚)  
ヨッヘン・フート(撮)テオドル・パーレ(美)ヴェルナー・シュリ  
ヒティング(音)ペーター・クロイダー (出)ヴェルナー・クラウス、  
ヴィリー・アイヒベルガー、ホルテンゼ・ラキ、オルガ・チェーホ  
ヴァ

■田中路子小特集

51

2/18(土)1:00pm 3/10(金)3:00pm 3/23(木)7:00pm

田中路子さん帰国風景(2分・16mm・白黒)

'62

音楽夜話 田中路子さんを迎えて(20分・16mm・白黒)

'62(NHK)

恋は終りぬ(87分・35mm・白黒) DIE LETZTE LIEBE

'35(トビス・ザシャ)(監)フリッツ・シュルツ(脚)ハインツ・ゴル  
トベルク、ガライ・アルヴァイ(撮)ヴィリ・ゴルトベルガー (音)  
リヒャルト・タウバー、フリッツ・ロッター (出)田中路子、アル  
バート・バッサーマン、ハンス・ヤーライ

52

2/18(土)4:00pm 3/16(木)3:00pm 3/22(水)7:00pm

星のセレナード 田中路子独唱会(25分・16mm・白黒)

'63(NHK)

ヨシワラ(80分・35mm・白黒) YOSHIWARA

'36(フィルム・エクセルシオール=ミロ・フィルム)(監)(脚)マッ  
クス・オフュルス(原)モーリス・デコブラ(脚)アーノルト・リップ、  
ウォルフガング・ヴィルヘルム、J・ダボワニー (撮)オイゲン・  
シュフタン(美)アンドレ・バルザック、レオン・バルザック(音)パ  
ウル・デッサウ(出)田中路子、ビエール・リシャール=ヴィルム、  
早川雪洲、ロラン・トゥータン、リュシエンヌ・ルマルシャン

■(監)=監督 (原)=原作・原案 (脚)=脚本・脚色 (撮)=撮  
影 (美)=美術 (音)=音楽 (出)=出演

1-3 展示 Exhibitions	
1-3-1 展示企画一覧(新ビル開館より平成16年度まで) Exhibitions from the Opening of NFC's New Building in 1995 until 2004	
回数	企画展示名
平成7年度[1995]	1 映画生誕百周年記念 ポスターでみる日本映画史 — みそのコレクションより — Japanese Film History in Posters — From the Collection of Kyohei Misono —
平成8年度[1996]	2 写真で見る「ジャン・ルノワール、映画のすべて。」 — UCLAジャン・ルノワール・コレクションより — Le Grand Théâtre de Jean Renoir A Photo Exhibition from UCLA Arts Library Special Collections Jean Renoir Papers
平成9年度[1997]	3 ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」 Soviet Film Posters in the Late Silent Era
平成10年度[1998]	4 ポスターでみる日本映画史PARTII — みそのコレクションより — Japanese Film History in Posters, Part II — From the Collection of Kyohei Misono —
平成11年度[1999]	5 フリッツ・ラング：映像とそのイメージの原型 Fritz Lang: Filmbilder Vorbilder
平成12年度[2000]	6 ポスターで見る「無声時代後期のソビエト映画」 PART II Soviet Film Posters in the Late Silent Era, Part 2
平成13年度[2001]	7 「イタリア映画大回顧」ポスター展 Cartelloni del Cinema Italiano in Giappone
	8 資料でみる日本映画史 — みそのコレクションより — Japanese Film History in Documents — From the Collection of Kyohei Misono —
平成14年度[2002]	9 展覧会 映画遺産 — 東京国立近代美術館フィルムセンター・コレクションより — The Japanese Film Heritage — From the Non-Film Collection of the National Film Center —
平成15年度[2003]	10 映画資料でみる蒲田時代の小津安二郎と清水宏 Days of Youth: Ozu and Shimizu at Shochiku Kamata Studio
平成16年度[2004]	11 造形作品でみる 岡本忠成アニメーションの世界 Artworks from the Animation Films of Tadanari Okamoto
	12 映画女優 高峰秀子展 Exhibition: Hideko Takamine, Film Actress

## 会 期

平成17年4月5日～平成17年10月9日  
(155日間)  
(5月23日～30日、8月19日は休室)

## 会 場

展示室

## 協 力

京都府京都文化博物館、  
立命館大学アート・リサーチセンター

## 入場者

5,181人(1日平均33人)

## 雑誌・新聞関連記事

下野新聞(2005年5月9日)「貴重な資料で回顧」  
週刊金曜日(2005年5月13日)「尾上松之助と時代劇スターの系譜」  
千葉日報(2005年5月14日)「貴重な資料で回顧」  
新潟日報(2005年5月16日)「銀幕の名優 資料で回顧」  
茨城新聞(2005年5月19日)「時代劇スターを回顧」  
上毛新聞(2005年5月31日)「剣劇映画の大スターたち」  
東京新聞(2005年7月1日)「生誕130年再び脚光」(宮崎美紀子)  
日本経済新聞(2005年9月5日)「公演上映 尾上松之助 生誕130周年記念」  
月刊展覧会ガイド(2005年9月号)「尾上松之助と時代劇スターの系譜」  
『映像学』75 (日本映像学会、平成17年11月)「最古の映画スターをめぐるイベント」(入江良郎)

## 1-3-2 平成17年度展示記録 Records of Exhibitions, 2005

### 13 尾上松之助と時代劇スターの系譜

平成17年は我が国最古の映画スター、尾上松之助(1875-1926)の生誕130周年に当たる。本展は、生涯の出演作品が1,000本を超えたとも言われる尾上松之助の業績を、現存する資料の展示を通して顕彰するものである。

展示品はフィルムセンターが所蔵する映画ポスターやチラシ、双六など(「みそのコレクション」)に、京都文化博物館が所蔵する松之助の遺品、高津商会に現存する小道具の刀などを加えた。さらに、関連の映像や珍しい本人の肉声、等身大のパネルなどを通して伝説と謎に包まれた松之助の実像にも目を向けた。同時に、大河内傳次郎や阪東妻三郎ら、ポスト松之助の時代を築いた昭和の剣戟スターにも焦点を合わせ、時代劇映画の系譜を俯瞰した。

#### Onoe Matsunosuke and the Culture of Period Films

The year 2005 marked the 130<sup>th</sup> anniversary of the birth of Onoe Matsunosuke (1875-1926), the first movie star in Japan. The exhibition paid homage to the achievement of Onoe who is said to have starred in a total of over 1,000 films.

The exhibition showed, first, items from the NFC collection including posters and flyers and *sugoroku* (from the "Misono collection"), as well as those borrowed from outside institutions such as the objects left by Matsunosuke that are now owned by the Museum of Kyoto and mock swords used as props that are held at the Kouzu shokai. Through the moving images related to Onoe, very rare recording of Onoe's voice, and the life-size panel made of the photograph of Onoe, the exhibition also paid attention to Onoe as an actual person, beyond the legend and mystery that surround his public persona. In addition, the exhibition focused on the period film genre stars such as Okochi Denjiro and Bando Tsumasaburo, and traced the pedigree of period films.





会 期
平成17年10月28日～平成17年12月25日 (45日間) (11月28日～12月5日は休室)
会 場
展示室
入場者数
2,199人(1日平均49人)
雑誌・新聞関連記事
産経新聞(2005年11月1日)「“大国”ポーランドの底力」(堀晃和) TOKYO HEADLINE(Vol.233)(2005年12月5日)「ポーランドのポスター展」 NYOLON JAPAN(2005年12月)「あの『ゴジラ』のおしゃれに」 芸術新潮(2006年1月号)「日本映画を脱構築」 トーキングヘッズ(No.25)「ポーランドの映画のポスター展」(S)

## 14 ポーランドの映画ポスター

戦後ポーランドのポスターは、グラフィック・デザインの世界で国際的にも高い評価を確立しているが、その中にひととき大きな位置を占めているのが映画ポスターである。小ホールの企画上映「ポーランド映画、昨日と今日」に続いて開催された本展は、1972年の「ポーランド映画の回顧」以来数次にわたる特集上映を機にポーランドから譲渡された映画ポスターの中から50点を精選して紹介するものである。

本展では、『約束の土地』(1974)、『罪の物語』(1976)など著名なポーランド映画のポスターと、60年代から70年代にかけて輸出された『ゴジラ』シリーズや『砂の器』(1974)、『新幹線大爆破』(1975)などのなじみ深い作品を意外性あふれるデザインで宣伝したポスターを合わせて展示し、ユニークな映画とデザインの関係を概観した。

### Polish Posters for Films — From the Collection of National Film Center

Polish posters of the post World War 2 era have long gained international acclaim in the field of graphic design. Holding a central position among them are film posters. Following the screening program “Polish Film, Yesterday and Today” at Cinema2, this exhibition showed 50 especially strong posters from the NFC collection which were originally added to the collection as donations from Poland since from the first screening program of Polish cinema at NFC in 1972.

It is notable that polish posters in the NFC collection include both those of famous Polish films such as *Ziemia obiecana* (1974) and *Dzieje grzechu* (1976), and posters for Japanese films such as the Godzilla series, *Sumano utsuwa* (1974), and *Shinkansen daibakuba* (1975) that were exported to Poland during the 1960s and 1970s. The polish posters for these familiar Japanese films employ surprisingly free and thus fascinating design.



会 期
平成18年1月13日～平成18年3月26日 (63日間)
会 場
展示室
協 力
松竹株式会社
入場者
3,042人(1日平均48人)
雑誌・新聞関連記事
全私学新聞(2006年1月23日)「松竹創業110周年 松竹と映画」
産経新聞(2006年1月25日)「松竹創業110周年記念 松竹と映画」
月刊おとなりさん(2006年2月号)「展覧会 松竹と映画開催」
月刊H(2006年2月号)「松竹創業110周年記念 松竹と映画」展
日経WOMAN (2006年3月号)「松竹創業110周年 松竹と映画」
和のしつらいを楽しむ(2006年3月20日発売)「松竹創立110周年記念 松竹と映画」

## 15 松竹創業110周年記念 松竹と映画

明治28(1895)年12月に創業した松竹が「松竹キネマ合名社」の設立によって映画界に進出したのは大正9(1920)年のことである。本展は、我が国の演劇、映画史に大きな足跡を残す松竹の創業110周年を記念して、資料や関連の映像で同社と映画の歩みをたどるものである。

日本映画初のスター女優、栗島すみ子がデビューした『虞美人草』(1921)の幻の断片映像や『マダムと女房』(1931)を生んだ土橋兄弟によるトーキー録音機から、近年の『男はつらいよ』シリーズや『たそがれ清兵衛』(2002)で使われた衣裳小道具まで、松竹や関連機関に現存する資料を集め、常に時代の先端で観客を魅了してきた「松竹映画」独自の世界を展覧した。

### Shochiku Company at 110: Shochiku in the History of Japanese Cinema

It was in 1920 when Shochiku, an entertainment entity with its own theater troupes, branched out to the film industry and the Shochiku Kinema was founded. Commemorating the 110th anniversary of Shochiku which has made a huge contribution to the history of theater and cinema in Japan, this exhibition tried to survey the history of Shochiku and cinema through reference materials and moving image footage.

Exhibited items came from the NFC collection, Shochiku, and other museums and covered the wide range including fragments of the extremely rare footage from *Gubijinso* (1921) in which the first star actress in Japan, Sumiko Kurishima, made a debut; the talkie recording machine invented by the Tsuchihashi brothers that was instrumental in giving birth to the first Japanese talkie film *Madam to nyobo* (1931); and costumes and props used in recent films such as the *Otokowa tsuraiyo* series and *Tasogare seibei* (2002). Thus, the exhibition traced the history of Shochiku that has always been in the forefront of the film industry in Japan throughout the eras of silent, sound, and color cinema.





会 期
平成17年8月20日～平成17年12月25日 (104日間)
会 場
展示室ロビー
協 力
世田谷文学館、日本映画・テレビ照明協会、東宝スタジオ、東宝スタジオサービス、多摩美術大学造形表現学部映像演劇学科、日本デザイナー学院、ライトシップ／大久保賢一、宮武嘉昭、矢内京子、竹内悦子
入場者
4,764人(1日平均46人)
雑誌・新聞関連記事
産経新聞(2005年9月29日)「名作支えた『美術』の存在」(堀晃和) 朝日新聞(2005年10月14日)「成瀬映画『浮雲』セットを復元」(斉藤勝寿)

## 特別展示 『浮雲』再現セット

企画上映「生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男」の開催にあわせ、7階展示室ロビーでは『浮雲』(東宝、1955)再現セットの特別展示を行った。

本セットは、成瀬作品『浮雲』で中古智美術監督の助手を務めた竹中和雄氏が当時のスケッチや図面を参考に、ゆき子(高峰秀子)の部屋を再現したものである。もとは世田谷文学館の「生誕100年 映画監督・成瀬巳喜男」展(2005年1月29日～4月10日)のために組まれたものを、あらためてフィルムセンターの施設に合わせ再生・移築した。会場では、やはり『浮雲』で照明助手を務めた小嶋眞二氏が照明機材の展示を手がけ当時のセット撮影の雰囲気再現したほか、セットの解体搬出作業などの記録映像を放映して映画美術という仕事の一端を紹介した。

## Special Exhibition: Recreated Set of *Ukigumo*

In conjunction with the screening program, “Mikio Naruse Retrospective at his Centenary,” a special exhibition of the recreated set of *Ukigumo* (Toho, 1955) was held in the 7th floor lobby.

The recreation was done by Kazuo Takenaka, who was assistant to Satoshi Chuko, the art director for *Ukigumo*. By referring to the sketches and plans used at the time of the production of the film, Takenaka recreated the room for Yukiko played by Hideko Takamine, first for the exhibition about Mikio Naruse held at Setagaya Literary Museum between Jan. 29 and April 10. The set was then dismantled, transported to NFC and then re-assembled to fit the space of NFC. In addition to the set, the lighting equipments were exhibited by Shinji Kojima who was assistant light technician for *Ukigumo* so the atmosphere of the set shooting was recreated. The video documenting the processes of dismantling and carrying out of the set was shown on the monitor, thus introducing part of the job of art director of filmmaking.



「優秀映画鑑賞推進事業」は、文化庁とフィルムセンターが日本映画製作者連盟、全国興行環境衛生同業組合連合会などの協力のもと、全国各地の公立文化施設などと共同して、優れた日本映画の良質な35mmプリントを提供する巡回上映事業である。この上映を機会に、各地で開催されている映画祭や恒常的な上映会の取り組みがより発展し、スクリーンを通して映画を鑑賞する習慣が定着していくことを目指すものである。

17回目となる平成17年度は、広島、鹿児島県の2県において開催がなかったため、全国45都道府県で実施したが、会場数は昨年度より13会場増の全国181会場(内新規31会場)での実施となり、会場数は過去最高を記録した。なお、2件が中止となった(島根県出雲市：地元映画館との調整不良のため／大分県別府市：指定管理者制度導入により主催団体の変更が生じたため)。また、プログラムをより選びやすく再編成したことにより、各会場からの希望及び実施した数にこれまで以上の格差が生まれ、1プログラムは実施を見送ることにした。期間中の入館者数は総計で86,753人にのぼり、過去最高を記録した。

平成17年度の上映作品は、日本映画史上に残る名作、監督や年代を代表する作品、大きな話題となった娯楽作品など、1プログラム4作品、全22プログラム88本と過去最高の構成とした。プログラム内容については、文化庁による「子どもの映画鑑賞支援事業」の実施に伴い、親子プログラムという枠をはずすと同時に、実施を希望する公立文化施設等がプログラムを選びやすいように、より明確に監督別、年代別、ジャンル別などで作品をまとめる工夫をした。また、アンケートは全会場同一のもので集計することにした。

The Circulation Program “Promotion of the Viewing of Superior Japanese Films” marked the 17<sup>th</sup> year. With the support by Motion Picture Producers Association of Japan, Inc. and Japan Association of Theatre Owners, NFC and the Agency for Cultural Affairs showed select Japanese films at venues around Japan such as municipal cultural institutions. The program aims to help film festivals and screening events in different parts of Japan and ultimately the custom of seeing film on big screen will take a firmer hold in the Japanese life style.

In 2005, 45 prefectures participated in the program. (Hiroshima and Kagoshima were the only prefectures that did not participate.) The number of participating venues was 181, marking the increase of 13 from the previous year and thus the biggest number since the start of the program. (31 out of 181 were newly participants.) Two participants withdrew after application. (Izumo city, Shimane prefecture, due to miscommunication with local cinemas. Beppu city, Oita prefecture, due to the change of the organizing institution.) One program was cancelled due to less application. The total viewers amounted to 86,753, marking the biggest figure since the start of the program.

This year, 22 programs with 4 titles each (the total of 88 titles) were created, covering masterpieces of Japanese film history, films that represent important directors or eras, and entertainment films that generated much conversation at the time of the release. According to the “Project for Furthering Activities that Enable Children to Experience Film” implemented by the Agency for Cultural Affairs, programs designed for family viewing were removed and the clearer programming criteria were introduced such as by the director, the decade, and the genre, so it would be easier for the participating institutions such as municipal cultural institutions to select the programs. The same questionnaire was put in use at all the venues starting this year.

プログラム別作品一覧

Aプログラム

- 西鶴一代女 (1952年・溝口健二・新東宝＝児井プロ・137分)  
出演＝田中絹代、三船敏郎、宇野重吉
- 雨月物語 (1953年・溝口健二・大映・97分)  
出演＝京マチ子、田中絹代、森雅之
- 山椒大夫 (1954年・溝口健二・大映・124分)  
出演＝田中絹代、香川京子、花柳喜章
- 近松物語 (1954年・溝口健二・大映・103分)  
出演＝長谷川一夫、香川京子、南田洋子

Bプログラム

- 麦秋 (1951年・小津安二郎・松竹・125分)  
出演＝原節子、笠智衆、杉村春子
- 東京物語 (1953年・小津安二郎・松竹・136分)  
出演＝原節子、笠智衆、東山千栄子
- 彼岸花 (1958年・小津安二郎・松竹・118分)  
出演＝佐分利信、有馬稲子、山本富士子
- 秋刀魚の味 (1962年・小津安二郎・松竹・113分)  
出演＝岩下志麻、笠智衆、岡田茉莉子

Cプログラム

- 酔いどれ天使 (1948年・黒澤明・東宝・98分)  
出演＝志村喬、三船敏郎、木暮実千代
- 羅生門 (1950年・黒澤明・大映・88分)  
出演＝三船敏郎、京マチ子、森雅之
- 生きる (1952年・黒澤明・東宝・143分)  
出演＝志村喬、小田切みき、田中春男
- 天国と地獄 (1963年・黒澤明・東宝＝黒澤プロ・143分)  
出演＝三船敏郎、仲代達矢、山崎努

Dプログラム

- 王将 (1948年・伊藤大輔・大映・93分)  
出演＝阪東妻三郎、水戸光子、滝沢修
- 弁天小僧 (1958年・伊藤大輔・大映・86分)  
出演＝市川雷蔵、青山京子、黒川弥太郎
- 血槍富士 (1955年・内田吐夢・東映・94分)  
出演＝片岡千恵蔵、月形龍之介、喜多川千鶴
- 飢餓海峡 (1964年・内田吐夢・東映・183分)  
出演＝三国連太郎、左幸子、伴淳三郎

Eプログラム

- 青い山脈 (1949年・今井正・藤本プロ＝東宝・172分)  
出演＝原節子、杉葉子、池部良
- また逢う日まで (1950年・今井正・東宝・109分)  
出演＝岡田英次、久我美子、滝沢修
- 野火 (1959年・市川崑・大映・104分)  
出演＝船越英二、滝沢修、ミッキー・カーチス
- ぼんち (1960年・市川崑・大映・104分)  
出演＝市川雷蔵、京マチ子、若尾文子

Fプログラム

- わが青春に悔いなし (1946年・黒澤明・東宝・110分)  
出演＝原節子、藤田進、大河内伝次郎
- 安城家の舞踏会 (1947年・吉村公三郎・松竹・90分)  
出演＝原節子、滝沢修、森雅之
- 蜂の巣の子供たち (1948年・清水宏・蜂の巣映画部・84分)  
出演＝島村俊作、夏木雅子、後庄正一
- 帰郷 (1950年・大庭秀雄・松竹・104分)  
出演＝佐分利信、木暮実千代、津島恵子

Gプログラム

- 煙突の見える場所 (1953年・五所平之助・新東宝＝スタジオ8プロ・108分)  
出演＝田中絹代、上原謙、高峰秀子
- お早よう (1959年・小津安二郎・松竹・94分)  
出演＝佐田啓二、久我美子、笠智衆
- 裸の島 (1960年・新藤兼人・近代映画協会・96分)  
出演＝乙羽信子、殿山泰司、田中伸二
- 東京オリンピック (1965年・市川崑・東京オリンピック映画協会＝東宝・169分)  
記録映画

Hプログラム

- くちづけ (1957年・増村保造・大映・73分)  
出演＝川口浩、野添ひとみ、三益愛子
- 青春残酷物語 (1960年・大島渚・松竹・96分)  
出演＝桑野みゆき、川津祐介、久我美子
- にっぽん昆虫記 (1963年・今村昌平・日活・123分)  
出演＝左幸子、吉村実子、露口茂
- 心中天網島 (1969年・篠田正浩・表現社＝ATG・103分)  
出演＝中村吉右衛門、岩下志麻、滝田裕介

## Iプログラム

**遠雷** (1981年・根岸吉太郎・にっかつ撮影所他・135分)  
出演＝永島敏行、ジョニー大倉、石田えり

**転校生** (1982年・大林宣彦・日本テレビ放送網＝ATG・113分)  
出演＝尾美としのり、小林聡美、志穂美悦子

**夢千代日記** (1985年・浦山桐郎・東映・129分)  
出演＝吉永小百合、北大路欣也、名取裕子

**花いちもんめ** (1985年・伊藤俊也・東映・125分)  
出演＝千秋実、十朱幸代、西郷輝彦

## Jプログラム

**櫻の園** (1990年・中原俊・ニューセンチュリー  
プロデューサーズ＝サントリー・100分)  
出演＝中島ひろ子、つみきみほ、白鳥靖代

**大誘拐 RAINBOW KIDS**  
(1991年・岡本喜八・喜八プロ＝ニチメン＝フジエイト・120分)  
出演＝北林谷栄、緒形拳、風間トオル

**お引越し** (1993年・相米慎二・読売テレビ放送・124分)  
出演＝田畑智子、中井貴一、桜田淳子

**毎日が夏休み** (1994年・金子修介・パイオニアLDC＝  
サンダンスカンパニー・94分)  
出演＝佐野史郎、佐伯日菜子、風吹ジュン

## Kプログラム

**夜の河** (1956年・吉村公三郎・大映・104分)  
出演＝山本富士子、上原謙、川崎敬三

**伊豆の踊子** (1963年・西河克己・日活・87分)  
出演＝吉永小百合、高橋英樹、大坂志郎

**五番町夕霧楼** (1963年・田坂具隆・東映・137分)  
出演＝佐久間良子、河原崎長一郎、木暮実千代

**五瓣の椿** (1964年・野村芳太郎・松竹・163分)  
出演＝岩下志麻、田村高広、伊藤雄之助

## Lプログラム

**稲妻** (1952年・成瀬巳喜男・大映・87分)  
出演＝高峰秀子、三浦光子、香川京子

**紀ノ川** (1966年・中村登・松竹・166分)  
出演＝司葉子、岩下志麻、田村高広

**華岡青洲の妻** (1967年・増村保造・大映・99分)  
出演＝若尾文子、高峰秀子、市川雷蔵

**サンダカン八番娼館 望郷**  
(1974年・熊井啓・俳優座＝東宝・121分)  
出演＝田中絹代、高橋洋子、田中健

## Mプログラム

**隠し砦の三悪人** (1958年・黒澤明・東宝・138分)  
出演＝三船敏郎、上原美佐、藤田進

**反逆児** (1961年・伊藤大輔・東映・110分)  
出演＝中村錦之助、桜町弘子、月形龍之介

**次郎長三国志** (1963年・マキノ雅弘・東映・102分)  
出演＝鶴田浩二、松方弘樹、佐久間良子

**白い巨塔** (1966年・山本薩夫・大映・150分)  
出演＝田宮二郎、東野英治郎、藤村志保

## Nプログラム

**嵐を呼ぶ男** (1957年・井上梅次・日活・101分)  
出演＝石原裕次郎、北原三枝、金子信雄

**悪名** (1961年・田中徳三・大映・94分)  
出演＝勝新太郎、田宮二郎、中村玉緒

**沓掛時次郎 遊侠一匹** (1966年・加藤泰・東映・90分)  
出演＝中村錦之助、池内淳子、渥美清

**人生劇場 飛車角と吉良常**  
(1968年・内田吐夢・東映・109分)  
出演＝鶴田浩二、高倉健、辰巳柳太郎

## Oプログラム

**大江戸五人男** (1951年・伊藤大輔・松竹・132分)  
出演＝阪東妻三郎、市川右太衛門、山田五十鈴

**銭形平次捕物控 人肌蜘蛛** (1956年・森一生・大映・82分)  
出演＝長谷川一夫、山本富士子、市川雷蔵

**旗本退屈男** (1958年・松田定次・東映・108分)  
出演＝市川右太衛門、桜町弘子、片岡千恵蔵

**赤穂浪士** (1961年・松田定次・東映・150分)  
出演＝片岡千恵蔵、大川橋蔵、市川右太衛門

## Pプログラム

**本日休診** (1952年・渋谷実・松竹・97分)  
出演＝柳永二郎、淡島千景、三国連太郎

**幕末太陽伝** (1957年・川島雄三・日活・110分)  
出演＝フランキー堺、左幸子、石原裕次郎

**ニッポン無責任時代** (1962年・古沢憲吾・東宝・86分)  
出演＝植木等、ハナ肇、団令子

**喜劇・女は男のふるさとヨ** (1971年・森崎東・松竹・90分)  
出演＝森繁久弥、中村メイコ、倍賞美津子

## Qプログラム

- おかしな奴 (1963年・沢島忠・東映・110分)  
出演＝渥美清、三田佳子、南田洋子
- 喜劇・大安旅行 (1968年・瀬川昌治・松竹・94分)  
出演＝フランキー堺、新珠三千代、倍賞千恵子
- 吹けば飛ぶよな男だが (1968年・山田洋次・松竹・91分)  
出演＝なべおさみ、緑魔子、犬塚弘
- あゝ軍歌 (1970年・前田陽一・松竹・88分)  
出演＝フランキー堺、財津一郎、倍賞千恵子

## Rプログラム

- キューポラのある街 (1962年・浦山桐郎・日活・99分)  
出演＝吉永小百合、浜田光夫、東野英治郎
- けんかえれじい (1966年・鈴木清順・日活・86分)  
出演＝高橋英樹、浅野順子、川津祐介
- 八月の濡れた砂 (1971年・藤田敏八・日活・91分)  
出演＝村野武範、広瀬昌助、テレサ野田
- 伊豆の踊子 (1974年・西河克己・東宝・82分)  
出演＝山口百恵、三浦友和、中山仁

## Sプログラム

- 純愛物語 (1957年・今井正・東映・130分)  
出演＝江原真二郎、中原ひとみ、岡田英次
- おとうと (1960年・市川崑・大映・98分)  
出演＝岸恵子、川口浩、森雅之
- 肉弾 (1968年・岡本喜八・「肉弾」を作る会＝ATG・116分)  
出演＝寺田農、大谷直子、笠智衆
- 旅の重さ (1972年・斎藤耕一・松竹・91分)  
出演＝高橋洋子、高橋悦史、岸田今日子

## Tプログラム

- エノケンの頑張り戦術 (1939年・中川信夫・東宝・74分)  
出演＝榎本健一、如月寛多、柳田貞一
- ジャンケン娘 (1955年・杉江敏男・東宝・92分)  
出演＝美空ひばり、江利チエミ、雪村いづみ
- 大学の若大将 (1961年・杉江敏男・東宝・82分)  
出演＝加山雄三、星由里子、田中邦衛
- 君も出世ができる (1964年・須川栄三・東宝・100分)  
出演＝フランキー堺、高島忠夫、雪村いづみ

## Uプログラム

- にごりえ (1953年・今井正・文学座＝新世紀映画・130分)  
出演＝丹阿弥谷津子、久我美子、淡島千景
- あすなろ物語 (1955年・堀川弘通・東宝・108分)  
出演＝久保明、岡田茉莉子、根岸明美
- 雁の寺 (1962年・川島雄三・大映・98分)  
出演＝若尾文子、三島雅夫、高見国一
- 怪談 (1964年・小林正樹・にんじんくらぶ＝東宝・161分)  
出演＝新珠三千代、岸恵子、中村賀津雄

## Vプログラム

- 西遊記 (1960年・藪下泰司、手塚治虫・東映動画・88分)  
声の出演＝小宮山清、新道乃里子、木下秀雄
- 太陽の王子 ホルスの大冒険 (1968年・高畑勲・東映動画・82分)  
声の出演＝大方斐沙子、平幹二郎、市原悦子
- 長靴をはいた猫 (1969年・矢吹公郎・東映動画・80分)  
声の出演＝石川進、藤田淑子、榎原ルミ
- 火垂るの墓 (1988年・高畑勲・新潮社・89分)  
声の出演＝辰巳努、白石綾乃、志乃原良子

# 平成17年度優秀映画鑑賞推進事業実施報告

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
<b>■北海道</b>							
1 たきかわホール	平成17年11月26日(土)～平成17年11月27日(日)	O	2	6	626	0	45,000
2 北見芸術文化ホール中ホール	平成17年11月5日(土)～平成17年11月6日(日)	E	2	6	495	7	110,000
3 厚岸情報館	平成17年10月21日(金)～平成17年10月23日(日)	J	3	5	61	0	12,000
4 札幌市生涯学習総合センター	平成17年9月28日(水)～平成17年9月30日(金)	K	3	11	692	41	1,870,179
<b>■青森県</b>							
5 六ヶ所村文化交流プラザ	平成17年8月27日(土)～平成17年8月28日(日)	T	2	8	43	0	11,814
6 青森市中世の館	平成17年8月19日(金)～平成17年8月21日(日)	M	3	6	273	13	21,400
<b>■岩手県</b>							
7 久慈市文化会館	平成17年7月10日(日)～平成17年7月11日(月)	C	2	4	232	0	37,608
<b>■宮城県</b>							
8 中新田バッハホール	平成17年10月16日(日)	F	1	4	388	0	28,050
9 気仙沼市民会館	平成17年8月21日(日)	R	1	4	568	0	60,042
10 塩竈市民交流センター★	平成17年8月26日(金)～平成17年8月27日(土)	E	2	4	425	0	60,577
<b>■秋田県</b>							
11 横手市ふれあいセンターかまくら館	平成17年9月25日(日)	E	1	4	211	0	40,000
12 湯沢市雄勝文化会館オービオン	平成17年7月30日(土)	P	1	4	128	0	9,160
13 小坂町康楽館	平成18年2月18日(土)～平成18年2月19日(日)	B	2	8	441	0	7,000
14 大館市民文化会館	平成18年2月25日(土)～平成18年2月26日(日)	P	2	8	1,085	1	65,632
15 大仙市中仙市民会館	平成17年8月14日(日)	C	1	4	327	2	11,502
<b>■山形県</b>							
16 米沢市民文化会館	平成17年9月11日(日)	R	1	6	1,260	7	93,000
17 余目町文化創造館 響ホール★	平成17年7月24日(日)	L	1	3	1,040	0	18,000
18 平田町農村コミュニティカレッジ	平成17年7月7日(木)～平成17年7月10日(日)	I	4	7	164	0	7,196
<b>■福島県</b>							
19 会津若松市文化センター	平成17年12月2日(金)	B	1	2	515	4	118,000
<b>■茨城県</b>							
20 水戸芸術館	平成18年2月11日(土)～平成18年2月12日(日)	M	2	4	439	17	260,000
21 日立市視聴覚センター	平成18年2月18日(土)～平成18年2月19日(日)	T	2	6	456	5	201,701
22 土浦市民会館	平成17年11月23日(水)	E	1	3	939	6	135,351
23 潮来市立潮来公民館★	平成17年10月1日(土)	B	1	4	162	0	32,000
24 東海文化センター	平成18年2月4日(土)～平成18年2月5日(日)	E	2	8	964	0	35,000
25 玉里村総合文化センター	平成17年8月20日(土)	J	1	3	238	0	8,610
<b>■栃木県</b>							
26 真岡市民会館★	平成18年1月14日(土)～平成18年1月15日(日)	C	2	4	475	0	66,000
<b>■群馬県</b>							
27 群馬会館	平成17年11月3日(木)～平成17年11月4日(金)	G	2	4	367	2	320,737
28 桐生市民文化会館	平成17年10月23日(日)	N	1	4	1,221	0	110,000
29 甘楽町文化会館★	平成17年11月13日(日)	O	1	4	1,252	0	15,000
30 太田市新田文化会館エアリスホール	平成17年8月31日(水)～平成17年9月1日(木)	I	2	4	651	19	30,500
31 笠懸野文化ホール	平成18年1月14日(土)～平成18年1月15日(日)	D	2	4	846	0	28,087
<b>■埼玉県</b>							
32 深谷シネマ チネ・フェリーチェ	平成17年11月20日(日)～平成17年11月24日(木)	C	5	20	612	1	104,000
33 SKIPシティ彩の国ビジュアルプラザ★	平成17年11月3日(木)～平成17年11月6日(日)	N	4	4	259	9	490,000
<b>■千葉県</b>							
34 東金文化会館大ホール★	平成17年8月18日(木)～平成17年8月21日(日)	K	4	8	306	3	60,142
35 茂原市東部台文化会館	平成18年2月18日(土)	M	1	2	386	6	95,031



	会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
■東京都								
36	小平市民文化会館大ホール	平成18年 2月18日(土)～平成18年 2月19日(日)	O	2	4	2,336	0	180,345
37	多摩市立関戸公民館	平成17年11月22日(火)～平成17年11月24日(木)	B	2	4	508	8	143,000
■神奈川県								
38	相模原南市民ホール	平成17年11月12日(土)～平成17年11月13日(日)	G	2	4	529	9	623,000
39	大和市生涯学習センターホール★	平成17年11月26日(土)	A	1	4	1,580	9	220,280
40	小田原コロナシネマワールド	平成18年 2月 4日(土)～平成18年 2月 5日(日)	L	2	4	221	19	200,000
■新潟県								
41	十日町市市民会館	平成17年10月29日(土)～平成17年10月30日(日)	M	2	5	80	1	65,400
42	糸魚川市市民会館	平成17年 9月23日(金)	M	1	4	212	0	32,000
43	小出郷文化会館	平成17年 8月27日(土)～平成17年 8月28日(日)	R	2	8	82	1	45,000
44	南魚沼市市民会館	平成18年 3月11日(土)～平成18年 3月12日(日)	C	2	6	377	1	43,000
45	胎内市産業文化会館	平成17年10月14日(金)～平成17年10月16日(日)	G	3	9	314	0	28,000
■富山県								
46	北アルプス文化センター★	平成18年 3月 4日(土)～平成18年 3月 5日(日)	C	2	4	563	0	23,370
47	庄川生涯学習センター	平成17年 7月27日(水)～平成17年 7月30日(土)	K	4	4	205	0	49,000
48	滑川市市民会館分館	平成17年12月 3日(土)～平成17年12月 4日(日)	E	2	4	200	0	34,000
49	クロスランドおやべ	平成18年 1月14日(土)～平成18年 1月15日(日)	T	2	4	722	0	35,000
■石川県								
50	サンビーム日和ヶ丘	平成17年 9月 6日(火)～平成17年 9月 9日(金)	J	4	4	20	0	60,000
51	加賀市文化会館★	平成17年 8月12日(金)～平成17年 8月13日(土)	M	2	2	155	0	67,010
52	コスモアイル羽咋 大ホール	平成17年 8月20日(土)	U	1	2	77	0	25,500
■福井県								
53	能楽の里文化交流会館	平成17年 7月30日(土)～平成17年 7月31日(日)	C	2	8	185	0	3,718
54	武生市文化センター大ホール★	平成17年 7月30日(土)～平成17年 7月31日(日)	I	2	8	270	0	74,000
55	南条文化会館	平成17年 8月13日(土)～平成17年 8月14日(日)	R	2	8	161	0	12,909
56	高浜町文化会館	平成18年 1月21日(土)～平成18年 1月22日(日)	A	2	4	42	0	11,000
■山梨県								
57	甲府市総合市民会館	平成17年 9月10日(土)～平成17年 9月11日(日)	E	2	4	861	21	200,000
58	都留市文化ホール	平成18年 2月 3日(金)～平成18年 2月 5日(日)	O	3	4	199	0	35,000
59	北杜市立須玉農村総合交流ターミナル	平成17年 7月30日(土)～平成17年 7月31日(日)	B	2	4	18	0	44,097
60	三珠町歌舞伎文化公園ふるさと会館	平成17年 8月20日(土)	B	1	2	472	0	4,400
61	増穂町文化会館	平成18年 1月21日(土)～平成18年 1月22日(日)	L	2	4	426	0	13,367
■長野県								
62	長野県立歴史館★	平成17年10月29日(土)	V	1	2	76	0	64,242
63	若里市民文化ホール	平成17年10月15日(土)～平成17年10月16日(日)	I	2	2	290	12	383,763
64	上田市文化会館	平成17年11月13日(日)	M	1	2	300	3	126,000
65	飯田市公民館★	平成17年 7月 9日(土)	B	1	2	1,014	6	106,000
66	鼎文化センター	平成17年 9月 3日(土)	R	1	2	568	6	106,000
67	須坂市文化会館	平成18年 2月18日(土)～平成18年 2月19日(日)	P	2	6	266	0	54,059
68	駒ヶ根市文化会館	平成17年 8月 6日(土)～平成17年 8月 7日(日)	O	2	8	139	0	34,718
69	千曲市上山田文化会館	平成17年10月 8日(土)～平成17年10月 9日(日)	R	2	8	338	0	64,000
70	東御市文化会館★	平成17年 7月22日(金)～平成17年 7月24日(日)	B	3	4	436	0	32,000
71	小布施町勤労青少年ホーム	平成17年11月26日(土)	M	1	1	222	0	12,000
■岐阜県								
72	可児市文化創造センター	平成18年 1月13日(金)～平成18年 1月16日(月)	R	4	16	404	0	99,036
73	明智かえでホール	平成17年 9月22日(木)	L	1	4	232	0	57,000
74	瑞浪市総合文化センター	平成17年 8月 6日(土)	M	1	4	280	0	42,000
75	白川町町民会館★	平成17年 7月31日(日)	R	1	2	138	0	11,219
76	美濃市文化会館	平成17年 9月 3日(土)～平成17年 9月 4日(日)	U	2	6	469	0	24,311

	会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
77	高山市久々野公民館	平成17年 9 月27日(火)～平成17年 9 月30日(金)	○	4	4	51	4	97,000
78	岐阜市文化センター★	平成17年11月22日(火)～平成17年11月24日(木)	H	2	4	286	9	400,000
79	県民文化ホール未来会館	平成17年10月23日(日)	M	1	3	430	9	410,400
■静岡県								
80	藤枝市民会館	平成17年 9 月 3 日(土)	B	1	4	1,930	0	130,000
81	掛川市文化会館	平成18年 1 月14日(土)～平成18年 1 月15日(日)	○	2	6	1,134	0	114,000
82	掛川市生涯学習センター★	平成18年 1 月28日(土)～平成18年 1 月29日(日)	R	2	6	869	0	114,000
83	大井川町文化会館	平成17年10月 1 日(土)～平成17年10月 2 日(日)	N	2	6	366	0	30,000
■愛知県								
84	東郷町民会館	平成17年10月 1 日(土)～平成17年10月 2 日(日)	R	2	4	252	0	38,000
85	碧南市芸術文化ホール	平成17年 9 月24日(土)～平成17年 9 月25日(日)	R	2	4	272	0	70,943
■三重県								
86	海山町立中央公民館	平成17年 9 月11日(日)	M	1	3	76	0	9,751
87	松阪コミュニティ文化センター	平成17年10月21日(金)～平成17年10月22日(土)	B	2	4	1,364	1	170,555
88	名張市青少年センター	平成17年 8 月28日(日)	D	1	4	618	0	85,000
89	伊勢市生涯学習センター	平成17年 8 月27日(土)～平成17年 8 月28日(日)	L	2	4	1,500	1	100,089
90	菰野町町民センター★	平成17年10月14日(金)～平成17年10月15日(土)	N	2	4	164	0	39,000
91	ふるさと会館いが	平成17年 9 月25日(日)	N	1	4	273	1	103,303
■滋賀県								
92	滋賀会館	平成17年11月 3 日(木)～平成17年11月 5 日(土)	P	3	9	164	13	303,013
93	甲南情報交流センター	平成17年11月12日(土)～平成17年11月13日(日)	L	2	4	349	5	92,000
94	甲賀市碧水ホール	平成17年11月24日(木)～平成17年11月25日(金)	R	2	6	144	5	95,395
95	米原市民交流プラザ	平成17年11月12日(土)	J	1	2	50	0	32,140
96	あいの土山文化ホール	平成17年 7 月16日(土)～平成17年 7 月17日(日)	I	2	6	135	5	95,403
97	滋賀県立文化産業交流会館	平成17年 9 月 3 日(土)～平成17年 9 月 4 日(日)	C	2	6	375	0	31,500
98	日野町町民会館わたむきホール虹	平成17年 8 月21日(日)	N	1	4	635	0	23,000
■京都府								
99	宇治市生涯学習センター★	平成17年 8 月26日(金)～平成17年 8 月27日(土)	P	2	7	220	0	191,500
100	文化パルク城陽	平成18年 2 月18日(土)～平成18年 2 月19日(日)	E	2	8	524	0	82,340
■大阪府								
101	和泉シティプラザ・弥生の風ホール★	平成17年 9 月16日(金)～平成17年 9 月19日(月)	V	4	16	321	0	181,228
102	岸和田市立文化会館	平成17年12月10日(土)～平成17年12月11日(日)	E	2	4	414	1	204,653
103	すばるホール	平成17年10月25日(火)～平成17年10月28日(金)	○	4	8	233	0	125,000
104	大東市立文化ホール	平成17年 9 月 4 日(日)	F	1	3	342	0	128,831
105	たかいし市民文化会館★	平成17年11月10日(木)～平成17年11月11日(金)	K	2	4	541	0	62,000
106	天王寺公園映像館	平成17年10月14日(金)～平成17年10月16日(日)	E	3	6	455	1	60,000
107	守口文化センター	平成18年 2 月19日(日)	L	1	4	793	0	149,415
108	摂津市民文化ホール	平成18年 2 月11日(土)	P	1	4	480	0	86,000
■兵庫県								
109	兵庫県立美術館	平成17年 8 月19日(金)～平成17年 8 月20日(土)	S	2	6	598	32	1,000,000
110	五色文化ホール★	平成17年 8 月28日(日)	C	1	3	130	0	11,500
111	福崎町エルデホール★	平成17年 8 月21日(日)	I	1	3	228	0	19,995
112	太子町立文化会館★	平成17年12月 3 日(土)	C	1	4	281	0	33,483
113	加西市市民会館	平成17年10月 1 日(土)	I	1	4	1,046	0	51,000
114	一宮町ふるさとセンター	平成17年 7 月17日(日)	L	1	2	396	0	9,500
115	豊岡市ミプラザ多目的ホール	平成18年 2 月 9 日(木)～平成18年 2 月13日(月)	C	5	10	522	0	47,308
116	高砂市文化会館大ホール	平成18年 3 月12日(日)	B	1	4	1,268	0	97,913
117	宝塚市文化施設ソリオホール	平成17年 7 月18日(月)～平成17年 7 月19日(火)	M	2	8	266	2	220,240
118	明石市立市民会館	平成17年10月13日(木)～平成17年10月14日(金)	L	2	4	1,544	9	300,000
119	川西市みつなかホール	平成18年 1 月28日(土)～平成18年 1 月29日(日)	E	2	4	1,168	0	160,865
120	姫路市文化センター大ホール	平成17年12月23日(金)～平成17年12月24日(土)	B	2	6	1,981	10	480,000



	会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
121	西宮市なるお文化ホール	平成18年 2 月18日(土)～平成18年 2 月19日(日)	A	2	4	1,030	0	460,759
■奈良県								
122	奈良県文化会館	平成17年11月 3 日(木)～平成17年11月 6 日(日)	B	3	3	739	9	363,435
123	斑鳩町文化振興センター	平成17年12月11日(日)～平成17年12月12日(月)	H	2	4	228	0	28,825
■和歌山県								
124	和歌山県民文化会館	平成17年 9 月 9 日(金)	N	1	4	1,426	13	381,539
125	橋本市教育文化会館2階大ホール	平成17年11月 4 日(金)	V	1	2	96	0	55,000
126	紀南文化会館	平成17年 9 月10日(土)～平成17年 9 月11日(日)	T	2	8	350	3	71,000
127	貴志川町生涯学習センター	平成18年 1 月14日(土)～平成18年 1 月15日(日)	L	2	4	956	0	21,905
128	かつらぎ総合文化会館	平成17年 9 月19日(月)	O	1	4	455	0	20,025
129	新宮市民会館	平成18年 2 月26日(日)	B	1	4	125	6	33,000
■鳥取県								
130	鳥取県民文化会館	平成17年10月13日(木)～平成17年10月15日(土)	C	3	8	410	4	248,000
131	鳥取市文化ホール	平成17年11月12日(土)～平成17年11月13日(日)	B	2	8	578	4	200,000
132	倉吉交流プラザ視聴覚ホール	平成18年 2 月 2 日(木)～平成18年 2 月 5 日(日)	T	2	8	139	3	49,059
133	米子市公会堂大ホール	平成17年 9 月23日(金)～平成17年 9 月24日(土)	I	2	4	516	3	141,377
■島根県								
134	松江テルサ	平成17年 9 月24日(土)～平成17年 9 月25日(月)	B	2	6	371	5	150,000
135	大田市民会館	平成17年10月 8 日(土)	I	1	2	61	0	33,000
136	悠邑ふるさと会館	平成17年10月 8 日(土)～平成17年10月 9 日(日)	K	2	4	86	0	4,500
137	隠岐島文化会館	平成17年 9 月24日(土)	C	1	1	35	0	18,000
138	安来市民会館	平成17年10月29日(土)	A	1	3	210	0	44,918
139	平田市立文化館	平成17年10月 2 日(日)	C	1	4	212	0	29,000
■岡山県								
140	天神山文化プラザ★	平成18年 3 月 5 日(日)	V	1	4	193	0	636,020
141	久米南町文化センター★	平成17年10月29日(土)～平成17年10月30日(日)	C	2	4	169	11	6,000
142	笠岡市保健センター	平成17年10月 8 日(土)	P	1	2	205	0	58,000
143	西川アイプラザ	平成18年 1 月14日(土)～平成18年 1 月15日(日)	E	2	4	262	11	630,000
144	勝山町民センター	平成17年 9 月 4 日(日)	M	1	4	370	0	9,000
145	音楽文化ホール・ペルフォール津山	平成18年 2 月12日(日)	A	1	5	437	2	112,000
146	建部町文化センター	平成17年11月 5 日(土)～平成17年11月 6 日(日)	C	2	4	123	0	6,904
147	高梁総合文化会館	平成18年 2 月 4 日(土)～平成18年 2 月 5 日(日)	B	2	4	300	0	37,773
■山口県								
148	萩ツイン・シネマ	平成17年 9 月26日(月)～平成17年 9 月30日(金)	G	4	7	23	2	44,940
149	山口情報芸術センター	平成17年 9 月22日(木)～平成17年 9 月25日(日)	T	4	12	255	5	143,523
150	ルネッサながと	平成18年 3 月 4 日(土)～平成18年 3 月 5 日(日)	M	2	8	523	0	25,000
■徳島県								
151	小松島市ミリカホール	平成17年12月 8 日(木)～平成17年12月11日(日)	R	4	4	135	0	43,270
■香川県								
152	丸亀市生涯学習センター	平成17年 9 月 4 日(日)	E	1	3	533	0	81,000
153	善通寺市民会館	平成18年 2 月12日(日)	B	1	4	1,635	0	36,000
154	ユープラザうたづ	平成17年 9 月23日(金)	F	1	4	217	7	18,000
155	ふれあいパークみの	平成17年 7 月 2 日(土)	M	1	2	150	0	9,992
■愛媛県								
156	宇和島市生涯学習センター	平成18年 2 月19日(日)	R	1	4	340	0	62,000
157	御荘文化センター	平成17年 9 月 4 日(日)	S	1	4	167	0	28,715
■高知県								
158	土佐清水市立市民文化会館	平成17年 8 月18日(木)～平成17年 8 月21日(日)	V	4	16	314	0	18,375
■福岡県								
159	朝倉町民センター	平成17年 7 月 9 日(土)～平成17年 7 月10日(日)	O	2	4	123	0	10,000

会場名	開催期間	プログラム	日数	上映回数	入場者数	映画館数	人口規模
160 田川青少年文化ホール	平成17年 8 月 6 日(土)～平成17年 8 月 7 日(日)	B	2	8	809	0	53,756
161 小郡市文化会館	平成18年 1 月13日(金)～平成18年 1 月14日(土)	A	2	4	577	0	57,699
162 大牟田文化会館	平成17年 8 月27日(土)～平成17年 8 月28日(日)	M	2	8	1,300	4	135,948
163 大野城まどかぴあ	平成17年10月 8 日(土)～平成17年10月 9 日(日)	M	2	8	365	8	91,000
■佐賀県							
164 鹿島市生涯学習センター★	平成17年11月26日(土)～平成17年11月27日(日)	J	2	8	175	0	33,000
165 有明スカイパークふれあい郷 自有館	平成17年 7 月31日(日)	M	1	4	690	0	27,000
166 多久市中央公民館★	平成17年10月 7 日(金)～平成17年10月10日(月)	B	4	12	415	0	24,000
167 千代田町文化会館★	平成17年10月 1 日(土)～平成17年10月 2 日(日)	V	2	4	122	0	12,356
■長崎県							
168 新上五島町鯨資館ミュージアム★	平成17年11月17日(木)～平成17年11月20日(日)	N	4	8	301	0	27,000
■熊本県							
169 宇土市民会館	平成17年 7 月22日(金)～平成17年 7 月23日(土)	O	2	8	655	0	38,929
170 宇城市小川総合センター	平成17年 8 月19日(金)～平成17年 8 月21日(日)	L	3	12	1,661	8	64,365
171 美里町文化交流センター	平成17年10月 2 日(日)	J	1	3	211	0	12,000
172 益城町文化会館	平成17年 8 月 6 日(土)～平成17年 8 月 7 日(日)	I	2	8	453	0	32,998
■大分県							
173 くにさき総合文化センター	平成18年 1 月28日(土)～平成18年 1 月29日(日)	M	2	4	453	0	13,100
174 由布市湯布院公民館	平成18年 3 月11日(土)	R	1	1	50	0	11,605
175 日田市中央公民館	平成17年11月12日(土)～平成17年11月13日(日)	C	2	6	58	1	61,710
176 コアやまくに	平成17年 9 月16日(金)～平成17年 9 月19日(月)	P	4	8	77	0	3,410
177 国見町生涯学習センター みんなんかん	平成17年12月18日(日)	N	1	3	200	0	5,800
178 宇佐文化会館・ウサノピア★	平成18年 1 月21日(土)～平成18年 1 月22日(日)	C	2	4	1,023	0	48,900
■宮崎県							
179 門川町総合文化会館	平成17年 9 月 3 日(土)～平成17年 9 月 4 日(日)	D	2	8	1,067	0	19,200
■沖縄県							
180 パレット市民劇場	平成17年11月11日(金)～平成17年11月13日(日)	R	3	12	1,280	15	308,143
181 浦添市民会館	平成17年 9 月10日(土)～平成17年 9 月11日(日)	C	2	8	592	0	106,000
合 計			348	941	86,753		

★印は新規実施会場

国内外の主要映画祭やFIAF加盟機関などを対象に、日本映画の紹介と映画保存活動の啓発を目的として行われる所蔵フィルムの貸与は、ニューヨーク近代美術館における日本映画名作選(52本)、ポルデノーネ無声映画祭における日本映画特集(22本)、コミュニティシネマ支援センターによる成瀬巳喜男監督作品巡回事業(4本を2回)の共催事業における館外上映を含め45件、その貸出フィルム数は227本に上り、昨年度に比べ113本増と大幅に増加した。共催事業以外では、国外では、パシフィック・フィルム・アーカイブ(21本)、シネマテーク・フランセーズ(22本)、台湾国家電影資料館(12本)で行われた日本映画の特集にフィルムを貸与するとともに、メルボルン、ヴェネツィア、ニューヨークなど主要な映画祭での日本映画特集に貸与を行った。国内ではFIAF加盟機関である福岡市総合図書館ならびに山形国際ドキュメンタリー映画祭、東京日仏学院、横浜美術館などの企画上映にフィルムを貸与した。また、昨年度に続き、文化庁主催による韓国ソウルでの日本映画上映にも4本の貸与を行った。

大学等の教育機関や研究機関、映画やテレビの制作会社、日本映像職能連合の加盟団体、出版社などの組織を対象に行われている特別映写観覧は、95件を実施し、232本を上映した。また、テレビ番組の制作会社や著作権を持つ映画会社などに対し所蔵フィルムからの複製を認める複製利用は、件数として36件、フィルム本数としては59本であった。

映画関連資料については貸与、出版物等への図版提供を以下のとおり行い、映画の専門分野のみならず人物の顕彰や地域振興も含めた幅広い出版・行事に貢献した。

展示施設等を対象とする貸与では、衆議院事務局憲政記念館で開催された「明治の外交と議会政治特別展―日ロ講和100年―」や杉並アニメーションミュージアムの「日本のアニメをつくった20人」特別展、姫路文学館の「はりま・シネマの夢―銀幕を彩る映画人たち」、東京オペラシティアートギャラリーの「武満徹 ― Visions in Time」など7つの展覧会に対し、映画ポスターや撮影台本を中心とする関係資料計57点の貸与を行った。

出版や放送などに対しては海外からの申請4件を含む計47件の申請に対し、291点の図版提供や撮影の許可を行った(上映用フィルム貸与に伴う写真図版の提供を除く。資料複写5件126点を含む。)。これらには雑誌復刻への原本提供や、映画会社による自社保存用スチル写真素材の作成、大学による大規模な資料の熟覧などが含まれている。

## ①映画フィルム

### ア. 貸与

平成17年度貸与件数			平成17年度貸与本数		
国内	海外	共催	国内	海外	共催
23件	18件	4件	46本	99本	82本

### イ. 特別映写観覧

平成17年度観覧件数		平成17年度観覧本数	
国内	海外	国内	海外
95件	0件	232本	0本

#### ウ. 複製利用

平成17年度複製利用件数		平成17年度複製利用本数	
国内	海外	国内	海外
35件	1件	58本	1本

#### ②映画関連資料

##### ア. 貸与

平成17年度貸与件数		平成17年度貸与点数	
国内	海外	国内	海外
7件	0件	57点	0点

##### イ. 特別観覧

区分	平成17年度観覧件数		平成17年度観覧点数	
	国内	海外	国内	海外
写真撮影	4件※	0件	25点	0点
映画撮影	1件	0件	4点	0点
写真原版等使用	34件※	2件	115点	19点
熟覧	0件	2件	0点	2点
特別観覧その他	0件	0件	0点	0点
資料複写	5件	0件	126点	0点
合計	44件※	4件	270点	21点

※写真撮影と写真原版等使用を同時に許可したものが1件あり、合計件数が1件増となる。

#### [Films]

In order to educate the public about the importance of film preservation activities, NFC loans films from its collection to the major film festivals around the world and to the FIAF member archives and some other institutions and occasions. This year, NFC lent 52 films to the Museum of Modern Art, 22 films to the Pordenone Silent Film Festival, and lent 4 films by Mikio Naruse twice to the Japan Community Cinema Center. In addition to these 4 co-organized events, NFC also lent films to the Pacific Film Archive (21 films), Cinémathèque Française (22 films), and Taiwan National Film Archive (12 films), as well as to film festivals in Melbourne, Venice and New York. Such loans of prints happened 45 times, and the number of loans amounted to 227.

The Special Screening Programs that are targeted at universities, TV production companies, film production companies, member associations of Nippon Eizo Shokuno Rengo, and publishers were organized 95 times showing 232 films this year, and NFC allowed 59 films to be duplicated in 36 occasions by TV production companies and copyright holding film studios.

Regarding non-film materials, NFC loaned or allowed use of the images for publications and thus contributed to not only the specialized field of film culture but also to throwing light on personal achievements and to promotion of local cultures.

#### [Non-Film Materials]

Regarding loans to the exhibitions, NFC loaned 57 film-related non-film materials such as posters and scripts to 7 exhibitions.

NFC received 47 requests, including 4 from abroad, to use the non-film

materials from its collection, and provided or gave permission to duplicate 291 materials (This excludes photographs of the films in conjunction with the loans of the films.) These loans and duplicate permissions were made for various purposes including loaning 126 original journals to 5 publishers for the reprinting project, loaning the still photographs for the film company so it could make the copies for preservation, and loaning reference materials to the university for a comprehensive research.

[国内貸与] 23件46本

生誕100年記念小津安二郎と清水宏

主催：福岡市総合図書館 本数：4

斎藤寅次郎生誕百年映画祭

主催：斎藤寅次郎生誕百年映画祭実行委員会 本数：1

エディット・スコブ来日記念特集

主催：東京日仏学院 本数：1

特別企画 日本の大手映画製作会社の歴史を辿るシリーズ第二弾 東映映画史

主催：福岡市総合図書館 本数：2

初代・水谷八重子 100歳バースディを祝う会

主催：八重子事務所 本数：1

山形国際ドキュメンタリー映画祭2005 境界からの視線

主催：山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会 本数：3

第18回東京国際映画祭「ニッポン・シネマ・クラシック部門」

主催：東京国際映画祭実行委員会 本数：1

第6回東京フィルメックス

主催：特定非営利活動法人東京フィルメックス実行委員会 本数：1

日韓友情年2005記念事業「日本映画：多様な展開」

主催：文化庁 本数：4

大大阪80年記念「講演と音楽・映画でたどる“大大阪”—ミナミの街と文化—」

主催：大阪歴史博物館 本数：1

日本映画黄金時代、48人の監督と撮った男《撮影監督・高村倉太郎》

主催：NPO法人日本映画映像文化振興センター 本数：2

第2回Anglo-Japanese Academy (国際シンポジウム「第2回英日アカデミー」)

主催：東京大学大学院法学政治学研究科附属比較法政国際センター 本数：1

映画における《飲むことと食えること》

主催：東京日仏学院 本数：1

日本映画：愛と青春 1965—98 「脚本家・荒井晴彦セレクション」

主催：「日本映画：愛と青春 1965—98」国内上映委員会 本数：1

**第1回おおさかシネマフェスティバル**

主催：おおさかシネマフェスティバル実行委員会 本数：1

**第16回にいがた国際映画祭  
「一日だけ名画座ライフ～ジュリアン・デュビエを知っていますか?～」**

主催：財団法人新潟市国際交流協会 本数：1

**日本映画：愛と青春 1965-98 「アートン・シネマ・ギルド 荒井晴彦の作劇術」**

主催：「日本映画：愛と青春 1965-98」国内上映委員会 本数：1

**日本美術映画 アートドキュメンタリー 1930's-2000's**

主催：横浜美術館((財)横浜市芸術文化振興財団) 本数：9

**人生は小説＝人生(ロマン)だ**

主催：東京日仏学院 本数：3

**ゆうばり国際ファンタスティック映画祭2006 特別上映企画**

主催：ゆうばり国際ファンタスティック映画祭実行委員会 本数：1

**アイスランド映画祭2006 アイスランド万華鏡**

主催：アイスランド映画祭実行委員会 本数：1

**中川信夫・業の人間アラベスク 行こか 戻るか 天国⇔地獄**

主催：中川信夫監督・生誕100年特集上映実行委員会 本数：3

**「武満徹—Visions in Time」展 映画上映会「タケミツ・ゴールデン・シネマ・ウィーク」**

主催：財団法人東京オペラシティ文化財団東京オペラシティアートギャラリー  
本数：2

[海外貸与] 18件99本

**台湾国際アニメーション映画祭2005(台湾国際動畫影展)**

主催：国家電影資料館 本数：12

**東アジア青春映画祭**

主催：韓国映像資料院 本数：2

**第22回エルサレム国際映画祭**

主催：イスラエル・フィルム・アーカイヴ 本数：1

**第54回メルボルン国際映画祭 内田吐夢監督特集**

主催：ナショナル・フィルム&サウンド・アーカイヴ 本数：3

**ボン無声映画祭**

主催：ミュンヘン映画博物館 本数：3

**第62回ヴェネツィア国際映画祭 アジア映画秘史**

主催：ヴェネツィア国際映画祭 ヴェネツィア・ビエンナーレ 本数：7

**第43回ニューヨーク映画祭 松竹110周年記念特集**

主催：フィルム・ソサエティ・オブ・リンカーン・センター 本数：6

第24回ボルデノーネ無声映画祭  
「アンドレ・アントワヌとフランスのリアリズム映画」

主催：チネテカ・デル・フリウリ 本数：1

成瀬巳喜男監督特集北米巡回展

主催：トロント国際映画祭グループ 本数：5

第25回ルイ・ヴィトン・ハワイ国際映画祭 東映撮影所特集

主催：ルイ・ヴィトン・ハワイ国際映画祭 本数：1

企画上映「映画にみる大正シック」

主催：パークレー美術館／パシフィック・フィルム・アーカイブ 本数：21

杉本博司映画展—現代美術の映像

主催：ジャパン・ソサエティ 本数：1

第24回ボルデノーネ無声映画祭 日本映画プログラム

主催：シネマテーク・フランセーズ 本数：22

ベルリン国際映画祭インターナショナル・フォーラム・オブ・ヤング・  
シネマ部門／中川信夫監督回顧展

主催：ドイツ・キネマテーク財団／ベルリン映画博物館 本数：4

特集上映「流れに抗して—現代日本映画における反抗者と異端者」

主催：ジャパン・ソサエティ 本数：1

上映会「瀧の白糸」(杉本博司作品展)

主催：スミソニアン協会ハーシュホーン美術館彫刻庭園 本数：1

全州国際映画祭

主催：全州国際映画祭 本数：2

第30回香港国際映画祭・中川信夫監督回顧展

主催：香港国際映画祭 本数：6

[共催事業] 4件82本

アーリー・オータム—日本映画名作選(フィルムセンター・コレクションより)

共催：ニューヨーク近代美術館 本数：52

ボルデノーネ無声映画祭における特集「東からの光—日本映画を顕彰する」

共催：チネテカ・デル・フリウリ 本数：22

成瀬巳喜男生誕100年記念

映画監督成瀬巳喜男 レトロスペクティヴ 巡回事業 (1)

共催：コミュニティシネマ支援センター 本数：4

成瀬巳喜男生誕100年記念

映画監督成瀬巳喜男 レトロスペクティヴ 巡回事業 (2)

共催：コミュニティシネマ支援センター 本数：4

## ◆板倉史明

「『旧劇』から『時代劇』へ—映画製作者と映画興行者のヘゲモニー闘争—」／岩本憲児編『時代劇伝説(日本映画史叢書④)』(森話社、2005年10月)〔論文〕

「吉山旭光『日本映画史年表』解説」／『日本映画論言説大系 第Ⅲ期 活動写真の草創期』第29巻(ゆまに書房、2006年1月)〔論文〕

「大学の若大将」等／『日本映画：多様な展開』(文化庁、2005年11月)〔解説〕

「KIDS★MOMAT2005 東京国立近代美術館のなつやすみ フィルムセンター」／『現代の目』555号〔報告〕

「水口紀勢子著『映画の母性——三益愛子を巡る母性像の日米比較』」／『映像学』第75号(日本映像学会、2005年11月)〔書評〕

「パシフィック・フィルム・アーカイヴ日本映画特集報告」／NFCニューズレター第65号(2006年2月—3月号)〔解説〕

## ◆入江良郎

「日本映画史と吉澤商店」／「日本映画論言説大系 第Ⅲ期 活動写真の草創期」第22巻『明治期映像文献資料古典集成②』(ゆまに書房、2006年1月)〔論文〕

「尾上松之助の生誕130周年にあたって」／NFCニューズレター第60号(2005年4月—5月号)〔解説〕

最古の映画スターをめぐるイベント—「尾上松之助と時代劇スターの系譜」報告／『映像学』第75号(2005年11月)〔報告〕

## ◆岡島尚志

「フィルム・アーカイブによる映画教育プログラムの可能性」／シンポジウム「子どもたちと映画—映画上映と教育プログラム」(コミュニティシネマ／上映者ネットワーク会議イン金沢) (2005年11月12日)〔講演〕

## ◆岡田秀則

「科学から空想へ」／「未来」未来社(2005年7月号)〔論文〕

「聞こえてますか、映画の音」／「DOCUMENTARY BOX」(山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会)第25号(2005年8月)〔書評〕

「沈む風景、浮き上がる風景」／「未来」(未来社、2005年12月号)〔論文〕

「闇にうずくまった人」／色川武大著『映画放浪記』(キネマ旬報社、2005年12月)〔解説〕

「地域映像アーカイヴの可能性」／朝日新聞名古屋版(2006年1月11日)〔記事〕

「父・稲垣浩を語る」／NFCニューズレター第60号(2005年4月—5月号)〔構成〕

「バンサ」／NFCニューズレター第62号(2005年8月—9月号)〔論文〕

「兪賢穆監督、自身と映画を語る」／「韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集」カタログ(2005年12月)〔聞き手・構成〕

「反骨と信仰—映画作家・兪賢穆を発見する」／「韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集」カタログ(2005年12月)〔論文〕

「韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集」／カタログ(2005年12月)



[解説・編集]

「松本俊夫監督、『銀輪』を語る」／NFCニューズレター第65号(2006年2月－3月号)[聞き手・構成]

「小川紳介と土本典昭—映画作家への道」／アテネ・フランセ文化センター主催の特集上映「小川紳介と土本典昭」(2005年8月11日)[講演]

◆常石史子

「紗が降りる—成瀬巳喜男の中心」／『成瀬巳喜男の世界へ』(筑摩書房、2005年6月)[論文]

「映画史の穴を埋める66のパーツ」／NFCニューズレター 62号(2005年8月－9月号)[論文]

「CURATOR'S CHOICE 46『武士道』」／NFCニューズレター 62号(2005年8月－9月号)[論文]

「Light from the East: Celebrating Japanese Cinema」／『24TH PORDENONE SILENT FILM FESTIVAL』(2005年10月)[解説]

「日本で発見されたドイツ無声映画」／NFCニューズレター 65号(2006年2月－3月号)[論文]

「第24回ボルデノーネ無声映画祭報告」／NFCニューズレター 65号(2006年2月－3月号)[論文]

「日本映画に見る花街の女たち」／国際交流基金主催の上映事業「巨匠が描いた花街の女たち」(2006年3月18日)[講演]

「Some Pioneering Cases of Digital Restoration in Japan (日本におけるデジタル復元の先駆的諸例)」／『Journal of Film Preservation』69号、The International Federation of Film Archives (FIAF) (2005年5月)[論文]

「新・平家物語」のデジタル復元」／『映画テレビ技術』(映画テレビ技術協会、2005年5月号)[論文]

「ロシア・ゴスフィルモフォンドの日本映画 調査・収蔵完了報告」／NFCニューズレター 61号(2005年6月－7月号)[論文]

「カラー映画のデジタル復元とその色彩」／日本色彩学会第36回全国大会の公開講座「色彩演出—隠された技」(2005年5月29日)[講演]

「デジタル経由のフィルム復元(『新・平家物語』より)」／ディジタルシネマコンソーシアム(DCCJ)主催の「国際ディジタルシネマ・シンポジウム」(2005年6月2日)[講演]『日本色彩学会誌』(29巻3号)

「映画作品のデジタル復元と色彩—文化を伝えるデジタル技術をめざして」／日本色彩学会主催のシンポジウム「文化を伝える色彩とそのデジタル復元を考える」(2005年6月25日)[講演]

「表象のメディエーション—知の現場、現場の知」／表象文化論学会設立準備大会(2005年11月19日)[講演]

◆榎木 章(講演者名：とちぎあきら)

「フィルムセンターの仕事とコミュニティシネマ」／映画美学校(2005年9月22日)[講演]

「フィルム・アーカイブとしてのフィルムセンター」／社団法人日本映画テレビ技術協会撮影部会特別研究会(2005年11月25日)[講演]

## 1 普及活動 Educational Activities

### 1-1 資料の収集及び図書室の公開 Acquisition of Non-Film Materials and the Library

平成17年度には、ゆまに書房による復刻版の刊行(「日本映画論言説大系 第3期 活動写真の草創期」)に対し、駒田好洋「活動写真説明書」など明治、大正期の文献4冊の原本提供を行った。また、新たな試みとしては、「国際映画新聞」および「昭和十八年 十九年 二十年 映画年鑑」の復刻を、初めてフィルムセンターの監修で行った。前者は無声映画全盛期から戦中にかけて刊行された業界誌であり、刊行が予定されている全284冊のうち、年度内に118冊の提供を行った(ゆまに書房より刊行)。後者は戦中未刊行に終わった年鑑の欠落を補うもので、フィルムセンターが所蔵する手書き原稿をそのまま影印・復刻している(日本図書センターより刊行予定)。

■開室日数	227日間
■利用者数	3,041人
■公開資料数	26,217件(和書22,552件／洋書3,665件)
■収集件数	1,816件
■閉架利用件数	997件
■複写利用数	1,019件(12,764枚)

NFC lent 4 original books of the Meiji and Taisho era including Koyo Komada's *Katsudoshashin setsumeisho* to Yumani shobo for its project of reprinting out-of print books under the title: *Nihoneigaron gensetsu taikē, dai 3 ki, katsudoshashinno sosoki*. For the 1st time, NFC supervised the reprinting projects of *Kokusaieiga shimbun* and *Eiganenkan showa 18nen, 19nen, 20nen*. The former is the industry paper that was published from the peak of the silent era till the mid-war era, and 118 volumes out of the total of 284 volumes were lent within 2005. (Publisher: Yumani shobo) The latter consists of manuscripts for the yearbooks that ended up not being published, and the reprints were made of the hand-written manuscripts from the NFC collection (to be published by Nihontoshō Center.)

### 1-2 児童生徒を対象とした事業 Projects for Children and Young Students

将来の映画観客となる小・中学生を主な観客に想定して、こどもたちに映画の面白さ、とりわけ日本映画の素晴らしさを知ってもらい、同時に映像に対する理解力を高め、情操教育にも資するよう企画した「こども映画館 2005年の夏休み」を7月30日と8月6日に開催した。4年目を迎える「こども映画館」は、映画上映を中心とする企画から、楽しみながら映画のしくみや歴史を理解できる総合的教育プログラムへの転換を図り、映画の上映、研究員による解説、映写室案内(抽選制)、フィルムに触れる体験コーナー、展示室案内(ギャラリートーク付)などを実施した。今回初めて事前申込制を採用したが、7月30日の回は定員の151名を上回る応募があった。参加者の多くは親子で参加しており、このことは、夏休みの体験学習を望む家族に本企画が注目されたことを意味している。また、本企画は「小学校低学年向

け」と「小学校高学年及び中学生向け」に区分して実施したが、このことによって、こどもたちの理解力に合わせた内容を提供することが可能となった。また、無声映画の上映時には、映画説明(活弁)と伴奏音楽を行うことで、映画文化を普及する良い機会となった。7月21日から9月4日までの間は、「尾上松之助と時代劇スターの系譜」展に関連して、展示資料についてわかりやすく解説したこども向けのセルフガイド(解説カード)を配付するとともに、さらに、こども向けのギャラリートークを8月24日と8月27日に実施した。

■「こども映画館」の実施

実施回数：2回

参加者数：210人

■相模原分館における小・中学校の児童生徒を対象とした上映会

実施回数：2回

参加者数：229人

Geared mainly towards elementary and junior high school students, this program was designed to educate the future generation of filmgoers by giving them the opportunities to enhance film literacy and through aesthetic experiences of viewing high quality films (especially Japanese films.) This year, the program marked its 4th year and from its former content centering on screenings, changed into the more comprehensive program that consisted of screening, lecture by the NFC curator, tour of the projection booth (by lottery), film touching experience, and tour of the exhibition with the gallery talk. Thus, the program was able to provide the children the opportunity to learn about film from its technological and historical perspectives as well. NFC newly implemented the pre-application system, and the program on July 30th drew more applicants than the capacity of the cinema, that is, 151. Many of the participants were children and their parents. This suggests that the program appealed to the parents who wished their children to experience “field study” during the summer holidays. This year, different programs were given for different age groups, that is, one for the younger elementary school students (aprx. ages 6-9) and the other for the junior high school students and the older elementary school students (aprx. ages 10-15), and thus the program as a whole proved to be more effective. For the screening of Japanese silent film, NFC employed benshi (lecturer-commentator) and musicians to accompany the film, thus making the viewing experience more understandable for the children while demonstrating part of the Japanese film heritage. Between July 21st and September 4th, explanation sheets for children were handed out at the exhibition of Onoe Matsunosuke. On August 24th and 27th, gallery talks for children were given.



日 時	
平成17年8月20日(土) 午後2時から午後6時 第1部：映画上映(有料) 午後2時～ 第2部：トーク・セッション(無料) 午後4時半～	
会 場	
大ホール	
講 師	
聞き手＝山根貞男(映画評論家) ゲスト＝小谷承靖(映画監督) 福沢康道(撮影監督) 竹中和雄(美術監督)	
参加人数	
310名 第1部：映画上映310名 第2部：トーク・セッション310名 ＊入れ替え27名	
日 時	
平成17年9月10日(土) 午前11時から午後6時40分 プログラム1：午前11時～ プログラム2：午後2時～ プログラム3：午後5時～	
会 場	
大ホール	
講 師	
◆プログラム1 児玉竜一(日本女子大学文学部助教授) 「歌舞伎役者としての尾上松之助」 ＊講演後に『史劇 楠公訣別』(1921)、 『忠臣蔵』(1910-12)、『実録 忠臣蔵』 (1926)を上映 ◆プログラム2 富田美香(立命館大学文学部助教授) 「“目玉の松ちゃん”の功績」 ＊講演後に『豪傑児雷也』(1921)、『弥次 喜多 善光寺詣りの巻』(1921)を上映 ◆プログラム3 小松弘(早稲田大学文学部助教授) 「映画俳優 尾上松之助」 ＊講演後に『渋川伴五郎』(1922)を上 映(弁士：澤登翠、伴奏：村井音文)	
参加人数	
434名 プログラム1：120名 プログラム2：159名 プログラム3：155名	

## 特別企画 成瀬巳喜男シンポジウム

2005年に生誕100年を迎えた成瀬巳喜男監督の業績を顕彰するため、成瀬監督の生誕日である8月20日に、関連映画作品(『成瀬巳喜男 記憶の現場』(2005)及び『カメラマン 玉井正夫』(2005))の上映を行い、成瀬作品の製作スタッフであった映画人を招聘して成瀬巳喜男とその作品にまつわるエピソードを語るという形式でのシンポジウムを実施した。

### Mikio Naruse Symposium

In order to throw light on Mikio Naruse's achievement as film director, this symposium was held on August 20th, 2005, the centenary since his birth. The event consisted of screening of documentary films related to Naruse, that is, *Naruse mikio kiokuno genba* (2005) and *Kyameraman tamai masao* (2005) and the roundtable discussion with the guest filmmakers who used to work on Naruse's films.



## 尾上松之助生誕130周年記念講演・特別上映会

2005年に生誕130周年を迎えた尾上松之助を顕彰するため、尾上松之助の生誕日である9月12日の直前に、現存する松之助主演のフィルムを可能な限り集めて上映するとともに(一部弁士付き)、第一線の研究者たちを講演者として招き、日本最初の映画スターの業績を様々な角度から検証した。

### Onoe Matsunosuke Lecture and Special Screening Commemorating the 130th Anniversary of his Birth

In order to throw light on Onoe Matsunosuke, this event was held on September 10th, 2005, 2 days before the 130th anniversary since his birth. By screening 6 existing films in which he starred (some of them with *benshi*) and by inviting scholars in the forefront of research on Onoe, the event showcased and investigated Onoe's achievements from various angles.

## ギャラリートーク

### (1)「尾上松之助と時代劇スターの系譜」展

①開催回数：5回(平成17年5月21日、6月25日、7月23日、8月27日、9月24日の各土曜日)

②開催場所：東京国立近代美術館フィルムセンター 7階展示室

③講師：1回目：入江良郎(フィルムセンター主任研究官)  
2回目：板倉史明(フィルムセンター研究員)  
3回目：大矢敦子(立命館大学COE推進機構客員研究員)  
4回目：田中眞澄(映画史家・フィルムセンター客員研究員)  
5回目：田島良一(日本大学芸術学部教授)

④参加人数：計256人(平均51人)

### (2)「ポーランドの映画ポスター」展

①開催回数：2回(平成17年11月26日、12月24日の各土曜日)

②開催場所：東京国立近代美術館フィルムセンター 7階展示室

③講師：1回目：久山宏一(ポーランド研究者)  
2回目：今井良朗(武蔵野美術大学教授)

④参加人数：計72人(平均36人)

### (3)「松竹創業110周年記念 松竹と映画」展

①開催回数：2回(平成18年2月25日、3月18日の各土曜日)

②開催場所：東京国立近代美術館フィルムセンター 7階展示室

③講師：1回目：田中眞澄(映画史家・フィルムセンター客員研究員)  
2回目：田中康義(映画監督)

④参加人数：計53人(平均27人)

平成17年度は9大学より12名の実習生を受入れ、フィルム・アーカイブの理念、フィルムセンターの歴史と運営、各部署の役割、相模原分館におけるフィルム保存の実際、フィルムの種類とその取り扱い方法などを講義するとともに、実習としてフィルム缶のラベル作成、スチル写真とポスターの整理、データベース入力作業、上映企画の広報資料の整理に当たらせた。網羅的な映画の収集・保存・復元を行うフィルム・アーカイブ活動の重要性を講義するとともに、具体的な資料整理や入力作業などの実務体験も充実させたことにより、効果的な実習になった。

また、以前から要望のあったインターンシップ制度を、主に映画映像を学ぶ大学院生を対象として年度途中から新規に整備し、カリフォルニア大学ロサンゼルス校から1名を受け入れて実施した。

In 2005 NFC admitted 12 curatorial trainees from 9 universities. The training included lectures on topics such as principles of film archives, the history and management of NFC, roles of different division of NFC, film preservation practices at the Sagami-hara annex, and how to handle films. In addition to the lectures, the trainees engaged in practical training consisting of making labels for film cans, sorting out still photographs and posters, inputting data to the database, and filing publicity materials related to the screening programs. By first informing the trainees the importance of the comprehensive work of film archives that deal with collection, preservation, and restoration of films through lectures and then letting them proceed to the practical training, the curriculum as a whole was able to give them effective training.

In addition, NFC implemented the intern system mostly for graduate students of film studies and admitted one student from the University of California, Los Angeles, and thus was able to meet the long-time requests from various universities.

## 2 刊行物

### 2-1 NFCカレンダー等

#### 2-1-1 NFCカレンダー

29.7×21cm

大ホール上映作品解説／上映スケジュール



□2005年4－5月号

生誕百年特集  
映画監督 稲垣浩

6p



□2005年6－7月号

生誕百年特集  
映画監督 豊田四郎

6p



□2005年8月号

発掘された映画たち2005

6p



□2005年9－10月号

生誕百年特集  
映画監督 成瀬巳喜男

6p



□2005年11月号

生誕百年特集  
映画監督 斎藤寅二郎と野村浩将

4p



□2005年12月号

韓国リアリズム映画の開拓者  
兪賢穆監督特集

4p



□2006年1月号

シネマの冒険  
闇と音楽 生誕百年の監督たち

2p



□2006年2－3月号

日本におけるドイツ2005/2006  
NFC所蔵外国映画選集  
ドイツ・オーストリア映画名作選

6p



## 2-1-2 展示チラシ

29.7×21cm



□尾上松之助と  
時代劇スターの系譜  
2p



□ポーランドの  
映画ポスター  
2p



□松竹創業110周年記念  
松竹と映画  
2p

## 2-1-3 企画チラシ



□特別企画  
成瀬巳喜男シンポジウム  
29.7×21cm／2p



□尾上松之助  
生誕130周年記念  
講演・特別上映会  
29.7×21cm／2p



□松竹映画探索  
1960－70年代  
25.7×18.1cm／4p  
小ホール上映作品解説／  
上映スケジュール

## 2-1-4 こども映画館

29.7×21cm



□2005年の夏休み  
2p



29.7×21cm / 16p

制作：印象社



## □第60号(2005年4-5月号)

特集1：生誕百年特集 映画監督 稲垣浩 特集2：尾上松之助と時代劇スターの系譜

企画の見所

稲垣涌三氏インタビュー 父・稲垣浩を語る■稲垣涌三(聞き手：大場正敏、構成：岡田秀則)

特別寄稿

稲垣浩と子供たち■高瀬昌弘

遺された青年の面影 ―「稲垣浩文庫」が語るもの―■富田美香

尾上松之助の生誕130周年にあたって■入江良郎

連載：フィルム・アーカイブの諸問題 第55回

映画保存技術コラム①長期保存用フィルムの巻取り■岡島尚志  
今後の企画

## □第61号(2005年6-7月号)

特集：生誕百年特集 映画監督 豊田四郎

企画の見所

物語・文芸映画あるいは豊田四郎■田中真澄

東京発声時代の豊田四郎■藤井仁子

トピック

『みそのコレクション』第二次寄贈資料の整理完了■入江良郎

平成16年度フィルムセンター入場者数

トピック

平成16年度映画製作専門家養成講座(第8回)の成果■H:O

好評の「映画女優 高峰秀子展」ギャラリー・トーク■H:O

内田吐夢監督選集の展開■AT

来館者メモ

連載：フィルム・アーカイブの諸問題 第56回

ロシア・ゴスフィルモフォンドの日本映画調査・収蔵完了報告■常石史子



## □第62号(2005年8-9月号)

特集1：発掘された映画たち2005 特集2：生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男

企画の見所

映画史の穴を埋める66のパーツ■常石史子

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説44 「鏡」「春」■毛利真人

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説45 「パンサ」■岡田秀則

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説46 「武士道」■常石史子

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説47 「銀河」「輝く愛」「陸軍大行進」■大澤浄

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説48 「鉄扇公主」■佐藤秋成

CURATOR'S CHOICE / 上映作品解説49 「萬世流芳」■鷺谷花

トピック

平成17年度優秀映画鑑賞推進事業、スタート■AT

企画の見所

写真と資料で見る成瀬巳喜男映画の世界

連載：フィルム・アーカイブの諸問題 第57回

FIAPリユブリャナ会議報告 二つの問い―「民族誌映画とは何か」「映画フィルムとは何か」■岡島尚志



# □第63号(2005年10-11月号)

特集1：生誕百年特集 映画監督 成瀬巳喜男 特集2：生誕百年特集 映画監督 斎藤寅二郎と野村浩将

Guest Editorial

斎藤寅二郎一晩年の喜劇の巨匠■山田洋次

企画の見所

成瀬巳喜男の1960年代と現在■上野昂志

映画史文献発掘⑤ 『歌行燈』演出準備日記■成瀬巳喜男(解題・FI)

野村浩将というメロドラマと太宰、愛染かつら、そして…■田中真澄

『モダン怪談100,000,000円』の発見■永野武雄

トピック

上映初日を満場で飾った「成瀬巳喜男シンポジウム」■H2O

装いも新たに、盛況の「こども映画館」■H2O

企画の見所

尾上松之助映画京都封切りリスト(上)■大矢敦子



# □第64号(2005年12月-2006年1月号)

特集1：ポーランドの映画ポスター 特集2：韓国リアリズム映画の開拓者 ユ・ヒョンモク 兪賢穆監督特集

Guest Editorial

兪賢穆監督について■佐藤忠男

企画の見所

ポーランド・ポスターの楽しみ■金子賢治

兪賢穆映画の内的様式に関する研究■キム・ヨンホ

トピック

ニューヨーク近代美術館の日本映画回顧展開幕報告■岡田秀則

シネマテーク・フランセーズの再開■吉武美知子

「動的映像の保護及び保存に関するユネスコ勧告」採択25周年■HO

尾上松之助生誕130周年記念講演・特別上映会を開催■YI

尾上松之助ギャラリー・トーク報告■FI

企画の見所

尾上松之助映画京都封切りリスト(中)■大矢敦子



# □第65号(2006年2-3月号)

特集1：NFC所蔵外国映画選集 ドイツ・オーストリア映画名作選 特集2：松竹と映画—上映と展示

企画の見所

1930年代ドイツ・オーストリア映画の風景■瀬川裕司

日本で発見されたドイツ無声映画■常石史子

資料でみる《松竹と映画》85年の歩み■入江良郎

シナリオのヘソ■森崎東

トピック

ご寄付の報告

『浮雲』セットの再現展示■YI

来日の監督を迎えて「兪賢穆監督特集」開幕■H2O

パシフィック・フィルム・アーカイヴ日本映画特集報告■板倉史明

第24回ボルデノーネ無声映画祭報告■常石史子

連載：ゲスト・トーク@NFC 第4回

「発掘された映画たち2005」トークショーより 松本俊夫監督、『銀輪』を語る■(聞き手・構成：岡田秀則)

企画の見所

尾上松之助映画京都封切りリスト(下)■大矢敦子



□「韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集」カタログ

26×19.1cm / 48p

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

制作：印象社



□平成17年度優秀映画鑑賞推進事業 鑑賞の手引

29.7×21cm / 6p

A-V各プログラム(22種、各4作品)の作品解説

会場一覧

プログラム作品リスト

編集：東京国立近代美術館フィルムセンター

制作：美術出版デザインセンター



□尾上松之助と時代劇スターの系譜 出品リスト

22.5×10cm / 8p

制作：印象社



□ポーランドの映画ポスター 出品リスト

22.5×10cm / 8p

制作：印象社



□松竹創業110周年記念 松竹と映画 出品リスト

22.5×10cm / 8p

制作：印象社



□尾上松之助と時代劇スターの系譜 セルフガイド

21×14.7cm / 6p

制作：印象社

企画の広報活動としては、上映企画ごとに「NFCカレンダー」を作成すると共に、展示企画、シンポジウム、講演会、及び「こども映画館」のチラシを作成し、それらの情報をフィルムセンターのウェブサイトでも公開した。平成17年度は、企画の内容に応じた情報掲載の依頼先(新聞・雑誌・ラジオ・テレビなど)の分析と配付、掲載媒体のデータ蓄積など、企画の効果的な紹介を増強した。また、フィルムセンターの事業紹介媒体としては、隔月刊の「NFCニューズレター」がある。企画関連の記事から映画保存の最新情報までの幅広いテーマを扱い、映画関係者、研究者などに引き続き広く配布した。「発掘された映画たち2005」では、記者発表会を開催することで事前の広報を積極的に行った。また、研究員がテレビやラジオに出演して各企画やフィルムセンターの活動の解説を行った。

そのほか、修学旅行で東京を訪れる学生の訪問を積極的に受け入れたり、大学で博物館学を受講する学生に対して、研究員がフィルムセンターの役割と事業を解説するなど、将来の映画観客層にフィルムセンターへの理解の促進に努めた。

In order to publicize the events, NFC used various methods. As for publications, NFC published NFC Calendar for each screening series, and flyers for exhibitions, symposia, lectures, and “Kids★Cinema.” All the information was also put on the web. In order to conduct publicity activities more effectively, NFC strategically contacted appropriate media (newspaper, magazines, radio and television) for each event by analyzing the target audiences of each. NFC also published a bi-monthly publication, *NFC Newsletter*, which addressed a wide range of issues including essays related to the current events and the latest topics of film preservation. The *NFC Newsletter* was widely distributed to film specialists and scholars. For the screening program “Cinema: Lost and Found 2005”, NFC held a press conference as a means of pro-active publicity activity. In addition, NFC curators appeared on television and radio to promote its events and its archival activities.

In order to publicize the role and function of NFC to the generation of future film audience, NFC curators actively gave tours of the facility to the students of elementary school and junior high school who visited Tokyo on school trips.

平成17年度は、平成15年度に創刊したフィルムセンターの上映・展示企画や刊行物などの最新情報を電子メールで提供する「NFCメールマガジン」を12回発行し、その送信先が、年度末の時点で2,500を数えた。これは昨年度を約800上回る数である。

The number of subscribers to the *NFC Mail Magazine* exceeded 2,500 at the end of the physical year 2005, showing the increase of over 800 compared to the number of subscribers in the previous year.



# 記録

## 国際交流

International Exchange

## 日誌

Record of Events

## 予算

Expenditure

## 名簿

Nominal List

## 1 国際交流 International Exchange

### 1-1 平成17年度招聘者

氏名

目的  
滞在期間

クリスティアン・ディミトリウ [Christian Dimitriu]  
(ベルギー／La Fédération Internationale des Archives du Film)

FIAF第63回東京会議開催に向けての事前打ち合わせのため  
平成17年9月21日－9月24日

エーリッヒ・ガンツェルト・カスティーヨ [Erich Gantzert-Castrillo]  
(ドイツ／修復家)

「ドイツ写真の現在－かわりゆく『現実』と向かいあうために」展作品点検及び展示立会のため  
平成17年10月13日－10月25日

インカ・グレーヴェ・インゲルマン [Inka Graeve Ingelmann]  
(ドイツ／PINAKOTHEK DER MODERNE, München)

「ドイツ写真の現在－かわりゆく『現実』と向かいあうために」展作品点検、展示立会及びレセプション出席のため  
平成17年10月17日－10月25日

ミヒャエル・シュプリーマン [Michael Spreeman]  
(ドイツ／映写技師)

「ドイツ写真の現在－かわりゆく『現実』と向かいあうために」展作品設営及びレセプション出席のため  
平成17年10月19日－10月25日

トーマス・デマンド [Thomas Demand]  
(ドイツ／出品作家)

「ドイツ写真の現在－かわりゆく『現実』と向かいあうために」展作品点検、レセプション出席及び講演会のため  
平成17年10月23日－10月30日

リカルダ・ロッガン [Ricarda Roggan]  
(ドイツ／出品作家)

「ドイツ写真の現在－かわりゆく『現実』と向かいあうために」展作品点検、レセプション出席及び講演会のため  
平成17年10月23日－10月30日

ハンス＝クリスティアン・シンク [Hans-Christian Schink]  
(ドイツ／出品作家)

「ドイツ写真の現在－かわりゆく『現実』と向かいあうために」展作品点検、レセプション出席及び講演会のため  
平成17年10月23日－10月30日

朴槿子 [Park Keun-Ja]  
(韓国／兪賢穆監督夫人)

「韓国リアリズム映画の開拓者 兪賢穆監督特集」における兪賢穆監督の通訳のため  
平成17年12月5日－12月9日

ローランド・ブレットラー [Roland Blaettler]  
(スイス／アリアナ美術館長)

近代日本の陶磁器作品調査のため  
平成18年1月18日－1月26日



エドモンド・ドゥ・ヴァール [Edmund De Waal]  
(イギリス／陶芸家)

---

「所蔵作品展 近代工芸の百年」展、イギリス陶芸展示コーナーでのギャラリートーク講師として  
平成18年1月21日－1月23日

ギュンター・ブーフヴァルト [Günter A. Buchwald]  
(ドイツ／無声映画伴奏ピアニスト)

---

「ドイツ・オーストリア映画名作選」開催に伴う「シネマの冒険 闇と音楽」のピアノ伴奏のため  
平成18年1月30日－2月6日

ヤシャ・ライハート [Jasia Reichardt]  
(イギリス／美術評論家)

---

科学研究費補助金「戦後の日本における芸術とテクノロジー」研究に関する討議  
平成18年3月2日－3月14日

前記の招聘者のほかに、平成17年度中に海外からフィルムセンターを訪問したゲストは以下のとおりである。いずれの場合も、映画保存、フィルム・アーカイブ事業などについてさまざまな情報・意見の交換を行った。

- 平成17年 4月20日 ティート・トゥーマル(エストニア/「ポストタイムス」紙映画担当記者)
- 平成17年 6月22日 「キネマ倶楽部」日本映画研究者グループ
- 平成17年 6月23日 メアリー・デラハンティ(オーストラリア/ヴィクトリア州芸術大臣)
- 平成17年 7月12日 ロッド・ケンプ(オーストラリア/芸術・スポーツ大臣)
- 平成17年10月13日 クリス・フジワラ(米国/映画評論家)
- 平成17年11月11日 ローラ・マルヴィ(英国/ロンドン大学教授、映画研究者)、ジャネット・スタイガー(米国/テキサス大学教授、映画研究者)、ヴィッキー・キャラハン(米国/ウィスコンシン大学助教授)、パトリシア・ホホワイト(米国/スワースモア・カレッジ助教授)
- 平成17年11月22日 中国シナリオ作家協会グループ7名(中国)
- 平成17年12月 5日 兪賢穆(韓国/映画監督)、李孝仁(韓国/韓国映像資料院長)
- 平成18年 1月11日 ミハイル・E・シュヴィトコイ(ロシア/文化映画庁長官)、イゴール・V・ロマネンコ(ロシア/ロ日協会会長)、ウラジーミル・I・ベススードノフ(ロシア/ロ日協会副会長)、マヤ・B・コバヒゼ(ロシア/文化映画庁現代芸術局長)
- 平成18年 3月28日 ダヴィデ・ポッツィ(イタリア/チネテカ・ボローニャ)
- 平成18年 3月29日 ロジャー・ガルシア(アメリカ/映画プロデューサー、映画祭プログラマー)

In addition to the invited guests, the following individuals visited NFC from overseas. These visitors all discussed with NFC staff members topics such as preservation of film culture and film archiving projects.

- April 20, 2005 Tiit Tuumalu (Culture Editor of *Postimees*, Estonia)
- June 22, 2005 'Kinema Club' Japanese Film Researcher Group
- June 23, 2005 Mary Delahunty (Minister for Arts, Government of Victoria, Australia)
- July 12, 2005 Rod Kemp (Minister for the Arts and Sport, Australia)
- October 13, 2005 Chris Fujiwara (Film Critic, USA)
- November 11, 2005 Laura Mulvey (Professor, Berkbeck College, London University, UK), Janet Staiger (Professor, University of Texas, Austin, USA), Vicki Callahan (Associate Professor, University of Wisconsin-Milwaukee, USA), Patricia White (Associate Professor, Swarthmore College, USA)
- November 22, 2005 Chinese Scriptwriters Group
- December 5, 2005 Yu Hyeon-Mok (Film Director, Korea), Yi Hyo-In (Director, Korean Film Archive, Korea)
- January 11, 2006 Mikhail E. Shvydkoy (Head of Federal Agency of Cul-

	ture and Cinematography), Igorj V. Romanenko (President of Russia-Japan Society, Russia), Vladimir I. Bessudnov (Vice-President of Russia-Japan Society, Russia), Maya Kobakhidze (Head of the Modern Art Department, Federal Agency of Culture and Cinematography, Russia)
March 28, 2006	Davide Pozzi (Cineteca del Comune di Bologna, Italy)
March 29, 2006	Roger Garcia (Film Producer, Film Festival Programmer, USA)

## □平成17年4月19日

共催展「ゴッホ展 孤高の画家の原風景」  
常陸宮妃殿下お成り。

## □平成17年4月25日

工芸館企画展「伊砂利彦一型染めの美」の  
開会式及びレセプションを挙行。

## □平成17年5月15日

第1回東京国立近代美術館工芸館コンサ  
ート 青柳いずみこレクチャー&ピアノを  
工芸館2階ホールにおいて開催。

## □平成17年5月18日

「ゴッホ展 孤高の画家の原風景」皇后陛  
下行啓。

## □平成17年6月6日

日本経済新聞社との共催展「近代日本画  
の名匠 小林古径展」の開会式及びレセプ  
ションを挙行。

## □平成17年6月10日

第1回アーティストトーク(堂本右美)を  
本館所蔵品ギャラリーにおいて開催。

## □平成17年6月17日

「近代日本画の名匠 小林古径展」秋篠宮  
妃殿下お成り。

## □平成17年6月23日

オーストラリア芸術大臣 本館・工芸  
館・フィルムセンター視察。

## □平成17年6月28日

ドイツ・ザクセン州文化大臣 本館視察。

## □平成17年6月30日

平成17年度第1回評議員会(映画部会)開  
催。

## □平成17年7月5日

「近代日本画の名匠 小林古径展」天皇后  
両陛下下行幸啓、紀宮殿下お成り。

## □平成17年7月12日

「近代日本画の名匠 小林古径展」秋篠宮  
妃殿下眞子内親王殿下お成り。

## □平成17年7月15日

「近代日本画の名匠 小林古径展」皇太子  
同妃両殿下お成り。

平成17年度第1回評議員会(美術・工芸部  
会)開催。

## □平成17年7月29日

第2回アーティストトーク(石内都)を本  
館所蔵品ギャラリーにおいて開催。

## □平成17年8月8日

国際交流基金、韓国国立現代美術館、シ  
ンガポール美術館との共催展「アジアのキ  
ュビズム 境界なき対話」の開会式及びレ  
セプションを挙行。

## □平成17年9月7日

ポーランド商工会議所EXPO事務局との  
共催上映「ポーランド映画、昨日と今日」の  
試写会及びレセプションを挙行。

## □平成17年9月16日

工芸館特別展「日本のアール・ヌーヴォ  
ー 1900-1923：工芸とデザインの新時代」  
の開会式及びレセプションを挙行。

## □平成17年9月26日

美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。

## □平成17年10月14日

第3回アーティストトーク(黒川弘毅)を  
本館所蔵品ギャラリーにおいて開催。

## □平成17年10月24日

特別展「ドイツ写真の現在 かわりゆく  
『現実』と向かいあうために」「アウグスト・ザ  
ンダー展」の開会式及びレセプションを挙行。

## □平成17年12月

プリントスタディ(写真作品閲覧制度)開始。

## □平成17年12月6日

企画上映「韓国リアリズム映画の開拓者  
兪賢穆監督特集」の開会式及びレセプシ  
ョンを挙行。

## □平成18年1月12日

「須田国太郎展」渡辺力：リビング・デザイ  
ンの革新」の開会式及びレセプションを挙行。

## □平成18年1月13日

第4回アーティストトーク(日高理恵子)  
を本館所蔵品ギャラリーにおいて開催。

## □平成18年2月6日

美術作品購入等選考委員会(工芸部門)開催。

## □平成18年2月20日

美術作品購入等選考委員会(美術部門)開催。

## □平成18年3月2日

平成17年度第2回評議員会(映画部会)開  
催。

## □平成18年3月3日

平成17年度第2回評議員会(美術・工芸部  
会)開催。

## □平成18年3月15日

美術作品購入等選考委員会(写真部門)開催。

## □平成18年3月27日

NHK、NHKプロモーション、日本経済  
新聞社との共催展「生誕120年 藤田嗣治展  
バリを魅了した異邦人」の開会式及びレセ  
プションを挙行。

美術作品購入等選考委員会(美術部門)開  
催。

## □平成18年3月31日

第5回アーティストトーク(池田良二)を  
本館ギャラリー 4において開催。

3	予算 Expenditure
---	----------------

3-1	平成17年度歳出予算一覧(当初予算)
-----	--------------------

事項	予算額(単位：千円)
1 一般管理費	385,752
2 収集・保管事業費	630,556
陳列品購入費	424,238
資料収集整備費	206,318
3 展示事業費	426,736
特別展経費	162,452
企画展経費	4,000
常設展経費	249,026
所蔵品名品巡回展経費	5,000
展覧会調査経費	6,258
4 調査研究事業費	86,323
5 教育普及事業費	214,153
合計	1,743,520

## 4 名簿 Nominal List

### 4-1 東京国立近代美術館評議員(美術・工芸部会)

(平成18年3月31日現在)

現職	氏名
栃木県立美術館副館長補佐兼学芸課長	青木 宏
東京国立博物館事業部長	金子啓明
東京大学大学院人文社会系研究科教授	木下直之
東京芸術大学音楽学部助教授	熊倉純子
美術史家、美術評論家	黒田亮子
財団法人朝日新聞文化財団事務局長	小林淑郎
ブリティッシュ・カウンシル アドバイザー	櫻井 武
明星大学造形芸術学部教授	宝木範義
東京文化財研究所美術部黒田記念近代現代美術研究室長	田中 淳
財団法人うつのみや文化の森理事、宇都宮美術館館長	谷 新
財団法人セゾン現代美術館常務理事館長	難波英夫
青森県立八戸南高等学校校長	橋本 都
写真家、日本写真家協会専務理事	松本徳彦
神奈川県立近代美術館館長	山梨俊夫
社団法人日本経済団体連合会事務総長	和田龍幸

### 4-2 東京国立近代美術館評議員(映画部会)

(平成18年3月31日現在)

現職	氏名
社団法人映像文化製作者連盟事務局長	大久保 正
財団法人川喜多記念映画文化財団理事長	岡田正代
東京大学大学院総合文化研究科教養学部教授	刈間文俊
映画評論家(日本映画ペンクラブ代表幹事)	河原畑 寧
映画監督(協同組合日本映画監督協会理事長)	崔 洋一
協同組合日本映画製作者協会代表理事 (株式会社近代映画協会取締役社長)	新藤次郎
早稲田大学文学部教授	武田 潔
日本大学芸術学部教授	田島良一
映画字幕翻訳家	戸田奈津子
イメージ・フォーラム映像研究所代表	富山加津江
社団法人日本映画製作者連盟専務理事・事務局長	福田慶治
映画プロデューサー(東京芸術大学大学院映像研究科教授)	堀越謙三
映画評論家	村山匡一郎
ぴあ株式会社代表取締役会長兼社長	矢内 廣
映画評論家(東海大学文学部文芸創作学科教授)	山根貞男

# 4-3 東京国立近代美術館職員

(平成18年3月31日現在)

現職	氏名
館長	辻村哲夫
副館長	尾崎正明
<b>庶務課</b>	
庶務課長	松岡 進
庶務課課長補佐	吉田雅彦
庶務課課長補佐	生島達久
庶務係長	小山寛俊
	田島秋桜
	布施岳人
	小林由佳
人事係長	白石英司
	畑中賢治
展覧会運営係長	荒井英俊
	羽田野愛
経理係長	小田嶋輝明
	清水将次
用度係長	諏訪部吉洋
	吉田智美
	竹内隆文
汽かん士(中央監視室)	宮腰幸昭
専門職員	小山和子
<b>企画課</b>	
企画課長	松本 透
主任研究官	企画・渉外係長(併) 古田 亮
主任研究官	鈴木勝雄
主任研究官	鶴見香織
	保坂健二郎
主任研究官	教育・普及係長(併) 一條彰子
主任研究官	情報・資料係長(併) 水谷長志
	室屋泰三
<b>美術課</b>	
美術課長	展示係長(併) 中林和雄
主任研究官	絵画・彫刻係長(併) 藏屋美香
	三輪健仁
	中村麗子
主任研究官	版画係長(併) 都築千重子
主任研究官	写真係長(併) 増田 玲
主任研究官	大谷省吾

現職	氏名
<b>工芸課</b>	
工芸課長	金子賢治
主任研究官	工芸係長(併) 諸山正則
	デザイン係長(併)
	木田拓也
主任研究官	展示係長(併) 唐澤昌宏
	北村仁美
主任研究官	教育・資料係長(併) 今井陽子
<b>フィルムセンター</b>	
主幹	岡島尚志
主幹補佐	小谷松誠司
管理係長	相模原分館管理係長(併) 古澤 誠
	春日義孝
業務係長	島 裕子
主任研究官	企画・普及係長(併) 岡田秀則
	板倉史明
主任研究官	映画係長(併) 栩木 章
	常石史子
映写技術士	高屋吉丘
主任研究官	情報・資料係長(併) 入江良郎

## 平成17年度 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館年報

発行者： 辻村哲夫  
発 行： 独立行政法人国立美術館 東京国立近代美術館  
東京都千代田区北の丸公園3-1  
電話03(3214)2561(代表)  
印 刷： ニューカラー写真印刷株式会社  
発行日： 平成18年6月30日

■非売品

## 2005 Annual Report Independent Administrative Institution National Museum of Art The National Museum of Modern Art, Tokyo

Publisher: Tetsuo Tsujimura  
Edited & Published by:  
Independent Administrative Institution National Museum of Art  
The National Museum of Modern Art, Tokyo ©2006  
3-1 Kitanomaru-koen, Chiyoda-ku, Tokyo, Japan  
phone: 03(3214)2561  
Printed by: New Color Photographic Printing Co., Ltd.

Printed in Japan

■Not for Sale